# 平成２３年第３回（９月）伊豆市議会定例会会議録目次

第　１　号　（９月１日）


○議事日程……１
○本日の会議に付した事件……２
○出席議員……３
○欠席議員……３
○地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名……３
○職務のため出席した者の職氏名……３
○開会宣告……４
○開議宣告……４
○議事日程説明……４
○会議録署名議員の指名……４
○会期の決定……４
○諸般の報告……４
○行政報告……５
○報告第５号～報告第７号の上程、説明、質疑……６
○議案第５５号の上程、説明……８
○議案第５６号～議案第７３号の上程、説明……１３
○議案第７４号～議案第８０号の上程、説明……２８
○議案第８１号～議案第８３号の上程、説明……３８
○議案第８４号の上程、説明……４１
○議案第８５号の上程、説明……４２
○議案第８６号の上程、説明……４３
○議案第８７号の上程、説明……４４
○議案第８８号の上程、説明……４５
○諮問第１号の上程、説明、質疑、討論、採決……４６
○散会宣告……４７


第　２　号　（９月６日）


○議事日程……４９
○本日の会議に付した事件……４９
○出席議員……４９
○欠席議員……４９
○地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名……４９

○職務のため出席した者の職氏名……４９
○開議宣告……５１
○議事日程説明……５１
○一般質問……５１
内　田　勝　行　君……５１
鈴　木　初　司　君……５８
西　島　信　也　君……８２
森　島　吉　文　君……９７
梅　原　泰　嗣　君……１０７
木　村　建　一　君……１１１
関　　邦　夫　君……１２７
○延会宣告……１４１

第　３　号　（９月７日）
○議事日程……１４３
○本日の会議に付した事件……１４３
○出席議員……１４３
○欠席議員……１４３
○地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名……１４３
○職務のため出席した者の職氏名……１４３
○開議宣告……１４４
○一般質問……１４４
稲　葉　紀　男　君……１４４
森　　良　雄　君……１５３
松　本　　覺　君……１７０
杉　山　　誠　君……１７６
三　須　重　治　君……１９０
大　川　　孝　君……１９４
○散会宣告……２０１

第　４　号　（９月９日）
○議事日程……２０３
○本日の会議に付した事件……２０４
○出席議員……２０４
○欠席議員……２０５

○地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名……２０５
○職務のため出席した者の職氏名……２０５
○開議宣告……２０６
○議事日程説明……２０６
○議案第５５号の質疑、委員会付託……２０６
○議案第５６号～議案第７３号の質疑、委員会付託……２３３
○議案第７４号～議案第８０号の質疑、委員会付託……２４０
○議案第８１号～議案第８３号の質疑、委員会付託……２６７
○議案第８４号の質疑、委員会付託……２７１
○議案第８５号の質疑、討論、採決……２７１
○議案第８６号の質疑、討論、採決……２７２
○議案第８７号の質疑、委員会付託……２７４
○議案第８８号の質疑、委員会付託……２７４
○散会宣告……２８３

第　５　号　（９月２７日）

○議事日程……２８５
○本日の会議に付した事件……２８６
○出席議員……２８６
○欠席議員……２８７
○地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名……２８７
○職務のため出席した者の職氏名……２８７
○開議宣告……２８８
○諸般の報告……２８８
○議案第５５号の委員長報告、質疑、討論、採決……２８９
○議案第５６号～議案第７３号の委員長報告、質疑、討論、採決……３００
○議案第７４号～議案第８０号の委員長報告、質疑、討論、採決……３１２
○議案第８１号～議案第８３号の委員長報告、質疑、討論、採決……３３１
○議案第８４号の委員長報告、質疑、討論、採決……３３３
○議案第８７号の委員長報告、質疑、討論、採決……３３４
○議案第８８号の委員長報告、質疑、討論、採決……３３５
○日程の追加……３５１
○議案第８９号の上程、説明、質疑、討論、採決……３５２
○発議第５号の上程、説明、質疑、討論、採決……３５３
○発議第６号の上程、説明、質疑、討論、採決……３５５

○発議第７号の上程、説明、質疑、討論、採決……３６０
○会議時間の延長……３６２
○発議第８号の上程、説明、質疑、討論、採決……３６４
○閉会宣告……３６５
○署名議員……３６７

# 平成23年第３回（９月）伊豆市議会定例会

（第１号　９月１日）

開会　午前　９時３０分

**◎開会宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　皆さん、おはようございます。

本日、19番、三須重治議員より欠席の届けがありますので、お知らせいたします。

ただいまの出席議員は19名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

ただいまから平成23年第３回伊豆市議会定例会を開会いたします。

**◎開議宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　直ちに本日の会議を開きます。

**◎議事日程説明**

**○議長（杉山羌央君）**　議案の説明のため、地方自治法第121条の規定により、市長以下関係職員の出席を求めましたので、御報告申し上げます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでありますので、御了承願います。

**◎会議録署名議員の指名**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第81条の規定より、議長から指名いたします。２番、梅原泰嗣議員、３番、稲葉紀男議員を指名いたします。

**◎会期の決定**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第２、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

今定例会の会期は、本日から９月27日までの27日間としたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　御異議なしと認めます。

よって、会期は本日から９月27日までの27日間と決定いたしました。

なお、会期中の会議予定につきましては、お手元に配付いたしております日程表のとおりでございますので、御了承願います。

**◎諸般の報告**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第３、諸般の報告を行います。

まず、去る６月定例会にて可決された浜岡原発の永久停止・廃炉を求める意見書については、内閣総理大臣を初め、関係方面に提出いたしました。

次に、監査委員からの法に基づく例月出納検査結果報告の写し並びにその他議長等の会議・出張等につきましては、お手元に配付した資料のとおりであります。

なお、去る７月27日から30日まで伊豆市インバウンド推進プロジェクトチームからの依頼により、市長とともにアドバイザーとして、台湾へ観光プロモーションのため訪問し、プロジェクトチームの方々とともに台北市や旅行エージェント等の関係各方面に伊豆市への秋以降の観光客誘致をお願いいたしました。

以上で、諸般の報告を終わります。

**◎行政報告**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第４、行政報告を行います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　皆さん、おはようございます。

平成23年第３回伊豆市議会定例会に当たり、行政報告をさせていただきます。

まず、事業評価会について。

８月７日、生きいきプラザにおいて、12事業、ただし、１つの枠で２つの事業を上げているものがございますので、実質、13事業を２班に分かれて評価をしていただきました。評価結果は、市が行い、要改善が９事業、市が行い現状維持が３事業、民間で行う、市が行って要改善、市が行って現状維持が同数となったものが１事業でした。

本年は、構想日本にコーディネーターをお願いしたころで、より議論が深まったのではないかと考えております。今後、評価結果を踏まえ、十分に内部で検討した上で、次年度の予算に反映してまいる予定でございます。

次、インバウンド推進について。

７月27日から30日までの４日間、杉山議長及びインバウンド推進プロジェクトチームとともに台湾への国外出張を行い、台北市政府、台北市議会を表敬訪問するとともに、旅行エージェントに対する商談会等を実施いたしました。

その結果、台北市永楽ロータリー倶楽部は、約70名で来春、伊豆市を訪問したいとの意向を表明され、大手旅行エージェントであるライオン・トラベル社は既にツアー企画に着手をされました。９月に募集を開始し、11月ごろから台湾からの旅行者がおいでになるものと期待をしております。

なお、昨年10月に続く２回の台湾訪問を現地で支援いただいた林果児氏に対し、インバウンド推進プロジェクトチームから同氏を伊豆市の有力な支援者としてオーソライズすることができればありがたいとの要望をいただいており、特使またはアドバイザーなど特別な地位

にて伊豆市の事業を支援いただく方策について、具体的に検討してまいりたいと思います。

３つ目の防災について。

８月25日から27日まで、平成21年の集中豪雨で大きな被害を受けられた山口県を治水砂防協会の研修で訪問し、また、28日には伊豆市の防災訓練を実施し、今後の防災のあり方について申し上げたいと思います。

特に、特別養護老人ホームライフケア高砂が土石流の直撃を受けた記憶も新しい防府市では、松浦市長みずから体験や教訓を披瀝してくださいました。

墓地が流出し、ＤＮＡ鑑定による遺骨の特定を求める市民を説得して、共同慰霊碑を建立したこと、同報無線が役に立たず、ＦＭやケーブルテレビを利用した緊急告知ラジオを導入したことなど、伊豆市にも起こり得る事態に対する対策の方向性を示唆いただきました。

防災訓練においては、土肥地区でも津波避難に15分を要するなど、市民の防災意識に改善すべき点も散見されています。自主防災組織と行政が一体となって、より一層現実的で効果的な防災計画を整備するよう尽力してまいります。

最後に、新規事業の検討について。

まず、地域協議会ですが、合併したことで市の地域が広くなり、市民の近いところでまちづくりを進める環境が難しくなってまいりました。真に市民が主体のまちづくりを実現するため、かつての村の時代に近い区分け、例えば、地域福祉委員会の区分けでのコミュニティづくりが必要であると考えています。市役所内部にて、所属横断的な検討チームを結成し、検討に着手いたしました。

最後に、月ヶ瀬インター利活用プロジェクトについて。

既に事業着手している天城北道路が完成すると、地域の状況は一変いたします。将来の道路網を見越し、企業進出案件も少しずつ私の耳に入ってきております。そこで、道路用地周辺の地元住民の方々からも将来像を提示してほしいとの御要望もいただき、月ヶ瀬インターを核とする地域、おおむね、出口交差点から下船原の法蔵院、月ヶ瀬梅林の範囲をどのように活用していくのか、検討に着手してまいります。本検討は、行政内部にとどまらず、国、県、専門家を交えたチームでの検討を考えております。

以上、報告申し上げます。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で行政報告は終わりました。

**◎報告第５号～報告第７号の上程、説明、質疑**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第５、報告第５号　平成22年度伊豆市一般会計予算の継続費精算報告について、日程第６、報告第６号　平成22年度伊豆市健全化判断比率の報告について及び日程第７、報告第７号　平成22年度伊豆市資金不足比率の報告についての３件を一括して議題といたします。

提出者から報告を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　報告第５号から７号まで、一括して提案理由を申し上げます。

報告第５号は、平成21年度、22年度の２カ年で実施いたしました修善寺南小学校体育館建設事業について、地方自治法施行令第145条第２項の規定により報告するものでございます。

報告第６号、第７号につきましては、財政健全化判断比率及び資金不足比率につきまして、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び第22条第１項の規定により、監査委員の意見をつけて報告するものであります。

詳細について、総務部長に説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　本件の報告について補足説明の申し出がありますので、これを許します。

総務部長。

〔総務部長　鈴木伸二君登壇〕

**○総務部長（鈴木伸二君）**　おはようございます。

それでは、私のほうから報告第５号から７号までの補足説明をさせていただきます。

まず、議案書の１ページをごらんいただきたいと思います。

報告第５号でございます。次の３ページ、横長になりますが、こちらのほう、ごらんいただければと思います。

この事業につきましては、平成21年度、22年度の２カ年をかけて実施をしておりました修善寺南小学校体育館の建設事業でございます。

全体の計画でいきますと、年割額は21年度が１億2,997万4,000円、22年度が１億9,496万1,000円、合計、３億2,493万5,000円という事業費で予定をしてございました。

この事業の実績でございますが、既に21年度の決算で御報告させていただいておりますとおり、21年度の支出済額が１億2,138万6,000円でございました。今年度、22年度の決算の報告ということで、２億207万7,000円ということになっております。合計いたしますと、３億2,346万3,000円ということになりまして、差し引き、147万2,000円の不用が出たということになっております。

この財源でございますが、合計の金額で申し上げますと、１億3,788万5,000円、この金額は、国・県からの補助金、交付金でございます。当初に比べまして、1,951万3,000円の増という形になっておりまして、これは、県の地震対策の交付金、こちらのほうが後でついてきたということで、増加になっております。

また、この影響で、地方債のほうは、1,710万円の減という形になっております。

国・県支出金の内訳を申しますと、安心・安全な学校づくりの交付金、これは国でございますが、6,207万円、それから、学校施設の整備負担金、こちらのほうが1,603万7,000円、地域活性化公共投資臨時交付金、こちらのほうが交付されまして、4,007万5,000円、それか

ら、県の大規模地震の交付金、こちらのほうが1,869万3,000円、このような内訳になっております。

以上が、継続費の精算報告でございます。

続きまして、５ページになりますが、報告第６号でございます。

伊豆市の財政健全化判断比率の報告でございます。

恐れ入ります、決算の概要報告、こちらのほうの16ページをごらんいただきたいと思います。

こちらのほうにですね、実質赤字比率から将来負担比率までの算定式といいますか、それを記載させていただいております。赤字比率並びに連結実質赤字比率につきましては、算定数値がございません。赤字ではございませんので、それで算定がございません。

それから、実質の公債費比率でございますが、11.2ということで、前年度に比べますと、２ポイントほど改善をされております。

それから、将来負担比率でございますが、45.2ということで、前年度から比べますと4.4ほどの増という形になっております。

実質公債費比率につきましては、基準財政需要額算入分の増加というようなことで、率が下がったものと分析をしております。

また、将来負担比率につきましては、今後の退職手当の負担増、人の入れかえ等がございまして、若い職員等が入ってまいりますと、将来にわたっての負担金がふえるという形になりますので、こういったことが影響したものと考えております。

以上が健全化判断比率の報告でございます。

続きまして、報告の第７号でございます。９ページをごらんいただきたいと思います。

こちらのほうの算定式というのはですね、概要書の17ページのほうに記載をさせていただいております。いずれも黒字決算ということで、資金不足は発生をしてございませんでしたので、数字の算定はございませんでした。

以上で報告を終わらせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

〔発言する人なし〕

**○議長（杉山羌央君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終結いたします。

以上で報告を終わります。

**◎議案第５５号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第８、議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認

定についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第55号について提案理由を申し上げます。

平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算につきまして、地方自治法第233条第３項の規定により、監査委員の意見をつけて議会の認定に付すものでございます。

平成22年度の一般会計予算は、５回の補正予算と前年度からの繰越事業などで最終予算額は、164億6,977万円となりました。

このうち、修善寺駅周辺整備事業やきめ細かな交付金事業など２億7,588万円が平成23年度へ繰り越しとなっております。

歳入決算額は167億1,165万円で、歳出決算額は155億4,770万円となりました。翌年度に繰り越すべき財源が9,552万円でありますので、実質収支は10億6,836万円となっております。

詳細について、会計管理者から説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって、提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

会計管理者。

〔会計管理者　鈴木守正君登壇〕

**○会計管理者（鈴木守正君）**　おはようございます。

伊豆市の一般会計、歳入歳出決算、22年度分について説明させていただきます。

決算書２ページをお願いいたします。

平成22年度は、前年度からの繰越額７億5,487万4,000円を含め、164億6,977万4,000円の最終予算額に対し、歳入総額167億1,164万5,860円、歳出総額155億4,777万1,521円。歳入歳出差引額11億6,387万4,339円となりました。

決算書277ページをお願いいたします。

実質収支でございますが、歳入歳出差引額は11億6,387万4,000円、平成23年度に繰り越すべき財源、9,551万9,000円を控除した実質収支額は、10億6,835万5,000円となっております。

決算書３ページ、４ページにお戻りください。

歳入でございますが、収入済額について、前年度との比較を申し上げます。

１款市税、前年度比97.2％、１億3,076万1,000円の減。各税目別では、市民税、前年度比92.4％、１億3,136万5,000円の減。固定資産税、前年度比99.9％、312万5,000円の減。軽自動車税、前年度比101.8％、133万2,000円の増。市たばこ税、前年度比98.8％、250万4,000円の減。鉱産税、前年度比41.1％、13万7,000円の減。特別土地保有税につきましては、前年度同様に収入はございませんでした。入湯税、前年度比104.4％、503万9,000円の増。なお、市税につきましては、決算書286ページに調書がございますので、後ほどごらんいただ

きたいと思います。

続きまして、市税以外の収入を申し上げます。

２款地方譲与税、前年度比97％、831万5,000円の減。

３款利子割交付金、前年度比90％、157万1,000円の減。

４款配当割交付金、前年度比122.5％、117万7,000円の増。

５款株式譲渡所得割交付金、前年度比81.8％、52万4,000円の減。

６款地方消費税交付金、前年度比99.8％、61万3,000円の減。

７款ゴルフ場利用税交付金、前年度比91.1％、1,435万3,000円の減。

８款特別地方消費税交付金は前年度同様に収入がございませんでした。

９款自動車取得税交付金、前年度比86.1％、1,474万2,000円の減。

10款地方特例交付金、前年度比112.8％、810万3,000円の増。

11款地方交付税、前年度比106.2％、３億411万7,000円の増。これにつきましては、普通交付税が２億2,322万9,000円の増。特別交付税が8,088万8,000円の増でございました。

12款交通安全対策特別交付金、前年度比97.7％、17万8,000円の減。

次の５、６ページをお願いします。

13款分担金及び負担金、前年度比93％、1,848万9,000円の減。保育料等の民生費負担金、１億385万8,000円。給食費等の教育費負担金が１億3,854万5,000円でございます。

14款使用料及び手数料、前年度比139.7％、7,061万8,000円の増。市有施設の使用料及び各種証明手数料でございます。

15款国庫支出金、前年度比89.1％、２億1,318万5,000円の減。

16款県支出金、前年度比94％、5,978万2,000円の減。

17款財産収入、前年度比69.5％、1,287万8,000円の減。

18款寄附金、前年度比114.7％、48万円の増。

19款繰入金、前年度比56.2％、7,898万1,000円の減。これは、特別会計繰入金308万3,000円の増、基金繰入金8,206万5,000円の減でございます。

20款の繰越金は、収入として繰り出された繰越金が10億8,248万6,000円、このうち繰越事業費充当財源の１億7,770万6,000円を控除した純剰余金は、９億478万円でございました。

21款諸収入、前年度比78.9％、5,998万4,000円の減。

22款市債、前年度比116.1％、１億8,340万円の増。投資的経費分は２億9,690万円で、1,150万円の増、経常経費分の臨時財政対策債は10億2,500万円で、１億7,190万円の増でございました。

次の７、８ページをお願いいたします。

歳入合計167億1,164万5,860円、前年度比100.6％、9,151万3,410円の増となりました。なお、市税を中心とした自主財源は65億3,003万6,765円で、歳入に対する構成比は39.1％となっております。

次の、９、10ページをお願いいたします。

歳出でございますが、款の執行率を申し上げます。

１款議会費、執行率98.9％。

２款総務費、94.6％。

３款民生費、97.4％。

４款衛生費、92％。

５款労働費、98.6％。

６款農林水産業費、92.9％。

７款商工費、88.1％。

８款土木費、91％でございます。

次の11、12ページをお願いいたします。

９款消防費、98.8％。

10款教育費、90.4％。

11款災害復旧費、81.9％。

12款公債費、98.6％。

13款諸支出金、99.9％。

14款の執行はございませんでした。

支出総額155億4,777万1,521円、執行率94.4％、翌年度繰越額が２億7,587万6,000円、不用額は６億4,612万6,479円でございました。

最後に、285ページをお願いいたします。

基金残高を申し上げます。

平成22年度は③社会基盤整備基金より8,860万円、⑫ふるさと伊豆市応援基金より133万5,000円、合計8,993万5,000円を取り崩しましたが、年度内に８億2,224万2,037円を積み立て、合計58億2,571万8,167円の現在高となっております。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　なお、今の説明に関しまして数字的な書類を後で配るそうですので、御確認ください。

以上で提案理由及び補足説明を終わります。

次に、平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の審査結果について、監査委員の意見を求めます。

鈴木代表監査委員。

〔代表監査委員　鈴木健範君登壇〕

**○代表監査委員（鈴木健範君）**　皆さん、こんにちは。監査委員の鈴木でございます。

それでは、ただいま議長から求められました議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定につきまして、審査結果及び意見等について報告させていただきます。

審査の結果でありますが、一般会計決算書及び歳入歳出決算事項別明細は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、決算内容については計数的に正確であり、また予算の執行状況も全般的に適正であると認定いたしました。

詳細につきましては、皆様に配付されております意見書に記述のとおりでございますが、主なもので、４ページの総括意見を中心に概要のみ報告させていただきます。

決算の概要でありますが、平成22年度伊豆市一般会計の歳入総額は167億1,164万5,000円に対し、歳出総額は155億4,777万1,000円となり、差し引き11億6,387万4,000円となっております。

平成22年度の決算について、前年度と比較した場合、歳入総額は9,151万3,000円で0.6％の微増、歳出総額は429万8,000円、0.03％の微増でありました。この要因としては、国の経済対策による地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業や地域活性化・生活対策臨時交付金事業によるものが大です。

なお、平成23年度の事業ベースでの繰越額は２億7,587万6,000円であり、これは地域活性化交付金を主体とする事務が主なものであります。

なお、平成23年度におきまして、自主財源でありますが、22年度は、66億435万7,000円となっておりますが、前年度比3,531万円、0.5％の減と、やや厳しい状況になっております。また、平成22年度の国・県支出金は、26億7,744万1,000円であり、前年度と比較した場合、２億7,296万9,000円、9.3％の減となっております。

この主な要因としては、歳出額の減少となった臨時交付金事業と定額給付金事業が主なものであります。

次に、市債につきましては、前年度と比較した場合、平成22年度は13億2,190万円でありましたが、１億8,340万円、16.1％の増となっております。主に臨時財政対策債がふえたためであります。市税及び使用料・手数料における収入未済額は前年度比1,100万5,000円、1.4％減でありますが、７億3,850万3,000円と多額の収入未済額を抱えております。徴収、滞納整理について、文書催促や財産調査にとどまることなく、重点的に直接訪問による調査・折衝等を実施できるような組織を充実し、負担の公平性も守っていくために、収入未済額の削減に向けて最大限の努力をお願いしたいと思います。

なお、不用額につきましては前年度比4,386万6,000円増の６億4,612万6,000円と多額となっておりますが、財政状況の厳しい現状や予算の趣旨をかんがみ、予算編成の段階で慎重な査定を行う等、検討をされることを望みます。

次に、財政運営について、国の地域活性化経済対策に伴う臨時交付金事業により、歳入歳出ともに前年度より増額となっておりますが、伊豆市の一般財源や今後の地方交付税の動向をかんがみた場合、歳出削減に向けた努力の跡が見受けられました。

終わりに当たり、今後とも第１次伊豆市総合計画後期計画を基本とする各種事業や施策をとり行うに当たりまして、十分に伊豆市の今後の財政状況をかんがみ、伊豆市が活性化され

るよう望みます。また、市民生活の向上が図られますよう一層効率的かつ健全な財政運用を踏まえながら、計画かつ有意義な予算執行をされますようお願い申し上げて、報告を終わりにいたします。

以上であります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で代表監査委員の報告は終わりました。

ただいま議題となっております議案第55号に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

**◎議案第５６号～議案第７３号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第９、議案第56号　平成22年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定についてから日程第26、議案第73号　平成22年度伊豆市矢熊財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてまでの18議案を一括して議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第56号から議案第73号まで、一括して提案理由を申し上げます。

平成22年度の伊豆市特別会計等の決算につきましては、財産区の決算が加わり、18の会計決算となっております。いずれも地方自治法第233条第３項及び地方公営企業法第30条第４項の規定により、監査委員の意見をつけて議会の認定に付すものでございます。

各会計の決算の詳細につきまして、それぞれ担当する部長に説明をさせますので、よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

まず議案第56号及び66号から73号までの９議案について、総務部長。

〔総務部長　鈴木伸二君登壇〕

**○総務部長（鈴木伸二君）**　それでは、私のほうで、まず、議案第56号　平成22年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定につきまして御説明をさせていただきます。

特別会計のほうの決算書のほうになりますと、２ページになります。

平成22年度の公共用地取得事業、歳入総額につきましては8,009万4,373円、歳出総額につきましては7,952万円、歳入歳出差引額は57万4,373円でございました。

平成22年度につきましては、湯川橋かけかえ事業に伴います代替用地の先行取得を実施しております。基金より7,200万円の繰り入れを実施いたしまして、ＮＴＴ西日本より1,216.5平米の土地を買収してございます。

恐れ入ります、財産の調書になりますので、12ページのほうをごらんいただきたいと思います。

土地の部分の１番下の欄になりますが、小立野字狩野口５の１、ここがその箇所でございます。

また、代替用地として577万4,000円で一般会計に売り渡しをしてございます土地がございますので、これは、上から２番目、下街道451ほか４筆のうちの一部ということでございます。ここで577万4,240円で売却を一般会計にしてございます。

この結果、財産収入額が758万5,000円となりましたので、この分を基金のほうに積み立てということで、752万円の基金積み立てを実施してございます。

歳入と、この基金の差額につきましては、繰越金として処理をさせていただきまして、次年度、また基金のほうに積み立てをする予定でございます。

それから、議案第66号になります。

伊豆市温泉事業特別会計決算の認定についてということで、議案書のほうは35ページになります。

特別会計のほうの決算書でいきますと206ページからということになります。

まず、217ページをごらんいただきたいと思います。

ここに事業報告ということで、概要を書かせていただいています。今年度、22年度におきます給湯戸数338戸でございまして、このうち土肥温泉が279戸、八木沢温泉が17戸、小土肥温泉が42戸でございました。

年間給湯量は、156万8,678立米ということでございます。

また、建設事業につきましては、従来と同様、既存施設の維持管理並びに配湯管の更新、こういったものを実施しております。また、同時にですね、水口洞源泉の源泉ポンプの入れかえ工事、こちらのほうを実施してございます。

それでは、ページのほう、またお戻りいただきまして、207、208ページをごらんいただきたいと思います。

平成22年度の収益的収支の状況ですが、温泉事業収益は、前年度に比べまして35万9,000円ほどの増、7,783万5,108円となってございます。これは、消費税込みの金額でございます。これに対します費用、資産減耗費の増から7,016万3,145円となってございます。この結果、消費税を除いた経常利益、こちらになりますと、642万5,313円となってございます。

次の、資本的支出、収支でございます。次の209ページ、210ページをごらんいただきたいと思います。

資本的収支ですが、配湯管の更新工事、こちらのほう、約229メートルほど実施をいたしました。また、先ほど申し上げましたように水中ポンプの入れかえ工事等を実施しておりまして、支出額のほうは、2,583万3,150円でございました。当年度の留保資金等で充当をしてございます。

214ページをごらんいただきたいと思います。

平成22年度の温泉事業の剰余金処分計算書の案でございます。当年度の純利益、642万

5,313円、これに前年度からの繰越利益剰余金、208万7,835円、合計いたしまして、未処分利益剰余金が851万3,148円でございます。このうち、50万円を利益積立金に、また、500万円を建設改良積立金として積み立て、残りの301万3,148円を翌年度繰越利益剰余金として処分したいと考えてございますので、御承知のほう、お願いをするものでございます。

以上が温泉事業特別会計決算の認定のお願いでございます。

続きまして、議案の第67号になりますが、伊豆市持越財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

226ページからになります。

歳入総額106万8,286円、歳出総額につきましては、15万8,984円、歳入歳出差引額、90万9,302円となっております。歳出の主なものにつきましては、財産区の管理のための委員の報酬並びに、財産の管理費、こちらのほうが主な支出の状況でございます。

続きまして、議案の第68号でございます。

伊豆市市山財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございますが、240ページのほうをごらんいただきたいと思います。

歳入総額につきましては、89万5,423円、歳出総額につきましては、７万4,851円、歳入歳出差引額につきましては、82万572円となってございます。

この歳入の主なものにつきましては、土地の売り払いの収入、４万7,000円ほどございます。そのほかは、ほとんどが前年度からの繰越金になってございます。歳出では、先ほどと同じように、財産管理会の委員報酬並びに財産管理費ということでございます。

次に、議案の第69号になります。

伊豆市門野原財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。254ページのほうをごらんいただきたいと思います。

歳入総額につきましては、43万4,457円、歳出総額につきましては、５万8,984円、歳入歳出差引額は、37万5,473円でございました。こちらの、歳入の主なものでございますが、前年度からの繰越金42万9,000円ほどございますが、これがほとんどでございます。

歳出のほうは、先ほどと同じように財産管理会の委員報酬並びに財産管理費ということで、２万5,000円ほど出しておりますが、総額で５万8,000円ほどとなったものでございます。

続きまして、議案の第70号になりますが、決算書のほうのページでいきますと268ページになります。

伊豆市吉奈財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

歳入総額につきましては、226万3,505円、歳出総額につきましては、11万7,740円、歳入歳出差引額につきましては、214万5,765円となってございます。

歳入の主なものでございますが、土地の貸付収入、こちらのほうが39万5,000円ほどございます。また、不動産の売り払い収入といたしまして、10万円ございます。そのほか、166万4,000円ほどが前年度からの繰り越しということでございます。

歳出の主なものにつきましては、管理会の委員報酬７万2,000円並びに財産管理２万円、それから、基金への積み立て、以上となってございます。

次に議案の第71号になります。伊豆市月ヶ瀬財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

決算書のほうは、282ページになります。

歳入総額393万1,090円、歳出総額339万9,223円、歳入歳出差引額は、53万1,867円でございました。

歳入の主なものでございますが、財産の貸付収入、こちらのほうが41万3,230円ございます。土地の売り払い収入のほうが、14万2,000円ほどとなってございます。また、今回、基金からの繰り入れということで、310万円を実施いたしました。前年度からの繰越金は、26万1,000円でございました。

歳出の主なものは、管理会の委員報酬のほか、財産管理事業としまして、財産区で持っております山林の管理のための整備ということで、329万2,613円を支出してございます。

続きまして、議案の第72号でございます。

伊豆市田沢財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

決算書のほうは、296ページになります。

歳入総額につきましては、23万1,829円、歳出総額につきましては、２万8,324円、歳入歳出差引額は、20万3,505円となっております。前年度からの繰越金が主な収入でございまして、支出につきましては、財産管理会の委員報酬が主なものでございます。

それから、財産区の最後になりますが、議案の第73号になります。

伊豆市矢熊財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

決算書で308ページになります。

歳入の総額11万7,035円、歳出総額２万7,984円、歳入歳出差引額は、８万9,051円でございます。

歳入は、前年度からの繰越金だけでございます。

歳出は、管理会委員の報酬並びに公務災害の負担金でございます。

以上が総務部所管の特別会計の決算の認定でございます。

よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第57号から59号までの３議案について、市民環境部長。

〔市民環境部長　山本　潔君登壇〕

**○市民環境部長（山本　潔君）**　それでは、私のほうから市民環境部所管の３つの特別会計につきまして、補足説明をさせていただきます。

まず、決算書の14ページをお開きいただきたいと思います。

平成22年度伊豆市国民健康保険特別会計決算でございます。

歳入総額は、46億4,221万3,605円、歳出総額は、43億7,318万7,328円、歳入歳出差引額は、

２億6,902万6,277円でございます。昨年度と比較いたしますと歳入が1.5％の増、歳出が0.1％の減、差引額で7,168万1,626円の増となっております。

歳入の主なものを御説明いたします。21ページ、22ページをお願いしたいと思います。

国民健康保険税でございますけれども、ここはですね、決算書のほうは、事項別に細かくなっておりますが、調定額につきましては、現年課税分を合計いたしますと10億2,053万4,000円、それから、滞納繰越分を合計いたしますと、４億1,256万8,000円、合計いたしますと、14億3,310万2,000円ということになっております。

これに対します収入済額ですけれども、現年課税分が９億1,224万1,000円、それから、滞納繰越分が6,049万円ということで、収納率につきましては合わせますと、現年分が89.39％、滞納繰越分が14.66％となっております。

次に27ページ、28ページをお願いいたします。

飛びますけれども、第９款の繰入金です。下のほうにございますけれども、一般会計からの繰入金が合計で４億4,022万7,000円。このうち、法定外のその他繰入につきましては、次のページになりますけれども、２億711万4,000円、それから、支払基金の取り崩しを１億円取り崩しをして繰り入れております。これらの繰入金を除きますと、実質的な収支額としては、3,800万円余りの赤字というふうな状況になっております。

次に、歳出の主なものを御説明いたします。

35、36ページをお願いしたいと思います。

第２款の保険給付費でございますけれども、一般被保険者、それから、退職被保険者合わせまして、合計で30億7,395万2,000円、前年に比べまして、金額でいきますと１億7,899万9,000円の増ですね。率にいたしますと、6.2％増加をしております。

それから、支援金、納付金の関係ですけれども、39、40ページをお願いしたいと思います。

第３款の後期高齢者支援金、これが４億7,111万2,000円でございまして、前年度に比べ、金額で、9,339万円、率にいたしまして、16.5％の減額となっております。これは、前々年度の精算金がおよそ7,069万円、精算で返ってまいりました。それから、この支援金を計算する際の基礎額が、被保険者に金額を掛けることになっておりまして、この被保険者がですね、計算時点で約、昨年度に比べて800人減少したためと考えられます。

次に、議案第58号　平成22年度伊豆市老人保健特別会計決算について説明させていただきます。

50ページをお願いしたいと思います。

歳入総額は30万4,702円、主なものは、医療機関からの返納金でございます。合計４件で20万9,722円ございました。支出はございません。

この会計につきましては、法律で平成22年度まで特別会計を設置することとなっております。歳入歳出の差引金額につきましては、23年度の一般会計に収入してしております。

それから、続きまして63ページをお願いしたいと思います。

議案第59号　平成22年度伊豆市後期高齢者医療特別会計の決算の補足説明に移らせていただきます。

歳入総額が３億3,478万5,707円、歳出総額は、３億3,296万6,648円、歳入歳出差引額は、181万9,059円でございました。前年度に比較いたしますと歳入が2.4％、歳出が2.5％、それぞれ増加をしております。

68、69ページをお開きいただきたいと思います。

保険料の収入済額ですけれども、２億6,050万5,000円ということで、前年度比2.4％の増となっております。あと、一般会計からの繰入金として、事務費の繰入金として361万円、保険基盤安定分といたしまして、6,776万3,000円をそれぞれ繰り入れております。

歳出でございますけれども、72、73ページをお願いいたします。

総務費といたしましては、361万1,000円ですけれども広域連合への納付金が３億2,837万1,000円ということで、これにつきましては、前年度に比べて2.7％の増となっております。

以上で、私のほうからの補足説明を終わらせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　補足説明の途中ではありますが、相当蒸しておりますので、ここで10時40分まで休憩といたします。

休憩　午前１０時２９分
再開　午前１０時４１分

**○議長（杉山羌央君）**　では、休憩を閉じ会議を再開いたします。

補足説明、続きましては、議案第60号について、健康福祉部長。

〔健康福祉部長　大城栄一君登壇〕

**○健康福祉部長（大城栄一君）**　それでは、議案第60号　平成22年度介護保険特別会計歳入歳出決算につきまして、御説明をさせていただきます。

決算書の76ページをお開きいただきたいと思います。

歳入総額28億847万905円、歳出総額27億6,721万1,572円、歳入歳出差引額4,125万9,333円となりました。

次のページをお開きいただきたいと思います。

歳入の主なものについて、御説明をいたします。収入済額の欄をごらんたいだきたいと思います。

第１款の保険料でございますが、４億6,890万9,831円で、保険料の基準額の増額により、対前年比570万円、1.2％の増となっており、現年度分収納率は、98.6％となっております。

次に、第３款、国庫支出金でございますが、施設入所者、在宅の介護認定者の介護給付費に対する国庫負担金が４億8,671万円、介護予防事業や包括的支援事業の任意事業に対する国庫補助金が１億7,293万8,790円、国庫支出金の合計が６億5,964万8,790円で、対前年比、

2,455万円、3.9％増となっております。

次に、第４款の支払基金交付金でございますが、２号被保険者の保険料分として、介護給付費と地域支援事業の介護予防事業分の30％に当たります７億7,417万4,942円で、対前年比、1,077万円、1.4％の増となっております。

次に、第５款の県支出金につきましても、介護給付費に対する県負担金が３億7,759万3,000円、地域支援事業分の県補助金が1,249万3,896円、県支出金の合計が３億9,008万6,896円で、対前年比マイナス2,440万円、5.9％の減となっております。

次に、第７款の繰入金でございますが、介護給付費、介護予防事業費、任意事業に対する一般会計からの繰入金が４億1,250万円、基金繰入金の2,172万738円は、介護給付費準備基金積立金から1,500万円、それから、介護従事者処遇改善臨時特例基金積立金から残高672万738円、すべてを取り崩し、介護給付費に充当いたしました。繰入金の合計は、４億3,422万738円で、対前年比、マイナス1,931万円、4.3％の減となっています。

次に、歳出の主なものにつきまして、御説明をいたします。

次のページをお開きいただきたいと思います。

支出済額の欄をごらんいただきたいと思います。歳出の91.8％を占めておりますのが第２款の保険給付費でございます。居宅介護サービス給付費、地域密着型介護サービス等給付費、それから、施設介護サービス等給付費など、25億4,163万1,901円、前年対比、3,360万円、1.3％の増となっております。

次に、第４款の地域支援事業費につきましては、元気はつらつ事業など、介護予防事業や地域包括支援センター等の包括的支援２事業費で、１億3,262万9,342円、対前年比1,252万円、10.4％の増となっております。また、第７款の諸支出金第１項償還金及び還付加算金につきましては、平成21年度決算に伴う国・県等への返還金等で、5,009万2,056円、第２項の繰入金は、一般会計への繰り出しで1,134万2,724円となっております。

以上で、平成22年度介護保険特別会計歳入歳出決算の概要につきまして、説明を終わらせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第61号から63号及び65号の４議案について、建設部長。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、議案第61号、簡易水道決算の認定について説明させていただきます。

特別会計決算書104ページをお願いします。

平成22年度簡易水道特別会計、歳入総額が7,976万5,458円です。歳出総額が7,037万1,047円です。歳入歳出差引額が939万4,411円です。

業務の概要といたしまして、給水人口が3,386人、給水戸数が1,263戸です。年間総配水量が、44万4,809立米、年間の有収水量、これが35万8,071立米です。有収水量率は80.5％ということになっています。これは、給水原価が１立米当たり151円、給水原価、水をつくるの

に151円かかっています。これに対し、供給単価、皆さんへお配りしている金額が56円ということになります。

それでは、歳入歳出の主なものを説明させていただきます。

105ページ、106ページをお願いします。

歳入です。

歳入の主なものは、２款１項使用料、これが水道料金になります。1,837万2,552円という収入になりました。それと、一般会計繰入金３款１項ですけれども、これが4,612万9,000円の繰入金となりました。歳入合計で、7,976万5,458円となります。

収入の構成からいきますと、一般会計繰入金が57％、使用料のほうが23％となります。

続きまして、歳出、107ページ、108ページをお願いします。

歳出の主なものといたしましては、２款１項簡易水道費、これが4,350万9,776円、これが主な歳出のものとなります。これは、八木沢、小下田の簡易水道の変更認可と設計、それと持越金山の配水管の布設がえが主なものです。歳出合計7,037万1,047円、これは、昨年の7,066万2,000円とほぼ同額の金額でした。

続きまして、議案第62号　平成22年度下水道特別会計の決算認定について説明させていただきます。

122ページをお願いします。

歳入総額17億7,988万1,294円、歳出総額17億7,195万9,706円、差引額792万1,588円です。

ここにつきましては、整備の状況ですけれども、普及率が54.42％、水洗化率が71.69％となります。

続きまして、歳入の主なものを説明させていただきます。次のページをお願いします。

２款１項使用料、ここが主な収入のものになります。２億8,366万9,928円、２％の減となっております。

続きまして、３款１項国庫補助金１億6,965万円、これが国の補助金、下水道の場合の事業、55％もしくは50％が国の補助金となっております。

続きまして、５款１項一般会計繰入金、これが８億4,185万円です。

続きまして、６の１、繰越金、これが3,207万2,036円です。21年度からの繰越金になります。

歳入合計ですけれども、17億7,988万1,294円、昨年の２％減となっております。

また、この収入構成ですけれども、使用料が15.9％、一般会計からの繰入金が47.3％ということになっております。

続きまして、歳出、次のページをお願いします。

１款１項下水道建設費、４億790万8,893円、これは、昨年の39.2％の減となっています。下水道管理費、３億9,540万6,842円、2.8％の増となっています。公債費が９億6,864万3,971円、33.7％の増となっています。

歳出合計が17億7,195万9,706円、昨年の99.5％で、ほぼ同額の歳出となります。

歳出の構成比率ですけれども、建設費が23％、管理費が22.3％、公債費が54.7％ということになります。

続きまして、議案第63号　農業集落排水の決算認定について、説明させていただきます。

146ページをお願いします。

歳入総額１億6,401万9,466円、歳出総額１億5,158万6,697円、差引額1,243万2,769円です。

農業集落のほうの整備状況ですけれども、普及率が9.2％、これは、水洗化率が92.5％となります。

歳入について説明させていただきます。次のページをお願いします。

主なものといたしまして、２款１項使用料ですけれども、収入済額のところで、2,899万3,607円、6.1％の増となりました。３款１項一般会計繰入金が9,866万円、９％の増です。

６款１項市債1,130万円、60.5％の減です。21款１項国庫補助金が1,250万円、60.9％の減となります。歳入合計で、１億6,401万9,466円、昨年の85.4％に相当し、14.6％の減です。収入構成といたしまして、使用料が17.7％、一般会計からの繰入金が60.2％となります。

歳出について説明させていただきます。次のページをお願いします。

歳出について主なものでいきますと、２款１項施設費、4,378万4,973円、これは、昨年度からの繰り越しの加殿の処理場、昨年というのは、21年度から22年度ですね、の加殿の処理場の分になります。

続きまして、議案65号、ページでいきますと179ページをお願いします。

上水道、企業会計ですので、ちょっとわかりづらいところがありますので、その都度説明させていただきますが、まずは、収益的収入及び支出。これの収入ですけれども、決算額を見てください。５億3,877万6,349円とあります。これは、主なものとしましては、水道の使用料になります。

支出、事業費用ですけれども、５億1,834万827円、このうちの主なものといたしまして、営業費用なんですけれども、４億3,952万5,458円、これが水道の漏水とか維持とか、電気料の部分になります。

続きましてその下の7,856万5,687円、ここの部分が企業債の利子になります。

続きまして、次のページをお願いします。資本的収入及び支出。収入ですけれども、ここの主なものは、出資金になります。1,110万円ですけれども、これは、下水道からの出資金、660万円と交付金、これが電源立地の交付金ですけれども、これが450万円となっています。

支出の部、建設改良費、これが２億3,101万2,455円。これが主なものは、管の布設になります。そして、その下が企業債の償還金といたしまして、１億2,662万382円ということになります。

続きまして、183ページをお願いします。

183ページですけれども、ここの183ページから188ページまでは、消費税が抜けている金

額ということで記載されています。そして、この183ページの損益計算書ですけれども、これは、この前の先ほど説明した179ページ、180ページ、これを消費税抜きで縦書きにしたものです。これによって、収支、収入と支出がわかりますので、これ、縦書きにしまして、一番下の欄を見ていただきたいんですけれども、これが利益剰余金ということで、974万4,343円の利益がありましたという表になります。

続きまして、184ページですけれども、これは、188ページの資本の部、６の（２）というところがあります。これの説明書になります。

続きまして、185ページ、これは、188ページ、資本の部の６の（１）の説明書きになります。186ページ、ここに剰余金処分計算書の案ということで、記載してあります。これは、先ほどの利益剰余金、974万4,343円、これのうちの500万円と470万円を減債積立金と建設改良積立金、ここに入れさせてくださいという部分です。

それとその端数については、そのまま会計のほうに残すというものになっています。

それでは、次に、189ページをお願いします。

上水道事業報告書ということで、概要を書いてあります。この中で、一番下のところにいろいろ節約を図って974万4,343円の純利益が出ましたということと、工事関係の主なものが載っていますけれども、これについてはまた、全員協議会のほうで説明させていただきたいと思います。

最後に、上水道の場合、給水原価が95.42円、それに対して給水単価が94.34円ということになります。

以上で説明を終わらせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第64号について、観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　それでは、議案第64号　平成22年度伊豆市湯の国会館事業特別会計決算の補足説明をいたします。

特別会計決算書の162ページをごらんいただきたいと思います。

歳入総額が8,260万7,512円、前年に比べまして3,941万1,111円の減額となりました。歳出総額は、7,971万3,919円、前年比3,688万1,128円の減額、歳入歳出差引額は289万3,593円となりました。

歳入歳出の大幅な減額の要因といたしましては、平成21年度におきまして湯の国会館駐車場敷地の取得費4,200万円がありまして、その減額が大きな要因となっております。

続きまして、歳入歳出につきましては、事項別明細書により説明をいたします。

167、168ページをお願いいたします。

歳入の主なものでございますが、１款１項使用料でございます。使用料、入館料が3,877万1,460円。これは、平成22年度の利用者数が７万1,796人で、そのうち市民の利用者は３万6,430人、市民の利用率は50.7％ということで、半数以上の方が市民の利用者ということに

なります。

続きまして、温泉使用料でございますが、209万5,000円。次に、主なものとして、貸し出し手数料602万3,986円でございます。それから繰越金につきましては、21年度からの繰越金542万3,576円でございます。

続きまして第３款諸収入でございますが、レストラン収入が1,350万3,200円、売店収入が545万6,590円でございます。そのほかに４款として繰入金で一般会計から800万円を、また、169ページ、170ページでございますが、財政調整基金からの繰入金298万円ということでございます。

歳出の主なものでございますが、171ページ、172ページをお願いいたします。

１款総務費の１項総務管理費、１目一般管理費でございます。これにつきましては、給与費、職員給与費2,656万955円、これは、職員４人の給与費でございます。一般管理費につきましては、3,787万8,280円ということで、臨時職員10名等でございまして、賃金が549万4,756円、そのほか主なものといたしましては、機械等の燃料費447万8,250円、電気料536万2,681円でございます。

続きまして、173、174ページでございます。

この中で、先ほどの一般管理費の中での揚湯ポンプ取りかえ工事が850万5,000円でございます。

次に、第２款１項１目の事業管理費ですが、これにつきましては、レストラン費ということで、臨時職員の賃金333万6,085円、レストランの賄い材料費523万2,386円、売店費としまして、売店材料費496万9,820円でございます。

なお、175ページ、176ページに関しましては、実質収支に関する調書、あるいは、財産に関する調書がございます。

また、平成22年度伊豆市決算概要報告書の118ページにおきましては、歳入歳出あるいは工事、業務量等につきまして、21年度との比較もございますので、参考にしていただきたいと思います。

以上で終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で、提案理由及び補足説明を終わります。

これより各特別会計の決算の審査結果について、監査委員の意見を求めます。

鈴木代表監査委員。

〔代表監査委員　鈴木健範君登壇〕

**○代表監査委員（鈴木健範君）**　それでは、特別会計、基金運用、それから企業会計等の決算審査につきまして、意見書を報告いたします。

まず第一に、議案第56号　平成22年度公共用地取得事業特別会計歳入歳出の認定についてから、議案第73号　平成22年度伊豆市矢熊財産区特別会計歳入歳出の認定についてまでの、特別会計16件、それから、議案第65号　平成22年度伊豆市上水道事業会計決算の認定につい

て、議案第66号　平成22年度伊豆市温泉事業特別会計決算の認定についての２件、以上の特別会計につきまして、一般会計と並行いたしまして決算審査をいたしました。

審査の結果、平成22年度公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算のほか15件の特別会計決算、基金の運用状況並びに平成22年度伊豆市上水道事業決算、平成22年度伊豆市温泉事業特別会計決算についても審査した結果、各会計とも計数的には正確であり、内容も正当なものと認定いたしました。

また、各基金につきまして計数的に正確であり、基金の運用状況はいずれも設置目的に沿い適正に運用されているものと認定いたしました。

詳細につきましては、別紙の意見書に記載させていただきましたが、主な意見を集約して御報告申し上げます。

審査意見書の18ページからになります。

それでは、公共用地取得事業特別会計につきまして。

初めに、議案第65号　平成22年度公共用地取得事業特別会計についてでありますが、歳入では普通財産の貸し付けによる財産運用収入169万6,000円と財産の売払収入577万4,000円及び土地開発基金繰り入れ7,200万円が主なものです。歳出におきましては、土地開発基金へ752万円が積み立て及び公有財産購入7,200万円でありました。

次に、財産の状況につきましては記載のとおりでありますが、今後は財産として保有する土地について、当初の取得目的にそぐわなくなった土地について、処分方法を検討し、新たな活用を図られるよう望みます。

それから、次に、国民健康保険特別会計。

議案第57号　平成22年度国民健康保険特別会計についてでありますが、平成22年度末で6,782世帯、１万2,250人が加入する当会計の歳入決算は46億4,221万3,000円で、前年度比6,833万7,000円、1.5％の増となっております。

特に滞納繰越分における収入未済額については２億9,670万4,000円となっており、全体の４分の３と高い率を占めております。この収入未済額の回収につきましては、保険証更新期の滞納者との折衝や年末・年度末の臨戸徴収等で対応しているとのことですが、雇用の悪化や景気が低迷している影響で、現状では早急な収納率の向上は難しいと思われます。他の税や使用料とあわせて徴収体制、徴収対策室の充実や職員がさらなる熱意をもって滞納整理に当たることを望みます。

また、あわせて医療費削減に向けて特定健診の受診率の向上を図るとともに、保健指導事業の充実が図られるよう、一層市民への制度の周知並びにＰＲを推進されることを望みます。

次に老人保健特別会計。

議案第58号　平成22年度老人保健特別会計でありますが、当特別会計は医療制度の改正に伴い老人保健医療事業が後期高齢者医療制度に移行されまして、医療費の請求漏れ等の残務処理のために置かれた会計で、平成22年度で廃止になります。こうしたことから今年度の歳

入額は30万4,000円となっております。これは、一般会計への今年度は繰り入れる予定でございます。

後期高齢者医療特別会計。

議案第59号　平成22年度後期高齢者医療特別会計でありますが、特別会計で処理しているものは、保険料の収納のための郵便料や徴収システムに関連して電算センターの協議会の負担金等の事務費です。これは、収納した保険料を静岡県後期高齢者医療広域連合へ納付するための保険料の管理に伴う経費となっております。

次に、介護保険特別会計。

議案第60号　平成22年度介護保険特別会計でありますが、高齢化率に相まって被保険者が増加する中、当伊豆市では本年４月１日現在の高齢化率が30.85％と高率であるのに対しまして、介護保険の認定率は13.6％と、県平均の14.0％に比べて低い値となっております。

介護予防を促進することは、保険料給付費の削減を図る上におきまして重要と思われます。平成22年度は介護予防のための地域支援事業のうち、介護予防事業におきまして生活機能評価事業を行い、特定高齢者として決定した者に元気はつらつ事業ほかさまざまな事業により生活機能の向上が図られた状況にあります。

また、包括支援・任意事業におけるケアマネジメント・権利擁護事業では、平成18年度介護保険法の改正を受けまして、伊豆市地域包括支援センターが設置され、介護予防、ケアマネジメントや権利擁護、総合相談、さらに包括的・継続的なマネジメントが実施されたことで、高齢者やその家族、民生委員などに対して、より身近なところで適切に相談や支援が得られる状況が確認できました。

次、簡易水道事業特別会計。

議案第61号　平成22年度簡易水道事業特別会計でありますが、定額世帯にメーターを設置し、使用水量に変更したこと等により、有収水量は増加しましたが、料金統一経過の措置の影響もあり、使用料が減少いたしました。

今後も厳しい経営が予想される状況がありますが、このような状況を踏まえ、安定供給に向けて漏水対策の促進等を行い、配水量の確保を図る等、効率的な給水に努められることを望みます。ともに経費の節減も一層の努力をお願いしたいと思います。

下水道事業特別会計。

議案第62号　平成22年度下水道事業特別会計でありますが、歳入決算は使用料手数料２億8,385万円で前年度比521万9,000円、1.8％の減少でありました。水洗化率が向上しているにもかかわらず使用料の減少が生じたのは、大口使用者を初め、全体的に節水等により使用量が減少したことの影響などがあったように考えられます。当会計における一般会計繰入金は多額であり、伊豆市の財政負担が大変大きいこと、また、本来の目的であります河川浄化という環境整備事業の目的、原点をしっかりと見つめていただき、今後は特に水洗化率の低い地域について重点的に接続促進が図られるよう、一層尽力されることを望みます。

次に、農業集落排水事業特別会計。

議案第63号　平成22年度農業集落排水事業特別会計でありますが、３処理区５地区で行われている事業にかかわる会計でありまして、供用開始区の水洗化率は92.5％であり、地区によっては処理能力いっぱいの稼働状況のところもあります。しかしながら、今後の課題といたしまして、管路のみならず、５カ所の処理場を有する中で、施設の老朽化に伴う維持管理費が増加することが予想されます。今後の安定経営のために100％の継続加入に向けての接続促進を一層促すとともに、施設管理にも配慮されるよう望みたいと思います。

それから次、湯の国会館事業特別会計。

議案第64号　平成22年度湯の国会館特別会計でありますが、歳入決算の内訳、使用料・手数料で4,689万円で、前年度比696万円、12.9％の減少でありました。当会館入館者は、景気の低迷による観光客の減少とポンプ取りかえ工事等による11日間の休業等により、全体としては、７万1,796人で、前年度比9,584人、11.8％の減少でした。当施設にあっては、会館利用者の約半数が市民であり、固定客も多く、市民の憩いの場所としても広く利用されている状況にあります。今後とも市民の憩いの場としての一層の利用促進を図るとともに、市外利用者に対してもリピーター入館者増加に向けたＰＲやプレミアム的な措置等一層工夫され、健全経営に向けてさらなる努力を期待するところであります。

それから、あと、議案67号以降、各財産区の決算認定につきましてですが、持越財産区、議案第67号　平成22年度持越財産区特別会計でありますが、本会計は、平成22年度から地方自治法209条第２項の規定に基づき、設置された特別会計であります。持越財産区は本年の歳入決算は、106万8,000円、歳出決算は、15万9,000円で、実質収支は90万6,000円でありました。これは、先ほど、当局のほうからも説明がありましたが、管理費、あるいは、役員等の報酬等の支出が主なものです。

市山財産区。

次に、市山財産区特別会計。議案第68号　平成22年度市山財産区特別会計でありますが、本会計も平成22年度から設置されました特別会計であり、歳入決算額は89万5,000円、歳出決算は、７万5,000円で実質収支は82万円であります。これもですね、主に管理費等の支出が主な支出でございます。

次に、門野原財産区特別会計。議案第69号　平成22年度門野原財産区特別会計でありますが、本会計も平成22年度から設置された特別会計であります。本年度の歳入決算は43万4,000円、歳出決算は、５万9,000円で、実質収支は37万5,000円の決算でございます。

次に、吉奈財産区特別会計。

議案第70号　平成22年度吉奈財産区の特別会計でありますが、本会計も平成22年度から設置されました特別会計であり、本年度の歳入決算は、226万3,000円、歳出11万8,000円で実質214万5,000円であります。

次に、月ヶ瀬財産区特別会計。

議案第71号　平成22年度月ヶ瀬財産区特別会計でありますが、本会計も22年度より設置されました特別会計であります。本年度の歳入決算額は、393万1,000円、歳出340万円で実質収支は53万1,000円であります。

次に、田沢財産区特別会計。

議案72号　平成22年度田沢財産区特別会計でありますが、本会計も平成22年度から設置となった特別会計であります。歳入決算は23万1,000円、歳出が２万9,000円で、実質収支は20万2,000円であります。

あと、矢熊財産区特別会計。

議案第73号　平成22年度矢熊財産区特別会計でありますが、本会計も22年度から設置されました特別会計です。歳入決算は、11万7,000円、歳出が２万8,000円で実質８万9,000円の決算でございます。

以上が、財産区のまとめた件ですけれども、ほぼ先ほど申しましたように、管理費の支出が主で、一部、事業といいますか、借地料等が入ったところもありますけれども、全然収入がないところもありますので、今後、どういう形で考えていきますか、また、検討をいただければと思います。

それから、基金運用状況。

続いて基金運用状況の審査についてあわせて報告いたします。

基金運用状況の審査意見としては、それぞれの目的のために効果的な運用がなされておりますが、今後とも運用に当たっては、財政状況の厳しい状況をかんがみ、内容を十分に検討の上、目的に沿った効率的な運用を図ることをお願いしたいと思います。

次に、公営企業会計。

上水道事業会計ですが、議案第65号　平成22年度上水道事業会計でありますが、平成22年度、安定した気候であったところから、給水制限や断水等は発生しなかったものの、年間配水量は829万9,000立米で、年間有収水量は524万9,000立方メートルとなり、前年度比２万立方メートルの減少です。これは、老朽管の更新、漏水等の修理を実施しており、有収水量率は63.6％と前年度よりも0.1％減少した状況です。

建設改良工事では大野富士見平地区の上水道施設移管に伴う配水管の布設、市道大平日向線開設に伴う配水管の布設工事が行われました。

財政面におきましては、料金改定を行ったものの、引き続き景気の低迷が続いておることもあり事業収入は前年度比1,374万円の減、５億1,322万5,000円であります。

事業費は、経費の節減に努めた結果、５億384万円となり、純利益974万4,000円の計上をされました。

今後とも水道事業の安定のために効率的な事業運営に努めていただき、計画的な施設の更新、整備を図っていくようお願い申し上げます。

次に、温泉事業特別会計。

議案第66号　平成22年度温泉事業特別会計でありますが、この温泉事業特別会計は、土肥地区の温泉事業が合併後引き継がれたもので、今年度の配湯戸数は338戸、１日平均配湯量は4,298立方メートルで、年間給湯量は156万8,678立方メートルでありました。本年度の経営全体につきましては、意見書に記載したとおりでありますが、当年度純利益は、642万5,000円と前年対比525万6,000円の減少となりました。純利益の減少が本年度見られましたが、当温泉会計につきましては、経営状態が健全な状況で推移していることから、今後とも計画的な施設更新を図りながら、引き続き安定した経営に努められるようお願い申し上げます。

次に、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に従いまして、健全化比率、資金不足比率に関し、去る８月10日に監査を実施した結果をあわせて報告させていただきます。

審査の結果、すべての指標が健全化基準内であることを確認いたしました。今後とも、この法律に基づく推移を見守りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で代表監査委員の報告は終わりました。

ただいま議題となっております議案第56号から議案第73号までの18議案に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

**◎議案第７４号～議案第８０号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第27、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）から日程第33、議案第80号　平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算（第２回）までの７議案を一括して議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第74号から80号まで、一括して提案理由を申し上げます。

平成23年度一般会計補正予算（第２回）につきましては、定住促進事業や太陽光発電事業の補助金の追加、観光施設の維持補修経費や防災対策経費などの追加のほか、平成22年度決算剰余金の２分の１以上の基金積み立て５億3,500万円など、６億5,170万円を追加する内容となっております。

次いで、特別会計補正予算ですが、介護保険事業では、前年度事業の精算。簡易水道事業では、土肥地区の浄水場、配水場整備等に伴う不動産鑑定料の増額。下水道事業では、国庫補助金の採択延期に伴う事業費の減額。農業集落排水事業では、管渠洗浄調査委託の追加。上水道事業では、下水道工事の延期に伴う補償工事の減額などが主たる内容となっております。

詳細につきましては、それぞれ担当する部長に説明させますので、よろしくお願い申し上

げます。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

初めに、議案第74号について、総務部長。

〔総務部長　鈴木伸二君登壇〕

**○総務部長（鈴木伸二君）**　それでは、私のほうから議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）につきまして補足説明をさせていただきます。

議案のほうは51ページからになります。恐れ入ります、52ページ、53ページをお開きいただきたいと思います。それと同時に、本日お配りをさせていただいております９月補正予算資料、こちらのほうをあわせて御用意いただければと思います。

最初に、こちらの予算資料の訂正１カ所お願いをしたいところがございます。

予算資料の２ページになります。商工費の中の１番下のほうになりますが、その他観光施設管理事業、その中の２番目、もみじ林支障木伐採業務委託料、140万円というのがございます。これがもみじ林ではございませんので、梅林のほうでございます。恐れ入ります、梅林のほうに訂正をお願いしたいと思います。もみじ林につきましては、自然公園のほうで別に計上してございまして、たまたま金額が同じところにございましたので、担当のほうで、ちょっと記載を誤ってしまったということでございました。梅林の支障木のほうでございます。

それでは、議案書の52ページ、53ページのほうで御説明をさせていただきます。

今回、歳入につきましては、６億5,170万円のうち、大半をですね、繰越金と地方交付税で財源補てんをいたしました。地方交付税につきましては、普通交付税が算定をされておりまして、それをもとに３億8,500万円の増額という形で、収入を見込んでございます。なお、普通交付税につきましては、特別交付税のほう、今年度４億円ちょっと見込んでございますが、そちらのほうが東北の震災の関係でですね、金額の算定が難しくなっているものですから、若干、留保させていただいております。今回、補正の財源といたしましては、３億8,500万円を計上させていただきました。

それから、基金の繰入金でございますが、交付税の増額がございましたので、その分、こちらのほうへの振りかえということで、減額をしてございます。３億5,210万円の減額をいたしました。

それから、市債3,290万円を減額してございますが、これは、臨時財政対策債の発行可能額、こちらのほうが交付税に振りかえになっておりますので、こちらのほうは、3,290万円を減額とさせていただいております。

歳出のほうでございますが、前年度の決算剰余金の２分の１の積み立てというようなことで、基金の積立を５億3,500万円、諸支出金で、計上してございます。そのほか、総務費では、若者の定住促進のための住宅補助、こちらのほう、14件分追加をお願いしたいと思って

おります。

それから、民生費のほうでございますが、社会福祉費で1,509万9,000円というようなことでございます。こちらのほうにつきましては、前年度の事業の精算等で返還金が生じるもので、こちらのほうも計上してございます。

それから、大きなところでいきまして、衛生費でございます。保健衛生費のほう、716万1,000円をお願いしてございますが、太陽光発電、こちらのうほうの申請がかなり件数がふえておりまして、500万円をこちらのほうで計上してございます。

それから、商工費のほうでございますが、3,938万5,000円となっております。主なものといたしましては、東日本の震災に伴う経済対策、こちらのほうで、中小企業の災害利子補給金の上積みというのを実施いたします。こちらのほうが450万円を予定いたしました。

また、住宅リフォームの支援制度、実施ということでですね、今回、30件分、300万円を予定してございます。

また、商工費のほうでは、天城会館の指定管理のための金額1,040万円、こちらのほうも計上してございます。

９款の消防費につきましては、地震対策の関係の防災対策で1,217万1,000円を計上したほかですね、こちらも東日本の震災で消防団員が、多くの方が被災をされております。このために、公務災害の補償基金の掛金、こちらのほうが法律が改正になりまして、今年度の掛金の分の引き上げが決まってまいりました。こちらのほうの追加負担が1,664万4,000円、今年度の支払いとして負担が来るということにかわりましたので、この予算につきましても計上させていただいております。

続きまして、54ページをごらんいただきたいと思います。

地方債の補正でございます。

こちらにつきましては、臨時財政対策債の減額でございます。先ほど申し上げましたように、交付税の算定上、決まってまいります発行可能額が減額となったもので、ここで補正をさせていただきます。

恐れ入ります、56ページ、57ページのほうをお願いしたいと思います。

歳入の細かいところの、若干、説明をさせていただきます。

まず、民生費補助金、県の補助金でございますが、その中の、１節社会福祉費補助金、178万2,000円というのがございます。この中で、６の障害福祉費推進基金事業補助金というのがございます。225万円でございます。こちらのほうは、障害者の自立支援事業のほうに充当を予定してございます。

それから、次の３節に児童福祉費補助金1,505万8,000円というのがございます。こちらのほうは、安心こども基金のほうの補助金でございまして、地域子育て創成事業ということで、子供の支援のほうの、子育て支援ガイドブック、こちらのほうを予定しておりまして、こちらのほうは35万円でございます。そのほか、私立こども園への追加補助というのがございま

して、1,478万8,000円ございます。このうちの２分の１は、既に市が単独で追加をしてございます分に充当いたしますが、残りの２分の１の金額につきましては、支出のほうで追加の補助をする予算となっております。

それから、８目の消防費県補助金でございます。

こちらにつきましては、大規模地震対策の相互支援事業に充当いたしますが、501万1,000円を計上してございます。充当先につきましては、69ページにございます防災対策事業のほうに充当をいたします。

15款の同じ県支出金になりますが、４目商工費委託金でございます。900万円ございますが、こちらにつきましては、県有施設の維持補修経費に充当いたします。達磨山並びに浄蓮の滝の補修に充当いたしております。

次の58ページ、59ページをごらんいただきたいと思います。

まず、20の諸収入で、雑入といたしまして100万円計上させていただきました。これは、市町村振興協会というのがございますが、こちらのほうから防災対策事業ということで、100万円の交付がございました。今回、事業実施にあわせまして、ここに計上させていただいております。

続きまして、支出のほう、歳出のほうでございます。

ページは60ページ、61ページからになります。

なお、詳細につきましては、資料のほうにも掲載してございますので、こちらのほうも後ほどごらんいただければと思っております。

まず、２款総務費５目の財産管理費でございますが、公有財産の管理事業、こちらのほうは測量委託料ということで、元の駿豆学園寮の土地でございますが、こちらのほう、赤線等を含んでおりまして、こういったものの整理をしなければならないということで、用地の確定測量等を実施いたします。200万円をお願いしたいと思っております。

それから、８目の企画費、こちらのほうは、先ほど、ちょっと申し上げましたように定住促進事業の補助金、100万円の部分でございますが、既に10件分申し込みがございまして、今後、問い合わせが来たものが14件ほどございますので、そちらのほう、お願いをしたいと思っております。

それから、民生費のほうでございます。

２の心身障害者福祉費、それから、１の福祉総務費、こちらのほうで報酬等が入れかわりをしてございます。こちらにつきましては、地域福祉計画の策定、こちらのほうをですね、当初、障害者福祉計画の策定委員のほうにお願いをしたいと思っておりましたが、これは、こういうことはできませんというか、おかしいですよということで、改めて地域福祉計画の策定委員の報酬を計上させていただいております。

それから、障害者自立支援事業の中の、２つ目になります通所サービス利用促進事業費補助金、こちらのほうは、障害者支援施設のエールのほうから申請がございましたので、そち

らのほう、追加をさせていただいております。

一番下の特別会計の繰出金、こちらにつきましては、前年度の精算に伴います不足分の繰り出しでございます。

ページのほうは、62ページ、63ページをお願いしたいと思います。

一番上の児童福祉費につきましては、先ほど申し上げましたように子育て支援ガイドブックの作成を予定しているものでございます。

それから、こども園のところの下になります。私立こども園施設整備費補助金、先ほど申し上げましたように２分の１の額、735万4,000円を追加して補助いたすものでございます。

続きまして、ページ、64ページ、65ページをお願いしたいと思います。

４款衛生費でございます。４目の環境衛生費は、負担金19節といたしまして、504万円をお願いしてございます。こちらのほうは、先ほど申し上げましたように太陽光発電のほうで500万円、１件10万円の50件分ということで見込んでございます。また、今年度、緊急雇用対策臨時雇用によりまして、追加のごみの収集撤去ということで予定をしておりますが、190万円の委託を予定してございます。

それから、２項の清掃費のほう、１目清掃総務費、こちらにつきましては、区長さん方の視察経費の不足分をお願いするものでございます。

それから、商工費７款でございますが、２目の商工振興費、こちらのほうで、商工振興事業ということで、先ほど申し上げましたように中小企業対策の利子補給、こちらのほうで１％上乗せ分としまして、450万円住宅リフォーム、１件10万円でございますが、30件分を見込んで、300万円のお願いをしたいと思っています。

それから、３目の観光振興費のほうでございますが、伊豆サイクルフェスティバル、これは、春の事業が中止になりましたので、540万円の減額とさせていただきました。

また、観光協会のほうから秋以降の緊急誘客のための宣伝補助ということで、要望がございまして、450万円の支出を計上してございます。

66ページ、67ページをごらんいただきたいと思います。

八木沢ポケットパークの事業につきましては、事業の調整がなかなかうまくいっておりませんで、また見直し等も必要という指摘もございました。そうした中で、今回、市の附帯で実施する分につきましては、2,500万円を減額とさせていただいております。

また、あわせまして、今回、駿河湾の海上フェリーの活性化というような観点から、土肥の観光案内所、こちらのほうを充実したいということで、観光協会のほうに支出をいたしますが、観光案内所の整備事業の補助金といたしまして、2,500万円を支出いたします。

それから、４目観光施設の管理事業でございます。こちらのほう、先ほど申し上げましたように、13の天城温泉会館管理事業、こちらのほうには指定管理料として1,040万円を見込んでございます。

そのほか、その他観光施設管理事業のところでございますが、一番最初の測量委託料、こ

ちらにつきましては、浄蓮の滝の遊歩道の部分でございます。148万5,000円でございます。それから次の支障木、こちらにつきましては、先ほど申し上げましたように梅林の支障木でございます。

それから、15の41ということで、観光施設維持補修工事、こちらのほうは、梅林の園路、こちらのほうも相当傷んでおりまして、この補修工事を行うものでございます。

それから、ページにつきましては、68ページ、69ページをごらんいただきたいと思います。

消防費でございます。非常備消防費の1,664万4,000円でございます。これが先ほど申し上げましたとおり、東日本の震災に伴います消防団員の基金、こちらのほうがかなり不足をいたしました。そのため、国のほうで、これは法律で決めておるんですが、８月10日付で法改正をして、４月にさかのぼって引き上げということで、これまで1,900円の１人当たりの掛金が２万4,700円にするということで、計算をしますと、1,664万4,000円を追加支出しなければいけないという形になってまいりました。なお、こちらにつきましては、現在、特別交付税で措置をしますというような情報をいただいておりますが、そうしていただかないとうちのほうも困るかなと思っております。

それから、災害対策事業、こちらにつきましては、津波対策のための事業、まず、海抜表示並びに誘導板、避難ビルの掲示、そういったものを行います。162万5,000円を予定しております。

それから、計測震度計設置関連工事というのがございます。これは、今、修善寺の庁舎の部分がデジタルで行われておりません。これをデジタルで行えるように改修してくれというようなことで、県のほうからも要請をされております。この経費459万5,000円でございます。なお、先ほどの海抜表示、こちらのほうは、補助率３分の１、この地震の設置につきましては、２分の１の補助ということでございます。

それから、次の防災用品でございますが、これはろ水器２台の購入を予定しております。こちらにつきましては、３分の１の補助でございます。

次の、放射線測定機器、こちらのほうは２台の購入を予定しておりまして、これも３分の１の補助ということでございます。

最後の避難所用品購入、こちらのほうは、発電機10台分を予定しております。これにつきましては、２分の１の補助を予定しております。

次の10款教育費、２項小学校費でございますが、こちらにつきましては、修善寺小学校の北側、体育館の横になりますが、下水の排水管がございます。これがちゃんとした勾配がとれていなかったというようなことで、この勾配を取り直す工事をいたします。こちらの関係は125万円でございます。

一番最後になりますが、70ページ、71ページのところに諸支出金といたしまして、先ほど申し上げました剰余金の２分の１ということで、５億3,500万円の基金の積み立てをお願いしているところでございます。

それから、72ページの給与費明細書につきましては、先ほど申し上げました民生費のところの支出の変更がございました。そこで、若干、金額のほうが減額になるということで、人数のほうが変わっておりませんが、２万2,000円の減額ということで、充当させていただいております。

以上が一般会計補正予算の第２回目の概要でございます。

よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第75号について、健康福祉部長。

〔健康福祉部長　大城栄一君登壇〕

**○健康福祉部長（大城栄一君）**　それでは、議案第75号　平成23年度伊豆市介護保険特別会計補正予算（第２回）につきまして、補足説明をさせていただきます。

議案書の73ページをお開きいただきたいと思います。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ4,204万3,000円を増額いたしまして、歳入歳出予算の総額をそれぞれ28億8,118万円とするものです。

今回の補正につきましては、平成22年度決算に伴いまして、歳入では介護給付費及び地域支援事業費の公費負担精算による交付金等の追加交付の計上、それから歳出につきましては、決算に伴い国庫負担金等への精算返還金の計上をするものでございます。

次のページをお開きいただきたいと思います。

歳入でございますけれども、第３款国庫支出金、第２項国庫補助金の１万9,000円の増額につきましては、包括的支援事業や任意事業などの地域支援事業交付金の精算分となります。

次の第４款支払基金交付金の164万8,000円の増額につきましては、介護給付費交付金の精算によるものでございます。

次に、第５款県支出金、第１項県負担金の347万5,000円の増額につきましては、支払基金交付金同様、介護保険給付、給付費交付金の精算によるものでございます。

次に、第２項の県補助金9,000円の増額につきましては、国庫補助金同様、地域支援事業交付金の精算によるものでございます。

次に、第７款繰入金第１項の一般会計繰入金367万2,000円の増額につきましては、介護給付費地域支援事業事務費分の精算に伴う一般会計からの繰り入れでございます。

次の第８款繰越金3,322万円の増額につきましては、歳出の第７款諸支出金、第１項償還金及び還付加算金の国及び支払基金への返還金に当てるための財源措置となります。

歳出につきましては、ただいま御説明しましたように、国庫支出金及び基金交付金の返還金4,204万3,000円を増額計上させていただくものでございます。

以上で、補足説明を終わらせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第76号から議案第78号及び議案第80号の４議案について、建設部長。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、議案第76号について説明させていただきます。

83ページをお願いします。

歳入歳出それぞれ832万2,000円の増額をお願いする補正です。

本補正の支出の主なものは、八木沢小下田簡易水道の新しい浄水場、配水池の候補地が決定し、土地所有者の内諾が得られましたので、用地測量と土地買収の基礎資料となるための不動産鑑定をするものです。

また、同簡易水道の送水ポンプが経年劣化によりまして頻繁に故障する事態になっています。このため、この取りかえ工事を計画しました。

また、電気料についても不足する可能性がありますので、これについても補正をお願いするものです。

支出の財源につきましては、繰越金を予定しています。

84ページをお願いします。

歳入歳出とも832万2,000円の増額をお願いしているものです。

89ページをお願いします。

833万2,000円の歳出についての説明をさせていただきます。

主なものといたしまして、89ページ、３簡易水道事業土肥分というところの11、説明欄ですけれども、電気料が120万円、測量委託料、これが浄水場、配水池、ポンプ場の用地測量になりますけれども、これが470万円、土地鑑定料が122万円、そして、施設改良工事、これがポンプの取りかえ工事が120万円ということになります。

以上です。

続きまして、議案第77号　下水道の補正、第２回目の議案になります。

歳入歳出それぞれ２億5,700万円減額する補正であります。

平成22年度分、中伊豆地区の城及び修善寺地区の大平の管渠工事を予定していましたが、この分に相当する国の補助金が減額されました。今後、国の補正等で手当てされる見込みがありませんので、今回の管渠工事を取りやめることとしました。

これに関しまして、市債も減額いたします。また、繰越金も予定していました額に及びませんでしたので、これらの状況をかんがみ、減額補正をすることとしました。

消費税につきましては、22年度分が確定した結果、補正をするものです。

それでは、92ページをお願いします。

国の補助金が、１億3,984万円の減額ということになります。また、あわせて市債のほうが１億260万円の減額ということになります。

歳出のほうといたしましては、この事業に、この補助金と予算に見合った工事の取りやめ分といたしまして、２億6,050万円の建設費の減額をお願いするものです。

２の下水道管理費というところの350万円の補正がありますが、増額補正がありますが、これが消費税に相当する分です。

続きまして、議案第78号、101ページをお願いします。

農業集落排水特別会計の補正第２回目、705万円の増額をお願いするものです。

本支出は加殿処理場におきまして、特に雨天時に流入量が大きくなり、それに伴い汚水処理費も多くなっています。このため、早急に管渠調査の距離を伸ばしまして、破損箇所を発見し、対処する必要が生じたため、本補正をお願いするものです。

支出の財源につきましては、繰越金を予定しています。

102ページをお願いします。

歳入歳出とも705万円の増額をお願いするものです。

107ページをお願いします。ここで管渠調査委託料705万円ということになります。今年度予算もあわせまして田代で2,550メートル、日向で2,000メートルを管渠調査を予定しています。これによりまして、田代のほうは調査が完了する予定になっています。

加殿処理場が平成６年に供用を開始しまして、今までで17年間を経過してきたということと、晴れているときには処理場へと日量当たり210トン入ってきます。これに対して雨のときには、平均で402トン入ってきます。約倍入ってきます。しかも、加殿処理場の能力にいたしましては、日処理量が495トンということですので、そろそろ限界に近い数字だということです。

続きまして、議案第80号　上水道会計の補正（第２回）をお願いします。

117ページをお願いします。

収益的支出、３条予算といいますが、におきまして、日常点検の一部を民間委託するための委託料の増加と消費税相当額が、この補正によって決まってきますので、これの消費税相当額の補正ということになります。

資本的収入及び支出、４条予算におきまして、新配水池予定地の所有者の内諾が得られましたので、実施する用地測量などの委託料の増加、それと下水道の管工事が中止となったため、これに関連した下水道会計からの出資金や水道の布設がえ工事が中止となりましたので、４条予算としては減額補正の必要が生じました。

ということで、収益的支出、117ページのところの営業費用、これが150万円の増額、営業外費用が55万4,000円の増額、資本的収入及び支出のところの１款２項出資金、これが1,000万円の減額。１款１項の建設改良費が865万円の減額ということになります。これの内訳がですね、118ページに記載されています。

まず、支出の部の１款１項１目の原水、浄水、配水及び給水費のところの150万円の補正予算ですけれども、これが天城地区の施設点検を計画しています。

１款２項３目の消費税及び地方消費税ということで、55万4,000円、これが23年度の消費税相当額になります。企業会計では、消費税の納入期限が６月となっています。通常の、下水道では９月なんですけれども、企業会計では６月となっていますので、その都度、予算に合った消費税相当額を補正していかないと消費税の納期に間に合わなくなるということにな

ります。

収入の真ん中の表になりますけれども、収入につきまして、1,000万円の減額となります。これは、下水道の工事に伴う布設がえ費になるわけですけれども、下水道のほうが取りやめになりましたので、水道のほうへこのお金が入ってこなくなるということです。

その下の支出のところの改良費の1,000万円の減額。これもこの下水道の修理に伴う工事の支出の分になります。

委託料135万円の増。これが芙蓉台の配水池の用地の不足料ということになります。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第79号について、観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　それでは、議案第79号　平成23年度伊豆市湯の国会館事業特別会計補正予算（第２回）の補足説明をいたします。

議案書の109ページをお願いいたします。

歳入歳出総額をそれぞれ235万円を増額いたしまして歳入歳出総額それぞれ7,890万3,000円とするものでございます。なお、説明につきましては、事項別明細書のほうでお願いしたいと思います。

まず最初に歳入でございます。112ページ、113ページをお願いたします。

歳入につきましては、全額を平成22年度からの繰越金を充てるものでございます。

次のページ、114ページ、115ページをお願いいたします。

歳出でございます。１款１項１目一般管理費でございます。その中の需用費、修繕料235万円でございますが、これにつきましては、大広間あるいは多目的ホールなどの雨漏りの補修修繕を行うものでございます。

以上、補足説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で提案理由及び補足説明を終わります。

ただいま議題となっております議案第74号から議案第80号までの７議案に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

ここで議事の都合により昼の休憩といたします。

ご苦労さまでした。

再開は１時とさせていただきます。

休憩　午後　０時０８分

再開　午後　１時００分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩を閉じ会議を再開いたします。

**◎議案第８１号～議案第８３号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第34、議案第81号　伊豆市税条例の一部改正についてから日程第36、議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてまでの３議案を一括して議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第81号から83号まで一括して提案理由を申し上げます。

議案第81号　伊豆市税条例の一部改正は、東日本震災に伴います地方税法の一部改正がありましたことに伴い、改正をお願いするもの。

議案第82号　伊豆市湯の国会館条例の一部改正は、指定管理者制度に移行するための改正をお願いするもの。

議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正は、スポーツ振興法がスポーツ基本法に改められたことに伴う改正をお願いするものでございます。

詳細について、それぞれ担当する部長から説明をさせますので、よろしくお願いを申し上げます。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

まず、議案第81号について、市民環境部長。

〔市民環境部長　山本　潔君登壇〕

**○市民環境部長（山本　潔君）**　それでは、議案書の123ページからになります。

議案第81号について、補足説明をさせていただきます。

３点ございまして、第１点目の附則第46条は、東日本大震災によりまして住宅や家財等について生じた損害額、一般的には平成24年度ないしそれ以降の市民税の雑損控除を受けるということになるわけですけれども、納税者が選択することによりまして、平成22年度に生じた損害とみなして23年度及びそれ以降の市民税の雑損控除を受けるということができるようにするものでございます。

第２点目の47条でございますけれども、住宅借入金等特別控除の適用を受けている住宅がこの震災により居住の用に供することができなくなった場合においてもですね、残りの期間について引き続き控除を受けることができるというようにするものでございます。

それから、第３点目、附則の第48条ですけれども、同じく震災により滅失、または損壊した住宅用地の所有者等が当該用地にかわる被災代替土地を平成33年３月31日までに取得をし

た場合には、被災住宅用地に相当する分について、取得後３年間、住宅用地とみなすという措置、それから、もう一つ、同じ期間までに取得をした被災代替住宅にかかる税額のうち、被災住宅の床面積相当分について４年間、２分の１、その後、２年間３分の１を減額するという措置が、地方税法によって講じられることになっておりますが、これらの適用を受けるための申請手続を、この条例の48条の中で規定するといったものでございます。

執行日につきましては、公布の日、それから、47条に限り24年１月１日施行ということになっております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第82号について、観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　それでは、議案第82号　伊豆市湯の国会館条例の一部改正について補足説明をいたします。

既に御承知のことと思いますが、湯の国会館は昭和63年４月に住民の福祉、コミュニティの場を提供する施設としてオープンいたしました。その後、合併時の平成16年度には７万5,353人の入館者を迎えまして、昨年度には７万1,796人の入館者がございました。そうした中で、平成22年、昨年に行われました事業評価会におきまして民間移行、あるいは改善の判定を受けたこと、あるいは、市営施設運営委員会で、ことしの３月に指定管理者制度による運営について協議し、５月には指定管理者制度への移行について意見が出され、内部での検討の結果、今回、民間活力の導入を図り、地域の活性化に寄与するため、指定管理者制度に移行するための条例の一部改正をお願いするものでございます。

全般的な改正は一般的な指定管理者制度の導入に向けた条例の一部改正を行うものでございます。

それでは、新旧対照表により御説明申し上げます。

135ページをお開き願いたいと思います。

最初に、第１条におきましては、地方自治法上の規定を削除するものでございまして、第２条では、名称から伊豆市を削除するものでございます。

第３条におきましては、施設を表記するもので、大浴場、露天ぶろからエントランス、売店、多目的ホール、和室、休憩室、個室、レストラン、温泉スタンドまでの７項目とするものでございます。

第４条におきましては、供用日及び時間を規則にゆだねる規定でございます。

第５条につきましては、利用の承認。

続きまして136ページ、137ページでございます。

第６条におきましては、利用の制限。

第７条で利用の承認の取り消し等。

第８条で損害賠償。

第９条で指定管理者による管理を規定しております。

また、第10条におきましては、利用料金の納付として、利用料金については、別表に定める範囲内で市長の承認を得て定めることなどを規定しております。

第11条におきましては、利用料金の減免、第12条で、利用料金の不還を規定しております。

第13条では指定管理者の事業報告を毎年度終了後の報告ということを規定してございます。

138ページ、139ページをごらんください。

第14条につきましては、委任について規則で定めるということ。別表におきましては、会館利用料金表ということで、利用料金を定めております。

なお、別表２の分湯使用料及び分担金は削除するものでございます。

以上、補足説明とさせていただきます。よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第83号について、教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長　間野孝一君登壇〕

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　それでは、議案第83号についての２つの条例の一部改正についての補足説明をさせていただきます。

初めに伊豆市スポーツ振興審議会条例一部改正の内容でございますが、本条例の根拠法が全部改正されたため、伊豆市スポーツ振興審議会条例に条例の題名を改め、あわせて条文を改正するものでございます。

議案書143ページをお願いいたします。

新旧対照表により御説明をさせていただきます。

まず、条例の題名を伊豆市スポーツ振興審議会条例から伊豆市スポーツ推進審議会条例に改めます。

第１条は、根拠法の題名の改正並びに審議会設置の根拠条例の改正、条項の改正による条文の改正となります。

それから、第２条でございますけれども、見出し、任務を所掌事務に、根拠法の引用条項法第４条第１項及び第23条を法第35条に、スポーツ振興をスポーツの推進に改めます。さらに審議会の審議事項に法第10条第１項の地方スポーツ振興推進計画に関することを改正後の同条の第１項１号として加えるものでございます。

また、本条の第７号中、振興を推進に改め、同号を本条の第８号といたします。改正前の同条の第１号から第６号までを１号ずつ繰り下げるものでございます。

次に、伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について御説明をいたします。

根拠法であるスポーツ振興法が全部改正され、スポーツ基本法として施行されることに伴いまして、委員名称が改正されます。このため、伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の別表を改正するものでございます。

議案書145ページのほうをお開き願いたいと思います。

145ページの新旧対照表にて説明をさせていただきます。

区分の中の改正前でございますけれども、体育指導員を改正後にスポーツ推進委員に、改正前のスポーツ振興審議会委員を改正後スポーツ推進審議会委員と改めるものでございます。また、現に任命されている委員に関する経過措置を附則にて規定をするものでございます。

以上をもって補足説明といたします。よろしくどうぞお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で提案理由及び補足説明を終わります。

議案第81号から83号までの３議案に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

**◎議案第８４号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第37、議案第84号　伊豆市指定金融機関の指定についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第84号について説明を申し上げます。

本市の指定金融機関であります株式会社スルガ銀行との指定契約が本年12月31日をもって満了いたします。これに伴い、三島信用金庫を新たな指定金融機関として指定するため、地方自治法施行令第168条第２項の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

なお、指定期間は平成24年１月１日から平成25年12月31日までの２年間といたします。詳細につきまして、会計管理者に説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

会計管理者。

〔会計管理者　鈴木守正君登壇〕

**○会計管理者（鈴木守正君）**　議案第84号の補足説明をいたします。

伊豆市の公金の収納及び支払いの事務を取り扱う指定金融機関は合併以来、株式会社スルガ銀行が務めてまいりました。

平成21年度に他の金融機関より指定金融機関を担いたい旨の申し出があり、市内金融機関に対し、意向調査を実施いたしました。結果、スルガ銀行、三島信用金庫の２行が意向を表明いたしましたので、財務状況及び指定金融機関としての実績等を調査し、輪番制とすることに決定いたしました。

平成22年４月１日より平成23年12月31日までをスルガ銀行が務め、以後の２年間を三島信用金庫が務めるもので、地方自治法施行令第168条第２項の規定により議会の議決をお願いするものであります。よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で提案理由及び補足説明を終わります。

ただいまの議案第84号に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

**◎議案第８５号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第38、議案第85号　建設工事委託に関する協定の締結についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第85号について提案理由を申し上げます。

平成20年度より土肥浄化センターの改築を進めているところであります。今回の日本下水道事業団との協定については、平成23年度予算で認めていただいております平成24年度までの債務負担で、水処理設備工事、電気設備工事を同事業団に発注から管理まで実施させるためのものでございます。なお、工事金額が大きいため、協定締結から入札まで１カ月半ないしは２カ月の期間を要し、さらに、入札不調や低入札の場合、日本下水同事業団の内部規則により調査や調整、再入札にさらに２カ月程度かかり、工事の完成が大きくおくれるおそれがございます。このため、早期に本契約を締結いたしたく、議会の議決をお願いするものでございます。

詳細について、建設部長に説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

建設部長。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、議案第85号についての補足説明をさせていただきます。

本契約は、日本下水道事業団と随意契約をするものです。契約金額につきましては、４億3,600万円であります。この契約につきましては、平成23年７月25日に仮契約を結んでおります。最終工期につきましては、25年３月29日を見込んでおります。

内容につきましてですけれども、土肥の浄化センターの水処理施設設備工事です。その３ということになっております。沈殿池、流量調整設備、反応タンクの設備等になっています。また、電気工事があります。電気工事がその８ということで、水処理運転操作の設備、水処理計の装備、水処理監視制御設備ということで、それぞれ、水処理設備工事のほうが２億778万円、そして、電気工事のほうが２億2,822万円、合わせまして４億3,600万円ということになります。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で提案理由及び補足説明を終わりました。

ただいまの議案第85号に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

**◎議案第８６号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第39、議案第86号　建設工事委託に関する協定の変更についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第86号の提案理由を申し上げます。

これは議案第85号とも関連いたしますが、平成22年度から23年度の債務負担で実施しております土肥浄化センター改築工事の水処理設備工事及び電気設備工事について、設計変更や入札による差金が生じたため、変更の必要が生じたものであります。

詳細について、同じく建設部長に説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

建設部長。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、議案第86号の補足説明をさせていただきます。

目的は、土肥浄化センターの改築であります。契約金額ですけれども、４億8,800万円が３億7,520万円になるものです。１億1,280万円の減額です。相手方は日本下水道事業団です。

内容といたしまして、土肥の浄化センターの水処理設備その２工事がですね、約4,000万円減額になりました。電気設備工事その７、これが約6,500万円減額になりました。合わせまして１億1,280万円の減額というものになります。

この契約につきましては、平成22年５月14日から平成24年３月30日までの工期となっております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で提案理由及び補足説明を終わりました。

ただいまの議案第86号に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

ここでただいまの議案第85号及び86号の２議案の審議方法についてお願いがありますので、これより暫時休憩をいたします。

休憩　午後　１時２３分

再開　午後　１時２６分

**○議長（杉山羌央君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

**◎議案第８７号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第40、議案第87号　字の区域の変更についてを議題といたします

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第87号の提案理由を申し上げます。

市営土地改良事業の換地処分の実施に伴い、地方自治法第260条第１項の規定により議会の議決を求めるものでございます。

詳細について、建設部長より説明させますので、よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

建設部長。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、議案第87号の補足説明をさせていただきます。

この議案の内容といたしましては、字の変更をするものです。平成10年に土地改良法で土肥町がこの法手続をとっております。そして、農地の区画整理を行ったわけです。その土地改良法の法手続と区画整理ですけれども、これが参考資料の１、次のページになります。この範囲を土地改良法の法手続をとって区画整理を行ったものです。これに対しまして、次の資料２を見てください。既存の字境が少し青色でわからないんですけれども、ありまして、それをこの赤色の線に直すわけですけれども、資料が相当見にくいです。そのために、急遽、資料を１部つくらせていただきました。資料の３を見てください。資料の３、緑色の部分が現在の字境です。これは、今の各個人さん所有の筆ごとに筆に沿って字が分かれているわけです。

この図面ですけれども。きょう、資料、会議前にお分けした資料になっています。参考資料３ということで、緑の部分が今現在の字境になっています。これを赤色の部分の字境に変えるものです。

議案のほうに戻っていただきまして、１番が浅間山、一番上の字ですけれども、ここに編入する区域のものをうたっています。

２番、箒山田に編入するもの。箒山田が真ん中付近にあります。ここに入るものです。

続きまして３番、松林、右側下にありますけれども、ここの字へと編入される部分です。

４、大坂に編入ということで真ん中、一番下の字に編入されるということになります。この議会の承認を経まして、この後、これを県に送って県が告示をして字の変更となるものです。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で提案理由及び補足説明を終わります。

ただいまの議案第87号に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

**◎議案第８８号の上程、説明**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第41、議案第88号　公の施設の指定管理者の指定について（天城会館）を議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第88号の提案理由を申し上げます。

６月議会で条例の一部改正の議決をいただきました天城会館について、伊豆市指定管理者審査会での審議の結果、一般社団法人伊豆市観光協会を指定管理者として選定する旨の答申がありましたので、天城会館の指定管理者の指定についてお諮りするものでございます。

詳細について、観光経済部長に説明をさせますので、よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって、提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　それでは、議案88号　公の施設の指定管理者の指定について（天城会館）についての補足説明を申し上げます。

資料の155ページをごらんいただきたいと思います。

指定管理者を指定する公の施設の名称は、天城会館、指定管理者となる団体は一般社団法人伊豆市観光協会、指定の期間、平成23年10月１日から平成27年３月31日までということです。

まず、指定業者ですが、平成23年８月10日に伊豆市指定管理者審査会が開催され、答申を受けました。伊豆市観光協会でございます。なお、答申に当たりましては、意見といたしまして、展示等、誘客関連事業の具体策を明確にすること、収支計画の見直しを図ること、提案要綱、自己評価及び実績評価に関する事項の確実な実施を図ること、地域住民と一体となった物販の実施や文化的な観光資源の有効活用を図ること。以上が付記されました。

当協会につきましては、議案の参考資料、157ページですか、のほうに参考資料がございます。それに協会の概要を簡単に記載しておりますが、一般社団法人として平成23年４月から旧伊豆市観光協会の事業を引き継いで設立された団体であり、市内観光事業の振興により、生活文化、経済の活性化に寄与し、活動を行ってきております。

現在、土肥総合会館や修善寺筥湯の指定管理の委託を受け、現在に至っているところです。

当該協会との指定管理につきましては、指定管理者審査会からの付記された意見を尊重し、

それに沿って協定書を取り交わし、施設の管理運営を委託いたします。

協定書の内容につきましては、管理運営を委託する施設は、天城会館の現状の売店、食堂、温泉施設の部分です。

また、指定期間につきましては、23年10月１日から27日３月31日までを予定いたします。

業務の内容ですが、地域の活性等を目的とし、天城会館条例及び同施行規則で規定してある範囲で行うものです。

管理委託につきましては、協定に違反した場合については指定の取り消しの条項を入れます。

指定期間中は、事業の計画書及び予算書の提出を義務づけており、毎年度終了後は２カ月以内に事業報告書と決算書を提出し、必要に応じ報告や現地調査の立ち会いを義務づける内容であります。

施設の備品につきましては、会館の備品を使用することになりますが、伊豆市物品管理規則によって管理することとなります。

施設の維持補修は、30万円以下の改修は指定管理者が行うこととし、施設備品、物品が破損した場合は、原状に回復し、任期満了後の原状に回復する規定を協定書に明記します。

帳簿の整備につきましても、業務日誌の整備のほか、利用状況や現金出納簿の整備も義務づけ、必要なときは提出させるものであります。

指定管理料につきましては、本年度は年度途中ということで、今回、補正をお願いしているところでございます。

24年度以降は、年度協定により条件をつける計画でございまして、基本的に指定管理料は入場料金より充当する内容であり、収益が出た場合については、指定管理料を減額するという考え方であります。

今回の指定管理者制度については、指定管理者として公募しても応募がない中での提案を受けて行うものでありまして、湯ヶ島地区の地域活性化に期待するものでございます。

また、職員の関与についても必要最小限度にとどまることなどから、実質的に経費面でも軽減されると考えております。

以上、補足説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で提案理由及び補足説明を終わります。

ただいまの議案第88号に対する質疑は、９月９日開催予定の本会議において行います。

**◎諮問第１号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第42、諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　諮問第１号の提案理由を申し上げます。

御案内のとおり人権擁護委員は、基本的人権の擁護と自由人権思想の普及高揚を図るため、市町長が推薦し、法務大臣が３年の任期で委嘱します。

このたび、人権擁護委員の植木和久氏が平成23年12月31日をもって任期満了となることから、後任委員の候補者の推薦について、人権擁護委員法第６条第３項の規定に基づき、議会の意見を求めるものでございます。

同氏は平成21年１月１日から同職に就任され、現在、１期目でございます。人格、識見とも高く、地域住民の人望も厚く、本職に適任であると判断し、引き続き、委員として推薦しようとするものでございます。

以上、よろしく御賛同賜りますよう、お願い申し上げます。

**○議長（杉山羌央君）**　これより質疑に入ります。

質疑はありませんんか。

〔発言する人なし〕

**○議長（杉山羌央君）**　質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本案については、会議規則第37条第３項の規定により委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　御異議なしと認めます。

よって、本案については、委員会付託を省略することに決定いたしました。

次に、討論に入ります。

討論はありませんか。

〔発言する人なし〕

**○議長（杉山羌央君）**　討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより採決をいたします。

お諮りいたします。

諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦については、適任であるとすることに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦については、適任であるとすることに決定いたしました。

**◎散会宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　以上で本日の日程は終了いたしました。

お諮りいたします。

明日９月２日及び５日は、議事の都合により休会といたしたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　御異議なしと認めます。

よって、明日９月２日及び５日は休会とすることに決しました。

また、９月３日と４日は市の休日のため、休会といたします。

次の本会議は９月６日午前９時30分から開催し、一般質問を行います。

なお、当日は、発言順序１番の内田勝行議員から発言順序７番の関邦夫議員までを行います。

本日提出されております各議案に対する質疑の通告期限は７日の正午となっておりますので、御承知ください。

本日はこれにて散会いたします。

本日は御苦労さまでした。

散会　午後　１時４０分

# 平成23年第３回（９月）伊豆市議会定例会

（第２号　９月６日）

開議　午前　９時３０分

◎開議宣告

**○議長（杉山羌央君）**　皆さん、おはようございます。

本日の出席議員は20名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

これより平成23年第３回伊豆市議会定例会２日目の会議を開きます。

◎議事日程説明

**○議長（杉山羌央君）**　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎一般質問

**○議長（杉山羌央君）**　日程に基づき、一般質問を行います。

続いて、質問に先立ち、質問者と答弁者に御注意を申し上げます。

質問者は簡単明瞭に、また議題外にわたらないよう、答弁者にあっては質問の趣旨に沿い答弁していただくようお願いいたします。

今回は13名の議員より通告されております。質問の順序は、議長への通告順といたします。

本日は、発言順序１番の内田勝行議員から発言順序７番の関邦夫議員までを行います。

これより順次質問を許します。

◇　内　田　勝　行　君

**○議長（杉山羌央君）**　最初に、８番、内田勝行議員。

〔８番　内田勝行君登壇〕

**○８番（内田勝行君）**　おはようございます。８番、内田勝行です。

通告に従い、一般質問をいたします。答弁を求める者、市長であります。

件名、伊豆半島ジオパーク構想について。

このところ、ジオパークの文字が紙面をにぎわせています。ジオパークとは、「ジオ（地球）に関わるさまざまな自然遺産、例えば、地層、岩石、地形、火山、断層などを含む自然豊かな公園です。ジオパークは、これらのジオに関わる遺産を保護し研究に活用するとともに、自然と人間との関わりを理解する場所として整備し、科学教育や防災教育の場として、また新たな観光資源として地域の振興に活かします」と、このように紹介をしております。

平成21年７月、川勝知事の肝入りで伊豆半島ジオパーク構想がスタートいたしました。平成23年３月、県と７市６町の自治体で構成する伊豆半島ジオパーク推進協議会を立ち上げ、世界ジオパーク認定を目指す取り組みが始まりました。既に、伊豆市総合計画（後期）の観光振興の課題として、ジオパークの必要性を述べております。

そこで、質問をいたします。

１、認定までの期間の想定は。

２、伊豆市として、認定に向け、どのように進めていくのか。

３、認定後の観光資源の創出はどのようにするのか。

以上です。よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの内田勝行議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　皆さん、おはようございます。

内田議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、ジオパークの認定までの期間の想定ですが、伊豆市は現在、伊豆半島ジオパーク推進協議会の構成メンバーの一員として、御指摘のとおり世界ジオパーク認定を目指して活動を行っております。ことし５月に、世界ジオパーク傘下の日本ジオパークネットワークの準会員となりました。そして、平成24年度に日本ジオパークの認定を、平成27年度に世界ジオパークの認定を受けることを目標として活動しております。

次、どのように進めていくかについてですが、世界ジオパークになるためには、まずジオパークについて地域住民が理解し、保護し、後世に伝え、教育研究に生かし、そして旅行などの地域振興を図るという基準をクリアしなければなりません。私が当初この話を聞いたときに、これはもう交流人口をふやすために目的を限定したほうがいいなと考えていたのですが、幸いにも伊豆市内では伊豆総合高校が総合学習の一環として、このジオパーク活動に積極的に取り組んでおり、市民向けのジオパーク講座や市内小学校への出前授業などで伊豆半島と伊豆市の地域資源を紹介してくれております。このような活動を横から拝見するにつけ、教育としても、地元の高校が主体となってやってくださっている状況から、先ほどの基準をすべてクリアすることができるなと、新たな期待を抱いております。また、教育委員会でも、夏休みに市内小・中学生を対象にしたジオ教室が開催をされました。参加した子供たちが楽しくジオパークの資源について学んでいたと聞いております。

この伊豆市のすばらしい資源を次世代を担う小・中学生に受け継ぎ後世に伝える教育、さらにガイドも育成した観光資源として付加価値をつけた観光振興、さらには地質資産を守り活用する環境保全、これらを相互に連携をさせながら伊豆市の活性化につなげていきたいと考えております。

最後に、観光資源の創出としてどのようにするかということでございますが、伊豆半島全体で、ジオサイト、これは候補ですが、110カ所、市内にも25カ所が挙げられております。しかし、この25カ所にはそれぞれ特性がございますので、浄蓮の滝や土肥金山など既に観光地となっているもの、あるいは今でも採石場として使われて観光資源としては非常に使い勝手がよくないもの等々ございますので、25カ所同時に進めるのではなく、その特性に応じた

使い方というものに取り組んでまいりたいと、このように考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

内田議員。

**○８番（内田勝行君）**　今、答弁の中に内容があったかもしれませんが、再度基本的なことをもう一度伺います。

現在、数多くの自治体がジオパーク構想を推進し、認定を目指し、活動を繰り広げているわけですが、その背景には、貴重な自然遺産であるジオパークの魅力を国内外に発信し、新たな観光資源として掘り起こし、地域振興策の一つとして生かそうとするねらいがあるからだと、このように理解をしておりますが、そこで市長として、また伊豆市はどのようにとらえていくかお聞かせください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　天城中学校の天城学習などもそうなんですが、地域に対してなかなか今の小・中学生が誇りを持てないでいるというようなことが教育に携わる皆さんの中で問題認識としてあるようでございます。

このジオパークというのは、伊豆の持つ成り立ち、それから特性、それからそれの観光資源としてのすばらしさ等々が総合的に勘案されての事業になると思いますので、私ども現役世代の観光振興策としてはもちろんのこと、この伊豆に生まれ育つ若者たちがこの地域自体に魅力を持ち、そしてそれを大切に守っていき、そしてそれを活用する、そのような観点から、これはなかなか息の長い事業になると思いますけれども、まだスタートに立ったばかりですが、そのような観点から積極的に推し進めてまいりたいと考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

内田議員。

**○８番（内田勝行君）**　よくわかりました。

それから、戻りましてスケジュール、先ほど答弁がありました。大まかなスケジュールは聞きましたが、具体的な日付を知りたかったわけですが、まだ決まっていないんでしょうかね。

実は、同時進行で箱根ジオパーク構想というのがあります。これは伊豆市と隣接しているわけですが、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町、１市３町で進めております。これを見ますと、ほとんど伊豆半島ジオパーク構想とスケジュールが同じで、こちらでは具体的に月まで出ております。発足は５月ですが、伊豆半島の場合は３月ですね。それから、箱根ジオパークのほうは申請が来年の３月、それから認定、箱根はまだ認定されているわけではないんですが、認定が同じく来年の８月、こういうふうに予定を組んでおります。日本ジオパーク委員会、こちらのスケジュールを見ますと、来年の５月にジオパークネットワークの総会があります。それで、８月に日本ジオパークの大会、つまり申請を３月に受けて、５月に総

会で諮って、そして８月に公表する、そういうふうなスケジュールだそうです。

それからいきますと、この機を逃すと次の総会あるいは大会ということになると思うんですが、そういう意味で、伊豆半島ジオパークのスケジュールも具体的に申請の月あるいは認定想定月といいますかね、先ほど市長からありました最終的には世界ジオパークを目指しているわけですが、その手前の日本ジオパークの認定を受けなければならないわけですが、その辺の月、何月というのはわかるでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　お答えいたします。

伊豆半島ジオパーク構想指針書というのがございます。その中でありますと、例えば日本ジオパークへの認定申請書の作成と認定申請というのは2012年４月というふうになっております。また、日本ジオパーク委員の現地視察への準備作業と対応、これにつきましては2012年８月、また世界ジオパークへの推薦申請書の作成と推薦申請が2014年４月、あるいは日本ジオパーク委員の現地視察への準備作業と対応が2014年８月、世界ジオパークへの認定申請書の作成と認定申請が2014年12月、また世界ジオパークネットワークによる現地視察への準備作業と対応が2015年度前半というふうなことで、そこまでは一応なっております。

**○議長（杉山羌央君）**　内田議員。

**○８番（内田勝行君）**　今、とても書いていられませんので、また資料をいただきに行きます。

では、続きまして、このジオパークの所管とスタッフの数、これを教えてください。

さらに、細かい話に移りますが、萬城の滝、これが候補地、つまりリストに載るのか載らないのかというふうな危惧をされた方から、お問い合わせが私のところに来ます。そういう意味で、この萬城の滝を候補地として載せるのかどうか、現時点でどう考えているのか。

そして、それに関連しまして、ジオパークの審査基準というのがあります。その中に、こういう項目があります。「ジオサイトの損傷や劣化を防ぐために何らかのメンテナンスや保護施設の設置などを行っているか」、こういうふうな審査項目の質問があります。萬城の滝がこれに該当するか私にはわかりませんが、以上のことを踏まえてコメントをいただきたいんですが。

もう一つ、ジオパークの候補地を選定する場合に、地元あるいは地区の了承あるいは地主の了承、これが必要なケースが当然候補地の中に出てくるかと思いますが、その場合、どのような対応をするのか。

３点ほど、よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　担当とスタッフについて、後ほど観光経済部長から説明をさせます。

萬城の滝については、これは報道もされておりまして、恐らくスタートからジオサイトに入るのは難しいのではないかと思っています。

萬城の滝については、地元の皆さんから、整備をしてほしい、それから裏見を復活させてほしいという御要望が、これはジオパーク構想が始まる前からございましたので、その流れで引き続き裏見を復活できるように事業を進めてまいりました。その結果として、崩落防止のための工事を行い、そして現状ではジオサイトに入ることは難しいだろうと思っています。ただ、これは私はスタートの時点からジオサイトに入っていなくても、萬城の滝の活用の仕方として、そんなマイナスはないのではないかと。

この８月の下旬に治水砂防の研修で山口県の秋吉台・秋芳洞に行ってきたんですけれども、ある意味、地質としては非常におもしろいところでございます。では、そこを、秋芳洞の中、もう本当にすばらしい鍾乳洞ですが、そこが自然のままで観光地となり得たのか。相当人工的な歩道とか進入路をつくって、自然を残しながら、だけれども人工の手を加えて、観光資源としては非常にすばらしいものとなっているわけです。安全化も図りながら。そこの安全化とのバランスの中で萬城の滝は活用していただくことが、これまでの事業の継続でもあり、私はあえて最初から入ることに余り執着しなくてもいいのではないかと考えているところでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　担当とスタッフということでございますけれども、現在観光交流課のほうで担当しておりまして、専任ということではございませんけれども、ほかの仕事と兼任という形の中で正副スタッフがおります。また、各種、例えば先日行いました市民講座とか、そういった中での事業等がございましたら、観光交流課の中で協力し合いながら、２人に限らず全員で協力してやっていくというふうな体制でございます。

〔「地主の了承はどうなんですか。あるいは地元の」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　地元での地主の皆さんとの協議ですが、もちろんこれは民有地にかかわるところがございますので、地主の方々が嫌だというところを無理にもできませんので、それはジオサイト、先ほどの25カ所のうち、どこから進めるかを検討していく中で、了解を得ながらやっていきたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　内田議員。

**○８番（内田勝行君）**　よくわかりました。では、次に進みます。

先ほど言いましたジオパーク委員会が発行しています評価シート、こういうのがあります。先ほど申し上げましたが、その中に非常に興味深い質問があるわけですが、大きく分けて６項目、中に細かく分けて37項目あるんですけれども、そのうちの一番初め、「ジオサイトと保全」という項目の中に、こういう文章があります。「ジオが人間に与える恵みと災いを、歴史や人間の生活と関連づけて考えるジオサイト、ストーリーがあるか」というふうな質問があります。私も考えたんですが、そう言われますと、伊豆半島は歴史と文化の宝庫でありますので、既にストーリーはでき上がっていると、このように考えておりますので、この点

は容易にクリアできるかなと、そんなふうに思います。また、ジオとストーリーを組み合わせますと、より見学者の想像が膨らんで大変な興味がわいてくる、そういうふうな結果が出ているそうであります。そんなことを感じました。

また、これについての感想も伺いたいと思いますが、今度の伊豆半島ジオパークは７市６町、かなり広域の連携でやるわけですが、認定した後、広域の連携をどのように進めていくのか非常に関心があります。なぜかといいますと、認定後の観光資源という部分だけをとらえますと、魅力のあるジオをたくさん抱えている、有している、そういう自治体が、言葉は悪いですが、ひとり勝ちするような、そこに数多くの観光客が集中するのではないかと、そのように考えられるわけですが、その点についてもあわせてコメントをいただきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　先ほどの伊豆半島には既にストーリーがあるのではないかということは御指摘のとおりだと思いますし、また今も、日日新聞でしょうか、ずっと継続して掲載されておりますように、これを既に整理してくれた学者さんがいらっしゃるということで、他の地域に比べてずっと有利な状況にあるだろうと思っています。

また、広域連携のほうですが、これは議員御指摘のとおりで、先般も伊豆地域観光交流会というのがあったんですが、やはり12の観光協会長が順番にプレゼンしていくということで、ある意味逆効果になっている面もあるんです。その中で、大変難しい伊豆地域の中の広域連携を進める、ジオパーク構想というのは一つのいい材料だと思っています。

その中で、どこが勝つとかどこが負けるということではなくて、ある意味、残念ながらと申しますか、他の先行した例を見ますと、ジオパークになったことによって観光客がどっと押し寄せるということは起こっていないように、これまでの例は聞いておりますので、引き続き、毎年4,000万人のお客様がおいでくださる伊豆半島ですから、その見学のとき、伊豆市でいえば先ほど申し上げましたような金山とか浄蓮の滝とか皮子平とか、そこを訪問される方々により付加価値として、より楽しいストーリーを提供していく。その結果、長い期間の中で観光客がふえていくというようなことを目指していけばいいのではないか。そういった意味では、観光のお客様にとって、伊豆に行ったらこうだけれども南伊豆に行ったらこうだということにならないように、少なくともジオパークについては伊豆半島の中でしっかり連携をとって進めていきたいと考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　内田議員。

**○８番（内田勝行君）**　今の質問に関連しますが、ことしから新学習指導要領、松本先生はお詳しいと思うんですが、この内容が、防災教育に関する要素が盛り込まれたという、そういう事情があります。ですから、そういう意味で、この特異な伊豆半島の歴史、生い立ち、こういうものをジオパーク構想を通じて生徒たちに学んでいただいて理解してもらう。やはり

これを目的とした修学旅行の開拓、私はこれも視野に入れるべきだと思います。これまで修善寺あるいは湯ヶ島に修学旅行生が来たかどうかという私はデータを持っていませんが、かなりこれは掘り起こしの可能性が十分ある、このように思います。その点について、また伺います。

それから、先ほど市長から答弁の中にありました、ジオパークに認定になったからといって、お客さんがどっと来るということではないと。そこが皆さんの関心事だと思います。私も大変関心がありまして調べました。そうしましたら、最初に言いました箱根ジオパーク推進連絡会がヒアリングをしております。その結果が出ております。今、日本の中で世界ジオパークの認定を受けている箇所は４カ所あります。そのうち、その２カ所に箱根ジオパーク推進連絡会がヒアリングをしています。それを読んでみたいと思います。

「ジオパーク認定による効果。国内先進地である糸魚川ジオパーク及び洞爺湖有珠山ジオパークに世界ジオパーク認定後の地域活性化の状況についてヒアリングをしたところ、観光客数増など短期的な結果には結びついていないようである。しかしながら、地質をテーマとした博物館は着実に入館者が増加しているのは効果として重要である。したがって、この地域においても短期的な観光客増につながらないことが想定できるが、ジオパークの認知度を上げつつ、観光の幅を広げることにより、質の違う客層やリピーターを呼び込むための手段としては期待できる」このようにコメントをしております。

それから、ここにデータがありますが、あえて読みませんが、確かに、ミュージアム、博物館、資料館、そういうところの入館者が大変ふえているというデータがあると書かれております。７市６町の中にそのような博物館、ミュージアムあるいはそれに準ずる施設があるかどうかはわかりませんが、多分こういうところへ行けば一目瞭然で流れが理解できるということで人が殺到しているんじゃないかと、このように考えております。その辺の考え方をちょっと、わかれば教えてください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これは、確かに地質にかかわることでございますので、防災の、特に日本の地震の、あるいは火山の危険性の分析とも絡みますので、教育という観点からはあろうかと思います。

ただ、防災メーンにしたわけではありませんけれども、修学旅行は確実に今キャッチをしておりまして、ＪＴＢの主催で、たしか土肥地区にことし――来年かな……

〔「来年です」と言う人あり〕

**○市長（菊地　豊君）**　５校ですね。既に決まっておりまして、修学旅行誘致というのは着実に進めております。

それから、次の、効果として、ジオパークになった瞬間にどっとは来ないけれども、しかし着実にというのは、私はまさにそのとおりだと思いまして、あえて急激にお客さんをふや

すためのことをしなくても、我々自身の勉強も含めて着実に積み上げていけばいいのではないかと思っています。

その中で、例えば修善寺温泉の独鈷の湯も入っているんですが、候補には、しかし、観光の立場でいったら、あそこで地質の勉強をするよりも温泉場であれば歴史のストーリーのほうが楽しいでしょうし、そういった意味でいけば、昭和の森の文学の展示を湯ヶ島地区に集約をして、そして昭和の森の中の一部をビジターセンターとして使うことによって、よりふさわしい環境の中でジオパークの研究が、あるいは勉強が、あるいは啓発ができると、そのような方向を今考えております。中伊豆地区にはなかなかこれはというところがないのですが、小規模な展示、啓発の施設が、どこにでき得るかということは、これはまだ検討段階でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　内田議員。

**○８番（内田勝行君）**　これで終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　これで内田勝行議員の質問を終わります。

**◇　鈴　木　初　司　君**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　１番、鈴木初司でございます。

発言通告書に従い、質問をしてまいります。答弁を求める者は市長、教育委員長、教育長でございます。

皆さん、おはようございます。

まず最初に、この都度の台風12号で被災された皆様に、また亡くなられた方々に心よりお見舞い申し上げます。

まず、１番目でございます。人口減少に歯どめをかけるべきさまざまな施策の効果は。

2004年４月１日に伊豆市が誕生しました。合併時の市民の人数は３万7,869人、2008年10月、私どもが議員になった初めての議会のときは３万6,191人、2011年８月、３万4,736人でありまして、3,133人減少しており、３万5,000人も割りました。行政はさまざまな施策を執行してきていますが、効果と現状についての認識を伺います。

２つ目でございます。子育て支援策についてのこども医療費助成の拡充を求めます。

23年10月に国の方針で子ども手当の大幅な見直しがあるとの報道であります。平成23年４月１日時点の伊豆市のこども医療費助成は、小学校６年生まで通院、入院とも１回500円、１日500円であり、中学生までは入院費１日500円であります。著しい人口減少の市町で市民に負担をお願いしている市は、伊豆市だけと言ってよいではないでしょうか。隣の河津町、西伊豆町は、中学校まで通院、入院とも全額町が助成しています。また、伊豆の国市、函南町は、通院は小学生、入院は中学生まで全額助成しています。市長の方針といえども、過去

に議員全員協議会で見直しを当局に求めたとの話も聞いております。隣市町の現状からして、ぜひとも小学生までの医療費全額助成を市長に求めます。

３つ目でございます。固定資産評価額の見直しについてでございます。

2004年、伊豆市が誕生しました。旧修善寺町だけ、線引市街化調整区域と市街化区域と分かれております。他旧３町はありません。市街化農地と市街化調整区域の農地との評価額の見直しは当然されてきたと推察しますが、どのような決め方がされてきたのか伺います。また、線引きがない旧３町にも農地に青地、白地があると承知しておりますが、評価額の査定の作業はどのように行っておりますか、お伺いいたします。

４つ目でございます。特定環境保全公共下水道事業費国庫補助金減額についてでございます。

市長は、６月定例会の中で、下水道事業の執行中止について、国の補助金の裏づけがなくなったということに伴う措置との報告があったわけでございます。下水道事業補助金は４億2,480万円全額カットされるのでしょうか、説明を求めます。

５つ目でございます。伊豆市天城地区学校再編成に伴う校地選定結果の経緯を問います。

教育委員会は、天城地区学校再編成は準備委員会で進めてもらうと再三再四、私の一般質問にも述べておりました。準備委員会５回までの委員会だよりを読ませてもらいますと、準備委員の皆様の前向きな意見、真剣さがわかりました。６回目で校地が決まるものと思っておりましたら、準備委員会では決められない、教育委員会でお願いしたいとのようでした。非常にわかりづらいというか、わからない。第７回準備委員会冒頭、教育委員長が校地を発表した。これは教育委員会の会議、秘密会であります。何を決められているのか疑義があります。この選定結果の決め方は、これから進めていくであろう学校再編に悪しき前例を与え、民主主義に対しても非常に心配であります。校地選定準備会で決定できず、教育委員会で決めた経緯を詳細に、市民の皆様にわかりやすく説明を教育委員長に求めます。

６つ目であります。狩野小学校西側入の洞土石流危険渓流についてであります。

前回の一般質問でも取り上げましたが、学校再編成の校地が狩野小とのことですので、子供たちの生命、安心・安全を我々大人の責任において担保しなければなりません。何点か質問してまいります。

砂防工事の規模、１つ目です。

２つ目は、用地交渉、測量設計から工事完了するまでに要する期間は。

３つ目、いつ着工でき、完成、発注者はどうなっておるでしょうか。

４つ目です。要する費用はどのくらいかかりますか。

５つ目です。市長部局は上記の事柄を教育委員会より報告を受けておりましたか。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの鈴木初司議員の質問に対し、答弁を求めます。

初めに、市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

３番目は市民環境部長、それから４番目と６番目は建設部長から説明をさせますが、６番目の一番最後のところ、土石流危険地域であったことを報告を受けていたかということについては、市長としては、私はこの地域がそういったハザードマップに入っていることは承知しておりましたので、入っているということは、市長は承知はしておりました。

まず、人口問題ですけれども、2004年と2011年を比較しますと、出生マイナス死亡の自然減が1,832人、転入マイナス転出の社会減が1,217人、これは就職場所と、それから大学進学等々で社会的流出はある程度やむを得ないだろうと思っています。それから、現在の人口構成を見ますと、自然減もある程度はやむを得ないだろうと思っています。ただ、伊豆市にとって最も深刻な問題は、肝心の小さな子供が圧倒的に少ないということでございます。

そこで、結婚がしやすくなるために、今、年収が300万円というのが一つの壁だそうでございますので、まず所得をふやす、それから雇用をふやす、そして定住者の流入をふやす。ちょっとずるいけれども、子供を持っている家族にそのまま入ってきていただこうという３本柱でやってきたわけです。所得をふやす、あるいは雇用をふやす、このような事業は、種はまいておりますけれども、芽が出る、それが育つまでには相当時間がかかってきます。

ちなみに、定住促進につきましては、昨年から一定の条件のもとに、伊豆市内で宅地を購入し、家を建てる方には100万円の助成を始めておりますが、去年とことしで既に20件、今度補正をお願いしておりますので、去年とことしで30件近くなろうかと思います。私は七、八割、下手をすると市内移動なのかなと思っていたのですが、約半数が外から伊豆市への流入でございますので、やはりこれは一定の効果があるんだろうと。したがって、通勤しやすい場所に良質の住宅地を整備し、そして一定の条件の中で助成をしていくというのは、効果としては一番早いのかなと。ただ、財源との問題もございますので、そのような策についていかに改善策があるのかについては、また検討してまいりたいと考えております。

医療費です。失礼しました。

もう一つ、こども医療費ですが、これは議員御指摘のとおり、伊豆市では500円をいただいております。現在、市長会議のたびにこども医療費の統一について県のほうに要請しているものですから、現在、県がこども医療費の改善策について検討しているという情報は得ておりますが、まだ詳細は詰まっていないようでございます。ただ、県の制度としても、１回500円の自己負担はございます。

伊豆市の市長としては、私は自己負担は残していただきたいと思っております。再三申し上げておりますとおり、義務教育が無償というのは、これは憲法に書いてありますので、私は公平の観点からいって、それから憲法理念からいって、通学費は市が負担すべきだろうと思っています。そこから先は政策になるのですが、やはり、もちろん不幸な病気、けがもあり得ますが、基本的に子供さんが風邪を引く、けがをするというのは親の過失もあり得るわ

けであって、通院というのは義務ではございませんから、ここはやっぱり一定の負担を残すべきであろうと思っています。

なお、政策としては、伊豆市は保育料において他の市町に例を見ないほど軽減策をとっておりまして、政策判断としては、通学費とか保育料等を相当に伊豆市は政策的に積み上げておりますので、私は基本的には医療費の自己負担は、500円でございますけれども、残す方向でお願いをしたいと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、教育委員長。

〔「先に市民環境部長」「３番」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　詳細は後でもって担当部長に説明させますから。

教育委員長。

〔教育委員長　原　　京君登壇〕

**○教育委員長（原　　京君）**　鈴木議員の天城地区学校再編に伴う校地選定結果の経緯についてお答えします。

その前に、すみません。きょう、お初にお目にかかる方もいらっしゃるかと思いますけれども、教育委員長をやらせてもらっています原という者です。よろしくお願いします。

天城地区の新学校の校地選定につきまして、学校再編準備委員会において６回にわたり校地の地理的条件、校舎等の施設の状況、通学距離や時間などに関して意見交換が行われてきました。鈴木議員も毎回熱心に傍聴されていたかと思います。私どもは、準備委員会に口出しをすることなく、一切の意見を言わずに見守ってきた経緯がございます。

７月26日に開催されました第６回の準備委員会におきましても、校地について結論を出そうということで議論されましたが、意見がまとまらず、結論が出ませんでした。そして、さらに準備委員会としては、教育委員会に校地の選定をゆだねたいという決定がされたわけです。そういうふうに決定されて、ゆだねられたからには、私としましては――私としましてはというか、教育委員会としましては、ゆだねられたこの課題に関して準備会の意向を受け、８月９日に臨時会を招集し、校地と開校時期について協議をいたしました。

これは決して秘密会ではありません。教育委員会は常に公開の準備をしておりますので。ただし、これは準備委員会に答申をしなければならないということで傍聴はふさわしくないということで最初決議をしまして、傍聴をやめていただいたという経緯はあります。準備委員会に報告した後は、全くこの教育委員会の議事録はオープンになっておりますので、ごらんになっていただければよろしいかと思います。決して秘密会ではありません。

教育委員会では、６回に及ぶ準備委員会での保護者や地域の方々の意見を踏まえ、通学に関する事項や施設に関する事項、開校時期などについて協議し、その結果、新小学校の校地を現在の狩野小学校としました。開校時期は平成25年４月１日とすることにし、８月17日の第７回準備委員会へその旨を報告いたしました。

校地選定の経緯については、以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　では、次に、３項目めの固定資産税の評価額の見直しについてを市民環境部長。

〔市民環境部長　山本　潔君登壇〕

**○市民環境部長（山本　潔君）**　それでは、固定資産評価額の見直しについてお答えいたします。

最初に、市街化農地の評価額ですけれども、これは国で定める固定資産評価基準、それから伊豆市土地評価事務取扱要領に基づいて決定をしております。具体的には、同一の状況、類似地区内の標準宅地の価格に比準いたしまして、宅地の価格から造成費相当として50％を評価額として控除しております。さらに、この価格に３分の１を乗じたものを課税標準額というふうにしております。

次に、市街化調整区域内の農地ですけれども、これは一般の農地と同様に評価をしております。

それから、評価額の算定につきましては、市内に標準となる田畑を１カ所ずつ決めておりまして、標準の田と畑をそのランクごとに３つずつ、上中下と３つずつ選定をして、売買実例等を参考にして、いわゆる客観的な価格指標、売り急ぎとか買い急ぎとかという状況予想を除いた客観的な価値指標であります正常売買価格というものを算出いたしまして、価格を決めております。

それから、農地の青地、白地による評価の方法というのは、特に区別をしておりません。同じでございます。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、（４）の特環下水の関係を、建設部長、６番目と続けてやってください。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、鈴木議員の下水道事業の国庫補助金の減額についての問いにお答えします。

23年度交付決定された下水道事業についての国庫補助金額は、２億8,500万円であります。６月に市長のほうからも事前にこの情報がありましたので、お知らせをしていたところです。全額カットされたわけではありません。当初予算では４億2,484万円を予定しておりましたが、設計、工程等を精査し、23年度では３億7,345万円を要望しました。通年ですと、要望額の５％カットで内示があり、その後、国の補正で満額となることが多かったわけですが、ことしは震災の関係で約24％カットの２億8,500万円となりました。今後、下水道に対する国の補正はないということですので、よって要望額がカットされた分の補助金の裏づけがなくなったので、城地区及び大平地区の管渠工事の執行を停止したものです。

続きまして、狩野小学校西側入の洞の危険渓流についてということですので、まずは入の洞の危険渓流ということについて認識を共通にしたく、資料をつくってきました。皆さんの

席のところにお渡ししてある資料のほうを見てください。

渓流名が入の洞という渓流名になります。ここのところで土石流が発生した場合に出てくる土が約1,000立米。それと、この危険渓流ですけれども、基準点というところで山の急な渓流があって、そこから平らな、皆さんが住んでいる扇状地という扇形に広がるところがあるんですけれども、そこの地形が２度以上の場合に危険渓流と言われています。この危険渓流で、ここのところで土砂が出てきた場合のエネルギーが17.5キロニュートンというエネルギーで土砂が出てくるということです。

１枚めくっていただきますと、そこの入の洞の位置図が載っているところです。

もう１枚めくっていただきますと、次に、ここのところで危険渓流の被害想定区域が示されています。

土砂のエネルギーが家を壊してしまうエネルギーの場合、土砂のエネルギーのほうが家の耐力よりも強い場合、ここをレッドゾーンとします。そして、土砂が低く、遠くに行くに従ってスピードも弱まって、土砂の厚みも薄くなってきます。当然、エネルギーも小さくなってきます。そのときには家の耐力のほうがもちまして、土砂のエネルギーのほうが弱いという場合、ここのところをイエローゾーン、黄色の枠になります。さらに、黄色から下の下流側については、もう既に２度よりも緩やかなところということで、土砂が届かないのではないかというように想定されるわけです。

縦に筋が、平行線が何本か引いてありまして、そこに番号が入っています。１番、２番、３番と、ずっと入っています。この狩野小学校の最上流部というんですか、そこの番号が３番という数字が入っています。この３番の位置のエネルギー関係が次のページに載っています、横断測線番号３というところに該当するわけです。左のところの３、この横をずっと見ていただきますと、一番右側のところでＹとなっているのがイエローゾーンですよと。

続きまして、３つ飛びますと、土砂の厚み、土石流の厚みが30センチで３番のところへ行きますと。そのときの土砂の流速は1.9メーター・パー・セコンドです。このときの土砂のエネルギーは6.4キロニュートンと。１平米当たり6.4キロニュートンのエネルギーだということです。これに対して、そこの３番のところの家の耐力は24ということで、何とか家がもつではないかというのがここの危険渓流の場所になるということです。

それでは、鈴木初司議員の問いにお答えします。

狩野小学校西側、入の洞の危険渓流について、砂防工事の規模、用地交渉、測量設計から工事完成までに要する期間、いつ着工でき、完成は、発注者は、要する費用は、この４点についてですけれども、今現在、国土交通省沼津河川国道事務所と調整中であり、伊豆市としましても早急に整備されるよう国に働きかけているところです。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員、６番目の答弁者の教育長というのがありますけれども、それは答弁を求めるんですか。

**○１番（鈴木初司君）**　後で、第２質問のときにあるという可能性があるものですから、名前を書いておきました。

**○議長（杉山羌央君）**　はい、わかりました。

では、再質問ありますか。

鈴木初司議員。

**○１番（鈴木初司君）**　まず、１番目の人口減少に歯どめをかけるべきさまざまな施策の効果ということで、個別に施策があるものですから、伺ってまいります。６点ありますので、答弁をお願いいたします。

市長は、当初から分譲地を計画し、人口減少に歯どめをかけると述べていました。修善寺地区では牧之郷、熊坂、中伊豆地区では八幡周辺と、白岩も言ったかもしれませんけれども、述べておりまして、その進捗状況を伺います。

２つ目でございます。伊豆市が行っているホームページに空き室戸建て情報があります。この成果、方法に問題はないでしょうか。

３つ目でございます。伊豆市人づくり塾、伊豆定住体験ツアー及び田舎暮らし体験に毎年百数十万円の支出をしております。成果を教えていただきたいのと、どちらへその補助金が出ているのでしょうか、お願いいたします。

４つ目です。伊豆魅力プロジェクト推進事業はどのような効果が今までありましたか。

５つ目です。修善寺駅の改築をして人口減少になりますでしょうか、因果関係を述べていただきたい。

６つ目です。人が3,133名減少しておるわけですけれども、人１人に対しての、出ていったことに対しての税収はどのように減少してまいるでしょうか。

この６点について質問いたします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　住宅整備というのは検討してみたんですが、これは非常に難しくて、特にあるところでは白地の田んぼなので、これは容易だろうと思ったら、どうも市が振興公社をつくらなければ、それが前提条件になっている。この時代に市が三セクをつくるということが適切なのかどうか。したがって、もう一回県や、状況によっては国と、一体こういう状況の中で人口減少対策を打とうとしている市に対してどういうような支援を国・県はしていくのか、やっぱりゼロベースで考えないと、これは全く進まないなという気がしております。

ただし、一部、これも申し上げにくいんですが、特定の場所はあるんですが、あるところでは住宅地開発の話が進んでおりますので、内々に、市長として民と民の契約ですから入ってはいけないのですが、伊豆市の問題点と将来像を説明申し上げて、オーナーの方には少し安価におろしていただきたいというような働きかけをしているところもございますが、これ

は民と民の関係でございますので、ここではちょっと明言は避けさせていただきたいと思います。

住宅地開発は引き続き進めてまいりますけれども、これは相当程度時間がかかるものと思います。

空き家情報については、空き家情報と定住ツアーについては、これは大幅な見直しをしております。１つは、空き家情報でいい案件がなかなか上がってこなかった。それから、定住ツアーも２回やりましたけれども、むしろ逆効果のところもございまして、静岡市などは空き家を買い上げて、みずからリフォームをして提供するということをやるようですが、なかなか伊豆市の場合にはそこまで財源がございませんので、どのような形で空き家を活用していくのかを攻めあぐんでいるところで、少しここも方向を修正しなければいけないと考えております。

魅力プロジェクトは、伊豆市に豊富な、そして環境のいいスポーツ施設を活性化のために活用しようということで、これは人口対策とは直接は関係がございません。スポーツ施設の利用人口、利用者数が必ずしもふえておりません。減りそうなところを魅力プロジェクトで募集をして何とか横ばいで維持しているところで、魅力プロジェクトの協力金はふえておりますけれども、これをもって人口減少対策とするものではありません。ただ、魅力プロジェクトも少し方向は修正しようと思っております。これは、しかるべき時期に議会にも御報告を申し上げます。

それから、修善寺駅ですが、これは当然に人口減少対策にも貢献し得る事業だと考えております。これも再三申し上げておりますように、駅舎を改修すれば人口や観光客がふえるわけではありません。今年度から修善寺駅周辺整備事業に着工しますので、あわせて周辺の再開発の構想にも着手したいと思っております。早ければ年内にも地元の関係者の方々を交えた再開発構想という、計画まですぐにはいきませんけれども、再開発構想、基本的に住宅地等の整備になると思いますが、立ち上げてまいりたいと思っております。

それから、税収に関しましては、これは市民環境部長から説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　それでは、税収の関係ですけれども、市民税の１人平均、家屋敷を除きまして、納税義務者１人当たり約76,000円がほぼ平均した市民税の納税額になっております。

以上です。

〔「田舎プロジェクトはどこに支出されているか、補助金を。人づくり塾と」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　湯ヶ島の短期的に使われるそらそい荘ということの維持管理で、かたつむりに。すみません、支出先はカフェのかたつむりだそうです。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　大きく分譲地ということを再々述べていましたけれども、これはなかなかいかないということで、この案件につきましては、次のまた機会でやらせていただくということで、問題点が浮き彫りになったということの事実はわかりました。

次に、２つ目の子育て支援策についてのこども医療費でございます。

これは、私、なったころから再三市長に求めてきたものでございまして、今、私、市長のときにはこれはできないということでございましたので、私は、来年の４月に市長選があるわけでございまして、そのときにこども医療費補助拡充を公約される方をぜひ応援していきたいと思います。答弁は結構でございます。

３つ目でございます。市街化農地のほうを聞いてございます。

この市街化農地と市街化調整地、線引きのない旧３町あるわけでございますけれども、時期はいつからされてきておるのでしょうか。見直し。これは３年前には総務教育所管でございまして、当時の部長に聞いたところ、まだしていないということでございましたので、いつからこの作業に入ったのか、また先ほど白地、青地は非常に開発が難しい――白地のほうか、青地ですね。青地は難しいということなので、その辺どのような認識をされているのか、正確に答弁を求めます。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　見直しの関係なんですけれども、具体的な見直しについて申し上げますと、評価がえで３年に１度評価がえをしておりますので、前回は21年、その前が18年という形で、それはその土地の評価に基づいて見直しは定期的にしております。

市街化農地に固有の見直しということで、平成21年の評価がえの際に、無道路、道路に接していない市街化農地につきましては無道路補正ということで、道路に接していない不利ということと、それから道路開設補正というのがございまして、道路から離れている距離によって10％から40％価格を下げるというのがございます。道路に接していないだけで40％減、60％にする、そういった補正は21年度の評価がえの際に市街化農地については行っております。

それから、24年の評価がえの準備を現在しておりますけれども、その中で、いわゆる市街化農地を初めとして宅地比準の土地、雑種地ですとか介在山林とか、宅地になるべく宅地の基準にして算出しているものにつきましても、宅地同様に、いわゆる不整形ですとか間口、奥行きで形状に応じて補正をする、減額をするといいますか、そういう措置を24年の評価がえでするべく、今準備をしております。

以上です。

〔「青地と、白地の意味」と言う人あり〕

**○市民環境部長（山本　潔君）**　農地の評価は、基本的に耕作をするためのものとして、それが将来宅地になるとか何とかということではなくて、耕作をして米がとれるということのと

れやすさとか、たくさんとれるということに基づいて評価をしていますので、それがその後転用するとかということは全く無関係で、今生産がどれくらいできるのか、そのしやすさによって、取れ高を見込んで評価額が変わっておりますけれども、それ以外の要素では決めてありません。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　私が求めているのは、農業推進法によって耕作をしていても、家を建てたくても建てれない農地と、家を建てれば売却して家を建てれる農地があるというところが全く同じということではおかしい。農振法というのは、市が国にその農地を担保として差し入れ、国からお金を借りたという解釈をしていまして、それがもう、先ほど市長申し上げましたけれども、開発がしれないんだと、基本的に。それで、次三男にできるということがありましても、宅地があったり、自分のところに農振に入っていない土地があれば、そちらから開発、分家しなさいよというルールがあるわけでございますから、その辺の解釈を私は尋ねてあるので、一緒ということはおかしいんじゃないかと思いますけれども、どうでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　農地の考え方が、先ほど申し上げましたように、あくまでも生産をする、米をつくるという観点から評価をして上中下というような形の決めをしております。

それで、今の、例えば宅地にする場合、要するに転用許可をとって宅地比準にした場合、介在農地と申しますけれども、そういう段階になると、これはその地域の土地の評価額を基準として、それを造成地として伊豆市の場合は２分の１に評価を下げて、それに３分の１という形にしておりますけれども、あくまで宅地として使うよという形に転換した場合に、あくまでも宅地としての計算をする。それ以外は、幾らいい場所であっても、どういう土地であっても、あくまでもこれは農地だよということの考えの中で評価をするというのが合法的な仕組みになっておりますので、そういう形で評価をしております。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　では、今、市街化区域、市街化調整区域がある修善寺地区に市街化農地はどれぐらいの面積があるのでしょうか。市街化調整区域の対比がわかったら教えてください。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　市街化区域の農地なんですけれども、田んぼが２万9,604平米……

〔「もっとゆっくり言って」と言う人あり〕

**○市民環境部長（山本　潔君）**　はい。２万9,604平米、筆数にすると91です。田んぼが91筆あります。それから、畑が面積で６万1,959平米、筆数で246筆ございます。それから、修善寺地区の調整区域の農地ですけれども、これにつきましては、面積で277万345平米です。田んぼです。畑につきましては、268万1,575平米でございます。合計はよろしいですかね。全体で、比率といたしましては、田んぼ、畑合わせて修善寺地区の中での市街化農地の割合、面積割合でいきますと1.65％くらいになります。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　では、その白地、青地については、また個別に議論させていただきます。

次に、４番目でございます。

４番目の、当初、市長が前回の答弁をした内容が、「下水道事業の執行中止について。東日本大震災に伴う公共事業の一律５％カットにより、御承認いただきました本年度予算の事業のうち、下水道事業の城地区及び大平地区の管工事について執行を停止すること」ということでございまして、５％と当初は。それが５％だったからしないよというような文言のことになっておりまして、整合性がちょっと欠けているようには思われるんですが、この残りの予算、あるわけですよね、２億8,500万円。このことの事業はどちらに費やすでしょうか。城、大平はやめたと。そのお金はどちらに持っていかれますか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　今年度の事業については、すべて土肥の浄化センターのほうで事業を展開させていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　当初からその予定であったのでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　今年度は土肥の浄化センターと、先ほどカットしたという城と大平の管工事、ここの予定でした。そして、そこの金額に見合う分、また浄化センターを稼働させながら、２基、処理槽が２つあるうちの半分ずつやっている関係もありまして、土肥の浄化センターのほうを早急に完成させたいということで、そちらへと事業を持っていったわけです。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　議長にお願いします。５番、６番は関連性があるものですから一緒になることがあるかと思いますけれども、よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　はい。

**○１番（鈴木初司君）**　まず、６番目ですけれども、部長が出てきてくれたんですが、工期、一切わからないという答弁でございまして、この間資料をいただいてあるところによると、直轄砂防、国の仕事であるということで、ここの場所を国土交通省の役人が見に来て来られるという中で、今の状況で、いつ、どういうことかというのが全くわからないのか、その辺だけもう一度答弁をお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　国土交通省工務２課の職員と伊豆市建設課、それと教育委員会の職員が出て、現場のほうを８月７日でしたか……

〔「８日」と言う人あり〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　８日に現場のほうの立ち会いをさせていただきました。国土交通省のほうの職員の話を言いますと、砂防事業をするに当たって、保全区域等がいっぱいありますので、優先順位の高い砂防事業ができると。また、予算が今現在ないものですから、補正予算をあげたいというコメントをいただいています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　では、学校再編成について聞いてまいります。

「学校再編成は今！」という、まず初めに「広報いず」、これを出される責任者をだれでございますか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。広報は総務部長ですか。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　「広報いず」の発行責任者は市長でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　「広報いず」なんですけれども、今回の「広報いず」に、10ページ、「『天城地区小学校』設置場所は現在の狩野小学校に決定！」、それで議会の承認云々は一切書いていない。ただ、単純にこれでやると。これだったら、昔でいう戦前の大政翼賛会だと思う。失礼ですよ。これは決まったんじゃなくて、ここに校地があるのであって、ここの議会のいろいろな討論、議論をしてやるべきものじゃないでしょうか。この辺、どういう責任をとられますか。これだと、見た市民の皆さんが全部、校地はここです、あとの議会は全く要らないよという形のものにしか読めないんですけれども、その辺はどうでしょうか。責任。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません。広報の編集会議のほうには市長は出ておりませんので、

私は全部見ないまま、もちろん責任は市長にあるわけですが、校地決定というのは当然、校地の候補として決定したということであって、条例の改正を伴うことは当然でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　ここの頭に、「『天城地区新小学校』設置場所は現在の狩野小学校に決定！」と打ってある。それで、決定は、我々、委員会で場所を承認して、議会で賛同しないと決まらないと私は思っているんですけれども、この後に議会の承認を必要とするものとするとかというものがないと、私、皆さんに言われました。「もう決まったんですね」と。これはちょっと誘導じゃないかという感じもしますが、その辺、教育長、教育委員長、どうですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。教育長でよろしいですか。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　ちょっと今見ていないもので、あれですけれども、誤解があったとすれば大変申しわけないと思いますが、最終的に条例改正が伴うというのは市長の言ったとおりで、私もそういう理解をしています。ただ、それは準備委員会でそう決めたという報告だというぐあいに思っています。ただ、誤解があるのはあるなというふうには思います。

〔「教育委員長は」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　確かに、今こうやって見るとそうですけれども、最初の行のところに、見出しの次に来る小見出しのような形の文章の冒頭、準備委員会において校地選定を行いましたということで、確かに見出しだけ見ると、ちょっと決定したような形になって、それは言葉が足りなかったと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　今、教育委員長がそこら辺を見ていられなかったと。それは学校教育課になっていますよ、問い合わせ先は。ちゃんと目を通して自分の中でやるべきじゃないですか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　まことにすみません。私、目を通しました。実際に今こうやって、そういうふうに言われてみれば、なるほどそのとおりだということですので、目は通しましたけれども。

目は通しました。確実に通しました。これは確かに、そう言われれば、最初の見出しのところしか読まない方がいれば、議会の承認が必要だということがわからないかもしれません。

〔「うたってない」と言う人あり〕

**○教育委員長（原　　京君）**　ただし、これは「学校再編は今！」で、私の認識としまして、準備委員会でこれだけ、６回、７回とやった中で校地選定をしたという報告をこれは出した

ものとして認識しておりましたので、誤解がありましたら、まことに申しわけなく思っております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　私は、その「広報いず」の訂正を求めます。

次に移ります。してください、訂正を。いいですか。答弁をください。

**○議長（杉山羌央君）**　「広報いず」は総務部長ですか、市長ですか。

〔「市長、市長。市長じゃないとわからない」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　何らかの形で市民の皆さんに正確に情報を提供するような措置はとらせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　次に移ります。先ほどの土石流の関係でございます。

この土石流に対しても、決定事項に、狩野小学校西側入の洞という土石流危険渓流に指定されている沢があり、狩野小学校周辺は指定指示されていますと。それで、ここに答弁の、決めた理由の中に、市の関係部署を通じ、地元の協力を得ながら国土交通省へ砂防事業、対策について要望していきますということで、これ、日にち、何も決まっていないんですよ。

それで、25年に一緒にするといったのは、月ヶ瀬小学校が２年生、３年生が一緒になるからということの大義だけで――大義というか、自分は大義と思っていない。その１点のみで25年にした。ここの土石流については要望していくと。今の話、指定の理由を読みますよ。この土地の区域では、土石流が発生した場合には住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあり、当該区域における土砂災害を防止するために、警戒避難体制を特に整備すべきものと認められる場所である。また、この区域のうち一部の区域は、土石流が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい被害が生じるおそれがあると認められるものだということを国土交通省のほうで述べているわけです。それを、工事も何もしないで学校再編の場所をここにする、要望だけしていく。これは私は認めることはできないんですけれども、その認識はないんですか。

もし、ここに書かれているように生命の安心・安全、けがをしたらだれが責任をとりますか。教育長ですか、市長ですか、答弁を求めます。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　学校施設のことですから、私のほうから申し上げたいと思います。

確かに、私も最初、16年でしょうか、すみません、正確ではないかもしれません。ハザードマップにあったのを見て、不安を感じました。そこで、詳細に見てみますと、先ほど建設部長からありましたとおり30センチなんです。今の狩野小学校のところで持ちこたえられるレベル。そこで、今、国土交通省のアドバイスもいただきながら、砂防ダムをつくるには相

当時間がかかりますので、一番奥のほうに警報装置をつけて、そして１階には今クラスがございませんので、合併すると教室をつくる可能性もございますので、そこで警報装置で２階に避難するということが可能であるのか、効果があるのかということもあわせて検討しています。

と申しますのは、１階は基本的に職員しかいませんので。それから、大体100メートルで１分ぐらいのウオーニングタイムがございます。天気のいいときは、それから天気がいいときの地震では土石流というのは起こりませんので、相当の雨量がないと土石流というのは発生しません。そうすると、ソフトのところでも相当カバーできる。これは、ほかの危険地域にある市民の皆さんと同じようにソフトのカバーもしていかなければいけない。

それから、国も県も伊豆市の小学校再編成には大変に注目しておられまして、これが報道された瞬間に国の事務所長からも電話をいただきました。しかし、一番急いでも準備に２年ぐらいかかるわけです。それは財源の問題で、今度増税幅を圧迫するのに来年度の公共事業が相当圧縮されますと、どんなに必要であっても事業そのものが新規事業に入れない可能性もございます。したがって、狩野小学校に将来の天城湯ヶ島地区の小学校が統合されるまでに工事が行われるという可能性は非常に低い。

そこで、繰り返しになりますけれども、ソフトのほうの対策でどの程度の危険性があるのかというのを今見積もっておりまして、現時点では25年４月までにソフト対策のほうで子供の危険性というのは相当回避できるのではないかというように見ております。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　建設部長に聞きます。

6.4キロニュートン、30立米の30センチの流れが来るとき、もし子供が外にいたら耐えられますでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　牧之郷のところで、16年のときに道路上に水が流れていました。土砂ではなくて水。そこで警察官が流されました。当然、今の数字ですと子供たちは耐えることはできません。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　実は、今回の台風12号ですごい被害が出ている。これは予想外なんです。それと、東日本大震災があったすぐに、生命、安心・安全を私どもが、この間の会議だって、屋形が防波堤どれだけ出たと思いますか。それを何ら考えず、これをちょっと教育長にお尋ねしますけれども、私、前回のときにも、この砂防については準備委員会の人たちにどれだけ危険かというのを資料を出してくださいと。その資料は準備委員会に出ていますか。教育委員長、教育長、どうなんですか、今出たこの資料。わかっているんだから。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　どの資料ですか。

〔「今の」と言う人あり〕

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　今の資料はありませんが、議員から提出のあったものについては提出をして、説明をしてあります。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　今、建設部長が言われましたこの資料ですけれども、6.4キロニュートンの認識が教育委員長にあったでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　この資料を見たのはつい最近でして、決定したときにはその認識はなかったというのが事実です。

私も、30センチというのは確かに外に子供がいたならば耐えられないだろうとは思いますけれども、質問の趣旨とはあれですけれども、学校の校舎のほうは十分耐えられるということであれば、先ほど市長が言われたように避難、訓練あるいはいろいろなソフトの面の充実において何とかできるんじゃないか。ただ、学校再編というのは、私ども、ちょっと別なことを言いますけれども、再編というか、子供たちのことを考えますと、とにかくもう少し大人数で勉強させてやりたい、それは大人の責任であるというふうに私は認識しております。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　私は、再編成に反対しているわけではございません。前から言っているように、やること自体はもう、それがどうのこうのじゃないけれども、私ども皆さんから聞いている中で、生命の安心・安全というのが東日本大震災で問われているときに、この問題を提起したにもかかわらず、このせっかく出ている書類が準備委員会にも届いていない。今の流れ、そういうことを加味したならば、せめて、いつできるかわからないじゃなくて、できた後に再編成を、狩野小学校はするべきだと。だれもが皆さん、そう思うじゃないですか。当たり前ですよ。今、子供をここに預けて土石流が起きて持っていかれたといったらどうするですか。そんなことはだれでもわかりますよ。僕はこの考え方に絶対反対していきますから。

それと、もう一つ聞きます。この形の中で、私、質問しますけれども、教育委員長、ことしの正月に成人式がありました。私、そのときに教育委員長に、どちらに学校を、正直、したらよろしいかということを聞きましたら、教育委員長さん、そのときに何て答えられたか覚えていますか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　覚えておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　私はしっかりメモしてございます。そのときに教育委員長は、狩野小

学校にすると言っておりました。

それで、次に聞きます。嘆願書等、重く受けとめ、意見を準備委員会と教育長に、教育長は十分考慮してもらう、重く見るということを言っておったんですけれども、結果的に６回で決定を見なかった、準備委員会が。もう少しその辺は長くやっても、準備委員会にお任せするべきだったんじゃないでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　議論があるだろうと思います。我々もそれぞれの団体から要望書等をいただき、その都度一生懸命読ませていただき、いろいろなものを考えた結果、こういうぐあいになったというふうに御承知いただければというふうに思います。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　では、申し上げます。これは決められなかったと。教育委員会が投げかけた準備委員会で決められなかったんだ、いろいろな意見があって。ということであるならば、方向すら決定を見なかった委員会にこれ以上のことを任すのは好ましくない。私は、ここで新たな準備委員を選任してやるべきが筋だと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　準備委員会の性質は、もちろん校地の決定も大変重要なものですが、それ以上に、３つの学校が１つになって順調に船出ができるための準備をするというのが主な目的でありますので、過去６回いろいろまじめに議論をしてきていただいた方に引き続きお願いしていきたいというふうに思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　これ、決めた中にいろいろなもろもろのことが書いてあります。通学路とか安心・安全。ともかく安心・安全に何も配慮しない今の教育委員会に、これ以上の僕は合併再編成を任せるわけにはいかないぐらいに思っています。なぜかというと、先ほどのこの生命・安全を見た書類にきょう初めて目を通した、それから先ほど言っている「広報いず」、私は見なかった。これでは体をなしていないと私は思いますけれども、その辺、教育長、どう感じますか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　いろいろ不備はあるだろうと思いますが、我々のやっていることは基本的には間違っていないというぐあいに思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　本当にこれは、教育委員長、考えていただきたいのは生命なんですよ、生命。命を預かるんですよ。私どもも市民の皆様からの子供の生命が100％担保できなくて、

はい、わかりました、ソフトの面で面倒を見ますと言ったときに、もし台風12号みたいな大災害が起きたり、これ、五十何人死んでいますよ。それで、まだ10万戸が孤立していると書いていますよ。そういうことを考えないで前に進められますか、答弁ください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　確かに、今回の台風の被害などを見ていますと、紀伊半島のほうでも全く今まで学校のあったところが土石流でやられたりしております。それを考えますと、私もいろいろあのニュースを見まして考えたんですけれども、伊豆では、そうすると学校の候補地がなくなってしまうんじゃないかと思われるくらいの考えでおります。

というのは、実際、これは全くあれですけれども、きのう雨が上がった時点で朝一番で入の洞ですか、ちょっと見に行きました。近所の人にも３軒ほどインタビューしてまいりました。水がどんなぐあいか。東海大震災のときの土石流とはちょっと違うんじゃないかと思って、私もこういう大雨の降った後が一番危ないんじゃないかということで見てまいりました。こういうふうに計算結果が出ている限りは仕方がないことなんですけれども、私が思ったよりは水が出ていなかったということは事実として報告しておきたいと思います。

安心・安全を全然考えずにやっているというふうに言われますが、私どもはそんな気は全然ありませんし、自由闊達な議論の中で、あるいは、おか目八目という言葉を使っていいかどうかわかりませんけれども、周りから見ていまして、いろいろな市民の方々からも意見を聴取しまして、私は最終的に委員さんたちの意見を取りまとめて、狩野がよろしいじゃないかという最終的な議決というか、そういうものをしました。合議制ですので、だれが何と言ったかとかというのじゃなくて、先ほど成人式の日に私がそういうことを言ったとしたならば、正直に答えてくださいと言われたから言ったかもしれません。私も候補地としては狩野が最適じゃないかということは考えておりましたけれども、そのとき、議員さんからのいろいろな質問だったので、そういうふうに答えたかもしれません。ただし、それは余り問題ではなくて、あくまでも合議制において行われた結論ですので、私は教育委員会の結論として準備会が決めてくれと言われたからには、私は決めないで返すということはできないということで結論を出したわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　今、教育委員長が申されましたけれども、候補地が何でもないというんじゃなくて、湯ヶ島小学校と月ヶ瀬小学校は広域の避難場所になってございます。あそこは危険渓流でも何でもございません。申し上げておきます。それは勘違いでございます。そこは何でもない。

だから、僕はそちらにしろということじゃなくて、狩野に決めたのであるならば、先ほどから言っているように、その工事が終わるまで、複式になるのであっても、複式だったら市単で予算をつけて見てあげることはだれが反対するものですか。それを先にやって整えてか

らやっても全然遅くないんじゃないかと私は思いますけれども、どうですか。

**○議長（杉山芙央君）**　これは……

〔「どちらでも、だれでもいいです」と言う人あり〕

**○議長（杉山芙央君）**　教育長、答弁しますか。答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　安心・安全というのは、確かに３・11もあったり、きのう、おとといの紀伊半島の状況もあって非常に重要であるし、一番重要であるだろうというぐあいには思っていますので、このことについてはこれからも検討してまいりますけれども、避難場所あるいは避難訓練あるいは国から出ているデータ等を勘案しながら、それは決めていきたいというふうに思っています。

**○議長（杉山芙央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　これは、先ほどの「広報いず」のほうに訂正等を出していくというところに、ぜひこの資料を市民の皆様に報告をしなければならない義務があると思います。出ているんですから。これは情報公開でございますので、ぜひこの資料も載せてもらえることをお願いしますけれども、どうでしょう。

**○議長（杉山芙央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これは議員御主張のとおり、大変大切な問題であると思っています。他方、非常に冷静な議論も必要であって、全く安全と言っているわけではございません。ただ、最大量の1,000立米が出たときに30センチ、窓を開けていれば30センチ入る危険性があるというわけであって、その中で100％、大雨が降っているときに子供は外にいませんから、帰せないとき、帰宅させられないときに子供たちが１階に残っている可能性が当然ある。そのときには、警報装置をつけて１分で上に上がるということができなければ、また別のことを考えなければいけませんけれども、そのような危険性のレベルと安全装置のレベルを今考えているわけです。

それを検討した上で、当然条例のときにはまたお願いしますけれども、現時点で狩野小学校、御承知のとおり狩野川台風のとき、平成16年度の台風も狩野川台風と同じ雨量が出ているわけです。その中で決して土石流が発生しているわけではない。もちろんゼロではありませんから、水漏れ等が発生する可能性がある。最大30センチという中で、本当に安全措置がソフトも含めてとれないのかどうかということを今検討しているわけであって、これは全く不可能であって子供が非常に危険だといえば、当然私も条例にかけることはできないと思いますが、現時点ではそこは安全化を図りながら、バランスをとりながらできるのではないかという見方をしているわけです。そこも含めて、何らかの形で市民の皆さんには正確な情報を提供することを措置させていただきますので、それは少し時間をいただきたいと思います。

**○議長（杉山芙央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　先ほどの「広報いず」10ページを見ますと、９月30日までに校名の募

集とまで書いてあるじゃないですか。このようなことを市民に知らせる前に９月30日というのは、私はいかがなものかと。今初めてわかった、見た、承知したと。新しいのにかえるということであるならば、９月30日の校名も当然延ばすべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　仮に25年４月１日がおくれたとしても、校名を決めていかないといろいろな面で支障がありますので、校名募集は続けていきたいというふうに思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　私は、今そこに書いてある情報が、きのう私のところに届きました、家に回覧で。それを考えまして、今この議会をやっておって、そういう問題点が個々に起きているわけでして、なおかつ市民の皆様に発信していけないという事実があるのであるならば、当然これが10月になったって、そういうことをしてから、きちんとしてからやられるべきが筋ではないかと思いますけれども。僕はやってはだめだと言っていないです。９月30日を延ばしたらいかがというものを求めているんですけれども、どうですか。無理にやることはない。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　そういう議論もあるかもしれませんが、先に校名を決めておいて支障はないだろうというぐあいに考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　では、今のは全くそこに出したものを、先ほど「広報いず」の責任者たるほうは何らかの形で訂正してまいりますということを述べているにもかかわらず、そのまま９月30日までという、そちらは変えないと。何ら筋が通らない。変えていくのであったら、きちんとその辺も皆さんに、そういうこともあるんですよと問いかけてやるべきが筋じゃないですか。違いますか。

〔発言する人あり〕

**○１番（鈴木初司君）**　ちょっと黙っていてください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員会事務局長。

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　今、鈴木議員のほうの御質問の校名募集の期間もこの広報の９月号に掲載されているけれども、訂正をするということであるならば、それも訂正をしたらいかがかという御質問だと思います。

まず、第１点目の、２つに私は分けて考えると、これはあくまでも、お話を繰り返すようですけれども、委員長もお話をさせていただきましたように、準備委員会での内容の「学校再編成は今！」ということで、今までずっとこの連載は土肥地区のときからやってきたわけ

でございます。載せ方として。今回は天城地区をやっているわけです。そこの中で、鈴木議員のおっしゃられる議会の条例改正、今までもお願いをしてきた、議会のほうに条例改正を上程して、そこで議会の承認を得られないと、当然新しい学校、再編成はできないということは私どもも十分承知してございます。ですから、今までも準備会、それからその前の説明会でもその辺の話はしてございます。ですから、準備委員会の皆さんも、あくまでもここは準備委員会としての内容の経緯として皆さんにお知らせをしているという、私どもはそういう立場をとってございます。

もう一つでございますけれども、校名募集につきましても、決してこの内容を教育長、教育委員長が知らないんじゃなくて、これは準備委員会の中で部会を当日開いて、部会で検討いたしまして、その検討内容につきまして、改めてその同じ日、同じ時間ですけれども、その場で準備委員会の第７回のときに全体会を開きまして校名募集についてお諮りをして、準備委員会としてこのような募集要綱で募集をしていきましょうということを最終確認したところでございます。ですから、決して教育長、教育委員長が知らないということではなくて、準備委員会に出席しておりますので、それで今月号の９月号に登載していきますという話の中で準備委員会で進めてきた内容でございますので、その辺の訂正はちょっと無理かと思います。

ただ、先ほどおっしゃられました設置場所が現在の狩野小学校にというのも、私、弁解ではございませんけれども、そういう意味で今までも、中伊豆地区のときもこういう格好で報告をさせてもらいましたし、中伊豆地区の場合も最終的に教育委員会にゆだねられまして校地の選定をしたときも、こういう格好で報告をさせていただいておりますので、同じような扱いをさせてもらって、こういう記事を登載させていただいたという経緯でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　全く、やっちゃったから進めればいいって独裁ですよね。私が言っているのは、湯ヶ島からどれだけの嘆願が出ましたか。800人近い嘆願書が出ているじゃないですか。それで重く受けとめるということを言っているでしょう。800人の嘆願をやっている人たちは、この土石流のことなんて知らないですよ、悪いですけれども。知っているのは少しの人たちですよ、一部の。それで、湯ヶ島の方たち、肩を持つとか何とかじゃないですよ。心配しているのは、一緒になるのはいいけれども、もっと安心・安全、議論をしてくれということの中の嘆願でしたよ。内容、教育長も読んでいて、そうですよね。間違いないと思う。

だから、私が言っているのは、承知してもらって命を預かるわけですよ、我々が責任を持って。ですから、こういうことを広く、こういうことですけれども、例えばさっき言ったソフトの中でやっていきますよと承知していただくのが順序じゃないですか。それをやらずして、今これ以上進めることは私、断固反対ですけれども、どうですか。もう一回聞きます。

〔「議長、私から」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

〔「聞いていないですから」と言う人あり〕

**○市長（菊地　豊君）**　施設整備に係わることですから……

〔「施設じゃないですから」と言う人あり〕

**○市長（菊地　豊君）**　子供と安全に係ることでございますので、市長から答弁をさせていただきますが……

〔「聞かない」と言う人あり〕

**○市長（菊地　豊君）**　多分これは砂防ダムに数億かかります。そして、ソフトのほうの対策で、今、数種類ある中で500万円以上かかります……

〔「議長、今、教育長に聞いているんです」「次に聞きますから」と言う人あり〕

**○市長（菊地　豊君）**　これを予算化するためには、御承知のとおり、今までの議会で御議論のあったとおり、議会で御承認いただかないと予算化できないわけです。

今、国の砂防ダム、それからそのためのその前提条件となる市がやる警報、それから県がやるバス停、全部今動き始めているんです。これをさらに調整をして予算をつけていただくためには、当然条例をお願いしなきゃいけないわけです。そこで全く子供の安全化が図れないのであれば、条例を改正することをお願いすることはできませんけれども、現時点では最大30センチの渓流が２度で来れば来続けるということですので、校庭は平面ですから、最大を見積もった段階での対策がとれないのかどうか。今、現時点ではそれをソフトとあわせてできるだろうという見方をしているわけですので、教育委員会が進めている審議は、現時点では続けさせていただいて、そしてとめることはいつでもできますから、そして続けさせていただいて、引き続き検討し、措置が整ったところで条例改正をお願いするということで、ぜひ子供の安全と教育の最善環境をつくることと総合的に議員の皆さんのほうで御判断、お考えをいただきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　では、教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　僕は、建設部長からいただいた資料を見させてもらいましたけれども、残念ながら素人で、30センチ、6.36ニュートンですか、あるいは24.4云々というのもいただきました。あるいは説明を聞きました。校舎のほうは大丈夫だというようなお話も伺いまして、しかし全く安全というわけではないわけですので、避難の場所や経路のこと、あるいは避難体制等、砂防の堰堤ができるまで十分に気をつけていきながら、学校を開校していきたいと今現在は考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　私、市長とか言っていることはわかっている。わからないということを言っていません。ここにやるのであるならば、嘆願書とかそういうものが七百数名から出ておるんですから、そういう人たちにちゃんと情報公開をしてわかっていただくという作業

が先じゃないですかということを申し上げて、それが後になったら、じゃ、何であのとき教えてくれなくて勝手にやったんだという議論になるから、それはいかがなものかと言っているだけで、先ほどから30センチがどうのこうのというのは、早く直轄砂防を、当然今だって小学校があるわけですから、それは国にお願いしていくわけで、それは我々だって一緒ですよ。それを言っているわけではなくて、そういう心配されている方々がおるので、その人たちにきちんと情報公開をする、それから次の仕事にする。何ら問題はないと私は言っているので、それをやりましょうよ、一緒にという話で、どうですか、だからそれをきちんとやりましょうよと。

これは、場所とか安全性ではないので、場所の設置にかかわることですから、これは教育委員長のほうにお尋ねしますけれども、そういう考えできちっと情報公開をしてやっていっていただけませんか、どうでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　実は、このことについてしっかり地区のほうに説明会を開こうという提案を事務局長を通じて申し上げておりますけれども、何せ９月の議会の冒頭ですので、９月になりましたらということで準備を進めてもらえないかということで考えておりました。まことに、まず地区の皆様には今までの準備委員会と、あるいはその前の再編の説明会と同じような形で、少なくとも３地区ぐらいで説明会を開こうと。ここの経緯に関して説明会を開きたいということでしたが、スケジュール的に、申しわけない、ここまでまだ間に合っていないという状況でございます。

私はそういうことで事務局のほうにも申し入れてありますけれども、９月になったら早々に地区の説明会を、ここに至った説明会を開きたいということで、教育委員の皆さんもそういうことについては賛同しておりますけれども、スケジュール的にちょっと間に合わなかったということで報告させていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　そういう教育委員会の委員の方々から事務方に話があったということであるならば、ここに一月やったからどうだこうだではなくて、いいですか、我々議員だって、そういうふうにして説明会がありました、わかっていただきましたというのと、何もなくて、そのとおりに進めますというのでは全然違うじゃないですか、判断の仕方が。であるならば、事務方だって、今の意見を聞くと、やるべきじゃないですか。どうですか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　事務局の方も準備をしていただいていると思いますけれども、少し教育委員のほうも、８月いろいろ、仕事を持っているものですから忙しい方もおるし、９月になったらということで考えておりましたけれども、こういうふうに議会に先立ちまして、それがやれる状況ではなかったということだと思います。

〔「事務方」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員会事務局長。

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　ただいま教育委員長がおっしゃられた内容のとおり、私どものほうにそういう教育委員長のほうから御提案がございました。教育長とその提案について私どものほうで、委員長さんのほうの意向、どうだろうか、説明会をやっていこうか、どうでしょうかというお話を受けてございました。

ただ、今言いましたように、開催通知を出したりすると、やはりどうしても時間がある程度かかるということも含めて、今、教育委員長がおっしゃられたように９月に議会ということで、あわせてその辺もすぐにできない状況もあるので、開催時期を検討しようという話はしてございますので、それを検討していきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　何度も申し上げて申しわけないんですけれども、ここの指定理由の中には、先ほど皆さんが申し上げているんじゃなくて、国交省、国土交通省、昔の建設省で決めたんですよ。住民等の生命または身体に危険が生ずるおそれがあり、当該区域における土砂災害を防止するために、警戒避難体制を特に整備すべきものと認められている場所なんですよ、これ。市のトップが言うことではなくて、これは国で決めているんですから、申しわけないですけれども。

ということは、やはりわかっているのであるならば、再三言いますけれども、皆さんから嘆願書が出ていて、この内容に沿っているということをやっていないのであるから、国の上位で決めていることをちゃんと知らせるべきではないですか。それをやってくださいよ、本当に。やらなくして、今、時間がないじゃないですよ。時間はいっぱいありますから、悪いですけれども。やってくださいよ。これ、だって、ちゃんと書いてあるじゃないですか。どうですか。もう時間がないですけれども。僕は時間はないですけれども、こっちの時間はあるわけですよ。

こういうことがされていて、こういうふうに国から出ていますと。ですけれども、ここについてソフトの形でこういうふうにやっていきますと言うのであるならば、もう一回きちんと説明の資料を出してください。やってくださいよ。どうですか、本当に。生命ですよ、書いてあるんだから、これに。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。どちらへいきますか。

事務局長。

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　説明会の開催を進めていきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　特に、今回この問題は、我々これから議会で討議していく最大のことでありますし、市民の皆様から700人以上の嘆願、心配事があるので、だめと言っているわけじゃなくて、もっと地域に説明してわかるようにしてほしいと。隠し事をしないでやりま

しょうよ、お互いに。請求したから初めて出たわけじゃないですか、僕だって。こういうことを隠してやったら、本当におかしなものになってしまいますよ。きちっと情報公開をして、市民にわかるようにして、これからぜひ進めていく、そういう姿勢をとっていただきたいと思いますが、いま一度どうですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　今までもそうですし、これからもすべてを公開していきたいというふうに思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　これで鈴木初司議員の質問を終わります。

ここで10分間休憩をいたします。再開は11時半といたします。

休憩　午前１１時２０分

再開　午前１１時３０分

**○議長（杉山羌央君）**　では、休憩を解いて会議を再開いたします。

**◇　西　島　信　也　君**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

私は、通告に基づき４点質問をさせていただきます。

まず最初に、学校再編の大義名分は失われたのではないかです。

教育委員会は、学校再編の理由として、小規模校の課題はクラスがえができないということに教育上の大きな問題を認めることができると、こう主張しております。また、教育長は、小規模校のメリットは認めるけれども、より以上に社会性等々の発達については疑問を感じていると、こう議会答弁をしております。現在、執行部側では天城地区の学校再編をしゃにむに進めているようですが、状況は大きく変わりつつあります。

天城地区の小学校が１つに統合されたと仮定すると、平成28年度には２クラスできるのは３年生から６年生までの４学年、１・２年生は１クラスしかできません。さらに、中伊豆小学校はことし統合されましたが、５年後は１クラスが３学年、２クラスがやはり３学年しかできません。土肥は言うまでもありません。これでは、土肥、中伊豆、天城のすべてが立派な小規模校と認定されるわけであります。統合しても小規模校となるのがわかっていながら、なぜ再編を強行しようとするのか、これは教育長にお伺いします。

次に、市長は、議会答弁で次のように言っております。学校規模ですが、伊豆市では複数クラスをつくってクラスがえができるような規模にしたいと言っているわけです。ならないところもある。ならないところは、しかし、中をグループ分けすることによって擬似クラス編制がえと同じような効果を求める規模にしたいということがあるわけです。この２点を私は支持しているわけです、こう言っております。

今、５年後のことを言ったわけですけれども、10年後にはクラスがえのできる学校は修善寺地区以外はほとんどなくなっているかもしれません。これが市長の言う最適の教育環境ですか。ここら辺で再編計画は中止するのが妥当ではないかと思いますが、見解を市長に求めます。

次、２番目、旧船原ホテル寮建物はなぜ解体されないのか。

旧船原ホテル寮用地、建物処分に関する裁判は、被告の勝訴に終わった、要するに伊豆市側の勝訴に終わったとの報告がありましたが、その内容について幾つか疑問点がありますので、説明を求めます。

なお、わかりやすくするため、４階建て部分、現在、東海部品工業が所有している建物のみについて質問をします。

市側は、これは全部――全部というか東海部品工業なんですけれども、市側は土地価格を2,380万円としたが、建物の存在による最有効使用との乖離があるため、解体処理費用相当額2,124万円を建付減価としたとあります。土地価格から建物解体処理相当額を減額したのなら、当然解体処理がなされるべきだと思いますが、いまだに解体されていないようであります。どのような見解かお伺いします。

２番目、建物の価格評価を市側は202万円と算出しましたが、これを価値がないものと判断し202万円を減価したこと、要するに価値を減価、まけたということであります。先ほど建付価格を2,380万円と言いましたが、建物の評価額を202万円としておきながら価値がゼロ円とはどういうことなのか説明を求めます。

３番目、東海部品工業株式会社との売買契約書では、同社は、この契約締結（平成20年４月21日）の後、２年以内に当該物件を従業員宿舎、野菜栽培施設及び展示販売施設等の用途に供さなければならないとあります。このことについて、平成22年12月定例会で鈴木議員が、どうなっているかということでした一般質問に対しまして、市長は、１年この部分についての契約を延長したと答弁しましたが、現在はどうなっているでしょうか、お伺いします。

その次、３番目、プラスチックごみの排出方法の改善について。

プラスチック製品をごみ集積所へ出すには、大きさは縦横30センチ以内と決められております。これでは、それ以上の不要物は分解等をしない限り排出できず、市民は大変な難儀を強いられております。なぜ大きさが40センチ、50センチのプラスチック製品は回収できないのか、このような制限を撤廃するような施策は考えてはいないのか、明確な答弁を求めます。

最後、４番目、新し尿処理施設建設について。

昨年10月に新し尿処理施設建設候補地が３カ所、田代、大平、下船原と示されましたが、その後、どのような取り組みを行ってきたのか。地元との交渉経過、ボーリングや環境調査の結果等について説明をお願いします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの西島信也議員の質問に対し、答弁を求めます。

初めに、市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

まず、最初の学校ですが、将来子供が減るから学校再編成は進めるべきではないという議論には、私は同意はできません。また、多くの市民の方々も同様にお考えのことと思います。

次に、船原ホテルの件ですけれども、まず建物を取り壊さず全部または一部を利用する計画を有しているからといって、建物の解体費用相当額を建付減価として控除するのは不当であると言うことはできないと、これは裁判所が認定をしております。

また、価格についても、残存耐用年数等を勘案し202万円と算出しておりますが、この建物については、利用するには全面的な改修が必要で、相当の費用が必要なため、価値がないものと判断し、202万円を減価した。このことについても裁判所において、不合理な点はなく売却価格は適正であると、これはもう裁判のほうで確定をしております。

今後の使い方ですが、御承知のとおり、これだけ経済状況が厳しい中、東海部品工業におかれましては地道に着々と内部、外部の工事を進めておりまして、私はむしろ市長部局だけではなく議員の皆さんにも、このような地元の大切な製造業が、その力の範囲内でまちの活性化のために頑張っていただいているところを、むしろ応援していただければありがたいというように思います。

プラスチックごみについては、後ほど市民環境部長から説明をさせます。

それから、し尿処理ですが、３カ所の候補地のうち、下船原地区については、昨年12月に候補地が人家に近いなどの理由で、この候補地での建設に反対する旨の申立書が区長から市長と議長あてに提出されました。大平地区に関しましては、昨年11月に役員会、２月に区民全体会を開いていただき、建設を予定している施設や候補地として選定された経緯について説明をさせていただきました。田代区につきましては、昨年11月に区民全体会で同様の説明をさせていただき、１月には比較的新しいし尿処理施設、これは沼津のアクアプラザですが、これを御視察していただきました。その後、田代区のほうで委員会を立ち上げて検討を進め、３月の区民総会でおおむね建設についての御理解をいただき、現地の測量及び断層等の調査に着手する了解をいただきました。

市としては、できるだけ合併特例債の期限内に事業が完了するよう、第１候補地を田代地区、第２候補地を大平地区として進めております。田代地区におきましては、既にボーリング調査を行いましたが、その結果、当初候補としていた場所――場所というのは同じ地域の

中の具体的な場所ですね。そこに断層が見つかったため、数十メートル移して、その隣接地に候補地を移すことで断層を避けることとし、生活環境影響調査を開始いたしました。この夏から冬にかけて、現状の計測調査をすることが必要ですので、この結果が出るのは来年の春ごろになる見込みです。

なお、ボーリング調査につきましては、稲刈りが終わった後に行う予定としております。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、教育長。

〔教育長　遠藤浩三郎君登壇〕

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　今回の今行っています学校再編成についてでありますが、市内の複式学級を解消することも、再編成を進める上での重要課題として取り組んでまいりました。現に、土肥南小学校、大東小学校を再編したことで、２校に通う子供たちの複式学級を解消することができました。天城地区においては、月ヶ瀬小学校が今後複式学級の可能性があり、25年度に再編することで複式学級を回避したいと考えているところです。

天城地区や中伊豆地区の小学校が数年後、複数クラスとならない学年が出てくることは承知はしておりますが、複式学級や１クラスが数名となる少な過ぎる人数での授業の状況を改善するために再編成を進めております。クラスがえができる規模であることは望ましいと考えておりますが、天城地区、中伊豆地区は１クラス編制と仮になっても、30人前後の児童数になります。目的別のグループを活用した多様な学習形態を実施したり、より多くの人数でのかかわりの持てる教育活動が展開できるものと思っているところです。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、市民環境部長。

〔市民環境部長　山本　潔君登壇〕

**○市民環境部長（山本　潔君）**　それでは、プラスチックごみの排出方法でございますけれども、現在プラスチック類はプラスチックの包装容器、プラスチック製品、発泡スチロール、白色トレイということで分類をしていただき、大きなネットを使って収集をしております。ごみが有料化された際に、一部のものを除きまして原則として30センチ以上と、30センチのところで有料・無料の線を引かせていただきました。収集をする際に余り大きなものですと収集が非常に時間がかかるというようなことで、一定の制限をつけさせていただくということにつきましては御理解をいただきたいと思います。

しかしながら、30センチという制約はちょっと厳し過ぎるんじゃないか、もう少し緩やかでもいいんじゃないかという御意見、御要望等がございます。現在、ほかに手数料等につきましても、有料化して初めて、いろいろわかりにくいとか御意見も伺っておりますので、これらを今少し見直しをしております。その見直しをしていく過程の中で、この大きさの制限につきましても、一定の制限はさせていただくことは必要かと思いますけれども、30センチというあたりは再検討する必要があるかなと思っておりますので、検討させていただきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

西島議員。

**○６番（西島信也君）**　それでは、再質疑をさせていただきます。

まず最初の１番目、学校再編。学校再編の大義名分は失われたのではないか、こういうことです。

教育長の前定例会の答弁では、小学校の適正規模はおおむね12学級から18学級、したがって11学級以下が小規模校だと、こう言っておりましたとおり、それはそうですね。私は、小規模校が悪いとは思っておりませんが、とにかく教育委員会が言うことには、教育委員会が主張しているのは、とにかく１学年２クラスなければよい教育はできない、よい子は育たないと。これは従来から、２年前以上からそう言っているわけです。

先ほど言いましたけれども、５年後には中伊豆では１クラスが３学年、天城で同じく２学年、土肥では今も全部そうだ、１クラスだと。これで教育委員会が主張しているよい教育ができるんですか。要するに、１クラスでよい教育ができるかどうか。さっきグループ分けどうこうの言っていましたけれども、そういうこともあるかもしれませんけれども、グループ分けもあるかもしれませんけれども、とにかく現時点において１クラスでよい教育ができるかできないのか、教育長にお伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　いいか悪いかという二者択一では割り切れないことだというぐあいに考えております。現に、伊豆市内の小学校は小規模校が大変多いわけで、それなりに学校が、あるいは各担任が努力をして、悪くならないように必死で努力をしているわけであります。したがって、一概にこれが悪い、これがいいと言うわけにはいかない。よりベターかというと、議員御質問のような２学級がいいだろうというように考えているわけで、特に義務教育の場合、何学級であろうとも授業あるいは学校を保っていかざるを得ないわけでありますので、それを御承知いただければというふうに思っています。一概にいいか悪いかというだけの二者択一ではないというふうに考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　一概には言えないという、そういうお話ですけれども、いいですか、教育委員会は、ここにもありますけれども、「伊豆市小中学校の適正規模と適正配置に関する答申書」、伊豆市教育振興協議会が出していますけれども、これを全面的に伊豆市教育委員会は採用しているわけなんです。

これによりますと、「学校規模によるメリットとデメリットの因果関係は必ずしも明確ではありませんが、クラス替えができないということは、教育上の大きな問題を認めることができます」ということです。大きな問題とは１学級は悪いということですから、クラスがえができないということですから、クラスがえができないのは悪い、が……。どういうことな

んですか、それ。ちょっと言ってみてください。どういう大きな問題が認められるんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　ことしから学習指導要領の改訂というのがありまして、ことしからですが、数年前から、私が教育長になる前後から全国的にも議論になりました。今度の改訂の一番の目玉は、言語活動の充実ということが言われています。

それがどうして出てきたかという背景が幾つかあるんですけれども、今まであったいろいろなデータがあります。例えば、背景としてあるのはＰＩＳＡ調査、それから全国の学力・学習状況調査、これらがもとになって言語活動を充実することで判断力や思考力や表現力を育成していく必要があるだろうと。これは全国的な話でありますが、私はそれが伊豆市の子供たちにも当てはまるだろうというぐあいに考えています。したがって、言語活動あるいは言葉のやりとりで子供たちが成長していく、つまり学び合っていく、あるいはグループ学習をしていく、お互いに子供同士がリレーションをとって進めていくという学習がないと、豊かな成長はできにくいですよということだろうというふうに考えています。

この主張は、私も伊豆市の子供にも当てはまるだろうというぐあいに考えていますので、そういう意味でも、大き過ぎる学校はどうかと思いますが、一定規模の子供たちが集まる中での学校がより望ましいというように考えたわけであります。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　今、言語活動、言語教育がどうのというお話がありましたけれども、とにかく、先ほど私の第１回目の質問のときに複式学級を阻止した、阻止したとおっしゃっておりましたね。それは確かに阻止したかもしれませんけれども、それでは、今まで言ってきた１学年２クラスというのはもういいんだ、グループ活動や何やらをやるから、もうそれは捨てた、複式学級を阻止するためにやるんだと、そういうふうにこれから主張を変えるんですか。そう趣旨がえするんですか、言ってください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　伊豆市内の教育委員会でできるのは今やっていることで、１クラスの学年が出てはしまいますが、大多数の学年は２学級で運営ができていきますし、そのことがクラスがえができる学校にもなります。今後、ことしから小学校１年生の35人学級という制度になりましたが、どこまで伸びるかはわかりませんが、35人学級等実施されていくと、いろいろもう少し学級がふえるという可能性も残っているというふうに考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　依然として２学級できるぞと言うけれども、それは現時点ではそうかもしれないけれども、私がさっきから言っているのは５年後、10年後の話を言っているんですよ。とにかく10年後になったら、全部統合したって、修善寺を除いたら１学級できるところなんて恐らくないですよ。この前、前定例会では私の質問に対して、５年後、10年後なん

ていうのは余り考えない、今いる子供たちをどうのこうの言っていますよね。何で考えられないんですか、５年後、10年後。

だから、いいですよ。これから教育委員会の方向は、２学級ということはもう言わない、２学級は言わない、複式学級を阻止するためにやるんだと、そういうふうだったら私はわかるんですけれども、何で２学級できもしないのに２学級なんて言ってみたり、グループ分けがどうのこうの言ってみたりするんですか。グループ分けだったら、別段統合しなくたってグループ分けできるじゃないですか。そこがおかしいんですよ。だから、複式学級をメーンにするというのだったら、そういうふうにしますよと、そう言ってくださいよ。どうですか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　グループ分けのできるというのは、５人や10人ではなかなかできにくくて、ある一定規模の人数が集まって、いろいろなグループ分けができる。それから、これも何度もお話ししますけれども、音楽の合唱だとか運動会だとか大勢で行う教育の場合は大勢のことができるし、少人数で実施するほうがいいものについては少人数ができるという意味では、２クラスが望ましいというぐあいには考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　教育長さんは２クラスが望ましいと言うけれども、できないんだからしようがないじゃないですか。できないんだから、５年後、10年後にはね。できないことを言ったってしようがないですよ。グループ分けすると言うんだったら、何も統合しなくたってグループ分け、例えば修善寺だって20人からのクラスがいるからグループ分けできるわけですよ。土肥なんていうのは、これから、あんた、１クラス10人ですよ。どうしようもないじゃないですか。教育委員会が言っている、何で統合するかという問題ですよ。何で統合するか。さっきから複式学級を阻止した、複式学級を阻止したと言っているから、それでは複式学級阻止に変えたらどうですかと言っているの。私はそれを言っているの。それを聞いているんです。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　これも何回も今まで話ししていますが、第一義的には複式学級をなくそうというのが私の前の教育長時代からずっと引き継いだ話でもあります。それはそれで矛盾する話ではないわけで、２クラスのほうがよりベターだというだけでありまして、２クラスを志向していきたいと。もちろん、できない学年が出ますから、それはそこまでの授業をしていく。現に、土肥の場合はそれでいろいろな工夫をしながら今進めているというのが実態であります。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　これを余りぐだぐだやっても時間が過ぎるだけですから。

では、次に市長さんに質問します。市長さん、腕組みして、あんた、目をつぶったりしているけれども、おたくもこの学校再編に関係あるんだからね。

いいですか、平成21年の９月定例会で三須重治議員の一般質問でどういうことを言ったか、一般質問で。三須さんが言ったことですよ。市長は20人程度の１クラスが弊害になると言っているが、人間が成長していく過程でどういうデメリットが起きるのか全く疑問に感じると言っているわけです。そういうふうに質問したわけです。どうだと。そうしたら、市長が、ちょっと長いんですけれども、私はいつも市長の言葉を言うんですけれども、いつも言ったとおりに西島議員はしゃべらないなんて言うから、会議録をそのまましゃべりますから。ちょっと長いですけれどもね。

「まず、第１点目の複式はわかるけれどもなぜ２クラスだということは、これは議員御指摘のとおりで、私が市長になるまでは伊豆市というのは複式学級は避けるということだったわけですね。私は複式学級を避けるとか、あるいは小さな学校の弊害を論じると後ろ向きの議論になってしまう、それを避けたかったんです。では、伊豆市の中で一番最適な学校というのはできるのかできないのか、それを議論していただきたい。そうすると、教育振興審議会の中では、このような社会環境の中でクラスがえをしたい、クラスがえができるような学校が一番望ましいと。そして、私も現場の先生方にいろいろ聞いてみて、私が聞いた範囲内ですよ、私が聞いた範囲内の先生方は、クラスがえはしたほうがいい。それが伊豆市でできるかとなると、やればできる。ただ、問題は通学距離が長くなり、地域と少し離れたところになる、そこの問題はわかっているわけです。その学校と地域との距離が長くなる、そこはデメリットは承知して、それ以外で学校の内容を比べたときに、小規模校のほうがいいというメリットがありますかと確認をすると、ほとんどそれはやはりいろんな行事ができたりクラスがえができる２クラス、３クラスだということになっているんですね。ですから、そこの距離のところはデメリットは承知しているけれども、全体として比べると、せっかく伊豆市でクラスがえができる学校ができるんだから、そちらをつくったらどうだろうかというのが教育振興審議会の答申で、私はそのとおりだと今考えているわけでございます」と、こう言っているわけです。

今、私がさっきからずっと言っていますけれども、これから５年後、10年後には１学年２クラスの学校なんてできないんですよ。それで、市長は、これ、２年前ですけれども、言っているわけですけれども、ですから、私が最初に言った質問では、２クラスができないのに、これが市長の言う最適の教育環境ですか、２クラスができなくても最適な教育環境ですか、ここら辺で２クラスができないなら再編計画は中止するのが妥当ではないかという質問に対して、児童数が少なくなるから進めないというのに同意できないとか何とか言っていますが、私、そんなことを言っているんじゃないんですよ。１クラス、２クラスのことを聞いているんですよ。それはどうですか。１クラスでも最適の教育環境ですか。それをちょっとお伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　今、私の過去の答弁を引用されましたけれども、全くそのとおりで、考え方は変わっておりません。当時から申し上げましたけれども、読み書きそろばんを教えるだけであれば、塾のような一対一でもいいんです。でも、学校教育はもっと全体の人間性とか社会性を教育する場ですから、やはりもまれたほうがいい。そこで、専門の御提案とか、あるいは現場の先生方に聞くと、３クラスというのが一番教えやすい、子供も一番元気になる。しかし、伊豆市の中では全部を３クラスにすると、この広い伊豆市で２校になりますから、それは現実的ではないということで、伊豆市の教育振興審議会は何とか２クラスのできる４校程度を目標として設定されたわけで、私はそれを支持しているわけです。

議員は、これから子供がどんどん減っていくからということですが、そこで、そもそもどうして伊豆市は伊豆半島の中で他の市町と比べても子供の数が圧倒的に少ないのか。現役の世代の皆さんが伊豆半島北部もしくは市内に仕事があっても、そのまま引っ越される方が現にいらっしゃるわけです。それは、極めて小さな学校で、そこに子供を預けたくないとか、あるいは高校生の通学費がかかるとかいうことで社会的流出が、現役世代の流出が多いわけですから、先ほどもありましたけれども、私は、できるのであれば、医療費の500円の自己負担をなくすよりは、むしろ何らかの形で高校生の通学費助成を始めたいということも過去何度か申し上げているわけです。ですから、総合政策で現役世代の流出を防ぐということ、それから逆に現役世代の定住促進をしたいということ、そして将来、伊豆の若い人たちが、20代、30代の人たちがより結婚しやすいように雇用とか所得をふやしたいということを総合政策として掲げているわけです。

ですから、今のまま、人口が１万人少ない下田市と同じ出生数しかないわけですから、これは明らかに伊豆市のどこかに政策の不手際があるのであって、そこにエネルギーを集約して、もう一度200人、300人の子供が生まれるような政策を、これは時間がかかりますから、時間はかかります。来年、再来年はできないけれども、そこを目指してやっていく。そして、その中で今の子供たちにも焦点を当てなければいけませんから、今の子供たちは２クラス、３クラスの学校ができ得るわけですから、そこは議員の皆さんにも御理解をいただきたいということで、過去の答弁と全く矛盾はしておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　今、市長さんが人口減の要因は何かということを言って、それは２クラス、３クラスの学校がないからと言うけれども、何を言っているんですか。全く反対のことを言いますね。よくもそうぬけぬけと言いますね。大体小学校がなくなるから人口が流出するんですよ。何で２クラス、３クラスの大規模校ですか、中規模校ですか、あるから人が寄ってくるんですか。学校がなくなるから流出、これはだれに聞いたってそうですよ。全く言っていることがちんぷんかんぷんですけれどもね。

それで、３クラスができるなんて。前に言いましたよね。３クラス24人が最適の学年だなんて言っていますよね。何で３クラスで24人の生徒になるんですか。24人では、あんた、72

人ですよ。72人だったら当然２クラスじゃないですか。これは前言ったことですけれどもね。とにかく、そういうことで、市長の言っていることは全くおかしいというわけです。

それで、先ほど来からグループ分けがどうだこうだということを教育長さんがおっしゃっていましたけれども、では伊豆市の中で今どれだけ先生の加配ができているのか。どういうふうにできているのか、教育長にお伺いします。加配。教育長さん、先生の加配。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　今、手元に資料がありません。またお届けします。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　いいですか、これもまた前の会議録を引用しますけれども、要するにグループ分けをするとか何とかするとか、さっきもありましたけれども、クラスの中をグループ分けする――これは市長が言った言葉ですけれども、グループ分けすることによって擬似クラス編制がえを、同じような効果を求めると言っていましたよね。擬似クラス編制がえをするには当然先生が要るわけです。加配が要るわけですよ。さっき教育長さんに言ったけれども、把握していないということですけれども。

それで、何と市長が前に言ったかというと、これも２年前の９月議会ですよ。「今まずは県教委のほうに、この特段の環境の中で整理をすることで大変我々も苦しい選択を今しようとしているわけですから特段の御配慮をお願いしたいと。それがなされない場合、県の配慮がなされない場合には、特に一番大事な先生方の加配を市単独でもやるかどうかについては、現時点ではまだ自分で成案を得るには至っておりませんけれども、検討はしてみたいと、こう考えております」、どうも余り加配をされているようなあれがないんでしょうけれども、市長、この検討はどういうふうにしましたか。これは市長が言ったことなんですからね。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　まず最初に、最初に議員からありましたように、とにかく私の発言は正確に引用してください。24人掛ける３は市長が言ったのではなくて、私が同世代の現役の先生方に伺うと、多くの現役の先生方は24人程度のクラスが３クラスが一番教えやすいということを過去申し上げているわけです。そして、先ほど私は２クラス、３クラスの小学校がないから引っ越すのではなくて、３人とか４人とか５人のごく小クラスのところには子供を送りたくないという親が引っ越しているということを私は申し上げているわけで、これは現実に私の耳に入ってきたわけでありまして、そこは正確にちゃんと御理解をいただきたいということです。

それから、加配については、これは教育長と教育委員会とはいつも話をしておりまして、教育委員会のほうから要望があれば、現役の先生をつけるのがなかなか難しい場合には、例えば臨時で支援いただくとか、あるいは教員指導のために退職した先生方に再雇用でお願いするとか、こういうのは適宜話をしておりまして、教育委員会の御要望があれば、それは市

長としては、予算づけをさせていただく心づもりで常におります。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　教育委員会の要望があればということですけれども、全く全然言っていることがおかしいですよ。検討すると言うんだから検討すればいい。教育委員会の要望があろうとなかろうと、それはやらなきゃだめですよ。

とにかく、そういうことで、学校再編については全く、こういう時代になってきて２クラスができないということになりますと全くそんなことをする必要性は何もないということがここで明らかになったわけですけれども、私、これで午前中の質問を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいま西島信也議員の一般質問中ですが、お昼の休憩に入りたいと思います。再開を13時ちょうどといたしますので、休憩といたします。

休憩　午後　０時０８分

再開　午後　０時５８分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩を解いて会議を再開いたします。

６番、西島信也議員、質問の途中ですので、質問をお願いします。

**○６番（西島信也君）**　それでは、午前中に引き続きまして一般質問を行います。

まず最初に、市長は、私の先ほどの答弁で私に対して、私の発言――これは市長の発言ですけれども、正確に言ってもらいたいと。さっき24人、３クラスは私が言ったんじゃないよ、先生が言ったことだと言っておりましたね。前にも、法律を守ったら日本は滅びるというようなことを私が市長が言ったと言ったら、いや、それはそうじゃない、何とか先生が言った言葉で、ただ引用しただけだと言ったですね。それは、引用するのはいいけれども、それはそういう考えだから紹介しているわけですよね。何も考えが違うのに引用するわけがないですよね。正確に言ってもらいたい、そんなのは私の発言じゃないなんて言うのは、そういうのは逃げとか、あるいはまやかし、そういうものですよ。それはちゃんとこれから考えていただきたいと思いますけれども。

それでは、旧船原ホテルの寮の建物がなぜ解体されないかということですけれども、まず最初に、③番目の東海部品との契約書で２年以内にやる、あるいは１年延長したとありますけれども、この辺について答弁がありませんので、答弁を求めます。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません。当初、引用の話がありましたので、ぜひ議会運営委員会のほうで、引用は市長の直接の発言なのか、これはぜひ御議論いただかないと、私はこれ以降発言ができなくなりますので、そこは議運のほうで引き取ってください。

それから、１年延期については、これは当初２年間で、御承知のとおり、あの建物を改修

して使う、そして２年以内に、トマト工場でしたっけ、と寮に使うということで条件づけられておりまして、それが当初、裁判になったこともあって着工がおくれたために１年延ばしたわけでございます。これは既に報告してあるとおりです。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　今、１年延ばしたと。それは去年言った話で、契約締結が平成20年４月21日なんですよ。それを最初２年ですね、１年延ばしたら、いつですか。平成23年４月21日じゃないですか。もう延びているじゃない。もう今や９月ですよ。それはどうなっているかということを聞いているんです。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　本契約のもともとの目的は、市としてもあのような施設を活用ができない。そして、地元からも何とかしてくれという御要望があり、その地元の要望は、解体するか、あるいはきれいに使うかということでしたので、東海部品さんと協議の上、価格をしかるべく下げて、これは既に裁判所で認定いただいておりますけれども、そして転用すると。着工が大分おくれました、御承知のとおり。しかし、今現に、御承知のとおり中を着実に順次改修をし、外装もきれいにし、テラスもつくりということで事業が着手されておりまして、進展も見ておりますので、所有権が既に移転している市長としては、これ以上あえて契約にこだわることはないということで、再延長する考えはございません。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　だから、契約書にそう書いてあって、用途に供するとあって、まだ用途に供していないんでしょう。それで、もう３年過ぎちゃったよと。おらは知らんというのは、では契約は何ですかということになるんです。明らかに両方と契約違反をやっているということしか考えられません。

それでは、言いますけれども、その何分というのを出してください、局長。

〔「あと大体６分」と言う人あり〕

**○６番（西島信也君）**　６分。旧船原ホテルの寮の建物、敷地ですけれども、これはただで伊豆市が購入したわけじゃないんですよ。平成14年12月３日に旧天城湯ヶ島町が東京国税局へ所得税その他の国税の、東京国税局が持っていて、国税を払えているなと。それで、旧天城湯ヶ島町が１億6,600万円払って、東京、国から公売というですかね、それで買ったものなんですよ。元がかかっているんですよ、１億6,600万円。それを256万円と８万円で両方合わせて264万円ですか、売っちまったというのはどうかということ、根本的にそれを言っているんです、私は。

いいですか。最初に、使用不能な建物の解体費用を建付減価として2,124万円を差し引いて256万円を、東海部品へ土地建物をそれで引き渡したわけなんですよ。さっきから市長は裁判がどうだ、裁判がと。私は裁判のことを聞いているんじゃないんです。市民の目線から

聞いているんですよ。解体費用を差っ引いといて、何で解体しないんですか。まず、そこを伺います。これは素朴な疑問ですよ。何で解体費用を差っ引いといて、解体しないんですか。そのまま使うんですか。そのまま使うんだったら、解体費用として値切らなきゃいいじゃないですか。建付減価は幾ら幾らですよと。何でそこへ解体費用を持っていくんですか。それを答えてください。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　非常に私は不思議なんですけれども、議会で御説明し、予算も承認をいただき、そしてその算定について裁判でも決着を見、そして伊豆市のやり方をもちろん議会にお諮りをして、予算をつけてすべて行った伊豆市のやり方について、裁判も認定いただき、控訴もされず、そして今、当初の目的に従って、時間はかかっています、確かに。だけれども、着実にあれをトマト工場及び寮に転用するという目的に沿ってやっているわけです。どこにどういう疑問があるのか。

私はやはり議員の皆さんには、あれだけ地元で出ていかずに頑張っている企業さんを応援してこそ、すべて認定された手続について、今どういう議論をここでしろと言っておられるのか、私は御質問の趣旨がよくわからないんですけれども。御質問の目的と趣旨を御説明いただかないと、答えようがないんですけれども。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　議長、いいんですか。それは何ですか。反問権というんですか。何というんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　いや、質問権ですから。教えてくださいと言っていますから。

**○６番（西島信也君）**　教えていいんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　ええ、教えて。

**○６番（西島信也君）**　大体、市長は私の言っている質問を全部すりかえているんですよ。私が言っているのは、使用不能な建物だから、その建物の解体費用を建付減価と言ったんですよ。建付減価というのは、そのまま使うということらしいんですけれども、何で解体費用を建付減価にしたか、それを聞いているんですよ。何で建付減価として解体費用を充てたのかということを聞いているんです。それに答えてください。わかるでしょう、それは。建付減価ってわかりませんか。わからなきゃ言いますけれどもね。わからなきゃ、だれかに聞いてくださいよ。何で建付減価を解体費用にしたのか、答えてください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　それは私が市長になる前の４月の全員協議会、当時の議会で御説明をし、そして、その後、予算化をし、そこですべて説明をして議会で承認されているわけです。そこをどうして過去にさかのぼって私が説明しなければいけないか。もう議会に御説明し、承認されていることなんです。あえてここで議論をして、何か結論を得られるものがあるん

ですか。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　市長は今そう言ったけれども、私はそのとき議会にいなかったんですよ。議会にいないのに、何で承認したなんて言うんですか。私は議会にいなかったんだから、議員じゃなかったんだから、ちゃんと言ってくださいよ、ちゃんと。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　私も当然、私が市長になる前の大城市長の判断等を引き継いでいるわけであって、当時の議会の承認は当然議会の承認ですから、そのときどなたが議員であったかということは、議会の承認とは関係なしに、もちろんそこでどうしても当時の計算を出せと言われたら当時の計算式を出しますけれども、それによって一体、御質問の目的がどこにあるのかわからなければ、これ以上お答えする前提条件がわからないですよ。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　市長はすぐそうやって議論をすりかえて、わけのわからないことを言っているんですけれども、では１つお伺いします。

今、建っている建物、これの価値は当初、当局側は202万円だとしていたわけです。それを、使用不能だからということで202万円を減価してゼロ円の価値しかないと、こういうことを言っているわけです。ゼロ円の価値しかないと。

それでは、ちょっとお伺いしますが、ゼロ円の価値といったら、現在建物部分の固定資産税は課税されているんですか、どうですか、お伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　これは、当然建物が存在いたしますので、課税をしております。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　建物が存在しているから課税しているということなんですが、では何でゼロ円と算定したんですか、お伺いします。市長。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すべて当時の算定式を今、私、手元に持っておりませんので、もし必要であれば当時の式をもう一度出させて……

〔「それはあります」と言う人あり〕

**○市長（菊地　豊君）**　御存じでしたら、そのとおりですので。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　それが意味がわからないから聞いているんです。まあ、それはいいで

す。もう時間もないから、次に行きます。

３番目、プラスチックごみの排出方法の改善についてなんですけれども、まず最初に、市長は、私が最初の一般質問をやって第１答弁のときに、部長に回して部長に答弁させたですね。それはまことにけしからんですよ。私が聞いているのは政策を聞いているんですよ。事務のあれを聞いているんじゃないですよ。そこら辺をよく考えてもらいたいと思います。

私が聞いたのは何かというと、なぜ30センチ以上のものは収集しないのか、それが１つ。これは政策ですよ。それから、このような制限を撤廃する考えはないのか、これを聞いているんです。部長は検討してと言っていますが、検討してって、部の中で検討しているのは勝手に検討しているわけです。やっぱり市長の政策なんですから、市長、言ってください。何で30センチ以上は収集しないか、制限を撤廃するのかしないのか、それを言ってください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　西島議員が市長になられたらどのような業務運営をされるかわかりませんけれども、私はこういったことを市長が自分の市長室で検討するような、そんな余裕は伊豆市にはない。当然、部長、課長に任せてしかるべきだと。そこで、部長が先ほども答弁したとおり、今その他の見直しの中で検討していますということで、私はそれで正しいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　そうやって市長は逃げるわけですけれどもね。

いいですか。30センチ以上のものを出したら持っていかないということなんですよね。30センチといったら、これですよ、このハンガー。これは40センチですよ。これを出したって持っていかない。これ、どこにでもあるお盆、これは50センチですけれども、50センチの30センチ、これを出したって持っていかない。まことにこういうのは市民サービスに欠けていると思うですよ。こういうものだったら、我々だったら切って半分にすることができるかもしれないけれども、お年寄りとかそういう人はできないですよ。これだったら、私らだってどうやって半分にしたらいいんですか。何か電動のこぎりでもない限り、半分にできないですよ。何で持っていかないかということを聞いているんです、30センチ以上は。

私は、こういうものを出しに、30センチ以上を持っていかないから、衛生センターへ行ったわけですよ。そうしたら、１つ200円よこせと言ったんです、200円。どういう政策なんですか、これは。全くこういう細かいことだって市長はやらなきゃならないんですよ、あんた――あんたは失礼ですけれども、やらなきゃならないの。だから、そういうのを何も考えていないでね、やる。

では、もう一つ。残り０分……

**○議長（杉山羌央君）**　もう時間が来ましたから……

**○６番（西島信也君）**　では、最後にしますけれども、30センチのものはなぜ収集しないか。

私は、理由は余りないと思うんですよ。理由はないけれども、ただ単に30センチにしただけだと思うんですけれども、ぜひここは検討をして、ぜひネットに。さっきは収集に支障があるからと言ったでしょう。だって、ネットに入るものは、ネットに入るのは40センチ、50センチは入りますよ、ネットには。何も収集に支障はないと思いますけれども、そこら辺をよく検討していただいて、ぜひ30センチは持っていかないというのを撤廃していただきたい。

以上で終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁はよろしいですか。

**○６番（西島信也君）**　はい、よろしいです。

**○議長（杉山羌央君）**　これで西島信也議員の質問を終了いたします。

**◇　森　島　吉　文　君**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、４番、森島吉文議員。

〔４番　森島吉文君登壇〕

**○４番（森島吉文君）**　４番、森島吉文です。

市長に伺います。１番目の１、市長みずからのトップセールスによるインバウンド推進活動について伺います。

伊豆市後期基本計画の中で、重点プロジェクトとして観光プロジェクトの項目があります。主な目標として、①スポーツ施設を活用した交流促進、②伊豆市の魅力を存分に味わっていただく仕組みの充実、③外国人観光客の受け入れ態勢の構築などがあります。台湾などへのプロモーションは、これらを基本に活動していると思います。これらの計画のスタート時の具体的なプラン、現在までの計画実施状況、セールス結果などありましたら伺います。

１番目の２、伊豆市の産業について。

伊豆市の第三次産業就業者数の、この質問状がちょっと悪かったんですけれども、三次産業が商業、運輸通信、金融・公務、サービスと分かれていますけれども、商業なら事業所数が幾つで従業者数が幾つと、それぞれその数を教えていただきたい、そのように思います。サービス業、特に観光関係の内訳、事業所数と従業者数について伺います。

２番目、①市長の４年間の総括と今後の抱負について伺います。

市長職１期４年間も終盤に差しかかり、残すところ６カ月となっています。これまでの総括と、これからに向けての抱負について伺います。伊豆市では、合併時の諸問題がまだまだ山積しております。問題処理に４年間の大半を費やしたことと思います。総括として、伊豆市で何が変わったのか、４年前と比較するとどのように変化したのか、あるいはどのように改善されたのか伺います。

２番目の②市長自身は、伊豆市への実績・貢献で何をアピールするのか伺います。

２番目の③市長は、「伊豆市の夢を拓く」、要するに伊豆市の閉じ、ふさがったものを押し広げ、固まっているものをほぐして広げる、伊豆市の戸を開けるということだろうと思い

ますけれども、というスローガンで進んできたことと思います。まだまだ実現にはほど遠いと感じます。後期５カ年計画もスタートしたばかりであります。継続事業も山積と感じます。その中で、市長職、残すところわずかとなっています。市長自身、今後どのように行動されるのか、その抱負を伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの森島吉文議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答えします。

まず、インバウンドですが、計画スタート時の具体的なプランとしては、国では21世紀の日本の発展のための重要施策として国際観光を掲げました。その中で、ビジット・ジャパン・キャンペーンとして年間1,000万人の外国人観光客受け入れを目標にしているところでございます。また、県も富士山静岡空港を活用し、インバウンド事業を積極的に展開しようと明らかにしております。

その中で、伊豆市としては、インバウンド事業の推進は観光関係者の意欲と行動力に期待し、伊豆市インバウンド推進プロジェクトチームが中心となって、目標に向けた成果を検証しつつ、官民の連携による事業を実施することで進めてまいりました。具体的には、外国人の入り込み統計調査結果から、伊豆市に観光客や宿泊客として訪れる人数が多い台湾、中国、韓国、それから欧米をターゲットにしてまいりました。

現在までの計画実施状況としては、昨年は上海万博に参加し、ステージイベントや繁華街での観光ＰＲ、そして昨年に引き続き本年も７月に台湾へ訪問し、官民一体となった観光プロモーションを展開してまいりました。

セールス結果としては、平成22年の外国人入り込み調査結果から、宿泊客は2,000名以上ふえて8,444人、これは実績であります。中国からの宿泊客が1,668人ふえて3,317人、全体の４割を占めるまでに中国人もふえてまいりました。台湾からは、観光ツアーが企画され、伊豆市に送客するプランが具体的に台湾の旅行エージェントから実施されることとなったことは行政報告で申し上げたとおりでございます。

なお、つい先日、県のほうから、去年の８月に訪問しました上海の旅遊局、観光局の次長さんですが、去年の９月とこの３月と２回キャンセルされておりまして、何としても伊豆に来たいということで、今県のほうでお取り計らいをいただいているところでございます。

それから、伊豆市の産業の中で市内就業者のうち第三次産業従事者は、全体の66.4％の１万2,718人で、そのうち飲食店、宿泊業の従事者は2,789人となっています。

それから、２つ目の４年間の総括と今後の抱負ですが、まず４年間で何が変わったかという御質問ですが、私が最も変わってほしかったのは意識です。伊豆市という新しいまちづくりを自分たちでつくることができる、自分たちでやらなければいけないという意識を市の職員にも市民の皆さんにも持っていただきたかった、共有していきたかったということでござ

います。その中で、伊豆半島の中でも人口減少問題が著しく深刻であるという危機意識を共有するために、人口減少危機宣言を発させていただきました。まだ道半ばではございますが、同じ方向を向いて歩いてくださる方々が少しずつふえているという実感を持っております。

それから、これまでの実績等ですが、大城前市長からいただいた市長事務引継書には25項目の課題がありました。その中で、実現していないものは２項目で、残りの23項目は着手したか実現をしております。

これまでの議会の中で議論されていないことのみ申し上げますが、例えば病院問題については、伊豆医療センターへのＭＲＩの新設、伊豆赤十字病院への運営費の補助、それから中伊豆温泉病院への医療機器購入補助等で実現をしてまいりました。

また、修善寺駅周辺整備事業は、大城市長からは、当該事業の可否決定の判断を含めて、そのものが引き継がれてまいりました。私は、伊豆市の将来像を考えるに陸の玄関口である修善寺駅の改良は絶対に必要であると判断し、今年度から工事に着手する運びとなりました。

また、庁舎建設につきましては、引き継ぎ事項を破棄いたしました。平成16年３月に基本方針を議会報告し、20年度予算に調査費を計上してあるという引き継ぎ内容でしたが、合併特例債を財源にできるにしても国民の負担であることに変わりはなく、そこの、県から購入した施設を転用することに方針を転換いたしました。

また、実現に至っていない課題としては、伊豆の国市との広域廃棄物処理施設、それから新エネルギー政策がございます。広域廃棄物処理施設は、現在、伊豆の国市において県環境影響評価に着手したところと聞いております。新エネルギーは、市民の方々の不安と反対が強い風力発電を一時見送り、太陽光、小水力、バイオマスの活用等を積極的に推し進めてまいりたいと考えています。

それから、最後の「伊豆の夢を拓く」ところですが、私は今でも伊豆市は必ず明るい未来を開くことができると信じております。そのためには、ここから四、五年間が最も大切な時期となります。残り半年の間に、だれが市長になっても方向性を誤らぬよう明確な指針を打ち立ててまいりたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　１の②と１の①、関連がありますけれども、逆に質問してもよろしいですか。

では、伊豆市の三次産業ですか、自分なりにも少し調べてきましたけれども、伊豆市の人口に対しての就業者数の割合ということで、人口総数が今３万4,900人ぐらいですか、15歳未満が13％、子供が少ない。15歳から64歳、それが64％、これは就業可能な人数です。就業者数が約１万9,000人ですか、仕事をしている方々が。65歳以上の人口が30％いる。高齢化が進んでいくと。転入者の数が1,200、転出が1,400で毎年200人ずつ減っている。出生した人数が175名ですか、そして死亡した数が446名。これも年間270人ずつ減っているわけです。

合計すると470人ずつ減っているというようなデータですけれども、そして婚姻の数、結婚した数が153組ある。離婚が76。約半分が離婚している。伊豆市は人口の減少の最悪のシナリオができている、そのように感じます。15歳以下が13％しかいない。高齢者が30％いる。転出、市外へ出てしまう人が200人、出生と死亡との差が270人の減。

その中で、先ほど言いましたが、就業可能な１万9,000人分の分類ですけれども、市長答弁ありましたように一次産業が８％ですか、二次産業は26％、三次産業が67％ということですけれども、先ほど市長が申された数字は何年ごろのことを言っているのか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　先ほどのデータは、ちょっと古くなりますが、平成17年の国勢調査の結果でございます。平成17年。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　調査年月日が古いようですけれども、何か補助金を出す団体の実態がよくわからないとか調査をしていないとか、いろいろな計画を練って予算を組むわけです、市でも。よく団体の実態を把握して、なるべく最近のデータをそろえてもらって、予算編成、決算をして、そして幾らの費用対効果があったとか、なるべく結果を出したほうが、要するに実態を把握して予算編成して費用対効果があったと。そのほうがベターだと思いますけれども、市長、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　先ほどのデータが古いのは、去年行いました国勢調査の確定値がまだ届いていないということで、正確な数字ということでしたら17年の国勢調査ということになりました。

それから、産業振興の費用対効果ですが、これ、議員御指摘のとおりに、どこの産業に強みがあるのかという観点から振興策は練らなければいけないと思っています。実は、県の市長会であったのですが、日本の場合には、産業政策が本来経済政策でなければいけないのに、救済の色彩が強い社会政策になっているというような話がございました。論理的には全くそのとおりだと思っています。そこで、当然救済が必要な産業とか個人もあろうかと思いますが、やはり産業政策は振興政策、つまり経済政策であるべきであって、ただし、問題はそこで、今までのように東京、横浜に行けばサラリーマンになれる時代ではありませんので、伊豆の中で伊豆の資源を使って、そして子供を高校、大学に送れるような所得をどのような形で得ていくのか、そこを今しっかり確立しなければいけないところだと考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　三次産業の内訳ですか、先ほどのデータで１万2,700人ぐらいが、67％ぐらいですか、それが伊豆市の中で三次産業に属しているわけですけれども、その中で

三次産業というのは電気・ガス、運輸、金融・保険、不動産、医療・福祉、学育、公務員、サラリーマン、そして飲食と宿泊があるわけですけれども、飲食業が約6.9％ぐらいですか、地元相手の飲食店がほとんどで、あとはドライブインと観光関係だと。そして、宿泊が1,480人従業者、このパーセントからすると7.8％がホテル、旅館、民宿、キャンプ、貸別荘、ユースホステル、要するに宿泊施設が1,480人で全体の7.8％だと思います。このような数字を見てみると、観光立市としては従業者数が非常に少ないなという感じを受けました。宿泊関係、ホテル、旅館が148事業所、従業者数が今申したとおり1,480人、7.8％ということです。これは、一次産業の農業関係者よりも少ない数字です。関連する飲食、サービスも含めて観光関係は15％弱だと、そのように思います。

質問します。

数字は別問題として、観光立市として力を注ぐ必要もあるかもしれません。市の決算でも観光振興事業に１億円、宣伝・イベント費用で観光協会5,600万円、毎年行っているわけです。関連して、ウェルネス事業が900万円、魅力プロジェクト2,400万円、温泉下水費の免除、伊豆市、これは148軒中、旅館、ホテルが148軒中、伊豆市内の件数ですけれども、そのうちの25、修善寺地区だけでしたが、1,400万円と。計画中の修善寺温泉駐車場も6,000万円を計画、天城温泉会館指定管理が2,500万円、土肥港の案内看板等整備で2,500万円等々であります。

本来は、振興策として助成金と補助金は、その業界を構造的に改善・支援して、そして前進・自立させて、最後は補助金を減額、なくすというのが基本定義だと思います。先ほどの業界のパーセントとか数字とかを絡めまして、市長、どのように思うか、お考えを伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　議員の今のお考えは、私は全くそのとおりだと思います。観光協会の年度当初で5,600万円でしょうか、今回補正をつけていますので、約6,000万円ぐらいの、当然入湯税を使っているとはいえ、補助金になっているわけです。

そこで、これまでも申し上げてきましたけれども、観光業イコール宿泊業ではない。私は観光を総合産業に成熟させたいという表現もしたことがありますし、別の言い方では六次産業化という言い方もされておりますけれども、六次産業としての事業を今１つ内々に、まだ申し上げられませんけれども、動いているものもございます。また、かつては旅館さんが地元の八百屋さんとか魚屋さんで買ってくれましたから、より広がりが多かったんですけれども、そこをこれからもう一度、やはり市内の魚や市内の野菜を使ってくださるように誘導し、そして、そこに何らかの措置を講じていくような、やはり六次産業化というものが必要だろうと思っております。それがまた伊豆の観光の魅力化にもつながると思いますので、一つの大きな柱になろうかと。

ただ、私もここ１年、観光であちらこちらの専門家から話を伺いますと、昔と違って伊豆

の認知度って低いんです。今、東京で修善寺を知らない方は物すごく多いんです、若い方は。そこで、ＰＲもやはりないというわけにはいかない。確かに、構造を変えることに主力を置くべきだと思いますが、残念ながら、改めて伊豆市、修善寺、土肥、湯ヶ島、中伊豆というものをＰＲしないと、かつてのような認知度はないということもまた事実でございますので、一定の資源は割かざるを得ないだろうなと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　わかりました。

では、１の１に戻らさせていただきます。

トップセールス、インバウンドについてですけれども、国・県、市も非常に総力を挙げて頑張っていると。目標が台湾、中国、韓国、欧米ということで、９月１日の行政報告でこの件については結果を発表してくれていますものですから、細かい動きも、台北市議会も表敬訪問したと。台北ロータリー70名が来春、伊豆市を訪問したいと。大手旅行会社もツアーを企画し、11月ころより来日する予定だと。それと、あと伊豆市への特使アドバイザーも考えているということですけれども、これらはそういう方向でわかりましたけれども、インバウンド、アウトバウンドと対して、スポーツ関連に関しては何かお考えがありましたら伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　ちょっと補足させていただきますと、去年の８月以降なんですが、やはり市長と議長と、それから観光事業者と、この３者一体のプロモーションというのが非常に効果があると思っています。行政の代表である市長だけではなしに、議会の代表、そして第一当事者という、この３者連携によるプロモーションは引き続きやってまいりたいと思います。

その中で、伊豆市はスポーツ施設で行くと、なかなか都市圏にはかないません。そこで、この美しい自然環境の中で、そして外国人も最近は非常に好まれます温泉と伊豆の食材ということが常にセットになっておりますので、その中にスポーツを組み込んでまいりたいということで、これは国内外を問わず、観光プロモーションの中にスポーツプログラムというものは一定量は入れ込んでおきたいというように考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　わかりました。食事、温泉もひっくるめて考えていくと。

平成21年度、伊豆市の宿泊客数の結果ですけれども、74万9,000人ですか、前年度比86.7％減少率で、県下では伊豆市は4.3％のシェア。伊豆地域、この伊豆半島の中でのシェアは6.9％。県の中での観光客の伊豆地域へ来るというのは60％ぐらいだと思います。21年度は今言ったような74万9,000人の数字でしたけれども、22年度、これが逆にふえているわ

けです。２万人の増。これはホテル、旅館等がリニューアルしたり、または企業努力によって、その成果とも感じます。23年度、ことしは東北地震の影響で、よく見て70万人前後伊豆市へ来るのではないかと。そのときの伊豆市での各地区のシェア、修善寺が41％、土肥が42％、天城13％、中伊豆が４％ということですけれども、伊豆市内、宿泊施設が全部で148軒ありますけれども、修善寺が25軒、土肥が77軒、天城が38軒、中伊豆が８軒と。そして、全部の伊豆市内での部屋数というのは2,500ばかりあるわけですけれども、それで収容可能人数、伊豆市全域で１万1,000人ほどの人が１日泊まれる、収容できるという数字です。

いろいろな数字を言いましたけれども、全体として、この中で23年度、17％ぐらいですかね、１万1,000泊まれるところの稼働率といいますか、17％ぐらいだと思います。修善寺がホテル、旅館が主ですけれども、旅館が大体１日当たり19人、修善寺の旅館が19人です。そして、土肥は旅館18人、天城が８人ぐらいですか。中伊豆はありませんので、総合して伊豆市全域としてホテル、旅館が148軒、部屋数が1,683、収容可能人数が１万1,177人、１日伊豆市内の宿泊客は1,900人と。１軒当たり13人お客が来るということです。このように国内需要が激減している中、インバウンド事業は非常に重要な位置を占めると感じます。スピード感を持って進めるべきと感じます。

質問します。

レートや為替、物価などの問題もありますが、より多くの人に来ていただくには、やはり中間層の取り入れというのが大事だと、そのように思います。企業努力も含めまして、低コスト、品質の高いツアーを提供する必要があると思います。その構想、メニューなど、ありましたら伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　観光に関して議論すると、どうしても何となく元気がなくなる方が多いんですが、冷静に言いますと、平成22年、伊豆市の入湯税、これは全国で18番目なんです。たくさん観光地がある中で、伊豆市はこんな小さなところで人口３万5,000人で、実は全国18位。お隣の伊豆の国市、大半は長岡だと思うんですが、23位。これ、実は、合併するわけではありませんよ。だけれども、伊豆市と伊豆の国市を合わせると、たった８万か９万の人口の地域で全国で７位か８位になるんです。これほどお客様は来ているわけです。したがって、ここをどうしてへこたれずにもう一度頑張っていくか。

そこで、実は台湾に行ったときに台北にある、日本旅館ができましたので、そこも視察に行ったのですが、何と中で使っている木がカナダの木なんです。それはいろいろなお考えがあって使ったようですけれども、しかし、あちらさんはあちらさんですけれども、やはり伊豆市の場合には改修するときは天城の杉やヒノキの木を使っていただき、そしてイグサは無理でも、地元の畳屋さんに使っていただき、伊豆の建材を使い、伊豆の食材を使い、そして伊豆の文化を紹介していく。そのようなことの中から、むしろ外国のお客様にも満足してい

ただけるようなものができるのではないかと思っています。

ただし、そこで変わってはいけない文化と、そして変わらなければいけない営業の仕方というのが恐らくあって、やはり台湾で痛烈に言われたのですが、日本式の１人なら２万円、４人では８万円というのはわからない、というか納得できない。これはだれが聞いても納得できない。あるところに伺いますと、ちょっとヨーロッパ風にベースを２人にして、３人、４人になったら食事だけ足していくというようなやり方をしているところがあるそうです。また、日本の旅館はそれそのものが営業ではなくて文化ですから、畳の使い方を知っている仲居さん、お茶を出せる仲居さんがいないと成立しないのですが、それがもう難しいところは多少ホテル風に変えていただくような、営業のスタンスを変える必要はあろうかと思っています。それによって、高級層から、ちょっとカジュアルな、韓国、上海、台湾の皆さんでもその地域の中間層の方々でも来られるようなカジュアルなところもビジネスとして生み出されていくのではないかと思っています。

なお、ここのところ、円高、円高ということでインバウンドは難しいという議論もありますが、円高は実は国内の消費者物価の下落とリンクしていますので、したがって、外国人にとっての購買力はそんなに変わっていないという議論、むしろ、まだ円高方向の圧力があるというような分析をされている経済学者さんもいらっしゃいます。ですから、余り円高に気おくれしないで積極的に富裕層、それから中間層を取り込む努力は進めていきたいと考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　わかりました。誇れるところがあると。入湯税が全国で18番目と。そして、中間層の取り入れも考えているということで、わかりました。

３月議会の施政方針で台湾へのプロモーションの継続、新たに韓国へのプロモーションの計画をしているとの構想のことを言いましたけれども、その構想が進んでいましたら、その構想を伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　年度当初は、台湾と韓国、プロモーションを考えていたのですが、台湾は非常に効果があると思いましたので、７月に行きました。もう１カ所、県も振興している韓国に行くのか、上海にもう一回行くのか検討していたんですが、このたび、健康づくりの郷事業を御支援いただいています民間活力開発機構から御提案がありまして、大連の北側、大連と瀋陽の間ぐらいにある龍門温泉というところの日本式の温泉事業の開発に慶応義塾大学が委託を受けて、それを民間活力開発機構が支援しているんだそうです。そこで、健康づくりの郷を一緒にやっている阿蘇市、それから洞爺湖町、この５者、ですから慶応大学、民活、伊豆市、阿蘇市、洞爺湖町という５者で一緒に10月に急遽大連に行くことがほぼ決まり

まして、ことしのもう１回のプロモーションはそちらにしようと思っています。

なお、大連は、御承知のとおり歴史的に日本が開発したところでもあり、また周辺人口を含めて1,000万人ぐらいのバックヤードがあるそうでございまして、私も初めて伺うんですが、台北、上海と同じような効果が期待できるのではないかと考えているところでございます。これはまだ決まってはいないんですが、ほぼその方向で今検討をしております。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　大連へのプロモーションを先にやるということですけれども、交流は電話と同じで、片側通行では意味が通じません。インバウンドに対してアウトバウンド、その計画、お考えはあるのでしょうか、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これも議員全く御指摘のとおりで、特に知事からは、あなたたちがお客様に来てほしいなら先に行きなさいと、これはもう再三再四強く御指導いただいておりまして、私もどうしても、やはりこの伊豆市ぐらいで３度、４度の外遊というのは大変厳しいものですから、もし志がある議員さんがいらっしゃいましたら、ぜひ議員の皆さんも、できれば観光事業者さんと一緒がいいかもしれませんけれども、こちらからも我々が、来ていただいた地域には訪問していただければありがたいと思いますし、インバウンド、アウトバウンドだけではなしに、特に我々にとって大事な駿河湾フェリーも、伊豆市の市民、伊豆の住民がまず率先してフェリーを使うというようなことも大事だと思っておりますので、将来はインバウンドも、こちらからのアウトバウンドもぜひ御支援をさせていただきたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　わかりました。

インバウンド、アウトバウンドに関連して、伊豆市の地場産品の輸出入についてのお考えはあるのか。

そして、この活動が一部重複しています、リンクしています経済アドバイザー、海外での活動、活躍等、その成果がありましたら、その２つを伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　経済アドバイザーをお願いして、ちょうど１年たちました。なかなか皆さんに全部報告できないのですが、ビジネスの世界ですので。期待以上の活躍をしてくださいまして、12月にはまたその延長も含めて議会のほうに報告と御議論をお願いしたいと思っております。

特に、ワサビの値が春から夏にかけて下がり、あるいはシイタケの輸出が停滞しているということで、最初はワサビとシイタケの輸出をお願いしてきました。香港などにも直接行っていただいたんですが、中国の方は本ワサビの香りのあの辛い、何か西洋ワサビのほうが好みなんだそうで、ちょっとワサビが苦戦をしております。シイタケは、食材としては非常に

いいのですが、一番本当にいいところがなかなか量がとれないことと、価格の問題で、可能性はあるのですが、すぐに成約ということにはなっておりません。

なお、国内の地場産品の伊豆の特産品のプロモーションについては、東京の首都圏で幾つかのものについて成約がなっておりまして、これはもう少し成果がはっきりしてから議会のほうにも経済アドバイザーによる特産品のプロモーションについての成果は整理して御報告したいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　なかなか種類とか価格の面で苦戦しているということで、わかりました。

最後ですけれども、市長の総括と今後の抱負、アピール、庁舎建設とか修善寺駅周辺の整備に着手したとか、それぞれの結果を言ってもらいましたけれども、それは了解です。

ただ、３番目の質問で、ちょっと市長が早口で遠回しに何か言ったものですから、もう一度、何かちょっと僕も理解しにくいところがありましたものですから、できれば抱負をもっと単純明快に言ってもらいたいなと思いますけれども、もう一度お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません。いつも早口で申しわけありません。

まず、大切なことは、人口減少とか産業の停滞とか厳しい中で、しかし、２年以内に東駿河湾環状道路が完成し、修善寺駅の完成も目途にあり、それから天城北道路も平成30年ころまでには完成するような立地の中で、私は伊豆市は必ず明るい未来を開くことができると確信をしております。その前提に立って、これはどうしても元自衛官の癖が出るんですが、だれがかわっても、だれが自分とかわっても方向を誤らない土台をつくっていくところが、どうしても考え方の根本にあるんです。ですから、残り１期目の任期は残り半年となりましたが、当然これから一番大切な四、五年の中の半年間の間に、だれが市長になっても方向性を誤らないような、そのような明確な指針を打ち立てて、そしてその方向に沿って進み始める、このようなことに自分の努力を傾注してまいりたいと考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　では、明るい未来に向かって突き進むということでよろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　突き進んでまいります。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　確認ですけれども、市長の年齢については若くてパワーがあると、そのように思っています。自身の体調、健康度については、自分の診断でいかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　私の健康状態は万全ですが、もう一つ健康状態が大事なことがあって、それは伊豆市の財政です。これは合併したときの財政計画、相当下がっているように何となく皆さんお感じのようなんですが、実は財政計画のほぼ同じペースで今進んでいるんです。このままいくと厳しいのはわかり切っていますから、まさにそうなんです。今、ほぼ平成16年度につくった財政計画のとおりに進んでいますので、ここから反転攻勢するための、私の健康もですけれども、伊豆の財政の健康ですね。今、正念場ですので、そちらのほうも明確に反転攻勢するための材料をこれから提示をさせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　森島議員。

**○４番（森島吉文君）**　では、トライする気は十分にあるということを確認しまして、私の質問を終わらさせていただきます。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　これで森島吉文議員の質問を終了いたします。

１時55分ですので、２時５分まで休憩といたします。

休憩　午後　１時５５分
再開　午後　２時０５分

**○議長（杉山羌央君）**　では、休憩を閉じ、会議を再開いたします。

### ◇　梅　原　泰　嗣　君

**○議長（杉山羌央君）**　次に、２番、梅原泰嗣議員。

〔２番　梅原泰嗣君登壇〕

**○２番（梅原泰嗣君）**　議席番号２番、梅原です。

広域ごみ焼却施設の建設の推進につきまして一般質問をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

広域ごみ焼却施設は、平成９年に策定された静岡県ごみ処理広域化計画に基づき検討され、最終的に伊豆の国市との広域化が決まり、平成17年９月に建設計画がスタートしました。その候補地につきましては、平成20年に堀切地区を断念し、現在、伊豆の国市市内の市有地を建設候補地の候補として検討されておりますが、既に６年の歳月を要してもいまだに候補地が正式に決定されておりません。当初の計画ですと、平成23年度末には新しい焼却施設が完成する予定でした。過日、建設候補地の環境アセスメント調査実施の説明会が行われたと伺っていますが、環境アセスメント調査だけでも約１年の期間が必要と聞いています。現状ですと、建設候補地の決定さえ少々心配になり、あと何年で建設のめどがつくのか不安な状況

です。

一方で、柏久保にあります衛生センターごみ焼却施設は昭和61年４月に稼働を開始し、旧修善寺、中伊豆、天城湯ヶ島町、そして現在、伊豆市のごみを１日平均約20トンから23トン焼却しています。一般的に、この種の焼却施設の使用年数は約20年とも聞いていますが、既に26年間稼働しており、施設の老朽化は否めません。早急に新しいごみ焼却施設の完成が待たれます。

質問の趣旨は、広域化のメリットである新しいごみ処理施設の運用コスト等と、候補地選定の現状、また現焼却施設の老朽化によるリスク、施設補修費等について、ごみ処理コスト、市民サービスの観点から再検討し、現状どおり伊豆の国市主体の建設事業を忍耐強く待ったほうがよいのか、建設候補地を変更したほうがよいのか、または当初の計画そのものを見直し、両市独自で建設を再開するのがよいのか検討する必要があるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの梅原泰嗣議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げますが、大変に厳しい問題でございまして、議員御指摘のように忍耐強く待ったほうがいいのか、あるいは場所を再度変更するのか、あるいは両市に戻すのか、今３つの選択肢を議員から御提示がございましたが、私は伊豆の国市としばしば協議しながら、今スポーツワールドの跡地で環境アセスメントに着手したところでございますので、当初の計画よりは大分おくれてはおりますが、その方向で進んでおりますので、その枠組みは壊したくないと考えております。

仮に、両市で別の場所を探すにせよ、それぞれの市に戻ったにせよ、ごみ焼却施設が要らない、つくらないという選択肢はないわけです。どこかにつくらなければいけない。必ず同じ問題が起こる。その中で、どこの場所にせよ、最新の設備の中で、その中での安全性とか、あるいは附帯施設によってはまちづくりへの生かし方とか、同じテーマが続くわけです。私は今、自分が望月市長と並んで地元の皆さんとお話しする立場にはまだ立っておりませんけれども、現在、伊豆の国市のほうで進めておられる作業を慎重に見守りながら、そして伊豆市としても、ある時期にはしっかり一緒に走らせていただきたいということで見守っている状況でございます。

伊豆の国の市長からは、環境アセスが終わったら両市でしっかり準備会として枠組みで前進していくということも承っておりますので、環境アセスの結果を待っているところでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

梅原議員。

**○２番（梅原泰嗣君）**　今、伊豆の国市で推進をしていただいています候補地選定の現状をどのように見るか、はたまたどのように分析するかということに尽きると思いますが、前回の堀切地区は約１年半で候補地選定を断念しております。伊豆の国市に候補地選定を今、移管されまして、既に３年を経過し、４年目になります。もちろん、伊豆の国市さんには大変な御尽力をしていただいています。しかし、先般、環境アセスメント調査の説明会を２回開催したようですが、参加者の方は１回目が４名、２回目が２名ということで聞き及んでおります。この近隣住民の皆様が説明会にほとんど見えないという状況は、私は、推察で申しわけないんですが、過去の経緯で２点ほど思い当たる節があります。

まず１点は、平成９年の春に旧伊豆長岡町のごみ焼却施設からダイオキシン検出の事件がありました。これは平成９年４月15日、それから５月２日、それから５月９日に３回に分けて静岡新聞に報道されました。これは１回目は、旧伊豆長岡町のごみ焼却施設から規定ダイオキシンの基準値の３倍を超す数値が検出されたという報道でした。２回目は、町のほうでその改善案について県に報告をしたと。３回目は、その施設の緊急改造補正予算を伊豆長岡町の議会で可決したという報道でした。

一方では、その近隣の花坂という地区でしょうか、住民の皆様には当時の行政から、間もなく合併があります、合併後には新しいごみ焼却施設を建設します、ついては、この場所ではなくて新しい場所に移りますというような説明がされたようです。そして、それの覚書もあるようです。

２点目は、今ここにございますけれども、「伊豆の国市・伊豆市広域一般廃棄物処理施設基本構想」という冊子がございます。これが発行されたのは平成19年３月、伊豆の国市さんと伊豆市の連名になっております。この内容を見ますと、平成17年度のごみの状況をデータにしまして、平成18年度に約１年間をかけて、この基本構想を検討されたように伺います。この基本構想の中に用地取得費という項目がございまして、この項目の冒頭の文章だけ、ちょっと読ませてください。「両市では、既設の焼却施設の敷地内において、新ごみ処理施設の用地確保が困難であることから、他の用地確保が必要となってきます」という、この１行の冒頭の文章から始まっているわけです。

したがって、私は今までのこの２点の経緯を見ますと、伊豆の国市の南山地区の皆さんは、恐らくもう新しい施設は今の施設内には建設されないと理解されているのではないかと思います。したがって、どうも候補地の選定のいろいろな説得とか、そういう話し合いをはなから、最初から、もう伊豆の国市さんの花坂、それから長塚、それから珍野の皆さんとは全然もうコミュニケーションがとれていないのではないかというような可能性を感じます。

先ほど菊地市長からの回答の中に、現在のスポーツワールド、それでその枠組みを壊したくないという回答を伺いましたが、確かに今、伊豆の国市さんのほうに候補地の決定について移管してありますので、菊地市長としても余り僭越な発言はできないと思いますが、ある意味では同じ広域の行政の同格の立場なんです。そういう枠の中の立場として再質問させて

いただきますが、まず先ほどの市長の話にもございましたけれども、環境アセスメント調査を行った１年後、その調査結果に基づき、近隣住民、すなわち今の花坂とか長塚とか珍野の皆さんに御理解をいただけるとお考えなのか、はたまた、法的な問題は別にしまして、近隣住民の皆様の反対はあっても建設を進める、または建設をすることができるとお考えなのか、再質問します。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　幾つかの複雑な問題があるんですが、過去の協定の効果については、これは専門家の判断をいただくしかないと思っています。

そして、スポーツワールドの地元３地区の方々の御理解を得られるかどうかについては、これは私は直接出向いておりませんので、伊豆の国市長の現在の御努力を支持させていただく以外にない。これは用地の購入と取得と、それから周辺の市民の皆さんへの御理解と両方あるわけですが、今の候補地の予定地といいますか、スポーツワールドのところは伊豆の国市さんの市有地ですので、あとは共通に、どこを選ぶにせよ、必要な地元の住民の皆様の理解ということになるわけです。これは場所を変えたら、ではほかに余裕があるかということは恐らくないわけで、同じ努力が必要なんだろうと思うんです。

そうしますと、現在伊豆の国市さんが、ことしは環境影響評価、それから基本設計まで予算化をして、その方向で着手されておりますので、そこを我々も自分の立場の範囲内で支持させていただく、これが唯一の選択肢なんだろうと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

梅原議員。

**○２番（梅原泰嗣君）**　今、市長のほうから、こういったいわゆる迷惑施設、こういったものについてはどこに建設しようが同じような問題が発生する、あるいは同じようなテーマを抱えることになろうかというお話がありましたけれども、私は今、柏久保の地元に住んでおりますので、昔から焼却施設が近くにあります。したがって、近隣の皆様のいろいろな、降ってくる灰とか、それからダイオキシンの身体的な不安ということですか、そういった話も聞いております。

今、古い焼却施設があるところの皆さんに新しい焼却施設の説明をするのは、なかなか困難だと思うんです。つまり何を言いたいかといいますと、確かに最新のごみ焼却施設は、排煙とか、それから臭気等もクリアされて、ほとんど公害はないと思います。したがって、私も２カ所ほど見せていただきましたけれども、こんなところにごみの焼却の施設があるんだというところに今はあるんですね。それは、今までそこになかったんですね、焼却施設が。なかったところにそういう新しい最新型の焼却施設を建てることが、それはその説明のしようというか、あれによっては住民の皆さんには理解が得られる。ところが、過去にかなり古い焼却施設があって、やれダイオキシンの問題とか灰の問題とかというので被害を若干でも

被っている、あるいは被る危険を、不安を抱いた住民の皆さんに、今度新しいのができるからとおっしゃっても、なかなかその不安は拭えないと思います。そういったことで、やはり先入観を変えるのは非常に難しいと思います。

したがって、今、私は、菊地市長がおっしゃいましたけれども、もう既に伊豆の国市は今年度の予算もついている、だから変えようがないんだという話なんでしょうけれども、やはり候補地を、今のスポーツワールドですか、そこを見た限りではかなりそういう、今私が話したとおり厳しい状況があるではないかというふうに私は推察します。確かに、建設候補地をころころ二転三転、七転び八起きではありませんけれども、そんなに変えることはできないでしょうけれども、状況によっては３回ぐらいは候補地を変えるということはどうでしょうか。いかがでしょうか。

と申しますのは、既にもう、先ほども話したこの基本構想ですと、ことしの23年度の３月末にはもう完成ということで、そこからですね19年３月にこれができまして、19年９月、だから、ちょうどもう６年前からこれがスタートしているわけです。６年間たっても、まだ候補地が決まらないという状況なんです。したがって、それはまことにすみませんけれども、スポーツワールドさんの今の状況を考えると、もう一度候補地を選定したほうがよいのではないか。これは私は、市長さん、まことに申しわけございませんけれども、トップ会談でぜひ菊地市長から望月市長さんにちょっとアプローチしていただくと、望月市長さんも、いや、菊地さん、実は僕も困っていたんだ、候補地を変えてもいいかねとおっしゃるかもしれませんので、ぜひそういったトップ会談を検討していただきたいと思います。

これはいろいろあるでしょうけれども、もし回答ができましたら回答をお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　地元の皆さんとの話は、伊豆の国市長に全面的にゆだねておりますが、環境影響評価と、それから基本設計は準備会として予算をつけて動いているわけです。今、望月市長が、大変厳しい状況であるし、私も非常に心苦しいじくじたる思いもありますけれども、今一生懸命されているところを信頼して進めていただくことを期待をしているわけでございまして、今ここでこちらから、先輩、ギブアップはということはとても申し上げられる状況にはございませんで、望月市長の手腕と力量に期待を引き続きさせていただきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

**○２番（梅原泰嗣君）**　ありません。

**○議長（杉山羌央君）**　では、これで梅原泰嗣議員の質問を終了いたします。

### ◇　木　村　建　一　君

**○議長（杉山羌央君）**　次に、20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　20番、木村です。

大きく３点お尋ねします。

第１、天城会館の指定管理者が扱う施設の範囲に矛盾はないかという質問です。

ことしの６月議会で天城温泉会館の条例の一部が改正されましたが、指定管理者が管理する天城会館の施設で展示館とはどの範囲をいっておるでしょうか、御答弁を願いたいと思います。

大きな２つ目です。天城地区３小学校を１校にする。教育委員会がこの件について、狩野小学校とした理由は、再編成準備委員会の総意を反映したと言えますかということです。

４点お伺いします。

１つ目、天城地区の小学校を１校にすることが再編成準備委員会ではできずに、教育委員会自身が決めざるを得ないと判断した経過と理由について伺います。

２つ目です。教育委員会は、再編成準備委員が再編成するに当たって重視したことは何ととらえていますか。

３点目、準備委員会では校舎の耐用年数のことについても話題になりましたが、将来の建てかえの構想を伺います。

４点目です。再編をしたいとする狩野小学校の最大の課題は、先ほど午前中いろいろな、おもしろく議論を聞かせていただきましたが、土石流危険箇所に位置していることです。再編までには教育環境の大前提、子供の命と安全を守る課題は解決するのでしょうか、お答え願いたい。

大きな３点目です。関連します。先に１学年２学級の結論ありきではなくて、どんな学級、どんな集団になってほしいのか、保護者や市民の中での話し合いの場を繰り返し求めていきますが、３点お尋ねします。

すべて関連することですけれども、１つ目、今回の学校再編成の動機は、いろいろ言っていましたが、複式学級や１学級の児童の人数が多いとか少ないとかという問題にしたのではなくて、１学年１学級では子供の成長によくないんだ、１学年２学級以上を目指したいということでした。ことしの３月議会で教育委員会は、同じクラスで10年近く一緒にいるということは子供の成長がうまくいかないと思うが、このことが学問的に、教育的に検証されているかというと、きちんとしたものはないという見解でした。それでも１学年１学級と２学級と比較して教育上の優劣があるという基本姿勢は変えないということですか、見解を求めます。

２つ目です。教育委員会は、クラスがえができないと子供たちが序列化されると。１クラスで10年近く一緒に過ごしていると、走るなら○○君、絵をかかせたら○○さん、何々なら○○さんというようになってしまう。中伊豆の大東小学校の生徒は序列がきっちりしていた、こういうことを市民に話していますけれども、１学年１学級では１番、２番は優越感を持ち、

びりのほうは劣等感を持つ子供が育つというのは、日本じゅうどこの学校でも言えるという判断で進めているのかどうかお尋ねします。

最後の質問、３点目。１学級であろうが２学級であろうが、その子供の集団が話し合える学級になっているのかどうか、一人一人が自尊感情、いわゆる自分自身が大事だなという感情を持てるようにすることが人として成長するのに私は大切なことだと思います。違う意見を持った子供を排除する集団であれば、子供の多い少ないには全く私は関係ないと思います。まさに、教育の質の問題を考えることではないでしょうか。学校現場で教師はどんな子供を今育てようとしているのか、保護者は今どんな思いをしているのか、もう一度原点に戻った議論が必要でありませんか。

以上、明確な答弁を求めます。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの木村建一議員の質問に対し、答弁を求めます。

初めに、市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　天城会館についてですが、ちょっと質問の御趣旨が必ずしもわからないんですが、展示館――展示館というのは、具体的には旧天城温泉会館の今使っておりませんけれども１階の旧浴場部分と３階の旧売店及び旧軽食コーナーということで、改正前の条例の展示コーナー、真ん中の部分ですね、ここは含まれておりませんで、ちょうどリンケージ、接点になっております旧展示コーナーはエントランスとともに天城劇場ホールに附帯するもので、市直営のまま残すということでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、教育委員長。

〔教育委員長　原　　京君登壇〕

**○教育委員長（原　　京君）**　木村議員の御質問に、細かいところの１点目と２点目について私から御答弁させていただきます。

１点目の、１校にすることについて教育委員会自身が決めざるを得ないと判断した経緯と理由についてですけれども、これは教育委員会が判断したというよりも準備委員会の中で結論が出たわけです。教育委員会としては、学校再編成準備委員会で候補地１校を選定していただき、その準備委員会の意向を受け、教育委員会で最終決定し、議会でお諮りして承認を得ること、これが一番望ましいというふうに考えておりました。が、先ほど鈴木議員の御質問にお答えしたとおり、準備委員会で結論を見ることなく教育委員会にゆだねられたわけです。したがって、教育委員会において１校を選定し、準備委員会に報告する、こういうことに至りました。これが経緯でございます。

２点目の、再編成準備委員会が再編成に当たって重視したことは何ととらえていたかとの御質問でよろしいかと思いますけれども、準備委員会における委員の方々の御意見を踏まえますと、子供たちにとってどこが最も適しているかという校地に関することが最も重視されていたというふうに考えております。

３点目以降からは教育長がお答えします。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、教育長。

〔教育長　遠藤浩三郎君登壇〕

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　校舎の建てかえの問題でありますけれども、現時点では具体的に建てかえの計画、構想は持っておりません。

次に、土石流危険渓流に指定されている入の洞の問題でありますが、今後、国土交通省に砂防事業の実施を要望していきます。子供の命と安全を守るために、ハードとしての砂防工事はもちろんでありますが、ソフトとして避難体制の整備が重要と考えています。砂防工事が完了するまでの間、学校における安全な避難経路、避難場所を再確認し、万が一土石流が発生した場合にも子供の安全が確保できるよう避難体制を再検討し、子供の安全確保に努めてまいりたいと思います。

次に、学校再編の目的でありますが、よりよい環境をつくることに尽きるわけで、再編成を実施していく中で、結果として２学級規模の学校を再編成することで複式学級や少な過ぎる学級の問題点の解消を目指しております。土肥地区は複数クラスにはなりませんでしたが、土肥南小の複式を回避することで子供への負担を軽減できたと考えています。

子供たちは、学校生活において他の児童・生徒や教職員との多様なかかわりを通じて、相手の考え方や立場を理解しながら自分の考えを深めたり、切磋琢磨することにより社会性を身につけていきます。また、グループ別学習や部活動、運動会など一定規模の集団を前提とする教育活動により、豊かな人間関係の構築や社会性を養う大切な時期であります。学校の小規模化が進行すると、こうした集団による学習効果を得ることが難しくなると考えられます。さらに、複数クラスになることにより教員集団の規模も大きくなり、教科指導、生徒指導などの情報交換なども行うことができ、外部的な仕事も分担されるため教師にゆとりが生まれ、子供に対して質の高い教育活動が展開できると考えております。

次に、１学年１学級すべての学級で優越感、劣等感を持つ子供が育つということではありません。小規模化が進み人間関係が固定しがちな学級では、その可能性が高まるというぐあいに考えています。現代の子供たちは自尊感情が育ちにくいとされておりますが、特に限られた人間関係の中で自尊感情を育てていくことが難しくなっているのが現状であります。集団として多様な考えを出すことが難しい少人数クラスあるいは男女比のアンバランスなクラスで長年培われた考え方、見方を修正するのは容易なことではないと考えます。互いの違いを認め合えるには、一定の規模や集団が存在する中でいろいろな意見、価値観に触れるからこそ、みんな違ってみんないいというような思いを持てるのではないかと考えています。

最後に、伊豆市の子供たちがふるさとを愛し、知・徳・体のバランスがとれた心豊かで主体的に社会を生き抜くことができる人間に育っていくことは、だれもが願うことであります。しかし、子供たちを取り巻く環境は厳しく、複雑な人間関係あるいは過度の情報のはんらんにより、多くの場面で正しい判断や適切な行動が必要とされてきています。新しい学習指導

要領でも、生きる力の育成をキーワードとし、知識、技術の習得とともに、よりよく課題を解決する資質あるいは能力の育成が求められています。このような力を身につけていくために、何事にも挑戦してみようとする意欲の基盤となるのが、議員も言われているような自尊感情、自己有用感であろうと思います。自分が大切にされ、必要とされているという思いのある子供は、社会や集団の中で失敗してもくじけず、再チャレンジすることができます。一定規模の集団の中での学校生活を過ごす中で、多様な考えや価値観と出会い、問題を解決しながら自尊感情や自己有用感を高めていく教育活動を展開していきたいと考えます。

次に、どんな子供を育てようとしているのかということでありますが、保護者、地域の方の思いなど、行事や参観会、ＰＴＡ活動を通じて意見を伺うことが大切であると感じております。今回の再編成により、学校についての関心を高めていただける機会となったと考えています。中伊豆小では、保護者部会の方々のアンケートをもとに学校運営部会が新しい学校についてグランドデザインをつくり、23年度からスタートしています。今後もより多くの保護者、地域の方が学校にかかわっていただけるチャンスととらえて、再編成する学校では新しい学校づくりを進めてまいりたいと思っています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　天城会館のほうから。ちょっと抽象的だったのかな。お尋ねします。

市長が言われるように、６月議会に向けて天城温泉会館の施設の指定管理をする範囲を議決しましたが、今質問した展示館というのはいろいろあるんですけれども、お尋ねしたいのは、１階部分の洞窟ぶろと池は指定管理の施設ということで今度は提案されました、で、可決された。これを決めるのに、いろいろ担当のほうに聞いたんですけれども、６月議会に向けてやるのに、５月11日と19日、この２日間で各課から職員が出ていって構成される法令審査会があるということで、内部的な形ですね。これが11日、19日の間で行われて、今言った１階部分の洞窟ぶろと池は指定管理の施設にしましょうと、こういうことになった。

その日から10日ほど前です。私、資料をいただきましたけれども、同じところ、洞窟ぶろと池の施設を伊豆市観光協会天城支部に無償で貸しましょうという行政財産使用許可証というのがあるんです。そうすると、同じ施設なのに、片方は無料でやりますよと言って、片方は指定管理者ですよということで、市の建物でありながら２つの約束事が出てくるということが私は不思議で仕方ない。どのように解釈すればいいですか。解釈がわからない、私は。何なのと言いたいから、お願いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。どちらですか。市長ですか。

総務部長。

**○総務部長（鈴木伸二君）**　１点だけ私のほうから、これ、全部ではないんですが、今、木村議員、法令審査の中で決めたという御発言だと思うんですが、法令審査のほうは担当課で出

てきた内容の法令を審査して、これが妥当かどうかという判断をするだけでございますので、原案の決定そのものは担当課のほうで、ここはこういうふうにするという区分はしておりますので、そこだけはちょっと私のほうから訂正をさせていただきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　先ほど言われました法令審査会云々という話は、ちょっと私も初めて聞いたんですけれども、実はその前に、５月20日ですか、内部の市営施設運営委員会というのがございますけれども、この中での資料、検討結果の図解というふうなことで入っていますけれども、洞窟ぶろにつきましては、一応行政財産の使用ということで観光協会天城支部に、その申請に対して許可をしているということで、指定管理施設という考え方はないというふうに理解しておりますけれども。

**○議長（杉山羌央君）**　木村建一議員。

**○２０番（木村建一君）**　なぜ法令審査会というのがあるんですかと聞いたんです。そうしたら、今度条例改正になりましたよね。展示館はどこだとか温泉館はどこだと、すごくわかりづらかったので、聞きに行った。そして、そのときに、なぜこんなことをやるんですかと言ったら、条例できちんと、どの場所はどこですよということを指定しないと困るからということで、ではどこと言って、地図をもらいました、私は。

そうしたら、展示館というところがあります。当局が出した資料。展示館、いわゆる１階部分の展示館を見ますと、今お話しした５月９日に行政財産使用許可証というのを天城支部に出しました。無料で貸しますよと。この展示館の中に、どこの範囲と聞いたら、洞窟ぶろと池が展示館、指定管理にするという範囲の中に入っているんですよ。だから、どうなのと。片方ではもう既に、その後に、いつだかわかりませんよ。前後どうだかわからない。５月９日前か後ろか僕はわからないんだけれども、指定管理をしましょうと展示館の中に、片方はもう既に――既にか前か後かはわからないけれども、行政の使用許可証を、ここにあるように洞窟ぶろ及び池、計２カ所、これをホタルを飼養する、育てるということで使用の目的、やりましょうよとなっている。こちらでは、指定管理者の範囲の中には今言った同じ施設の中の一部、池と洞窟ぶろは指定管理しますと。

今度、指定管理者の範囲が決まるんだけれども、どういうふうに考えているんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　本件については、繰り返し申し上げていますとおり理路整然とした事業に非常になりにくいです。全くつくったときと違う目的で使おうとしているわけであって、ある議論の中では、当然これはもう使用しない、そのまま放置すべきだという議論もあるかもしれません。そこの政策判断として、湯ヶ島地区の中心部に廃墟をつくりたくないので、何らかの形で少ない費用で維持をしたいということはかつてより申し上げているとおりです。その中で、そういった議論、検討の中で観光協会の天城支部のほうから、ホタルの養育に使いたい、それも今年度から使いたいということで、それを先行的に認めるために貸し付けと

いう手続をとったと記憶しております。

そこで、今度、指定管理の中にその施設が入るわけです。そうすると、敗戦処理だから難しいんですよ、これは。ホタルの飼育は自主事業だから指定管理になり得ないです。そうすると、６月は、今度はいわゆる公の財産、準観光施設として、そこの一部はホタルまつりの中で、雨が降ったり天気が悪いときには下の洞窟ぶろのところでホタルを放し飼いにして、ホタルまつりの準会場としても使いたいということがあるわけですから、そのための準備段階として１年飼育に使うということで論理構成せざるを得ないわけです。したがって、天城会館を指定管理にする時点で無償貸し付けから指定管理に全面的にステータスを変えて、それ以降は展示館も含めて指定管理の対象とする。無償貸し付けは切って、ではその間は11カ月何に使うんだというところはホタルの飼育になるわけですけれども、それは地元の活動であるホタルまつりの準備期間ということで御理解をいただきたいと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　市は、市民の財産をきちっと管理する責任があるんですよ。だから、私は、細かいことでなく大事なところのお尋ねです。

では、余り時間がなくなっちゃうから、こればっかりやっていると。

では、ちょっとお尋ねしますけれども、行政財産使用許可証というのを５月９日付で出した。そのときに指定管理者の範囲にしましょうといったのは、部長、御存じですか。知っていて、こういうやりとりをやったか。どっちが先だかわからないんだよ。５月９日だけはわかるんだけれども。では、指定管理者の範囲にしましょうというのは、いつですか、決めたのは。これを承知の上でやりましたか。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　ちょっとその辺は私とは、行政財産の許可をした時点で、その時点で指定管理云々というのは承知しておりませんでした。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　次に移りますけれども、６月議会でこの件についても論議になったときに、担当課長はこう言っていたんですよ。洞窟ぶろと池は天城温泉会館の外ですと言っていましたから、委員会で。その点はきちんと確認して、今度また条例が出てくるでしょう。しっかりと意思統一、見解を統一して臨んでください。

次に移ります。

学校再編で準備会の様子と、それから、その中で話し合われたことについてお尋ねしますけれども、準備会が決めたから教育委員会がそれを受け取ったんだという説明でしたが、７月26日の経過を少しお話しします、何も話していないから。こういうことですよね。私ずっと聞いていたんだけれども、話を。

狩野学区のある方から、狩野学区で狩野学区の人に集まってもらいました。そこで再編候補地として狩野小学校が最適という意見が圧倒的に多かったという報告をしたんです。御存

じだと思います。それに対して、湯ヶ島学区、月ヶ瀬学区で、それぞれの地区の人の意見を聞けば、湯ヶ島小学校がいいとか、月ヶ瀬小学校がいいとなるのは当たり前じゃないかと。なぜ今さらそんな報告をするのかということで、本当にけんけんがくかくやったのは御存じですよね。そこで、休憩になりました。10分休憩となって、なかなか始まらないからどうしているのかなと思ったら、20分ぐらいして、またみんな集まって、準備委員長が準備委員会では候補地を決められないから教育委員会に任したいとなった。

そこで、お尋ねします。この準備委員長、三役と話し合いをした方はどなたですか、教育委員会のほうで。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。どちらですか。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　準備委員長と副委員長２人に、教育長と、こちらにいる事務局長と私が呼び出されてお話をしたと記憶しておりますけれども、間違いないですかね。いいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　そのとおりですよね。そこで、さらにお尋ねします。

この教育委員会、この７月26日の準備委員会にはそのほかに教育委員の方２人いらっしゃいました。この２人の教育委員は蚊帳の外ですよ。なぜかというと雑談していたんだから、あなた方が出ていった後。出ていったというか、休憩だからどこかへ行ったんだが、なかなか帰ってこないから。

私は、教育委員会の方々、教育長も教育委員長も児童・生徒、人を本当に育てるという大事な役割を担っていると思うんですよ。そのためには、一人一人の人格やその思い、考えを丁寧に扱うこと、私はそう思っています。あなた方２人は特別な権限を与えられているのか。私はそうではないと。教育委員会というのは教育委員長、きょうの中でどこかで出ていた……、合議体ですよね。別に、この点が性格がちょっと違う。別に市長がどうのこうのでなくて、市長はこうだとなったら方針を出せるんですよ。教育委員長であろうとも、それは出せないですよね、合議体だから。

そこで、なぜ２人は外れて、準備委員長ほか三役の方々とあなた方が話し合ったのか。なぜそうしたのかわからない。本来なら、同じ任務、責任ある教育委員、ほかの２人もちゃんとその中に入って、どういうことを今話し合っているのか聞くべきじゃないですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　まことにおっしゃるとおりだと思いますけれども、休憩中のことで私も呼び出されたというようなことで、準備委員長からの呼び出しがあって、それで打診をされたわけです。こういうような状況で結論が出ないから、教育委員会のほうで引き受けてくれるかというような打診があった。そのことについて、20分と言われましたけれども、

いろいろここでどうしたらいいものかということを話し合いました。教育委員、ほかの２人をそこで呼ぶべきだったといえば、そうなのかもしれませんけれども、私どもはそこは準備委員長の仕切りに任せるしかないというふうに考えておりましたので、そこで準備委員長から、今度委員会が再開されて、そういう話が出たときに皆さんのほうに、ほかの委員には、要するにこういうことになったからということで受けようということでやりました。

よろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　では、もうちょっと先へ行きましょう、時間的な経過で。

いいですかとなって、ちょっと省きますね、準備委員会の方々、いろいろな考え方があるんだから。みんな、いいですと、教育委員会に任せるとなりました。それで、その後に、いつまでにできますかとなったら、では、その方向で、いつまでに教育委員会として結論が出せますかとなったら、そのときに教育長が８月の何日までにやります、いいですよとなった。そのときには、２人の方は入っていないでしょ。あなた方２人で、いわゆる教育長と教育委員長、事務方の事務局はちょっと違う、立場が。立場は違うんだけれども、その２人で決めた結論を準備委員会の方々の前で、はい、いいですよという、そういう方向性で、私たちは８月17日、教育委員会として校地を決めますということになったじゃないですか。

だから、私は２人の立場は、全くあなた方は自分の教育委員長とか教育長という立場だけを利用してやったのかと思わざるを得ない。それで、結論づけた経過そのものだって、教育委員会は合議体であるにもかかわらず、その８月何日かにやったというところはわかりましたよ。でも、その前のきっかけをつくったのは７月26日の準備会でしょう、そういう方向性で行きますと返事したのは。そこに２人参加していなかったということ自体をどう考えているのかということです。

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　準備委員会からそういうのがゆだねられまして、結論を決めてくれということでゆだねられて、私どもは受けて、ですから８月17日の次の準備委員会には答申をするようにしようということでしたが、ほかの委員さんにもいろいろ、まず打診をしなきゃならないということで、８月３日ですか、これは教育委員会ではないですけれども、協議会と称して全員集まってもらって方向を決めました。そこで、準備会から委任されたことについては、そこで返事はしたんですけれども、教育委員会をすぐ開いたわけではなくて、まず委員の協議会を開いて、どういう方向でやろうか、本当に結論を出すべきかどうか、そういうことも踏まえて検討しているのが、たしか８月３日でした。それを踏まえて、８月９日にもう一度教育委員会を招集して、いわゆる校地の選定をした経過があります。

経過は以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　木村です。準備会の位置づけについてお尋ねします。

準備会というのはどういう性格、教育委員会との兼ね合いで、どういう位置づけをしているのか。私はこう思っているんです。違うんだったら違うと言って。また、いろいろな話をしたいから。

教育委員会だけで候補地を決めるのはまずいということで土肥からずっと準備会をやったんですよね。市民の声というか、どちらかと、教育委員会が、はい、あなたとあなた、来てくださいと言って準備会をつくったと。教育委員会が決めた市民に意見を聞こうとしたのが準備会ですよね。再編成で最も重要な、しかも最も困難なのがどこの学校を選ぶかということですよ、そうでしょう。ＰＴＡの会則をどうしようかとか云々というのは、それが決まれば、あとはみんなで話し合っていけば済むことです。準備会でできないとなった、そこの大事なところが。そして、準備会で決められないから教育委員会は、はい、わかりましたと言って、ボールを投げたんだけれども、そのボールがはね返ってきた。どっちへ行くだかわからないんだけれども。それでまた、はい、わかりましたと決めているということで、本当に皆さんの声を聞いたということになるのかどうかお尋ねします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。委員長ですか。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　私どもは準備委員会のほうに、先ほども多分木村議員さんも傍聴に来られていましたから、よく御存じかと思いますけれども、ずっと同席はしておりまして一切口出しはしていなかったと思います。そういう中で、７月26日、そういうふうな話があった。実際には、それはその場で嫌ですとは言えません。ゆだねられて、そういう結論を出したときに、一応持ち帰らなければなりませんよね。私ではとてもできませんなんていうことは、そこで言うにはちょっと。私は任された限りは、自分がこういう職を任されているからには何とかしようというふうに考えたことは事実です。

それでもって、８月３日に改めて教育委員さん、皆さんに出ていただいて、これは本当に真剣に考えまして、いや、ここで受けるべきじゃないんじゃないかという話もありましたし、やっぱりそういうふうに投げられた以上はしっかりと受けとめて結論を出すべきじゃないかと。そういう協議会を経ての正式な教育委員会を開いたわけですから、木村議員さんがおっしゃるような、そんないい加減にやったなんていうことは決してないと私は確信しております。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　もう一度お尋ねしましょうね。経過を言いました。ごちゃごちゃ、７月26日に論争になっちゃったと。興奮した方も中にはいらっしゃった。当たり前かなと思います。

結局、校地選定を、後でお尋ねしますけれども、通学問題が一番重要だねというふうな話になったのは御存じだと思うんです。それで、そんな話をしている。その５月、６月そんな話がずっと出てきていた。７月26日になったときに狩野学区の方が言われて、ごちゃごちゃ

ともめていった。何が準備会はできないというふうに教育委員会として判断したのか。わかりますか。ずっと通学問題がやっぱり一番重要だねということになりましたよね、２カ月間にわたって話している結論の方向性として。そして、その中に、別に狩野学区の人が悪いわけじゃない。狩野学区は狩野学区の考え方があるから、狩野学区のアンケート結果はこうで、狩野小学校に私たちはいいと思うと決めて紛糾しちゃった。

そこで、なぜ教育委員会が受けようとしたのか、その理由がわからないので、お尋ねします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　準備委員会のほうで、それこそ木村議員さんが傍聴をずっと続けられていましたから御存じだと思いますけれども、第６回のとき、たしか、きょう決めましょうということでいろいろ話し合いがされたと思います。その中で、やはりいろいろな議論が出て、ではここで決めるのはやめよう、もう一回話し合いを持とうということで７月26日の第７回が行われたと私は思っています。思っていますというか、そういう状況だと思います。

その中で、いよいよ結論を出せないんだということで教育委員会にこれはゆだねたいということで準備委員会の皆さんの、委員長からの提案でもって皆さんが賛成されたというふうに私は思っていますけれども、そういうふうに準備委員会から教育委員会のほうでこれは決定してくれないかというふうに言われたときに、どうでしょう。私は自分の今の立場として、嫌ですとか、それから逃げるということは私はできないというふうに考えました。それが全く正直、偽らざる経緯でございますので、同じ話になりますけれども、納得していただければよろしいかと思いますけれども。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　次に移りましょうね。

さらに話し合うのかなと思ったら、突然ぽんと出てきて、私が今、きょう求めているのは、もういいですけれども、準備会は準備会で悩んじゃった。それはわかりますよ。なぜ教育委員会が受けたのかということがわからないということ。準備会がだめですよと言ったら受けるのか。もっと検討させてくださいということができないということだったんですね。

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　何度も繰り返すようですけれども、準備委員会が教育委員会にお願いしたいという結論を出した以上、私は受けざるを得ないというふうに考えたわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　主体性が全くない。準備委員会が言われたら、ああ、そうですかということ自体が私はわからないと言っているんです。

準備会の総意のことについて、何が総意でしたかと言ったら、重視したこと云々と言った

ら、子供にとってどこが最も適している、これが重要視されたと。確かに、大きく言えばそうなんですよ。でも、一番肝心かなめ、また繰り返しになっちゃうけれども、通学の問題でしたよね。

それで、バス通学の時間は特に低学年は大変なんだから、どこかに負担がかかることのないようにという意見が出ましたよね。そのことについて、８月17日の準備会で教育委員会は、狩野小学校にしたいという報告をした後に、子供の負担について、１人の準備委員が、教育委員会がこの件について、いわゆるどこかに負担がかからないことにしたいねという準備委員の意見があったんだけれども、それについてどう考えますかと、狩野小学校に決めたときに。負担のかからないようにと言ったことについてどのようにお考えですかということについてお尋ねしましたが、せっかく教育委員長をお呼びしているので、教育委員長、これについてどのようにお答えになりましたか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　たしか、今もしバスを使って通学している人にはそんなに負担にならないんじゃないかと。一番問題は、新たに、例えば湯ヶ島小に歩いて通ってきて、1.8キロとか歩いてきた人が、そこからまたバスに乗ることが一番の負担じゃないかということで、それについてはいろいろ、それはつっつけばいろいろ問題はあるんでしょうけれども、それについては極力今後やりやすいようにバスの時間帯も含めてやっていこうというようなことで話したような気がしますけれども、いかがでしょうか。違いますか。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　木村です。

こういうふうに言ったんです。バスに乗りさえすれば、距離の問題はないんだと。そして、距離の問題はありません。バスに乗りさえすればいいんです。５分、10分かかったとしても、５分、10分――実質的には10分では着かないですよね。例えば、浄蓮の滝のある茅野のほうから狩野小学校まで10分では、とてもじゃないけれども着かない。でも、そういうふうに御答弁なされたんです。

次に進みます。

教育委員会は、本当に準備委員会として、準備委員長も言っていたけれども、今まで５回、６回と話し合ってきた準備委員の方々の総意をきちんと受けとめてゆだねたということですよね。そこで、具体的に次へ移りましょう。

教育委員会の選定の問題であります。いろいろと理由を書かれて、私も当日、８月17日か、そのコピーをいただきましたけれども、私は狩野小学校が問題だ、おかしいじゃないかと言っているんじゃないんですよ。選定のやり方が、本当になるほどなと市民の皆さんが思うのかどうか尋ねます。

選定の問題。問題と言ったらあれですけど。

選定その１、天城湯ヶ島小学校は選定から外しましたと言われました。だから、教育委員

会がやったのは月ヶ瀬小学校と狩野小学校をどうするか、２つのうちの選択をしたということなんです。でも、湯ヶ島学区の人たちの真意を本当に、私はとらえた上での審議だったのか、極めて疑問がある。なぜならば、湯ヶ島学区の方々は準備会の中でどんな話をしていたか。私たちの学校は選定から外してくださいということで準備会で言いましたか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　外してくださいという議論はなかったと思いますけれども、それこそ準備委員会の内容をごらんになっていれば、皆さん、狩野小か月ヶ瀬小かという議論になっていたかと思います。これは全部出ていらっしゃった議員さんならわかっているかと思いますけれども、私どもは、だから、その中でまさに準備委員会の総意を踏まえたものになっているかどうか、まさにそういうことであるならば、狩野か月ヶ瀬かという議論をゆだねられたに等しいというふうに考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　こう湯ヶ島学区の方々が言ったのを僕はインプットされているんですよ。すごく印象に残ったんです。こういうことを言っていましたよね。私たちも湯ヶ島小学校を卒業したり、子供たちを湯ヶ島小学校に送り出していったんだから、湯ヶ島小学校を残してほしいという願いは本当に強いんだと。でも、それを主張すると、柿木の地区の方々の小学校１年生、２年生のその気持ちを考えたんですよ、湯ヶ島学区の方々は。柿木地区の子供たちの通学は大変なんだから、真ん中がいいのかなという主張をしたでしょう。だから、湯ヶ島は、ある意味では遠慮したんですよ。みんな、天城地区全体のことを考えて、自分のところばかり主張したら、船原の奥のほう、柿木地区の奥のほうから通学の問題は大変だろうという話になったじゃないですか。

その次、選定の問題、その次に移りますよ。

バスを乗りかえなくて済むと、こういうことですよね、答申、狩野小学校に決めたというのは。乗りかえなしのバスは運行できるんですかという議論を散々やって、月ヶ瀬、湯ヶ島になった場合に東海バスに打診をしたんだけれども、否定はしていませんでしたということだったから、教育委員会はそういう答えだったから、狩野小学校だけでなくて他の学校も候補地として話し合いをしてきたという経過があるでしょう。今現在、その後何もしないで見るならば、教育委員会が狩野小にする理由というのは当たり前です、そんなの。バスの乗りかえがないのは狩野小学校だけだから。こんなことは子供だってわかりますよ。

それから、こんなこともあの中でありましたね。狩野小はバス停留帯が動きますよね、今度は、バスが来ると通学の。バス停留帯は比較的近いんだけれども、月ヶ瀬では数百メートル離れているから、月ヶ瀬小は難しいと。でも、ずっと論議とか聞いたり、また私はこの再編成問題を振り返ってみて、２年前からやっていますけれども、その中で地域の方々の意見を聞く、それから地域の方々の御協力を得ながら、バス停の問題について、どこになろうが

協力を求めていきたいということを言っていたんですよ。もし月ヶ瀬小が数百メートル離れているから、月ヶ瀬小学校は選定は難しいということであるならば、私は逆に、地域の皆さんとも話をしないで狩野小にするがための世論誘導としか思えない。月ヶ瀬が難しいかどうか本当に真剣に準備委員の方々が知恵を寄せ集めてやったら、どうなるかわからないですよ。

かといって、私は月ヶ瀬小にしろとは言っていない。そういう論議を本当にもっと大事にすべきだったのじゃないかなと。そこは外しているでしょう。なぜこういう、難しいですよと黙って聞くんじゃなくて、月ヶ瀬小にもしなった場合、こういう困難性がありますということを、なぜ準備委員会の方に数百メートル離れているから大変だということを持ちかけなかったんですか。狩野小に決めたい、その理由の一つとして月ヶ瀬小ではだめだという理由として挙げたとしか思えない。どうですか。

**○議長（杉山羌央君）**　どうですか。答弁願います。委員長ですか、事務局長ですか。

〔「事務局長じゃないよ。教育委員会で決めてたんでしょう。事務局長が参加して決めたのか」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　いろいろなことを事務局のほうに調べてもらってやっていることは確かですので、今、細かい話になりましたものですから、事務局長にちょっと意見を聞いておりました。

それで、バスについても、別にこれは後づけの理論じゃないんです。やっぱりいかにスムーズにやれるかという中で、私どもはそうやって委員さんたちの、私は議長をやっていましたから、あれですけれども、委員さんたちの意見を聞いた中で最終的に判断しました。

ただ、やはり皆さんに理解していただく中で、バス停のことについても、月ヶ瀬にした場合はこれだけの困難があるということはちゃんと明示しなくてはならないということで、こういう文書にして出した経緯がございます。

よろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　私は、具体的には事務方がやるのは当然だと思う、調べていく上では。なんだけれども、大事なところは皆さんが、事務方の調査した結果を受けとめて教育委員会として判断したんでしょう。月小は難しいねと。だから、教育委員長か教育長に私は答弁を求めているんです。

**○議長（杉山羌央君）**　もう一度求めますか。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　それでは、事務方にいろいろ調べてもらったことは確かですけれども、こういう議論でもって教育委員の合議でもって決めました。

よろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　なぜ準備委員会でこの大事なところ、学校は決めたけれども、バス停の停留帯がないね、難しいねということですよね、結論は。何で準備委員会に提起をして、皆さんで論議しなかったんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁を求めます。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　これは本当に準備委員会のほうをごらんになっている方はわかられると思うんですけれども、準備委員会のほうで例えば月ヶ瀬に決めたということになれば、そうしたらこういう議論は当然出てきますけれども、それが決まらないうちにああだ、こうだということはなかなか難しいです。準備委員会のほうで校地を決定していただいた後、やはりスタートする。これについては、いろいろな問題がこういうふうにありますよというのは、教育委員会としてはできるだけタッチしなかった経緯があると思います。それは本当にごらんになっていておわかりになるかと思います。できるだけ準備委員会の自主的なというか、サポートはもちろん事務方のほうでしていただいたと思いますけれども、できるだけ皆さんの意見を聞くということで、我々は一切口出しをしていなかったという経緯を御存じかと思いますので、どうなんでしょうか。それ以上、私が言うあれはないと思いますけれども。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　月ヶ瀬小とかどこに決めないと、この問題が出てこないんじゃなくて、月小にすれば、こういう課題があるねということは話し合えるじゃないですか。私はわからない。決まらないと次に進まないと。教育長もいつもそんな答弁をするんですけれどもね。

もう１点、選定の課題。どうしてもわからない。狩野小学校が増築面積が一番少ないんですよ。だから、工期期間だって短いのは当たり前。当たり前のことを狩野小にした理由がわからない。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員長。

**○教育委員長（原　　京君）**　非常にお答えしにくい質問だと思います。当たり前のことを私は当たり前に判断して、それが私らがこうやって、いわゆる今、素人という発言をすると問題がいろいろありますけれども、素人集団である教育委員の役割だと思います。当たり前のことで、市民感覚でわかりやすいところに結論を出す、これが教育委員に課せられた使命だと私は考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　当たり前というのはそういうことじゃない。よりよい教育環境がどうあるべきかということでやったじゃないですか。ですよね。工期が長かろうが短かろうが、それは次の問題じゃないですか。工期が短いから狩野小、こんなのは当たり前。だから、先

に狩野小ありきじゃないかと思われても仕方ないですよ。

時間がないもので、土石流の関係、いろいろと午前中お話しになりましたが、同じことを言いません。ソフト面での安心対策を何とか頑張っていきたいということですけれども、お尋ねします。もし土石流が来て30センチ埋まりました。天城地区は、いわゆる狩野小しか学校教育はできない。そこで埋まったら授業ができますか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　埋まり方にもよりけりですけれども、たくさん埋まれば、それは一時お休みせざるを得ません。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　そんなことはわかり切っているんですよ。30センチということで、散々論議したじゃないですか。30センチ土が来ました。１階部分はだめになるかもしれない。だから、２階にと。そのことを言っているんですよ。いかにも何か子供の命と安全の問題が論議になって、すごくためになって聞かせてもらったんだけれども、あれ、授業できるのかなと。１つですよ、今度、天城地区は。そのとき、どうしますか。どこで授業を受けられるんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　たまれば、しばらくお休みせざるを得ません。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　そういうことなんですよ。だから、これがあなた方が言う、子供たちにとってよりよい教育環境ですかと、どうしたって言いたくなるじゃないですか。当たり前ですよ、こんなのは。だから、私は、その前に鈴木議員も言ったけれども、これが本当にきちっとできるという確証がない限り、市民に向かって、狩野小学校がすばらしい学校の再編成地区になりますということはあり得ないですよ。そう思いませんか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　土石流の問題、ちょっと僕もそこは素人で詳しくは言えませんけれども、とりあえずの避難の問題は避難訓練等々でソフト面でカバーしていきたいと思いますし、仮に起きたときは最善の努力をしてカバーしていく以外にないなと、それは思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　だから、なかなか認めないんだよね。授業ができないということは、もう明らかになりました。

あなた方が進めている25年４月、月ヶ瀬小学校が複式になるからと。そもそもからいくと、諮問した組織、答申の委員会は、１クラスではだめだ、２クラスはいい教育環境だというと

ころから始まっているじゃないですか。その前提は、確かに複式学級云々というのはあるかもしれない。何か都合が悪くなると、あなた方はそういう複式学級、月小を解消するため、25年４月だと。そもそも答申して、そして、それを受け取った。それから始まっているということの中身から見るならば――きょうは時間がなくて残念ながら１学級１学年とか２学年とかできなくなっちゃうんだよ。そもそもそこから出発しているんですよ。自分たちの論理がつじつまが合わなくなると、何かプラスアルファしながらやっていく。それが本当に私は教育に携わる方々としていいのかなと。

すみません。最後に意見を述べて終わります。

人と人とのコミュニケーションというのは、本当にわかるまで、本当に大事にして話し合っていくということが、教育の、私は原点だと思うんです。校名も募集しましたということなんですけれども、校地選定決めました、本当に上から目線のお知らせですよ。インターネットを見ましたか。インターネットは肝心かなめの７月26日、どんな話し合いをしたのか、いまだに出ていないんですよ。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員、時間です。

**○２０番（木村建一君）**　わかりました。そういうことを片方でやっておきながら、そして皆さんに説明をすると。

最後に、アンケートをぜひともお願いしたい。それは次回でやりますけれども、全部のやりとりを私コピーしました、全部の２年間の。この中で、教育長がある議会で、住民の皆さんにアンケートをとっていきたいという答弁がありますから、後ほど――後ほどって、きょうはできないけれども、次の議会でやります。

以上で終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　これで木村建一議員の質問を終了いたします。

ただいま３時22分ですので、３時半から再開をいたします。

休憩といたします。

休憩　午後　３時２２分

再開　午後　３時３０分

**○議長（杉山羌央君）**　休憩を閉じ、会議を再開いたします。

**◇　関　　邦　夫　君**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、９番、関邦夫議員。

〔９番　関　邦夫君登壇〕

**○９番（関　邦夫君）**　９番、関邦夫。

１、美しいおいしい水を安心して飲むようにできないか。

不公平がないように料金が統一され、水道事業が一歩前進しましたが、中身は余り進展していないように感じます。苦情を少なくするため、余裕のない料金設定で、どこでもおいしい水を飲むわけにはいきません。伊豆市には天城山を水源に、豊富なおいしい地下水が眠っているのではないか。西伊豆町の山の中で天城の深層水を「健水」の名で販売しています。ガソリン代と時間をかけ、県外からもおいしい水を求めてにぎわっています。伊豆市からも多くの人が水くみに行きます。15リットルを100円で販売し、１リットル当たり6.7円になります。伊豆市の水道料金は、1,000リットルで92円ですので、１リットル当たり0.092円で73倍していますが、生活に欠かせない水の問題は料金だけで解決したとは言えません。料金は公平な徴収が定められましたが、うまい、まずいの問題は、水質はもちろんですが、設備の不備で生ぬるい水が配水されているところがあるようです。

質問します。保健所の許可問題は当然として、おいしい水を市民に供給するため、どのような努力をされていますか。

２、既設の水源再利用では、水質、設備等の違いで真の公平でないのではないか。

３、安全対策は何を重点にしていますか。

大きい２番、腎臓疾患者や生活習慣病を減らす対策について。

伊豆市は、腎臓疾患者が多いという室野議員の一般質問がありました。土肥町時代、人工透析患者が３人いると健康保険は大変だと言われていました。高齢化に伴い、多くの方が人工透析を行っています。年間１人当たり400万円ぐらいかかるそうですが、個人負担は月１万円ぐらいとのことです。本人も大変ですが、行政側も大変です。

腎臓機能検査でクレアチニン基準値範囲が、男性0.5から1.2ミリグラム／デシリットル、女性0.4から0.8ミリグラム／デシリットルと言われています。問題は、この数値以内でも高齢化や慢性腎臓病で腎臓の機能が低下し、予防、治療が必要だと言われています。私の場合、0.91で基準値以内ですが、年齢とクレアチニン0.91から計算すると、ＧＦＲは63ミリリットル／分／1.73平方メートルということで、ＣＫＤ病期２に該当するそうです。

質問します。

伊豆市で腎臓疾患者が多いのは何に原因があると思われますか。

２、この問題解決には行政が介入し、定期健診時等で医療機関は腎臓機能低下を数値で示し、行政は早期予防や生活改善の指導が必要だと思いますが。

３、生活習慣病についていろいろ指導されているのはわかりますが、多くの生活習慣病の方が現存するのは、啓発だけを重んじ、結果について個人任せで強い指導力が足りないのではないか。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの関邦夫議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

まず、水質のほうですが、おいしい水というのは、市では独自に調査したことはありませんが、東京都で調査結果があるようでございます。１リットル当たり、ミネラルが30から200ミリグラムとか、硬度が10から100ミリグラムとか、幾つかの指標があるんですが、伊豆市内での水道水はこの基準をクリアしています。ただ、一部の中に水温が高いところがあるというところがあるようでございますので、この対応策を現在検討しております。

それから、既設の水源、これはやはりこれだけの事業ですので、既設の水源は基本的にそのまま使わせていただきたい。それが水質悪化につながるような危険性があれば、そこは水源を見直す、あるいは改良するということに尽きようかと思います。

それから、最後に安全対策ですが、これはやはり水質、口から入れるものでございますので、これが一番大事だと考えておりまして、残留塩素の検査、それから毎月実施している法定水質検査、それから主要な浄水場などの施設の日常の点検、あるいは消毒薬である次亜塩素酸ソーダの管理を徹底するとか、そのような対策を講じております。

それから、腎臓疾患者の御質問については、これは健康福祉部長から答弁をさせますが、ちょっと気になりましたのが一番最後の、結果について個人任せで強い指導が足りないのではないかと。どうなんでしょうか。個人の健康管理に市行政がどこまで入るべきか。私は、確かに強制的に健診を受けさせて、それを我々が全部厳重にデータを管理し、危険な人は強制的に食事制限をしたり運動させたりすれば、恐らく健康は管理できると思いますが、そういう社会が本当にいいのか。やはり基本的に、みずからのことはみずからで定めて、そして専門的な知識とか対策のアドバイスを求められた場合には行政のほうはちゃんと相談を受けられる体制をつくっておく。そして、こういった相談窓口がありますよというＰＲは積極的にしていく、それが一番幸福な社会なのではないかと考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　では、健康福祉部長。

〔健康福祉部長　大城栄一君登壇〕

**○健康福祉部長（大城栄一君）**　それでは、関議員の腎臓疾患者や生活習慣病を減らす対策についてにつきましてお答えをいたします。

１つ目の腎臓病の原因でございますが、新規の透析患者となった原因を見ますと、糖尿病性腎症、慢性腎不全の症状が多く、中には慢性腎不全で高血圧治療中の症例もございました。また、特定健診の結果から高血圧の症例が多いため、今後、合併症からの腎臓病の発症が懸念されているところでございます。現在、市の新しい保健計画である「健康いず21」の作成に当たりまして、健康意識調査を実施しているところでございます。この調査により、腎臓病の原因となる生活習慣を分析いたしまして、糖尿病予防や高血圧予防などの対策を検討してまいりたいと思っております。

２つ目でございますが、現在の特定健診などで行っている腎臓機能検査は、尿検査、クレアチニン、尿素窒素、尿酸でございます。要医療者が受診し、主治医の指示に従いましてＧ

ＦＲを行っているところでございます。議員がおっしゃるように、腎機能を総合的に判断するには、ＧＦＲの測定が有効な方法と考えております。しかし、特定健診などでＧＦＲ数値を表示するかは、検査結果の判定基準や保健指導のあり方などと関連いたしますので、田方医師会や健診機関と協議してまいりたいと考えております。

３つ目の生活習慣病に関する件でございますが、議員御指摘のとおり、多数の人が生活習慣病に罹患しておりまして、21年度の特定健診結果によりますと、有病率は高血圧53.3％、脂質異常56.4％、糖尿病12.7％となっております。市では、これらの生活習慣病予防対策といたしまして、啓発活動や健診受診の勧奨、受診後の保健指導等を行ってきたところでございますが、数値が一向に改善されないのも事実でございます。この原因としまして、健康の保持・増進は本来やはり自己管理が必要かと思います。市民一人一人の努力が重要と考えておりますが、行政として疾病予防や市民が自分で行う健康管理を支援するということが我々の役目かと思います。今後も健康で安心して暮らせるまちを目標に、保健事業を進めていきたいと思います。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　保健所の検査結果に問題はないとしても、うまい、まずい問題、安全の問題はあると思われます。どの家庭でも安心しておいしい水を飲むことを望んでいます。多くの家庭や企業においしい安全な水を供給する努力をしていると思いますので、取り組みについて伺いました。

また、水質について、既設の設備の水源利用で余り変わっていないように感じますが、水源の変更、配管の接続がえ等でおいしい水を全戸になるべく平等に提供できるように、どのような努力をされているのか伺ったわけです。

水の科学館の資料から質問します。水の味、伊豆市はおいしい水、まずい水とはどのような基準で判断していますか、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません、これは事務方が準備したペーパーなんですが、東京都の調査によりますと、１リットル当たり、ミネラル分が30から200ミリグラム、硬度が10から100ミリグラム、遊離炭酸が３から30ミリグラム、有機物が３ミリグラム以下、臭気が３以下、残留塩素が0.4ミリグラム以下、水温が８から12度、これがおいしい水なんだそうです。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　配管の不備で、せっかくのおいしい水が生ぬるく、管理が悪く、まずくしているところがあると思いますが、改善をしていますか。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　先ほど市長が申したように、伊豆市の水質はこのおいしい水の範囲内にほぼ入っているという状態になっています。その中で、一部温度が高いという地区がありますので、それについては、水道本管末端で水を抜く、バルブ操作で水が滞らないように動かすというような操作をしておるところですけれども、やはり効果的な結果が得られないと。

原因といたしましては、水道管が、消火栓もあるものですから、75ミリという太さに対して使用量が極端に少ないというのが原因と考えていますので、我々はそれを管理する中で水を捨てるなり回すなりしながら、水質のほうを見ていく、管理していくという状態です。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　水を飲んでおいしい、まずいと感ずることはありますが、蒸留水は無味無臭、無色透明でまずいと言われています。おいしい水の条件には軟水であることが第１条件で、第２条件は水の温度とされています。13度あたりの水はおいしいと感じるし、お湯の場合は70度程度がおいしいとされ、中間は余りおいしいと感じないと言われています。第３条件は、微量な炭酸ガスを含んでいること、少し酸性になった水がうまいとされています。軟水とは、カルシウムやマグネシウムの金属イオンの含有量が少ない水、日本の水の硬度は80ミリグラム／リットル前後で軟水と言われています。

質問します。

水源により硬度に問題はないか。各水源の硬度についてのデータがありますか。伊豆市は広いので、ばらつきがあると思いますが、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　おいしい水という需要がありまして、平成22年に水質の検査を行っています。通常の水道法で求められている水質検査のほかに遊離炭酸も入れて、おいしい水の水質検査を行いました。

先ほど議員から言われています硬度についてですけれども、10から100ミリグラムという基準の中で、小土肥水系で25ミリグラム、船原水系で26.1ミリグラム、冷川水系で21グラム、鉢窪で18.1ミリグラムということで、すべて基準内に入っていまして、また伊豆市の各地区の水質のばらつきがほとんどないというのが結果としてあらわれました。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　硬度について、伊豆市は25ミリとか26ミリ、21ミリとかという数字ですけれども、南アルプスの天然水が30、六甲のおいしい水84、これはミリグラム／リットルです。竜泉洞の水97、伊豆市は15から30ミリぐらいです。遊離炭酸は水に溶けている炭酸ガ

スのことで、多く含まれていると清涼感がありますが、伊豆市は検査基準にないので測定していないとのことです。

水道水の考え方について伺います。

人は毎日水を飲み、それが健康に影響を与えることは当然です。水道水はほとんどが塩素で殺菌されています。塩素は兵器として使われるほど人間にとって有害です。人に害のある菌を殺すため、人に害のある塩素を加えています。

質問します。

我が国の水道は水道法により塩素または結合塩素で消毒を――これは殺菌ではなくて消毒と言うそうです。消毒を行っています。塩素消毒については、発がん物質、トリハロメタンの問題があると思いますが、他の消毒法はできないのですか、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　今現在、水道では次亜塩素酸ソーダということで塩素消毒を行っています。当然、トリハロメタンという発がん性物質があるということは、もう何年も前から指摘をされているところです。そのために、残留塩素、水道に残る塩素をなるべく少なくするということで対応しています。

先ほどのおいしい水の基準でも0.4ミリグラムという基準があります。それに対して伊豆市の中では0.1から0.3という、極めてそれよりも低い値での残留塩素になるように心がけております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　水道水が安全で、そのまま飲める国と言われていますが、そのまま飲まないという人と飲むという人はほぼ半々のようです。河川の汚染など環境の悪化を反映し、水道水に対する不信感や不安感が強まっています。水の科学館の資料によりますと、水道水の安全については、大いに信頼、少しは信頼している方を合わせると73％に達しているそうです。水源の汚れが浄水場で十分に取り除かれているかどうか不安に思うことがある人と、消毒用の塩素の量が気になる人が半数以上いるということです。水道料金が妥当だと受け入れる人が多い反面、高いと思う人が３分の１いるそうです。

質問します。

値上げが始まり、伊豆市民は現状の水道水に対し、水道料金が今の状況で妥当と考えているかどうか調査したことがありますか。高い料金の割にまずいという苦情はありませんか、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　水道料金の感覚として高い、低いという調査をしたことはありません。

まずいという意見でしょうけれども、そういうものは耳にしてはいない。ただ、水温が高いという部分での話はあります。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　水が健康を左右するということで伺います。

水道水に発がん物質が含まれている事実を認識していない人が多くいます。除草剤ＣＮＰに限らず、農薬の水系汚染問題は後を絶ちません。禁止されても何年も汚染が続きます。伊豆市の水源視察で気になるのは、ワサビ沢のしり水を水源にしてあるところについて質問します。

質問します。

ワサビ沢では化学肥料、農薬を使用していませんか。ワサビの苗を購入したとき、消毒液に全部つけますが、その後、消毒や化学肥料なしで管理はできないと思いますが、実態を調査されましたか。大量の水に対して少量の農薬や肥料だから問題がないという考えなのか、それとも本当に農薬や化学肥料をワサビ沢では使っていないのかどうか調査したかどうか伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　ワサビ沢については、農薬は使用されています。そのために、水道の水源をワサビ沢のしりからとっている部分と、冷川ですと表流水で木橋川からとっていますけれども、それをとめて伏流水側からとる。天城湯ヶ島のほうの地区では、ワサビ沢のところのそこの消毒をするときには取水をとめて上流からとったり、もしくはそこのところは一時的に水路をとめるというような操作を行っています。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　土肥の新田にある土肥の半分を賄っている水源は、伊豆市になってから監査委員から改善を指摘されたと記憶していますが、ワサビ沢のしり水ではありませんか。さっきと同じ質問ですけれども、農薬、化学肥料を使用しているか調査されましたか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　水源については、そこのワサビ沢の所有者の方と上下水道課のほうと連絡をとってやっています。ですから、抜き打ち的な調査とか、そういうものは行っていません。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　水源によってうまい水、まずい水、安全な水があると思い、質問します。

土肥地区では、小土肥の水はホタルの水と言われ、冷たくおいしいと言われています。八木沢の水源は川の石が白く染まり、温泉の湯あかで温泉が出るのではないかとみんな喜んで

調査をしたら、アルミが付着しているということでした。また、東海工業で採掘した白土といわれる二酸化珪素で、この川には魚は生息できません。大量採掘以前は生息していました。保健所をクリアできても、魚のすめない水は問題です。土肥南小学校のあるとき、子供たちも魚のすめない水を八木沢の簡易水道で飲んでいました。八木沢、小下田の水源問題は、市移管により解決されますが、自然破壊による魚のすめない川の水の問題は当分続くと思われます。

最近、おいしい水を求め、少なくとも直接口にする水は安全でおいしい水を飲みたいと、水を買う時代になってきました。水道水から発がん物質が出るというニュースは、ペットボトルの売れ行きに拍車をかけました。がんを誘発する物質が水の中に混入するとなれば、うまい、まずいの次元ではないし、水ブームもうなずけます。我が家では１カ月200リットルあると、飲み水と料理用に賄え、その他、ペットボトルを何本か買っているようです。土肥から西伊豆の山の中へ水をくみに行くのに３時間かかります。

質問します。

近い将来、遠くまで水をくみに行かなくても市民に安心して飲めるおいしい水を公平に供給できるようにできますかどうか伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　消毒の問題なんですけれども、消毒をしなければ、当然大腸菌等もありまして、かえって危険な水になってしまう。そういう中で、発がん性物質のトリハロメタンの問題はあるわけです。そのために、塩素を限りなく薄くして入れているという状態です。

それと、先ほども言いましたように、伊豆市の水道水がおいしい水の基準にほぼ入っています。入っていないのが遊離炭酸というところで、炭酸が入っていません。入っているには入っているんですけれども、小土肥、船原、冷川、鉢窪の水源ではかったところ、２ミリグラムということです。遊離炭酸の基準は３から30ですので、少しそこが少ない。これは水道基準ではないんですけれども、これが入っていることによって、飲んだときにさわやかさが感じられるというものが遊離炭酸です。そうですので、先ほど関議員から言われたように、伊豆市の水道はおいしい水ということで、それが安心して飲めるように我々は常に努力させていただいています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　おいしい水で安心で飲めるということになれば、だれもそんなに遠くのほうへ水くみに行ったりしないわけです。実際は、たんとうまくないから買いに行っているだと思います。

私は、水道で安心でおいしい水といわれる水ができないのならば、温泉スタンドのような方式で市内に何カ所かいい水があるところをそこへ集めて、そして販売するような施設をつ

くる考え方はございませんか。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　今現在、建設部上下水道課ではそのようなことは考えていません。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　では、一軒一軒の家庭で浄水器を持たなければ、このことは解決しないのか。浄水器にも問題があると思うが、浄水器を奨励しますか。多くの家庭で浄水器を使っていると思います。また、浄水器の長所、短所をどのようにとらえていますか、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　通常、浄水器というのは、皆さん、水道を飲むときに塩素臭いという部分をカーボンで匂いをとってしまう、そしてごみというんですか、をとるというのが浄水器だと思いますけれども、問題はそれの維持管理のあたりが個人でどうやってできるのかなということがあるかと思います。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　伊豆市の水道問題はまだ始まったばかりですが、広い面積と少人数の当地では、どこでも安全に美しい水を供給できるようにするには、膨大な設備に対し人口の減少も含め大変ですが、伊豆市は安心でおいしい水を飲んでいると自慢できる水の提供をしていただきたいと思います。

質問します。

天城山があり、天城の深層水が販売され、人気があるのだから、安全でおいしい水を市で提供できると思いますが、その努力をするつもりはございませんか。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　今、関議員の質問の中では、それはペットボトルか何かにして売るという意味なんでしょうか。我々建設部のほうでは、皆さんが使っている蛇口のところからおいしい水が常に安心して飲めるようにという努力をさせていただいています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　安全問題と漏水について伺います。

横浜は５％、東京都は３％を切ると言われています。漏水率が低いということは安全な水の供給につながります。漏水で水圧が低いと、水漏れ箇所から汚染物質が流れ込む。伊豆市は改修しても、いまだに30％も漏水があるようです。

質問します。

この30％の漏水があるということは、水道事業全体の管理が十分できていない状況ではないか。配管をどのように布設されているのか把握できていないのではないか伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　都会のほうでは、水道の水圧をかけるのに、自然流下ではなくてモーター、ポンプでそのまま水圧をかけます。しかも、圧力については、平たんなものですから、相当少ない圧で一定に皆さんに水が供給できるわけです。それに対して、伊豆市の場合には自然水を山からとりますので、湧水、表流水ですけれども、それで配水池から皆さんに供給するわけですけれども、これをなるべくお金をかけないように自然流下でやっているわけです。当然、自然流下でやりますので、高さによって圧力がどんどん、落差があれば上がっていきます。高いところでは９キロ、10キロあたりまで水圧が上がってきます。当然、水圧が高いものですから、漏水がふえるというふうに考えています。我々、漏水とか有収率を上げるために漏水がないように努力をしているところですけれども、やはり都会の１キロ、２キロで給水できるところと、10キロ、９キロ、８キロで給水しているところでは、当然水の漏り方が変わってくるというところで、そこのところを漏水調査なり、いろいろなことをやりながら、ここのところを少なくするように努力をしているところです。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　町時代、業者と癒着し、でたらめな工事箇所が多くあるためだと思いませんか。八木沢あたりで漏水で掘り返すと、岩の上に砂も敷かず、そのまま配管して土をかけた工事が多く見受けられます。このようなところを整理して解決しなければ、漏水問題は片づかないのではないか。不備なところを今、放置してあるから漏水が多いんじゃないかと思いますけれども、どうでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　確かに、昔の工事の場合に、材料が少なくて、ビニールパイプをあぶって挿したとか、要はソケットを使わずにあぶって挿したというような工法がまかり通っていたというか、そういうのが一般的な工法だったわけです。今はソケットでＴＳ接合といって、のりで接合、さらに最近では電気で溶着させて接合するというような形で、材料も変わってきましたので、漏水も減るというふうに考えています。

ただ、伊豆市全体を全部一遍にやるわけにはいかないものですから、我々も予算の中で効果的にどこからやるかというあたりで、毎年議会のほうへ提案させてもらって布設がえを実施しているところです。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　今まで町時代、水道料金が高かった地区は、工事管理に問題がありませんでしたか。そういうところは漏水が多かったかどうか調べましたか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　そういう因果関係については調べないんですけれども、やはり水

道が漏水、パンクするというのは、配管的にチーズという三叉路のところであったりとか、管が複雑なところほど漏水が多いです。真っ直ぐの直管については、なかなか漏水はない。

それと、もう一つ、水道の使用量が多かったり少なかったり、水道の使用の変動が多いと、水道管の圧力変動が多いものですから、漏水の多い箇所になります。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　どうもありがとうございました。

では、続いて腎臓疾患者や生活習慣病を減らす対策について伺います。

伊豆市民は腎臓疾患者が多いという発言がありました。このことについて、昔に比べれば人工透析の方が多く見受けられますし、大変な思いを強いられています。透析のできない時代は、尿毒症になり、多くの方が亡くなったと思われます。透析で長らえることは大きな進歩ですが、高齢化のため、透析患者がふえています。技術も改良され、昔ほど費用はかからなくなっていますが、本人も大変ですが、市も大変です。

私のようにクレアチニンの値が範囲内でも、慢性腎臓病で腎臓の機能が落ち込んでいる人が多いようです。年齢、性別等を考慮して計算できるようです。ＧＦＲ、男女年齢別早見表も日本腎臓学会診療ガイドから出ています。早期に気づけば、食事療法、生活改善等で進行を食いとめることはできると言われ、幾つかの自治体でこのやり方を取り入れ、効果を上げていることが発表されているそうです。基準値を超えなければ問題がないとしているところに大きな問題があるのではないか。

日本の透析患者は人口１億3,000万人で約29万人、450人に１人。静岡県、2009年で360万に対して9,233人で390人に１人。伊豆市は３万5,000人に対して、７月末で健康保険利用者の51人の方が人工透析を行っています。この数字でいくと、700人に１人ですが、国民健康保険利用者以外の透析患者については、市ではわからないということです。伊豆市が県下のワーストワンという、この前の室野さんの質問ですけれども、そういうデータはどこから生まれたんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部でよろしいですか。

市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　国保のことだと思いますので、これにつきましては、国民健康保険の中の県内での比較した数値だと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　健康福祉部長。

**○健康福祉部長（大城栄一君）**　それでは、補足説明をさせていただきます。

今言った51名については、国保の関係の透析を受けている方の数字かと思いますが、それ以外の保険者の方もいらっしゃると思います。正確な数字というのは、やはりつかめておりませんが、障害者手帳の関係を見ますと、腎臓機能障害の１級の交付者数、これが伊豆市内で123名いらっしゃいます。この１級の交付者というのは、人工透析を必要とする方もしく

は極めて近い将来に治療が必要な方に交付されておりますので、かなりこの123人に近い数字の方がいらっしゃるのではないかと理解しております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　123人が透析を受けているということになると、そうすると静岡県でワーストワンになるんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

健康福祉部長。

**○健康福祉部長（大城栄一君）**　こちらのほうはワーストワンというような、そういうものはございませんで、近隣の交付状況を見ますと、伊豆の国市で147名、函南町は97名、伊東市が229名、熱海市が116名、三島市が292名、沼津市が501名と、若干函南町あたりに比べると多い数字、そういうようなことになっております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　話は変わりますけれども、市長は、予備群の方々の健康について、意識が高くないのが問題で、行政ではできない。粘り強く人生のあり方と健康の価値観に訴えるしか現時点ではなかなか難しいかなという感じを持っています。19年で国民健康保険の１人当たりの診療費は伊豆市が県下で３番目に高いが、老人医療費は17番目になり、お年寄りは行かないほう、伊豆の国、伊豆市も共通と答弁されています。

質問します。

問題を解決するのに、予備群の意識が高くないのが問題なら、市による意識向上で健康増進を図ることは当然ではないか。市の介入が重大だと思いますが、市が介入して何か問題がありますか、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　物すごく大きな構造的な問題がある場合には行政の介入というのは優先的にすべきだろうと思います。ソ連が崩壊したときに、平均寿命が60歳だったわけです。ロシアになったら57ぐらいまで、こんな年齢で先進国と言われるところが、いろいろ問題があったんです。日本の場合にはどんどん寿命が伸びている。伊豆市も当然、非常に世界の中ではトップレベルの平均寿命を維持している中で、行政が個々の生活に介入しなければいけないほど構造的な問題があるかというと、それは現時点ではまだそうではないのではないか。やはり、健康管理は個人の皆さんが、まず自己管理をしていただいて、そして専門的なアドバイスが必要なときには行政がそこは準備をしていくというのが、やはり現時点ではあるべき姿なのではないかと考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　ちょっと話は変わりますけれども、体の弱っている年寄りの診療費は安いのに、他市町に比べて医者にかかるのが少ないのは喜ばしい現象ではなく、伊豆市は辺地で医療機関に年寄りが気楽にかかれる状況にないので、このような現象が起きているのではないかと思いますけれども、どうでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません。データが私、今ちょっと手元にないので恐縮ですが、極めて私事で恐縮ですが、83歳半の私の母は全く問題ないんだそうです。幾ら健康診断を受けても。ちょっと血圧の薬だけは中島病院でもらっているんですが、ほとんど同じ生活を皆さんされていますので、都市部と比べて、やはり相当健康度は高いのではないかという、すみません、これは個人的な、データがないものですから推測ですが。

それから、軽スポーツなんかも、100％ではないけれども、またかつて室野議員から御指摘あったように、もう少し環境整備をしたほうがいいかなと思うところもございますが、しかし、平均すると相当健康レベルというのは高いのではないかというようなことを感覚としては持っています。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　時間は。

**○議長（杉山羌央君）**　あと５分です。

**○９番（関　邦夫君）**　血液の生化学検査がセットで一度にたくさんできるようになってきましたが、伊豆市では何十年も同じような項目の健診に見受けられますが、最低項目で検査を行っているのではないか。検査費用は項目をふやしても変わらないようですが、今のやり方で問題はありませんか。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　それでは、国保の特定健診に限っての話になってしまいます。保険によって違いますので、伊豆市の国保ということでお話しさせていただきますと、これは伊豆市だけではありませんで、伊豆の国市、それから函南町と田方医師会と、それぞれ協議をして、健診のエリアといいますか、医療機関のエリアが一緒ですので、基本的に共通な形でもってやりましょうということで、毎年田方医師会、それから２市１町の国保の保険者、それから医療機関さんと毎年協議をして検査項目あるいはやり方等を検討してやっております。

検査の項目につきましては、例えば先ほどの血清クレアチニンなどは法定の特定健診の項目にはありませんけれども、これは必要だろうと、医師会の先生方のお話もございまして、やっております。そのほかには尿酸の検査ですとか尿の潜血検査ですとか、そういった項目をやっておりますけれども、そのあたりも田方医師会の先生方の御指導といいましょうか、をいただきまして、最低限ということではなくて必要性があるだろうということにつきまし

ては、やらせていただいております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　集団検診は企業を含む事業所や学校、地方公共団体などがその構成員に対して、まとまった人数で一斉に行う健康診断で、血球算定、血液生化学検査がありますが、クレアチニン検査結果から、正しい分析をし、計算をし、情報を予備群に提供していないようですが、このことは事実ですか。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　特定健診の内容でお答えさせていただきますけれども、現在は、先ほど申し上げましたように検査としては、血清クレアチニンの検査をしております。ただ、その結果を表示する結果表のほうには、１デシリットル当たりのグラム数ということで、ミリグラムの単位でもって数値を結果として表示をしております。それと同時に、男性、女性それぞれの基準を示すという形で結果表のほうはお知らせをしております。

議員おっしゃいますようなＧＦＲというふうな数字は、現状では結果表の中には表示はしておりません。ただ、保健指導をする際に、このクレアチニンの数値が基準より上回っている方、それらを保健師のほうで保健指導をすると。これは法律にのっとって一定の指導をされるわけですけれども、その際にはＧＦＲを計算して保健指導には生かしているという形はとっております。

ただ、議員おっしゃいますように、今後検査を受けた方に特定健診の結果表の中に必ずその項目、ＧＦＲを計算して、その数値を結果として載せるかどうかという御質問がございますけれども、これに関しましては、今後また毎年度の内容につきましては、先ほどの田方の２市１町の保険者、それから田方医師会管内の医療機関との話し合いがございますので、その場へお諮りをして、この中でその項目につきましても、結果表等につきましても共通でやっておりますので、その機関にお諮りをして検討してまいりたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　腎臓機能障害に対し、正しい情報を正確な数字で示し、治療法、生活改善を指導し、進行を食いとめ、多くの方が天寿を全うできるように、もろもろの施策をしていただきたいと思います。

平成20年から特定健康診査、特定健康指導が始まりました。特定健康診査とはメタボリックシンドローム、内臓脂肪症候群に着目した健診です。特定健康指導は、特定健康診査の結果から、生活習慣病のリスクが高く、生活習慣の改善により生活習慣病の予防効果が多く期待できる方に対して、生活習慣を見直すサポートをします。特定保健指導にはリスクの程度に応じ、動機づけ指導と積極的指導があります。よりリスクの高いほうが積極的指導だそうです。初回面接、個別面接20分以上、また８名以下グループ面接で80分以上、専門的知識・技術を持った者、医師、保健師、管理栄養士等が対象者に合わせた実践的なアドバイスを行

いますと書かれていますが、質問します。

この特定健康診査、特定健康指導がうまくいっていないのではないか。保健師が健診をして、その後、説明のとき、四、五分説明してくれていますが、20分も80分も対応していないように感じます。せっかく細かに特定健康診査、特定健康指導で早期発見・早期治療を掲げたのに、この運用は今うまくいっていないのではないか質問します。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　先ほども言いましたけれど、特定健康保健指導、それが十分に機能しているかどうかということにつきましては、現実的にはなかなか難しいと思います。まず、これは指導を受ける方の率が非常に少ないと。今、ちょっと数字を持ってまいりませんでしたけれども、こちらは受けるように当然通知をし、また電話等で保健師のほうから、ぜひ受けたほうがいいですよということで御案内はしているんですけれども、忙しい、その他の理由で実際に受けられる方が非常に少ないというところが大きな問題かと思います。

これは、検査をして、その検査結果が出てから、これが対象ですよというまでに時間がありまして、さらに、あなたはこの対象になりますからということで御通知を申し上げるというような２段構えになっているということもありまして、１つは、当初検査したときから大分時間がたってしまうというようなことも１つの問題かなというふうには思っております。

いずれにいたしましても、保健指導が十分に、この制度が予定しております機能を十分に現実的に果たしているだろうかということに関しましては、幾つかの問題があるのかなというふうには認識しております。

**○議長（杉山羌央君）**　あと１分です。

関議員。

**○９番（関　邦夫君）**　この問題は、市が主体になり、市の職員により積極的に特定健康診査結果の分析、健康指導を継続的に行わなければできない最重要課題だと思います。健康管理に自分のことは自分でという、市がそういう消極的な対応でなく、もう一歩進めたほうがいいのではないかと思い、質問しました。

これで終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　よろしいですか。

〔「はい」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　これで関邦夫議員の質問を終了いたします。

**◎延会宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　本日は、議事の都合により、残る一般質問については明日７日の午前９時半から行います。

本日はこれにて延会いたします。

御苦労さまでした。

延会　午後　４時２６分

# 平成23年第３回（９月）伊豆市議会定例会

（第３号　９月７日）

開議　午前９時３２分

◎開議宣告

**○議長（杉山羌央君）**　皆さん、おはようございます。

本日の出席議員は20名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

これより平成23年第３回伊豆市議会定例会３日目の会議を開きます。

◎一般質問

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、前日に引き続き、一般質問を行います。

◇　稲　葉　紀　男　君

**○議長（杉山羌央君）**　３番、稲葉紀男議員。

〔３番　稲葉紀男君登壇〕

**○３番（稲葉紀男君）**　おはようございます。

３番、稲葉紀男です。発言通告書に従いまして市長に１件、一般質問をいたします。

件名は、市民主体・主役のまちづくりのための伊豆市自治基本条例の制定を考えていますかということです。

さきの６月議会にて地区委員会の設置に関する私の質問に対して、市長は、市民みずからが考え、決断し、実行し、その負担額も決めていく市民主役・主体のまちづくりの原則をどうやって行政に当てはめていくかということに尽きると思いますと答弁されています。さて、その伊豆市の基本原則は、現在、市の条例や規則として制定されていますか。伊豆市総合計画後期基本計画の第６章に「市民主体のまちづくり（市民参加・コミュニティ）、地域が主体となるまち」がうたわれていますが、これは具体的な制度ではありません。原則としてなければ、今後どのようにして行政に当てはめていく方法を構築しますか。このことに関して、以下の質問をいたします。

自治基本条例とは、市やまちづくりの基本原則や行政の基本原理、基本ルールを、また、まちの将来像を定めた各自治体ごとでつくる条例です。これに最高規範性を持たせます。国での法に優先する憲法のようなものです。市の同じ条例でも、他の条例に対しては自治体の憲法としての位置づけを明確にしておきます。これに自治体の仕組みやまちづくりの基本原則を具体的に規定し、条例という形で法的根拠を持たせるものです。すべての市の規定、条例や規則、要綱等は自治基本条例のもとに置かれ、これとの整合性を持たなければなりません。これらの基本となるものですので基本条例といいます。都市宣言や市民憲章とは根本的に違い、基本構想や基本計画とも位置づけが違います。これには、市（市長、議員、職員）の義務、責務のほかに、市民サイドでの市民の権利と同時に義務もうたわれ、市民自身が市

との間で一種の契約を結ぶことになります。住民自治が強くうたわれ、具体的な市民の政治参加の権利や市民協働、働くことの義務づけ等の仕組みもそれぞれのまちに適した方法でつくられます。市民主役・主体のまちづくりの基本原理にもなるものですのでまちづくり基本条例ともいわれています。

平成12年、地方分権一括法案の施行後、地方のことは地方に任すという地方自治が進み、市長の権限が広くなりました。国や県との関係での団体自治における市長の責任と権限はますます強くなります。これはよいことですが、一方、その権力の使い方を誤ると、鹿児島県阿久根市であったように竹原市長は独断専行して、地方自治の根本原理である市長も議員も市民の直接選挙によって選ばれ負託されるという二元代表制である議会を無視し、市長の専決処分による行政を行いました。また、名古屋市の河村市長はその知名度と人気を武器に自分に反対する議会をリコールにて解散させ、みずからの率いる新党減税日本を立ち上げ、これを議会第１党にさせてしまいました。議会を思うままにしようと過半数を目指しましたが、幸いこれは市民の良識により阻止されました。75議席中28の議席を占めています。これこそ市政のふがいなさ、出口の見えない現状への市民のストレスにつけ込み、一見、変革への期待感を抱かせ、実は大衆扇動、大衆迎合。単に迷走、暴走するだけの偽りのリーダーシップにごまかされた、人気に支えられた一種の独裁政権になりかねませんでした。また、市長がその絶大な権力を乱用すると、議会の審議、議決の必要な条例ではなく、議会の関与できない市執行部による規則やさらに法的拘束力（罰則規定）のない要綱によるいわゆる要綱政治が蔓延し、議会はチェックできないまま市長が権力と行政をほしいままにする一種の専権政治になりかねません。

地方分権が進む今、各自治体は市民主権による住民自治の方向に進むのか、市長の強い権限の下、市職員を従えた、市民対話の名をかりた地区要望受付、人気とり集会、実はその裏に潜む巧みな選挙対策、さらに首長の人気にあやかり当選したい候補者、議員で議会を賛成派で固めて追従機関にしようとする議会対策。これらにより、一種の専権政治となるかどうかの分岐点に立っている非常に重要な時期であると思います。伊豆市には万が一にも阿久根市や名古屋市のようなことが起きるとは思いませんが、そのようなことを起こさないためにも、また市民主体のまちづくり、住民自治を確立するためにも、地方自治の本旨を定めた市の憲法、すなわち、市長、議員、職員、市民のあるべき姿の基準となる、法が定める自治体としての伊豆市自治基本条例の制定が必要であると思います。

そこで、市長に以下の質問をいたします。

１、市長は自治基本条例についてどのような考えを持っていますか。

２、伊豆市の自治基本条例を制定するためその検討を直ちに開始する考えはありますか、ないとするとその理由は何ですか。あるとすると、そのための手法、手順やタイムスケジュール等についても概略でもありましたら御説明願います。

３、住民自治の基本である市民の政治意識、すなわち参加と協働の高揚を図るために、ま

た市情報の共有化を前進させるためにどのような考えをお持ちか伺います。

最後です。市民が主体・主役の地域委員会、これを現在検討中であるということですが、これは単に地区要望のためでなくもっと広く、今申し上げました自治基本条例の一環としてとらえ、検討は市当局だけでなく、市民、有識者、専門家の意見を取り入れ、時間をかけても慎重に進めるべきと考えますが、いかがでしょうか。

以上、質問いたしました。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの稲葉紀男議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　皆さん、おはようございます。

私は、市の民主主義のあり方については、既に憲法以下で日本の中では定着をしており、今の伊豆市において自治基本条例が最優先課題だとは考えておりません。したがって、現時点で自治基本条例を制定に向けて検討する考えはございません。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　４番目について。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　私がこの地区委員会を提案しておりますのは、今、新たな地域のコミュニティをどのようにつくっていくか。かつては私のところは中狩野村、上のほうは上狩野村、あるいは土肥村、西豆村、それぞれ村という行政単位がありました。それが町村合併で町になり、そして今は伊豆市になっているわけです。これはあくまで行政のくくりであって、伊豆市という行政単位はここまで大きくなってしまいました。それによって、逆にもともと歩いて行ける範囲の中のコミュニティが行政的なコミュニティが崩壊したという側面もございます。それを再構築するためにはおおむね、全く昔の村を戻すわけではありませんが、おおむね昔の村くらいの程度の規模、それが４年前の小学校区単位であるか、あるいは今の社会福祉協議会の地域福祉委員会の単位であるか、そこはこれから御議論いただきたいのですが、その程度のコミュニティを再構築していただくことが住みやすいまちづくりを進める上で一番大事なので、今の伊豆市にとって大切なのではないかと判断をし、地区委員会の創設に向けて今市役所内で検討をさせているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　５番。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　したがって、これも繰り返しになりますけれども、したがって私はそこが今の伊豆市の課題を克服する方法だと思っておりますので、基本条例ですね、基本条例を制定してその中の一部として検討するという考えは持っておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　私も今すぐ自治基本条例をということは非常に難しい。今、日本全国で230ぐらいの自治体がこれに向けてつくっているんですけれども、相当長い間、時間をかけて市民合意、市民の参加のもとに進めているということですので、いつかはやはりできるだけ早くは進めなきゃいかんという気でございます。市長さんのただいまの答弁で当面はやる気がないということでしたが、ぜひ早急に検討を開始することをお願いいたします。

関連質問をいたします。市民の参加を具体的に進めるための方策についてでございます。

市民参加、市民協働という言葉のとらえ方の範囲が非常に広いと思います。市長は、３月のときにはたしかこれを地域委員会という言葉で答弁しています。そして今回は地域協議会という表現にしているわけですね。それで、この地域協議会という表現は、一般的にはそのいわゆる自治法に基づいた、国の法律に基づいたこういうまちづくりの仕組みということを指していると思います。

そこで、その地域委員会から地域協議会と称している、この言葉だけの変更なのか。細かいようですが、何かそこに意味があるんでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　ちょっと前段部分の市民参加のあり方というのは、私は伊豆市というのを、この地域の皆さんというのはもう長いことされているんですね。御承知のとおり、本来公共事業でやるべきところを原材料支給でやっていただいておりますし、あるいは中伊豆の協働の会のように萬城の滝の周辺整備なんかを本当に皆さんボランティアでされていたり、都市部ではないような市民参加、市民主体のまちづくりは実は相当実績があるわけです。そこで、今、伊豆市で欠けているのは、欠け始めているのが、いわゆる昔はここに村役場があってそこまで歩いて行けば相談もできた、用水の整備や川の整備もそこで相談できた、それが今修善寺のこの市役所だけになってしまいましたので、支所はありますけれども権限と財源は与えてありませんので、その周辺のコミュニティづくりをする上で、どういう単位かは難しい、昔の村といったり連合区といったり小学校区といったりどれでもいいんですが、その程度の規模でコミュニティをつくっていただいたらどうかということであって、前回の議会でも申し上げましたけれども、それを地区委員会と呼ぼうが地域協議会と呼ぼうがその名前は余り重要ではないと思っているんです。

繰り返しになりますが、小学校区程度か連合区程度か、それくらいの規模の中で身近な身の回りのまちづくりのお話をしていただく場をつくったらいかがかということを提案申し上げているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　私、別に名前にこだわっているわけではないんですけれども、地域協

議会というのは要するに国の法、自治法にのっとったいわゆるまちづくりの一つの組織でございまして、市長の諮問機関という位置づけでございます。したがいまして、そこには事務所を構えるとか、それから市の役員、理事を置くとかということも義務づけられております。また、一方、その機能の中でもその地区にかかわる重要な事項、例えば南小学校区に新たな学校を建てるとか火葬場を建てるとかそういうことがあったときにはその地区委員会、地区協議会に諮問しなさいということが義務づけられている制度です。単なる補助金の配布をどうするかと、地区要望をどうするかという組織ではありません。そしてまたさらにその地区委員のメンバーはどうするかという話になりますと、それは市長が選出するという仕組みになっています。したがいまして、例えば今の牧之郷には一つの自治区があります。小学校単位とするというと柏久保、駅前を初め、大野、年川まで一つの大きなくくりになるでしょう。そうしたときに、そこの委員の構成をだれがどこで決めて、そしてその方は本当に地区の意見としての公平性、透明性を持てるかどうかというようなこと。その中で決められた、例えば今言いましたような市の設備をそこにつくりましょうといったときの諮問されたときの答えとしてその委員会の中で決定されれば、それがある意味では一つの拘束力的なものが発生するおそれがあります。

ですから、私はそれがナワじゃなくてそういう実質を伴うものなのか、あるいは今現状あるいわゆる自治区、これは任意団体で市長の諮問機関ではありません。そしてそれは市から補助金というお金を交付されて、そしてそのお金の使い方は自由にやるという制度です。ですから、そこらで非常に重要な意味を含んでいることです。それらの観点も含めて今各自治体は、先ほど私が申し上げました新しいまちづくりのために基本条例というものを核にして、憲法にして進んでいるというのが現状です。ですから、市長さんはそこに予算の提出権とかあるいは執行権を与えるというようなことをおっしゃっていますけれども、この予算の提出をするとかあるいは執行権なんていうものは、これも前も言いましたけれども市長の専権事項で、そういう議会ですらそういうことは立ち入れない、ましてそこの地区の委員会云々ということはできないことです。ですから、そこらのこともしっかり踏まえた上でこの地域づくりというものを進めていただきたいと思います。いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　前提となるお考えが大分違うようなんですが、市長のその責務を果たす上でオーソライズするような、相談相手のようなそういったような行政機関としての地区委員会というものを考えているわけでは全くありません。重要な公共施設なんかは市長の責任になるわけであって、市長が責任を持って提出しそれを議会にお諮りをして進める。これは今も機能していますし、将来もそれがやはり市長と議会の責任のあり方だと思っています。

私が申し上げているのは、今伊豆市の中に128、130ぐらいの区があるわけですね。700世帯1,000人のところと２世帯５人のところがあるわけです。５人の区と1,000人の区と同じ役

割は果たせないではありませんかと。したがってこれが皆さんのフラストレーションになっているわけです。毎年毎年600の地区要望が上がり、それを建設、ほとんど建設部ですから、建設部は毎年600もできないのでこちらはこちらでフラストレーションがたまる。区のほうは区のほうで何年出したってやってはもらえないからフラストレーションがたまる。したがって、ある一定規模以下のものはその大くくりの中で皆さんで決めていただいて、これは自分でやろう、これは大きなもので市に要望しようということでやっていただいたほうが、より迅速で効果的なまちづくりができるのではありませんかと。そのあり方等、委員の選び方等は今から皆さんでお話しくださいということを申し上げているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　わかりました。私が危惧したのは、いわゆる自治法上の地区委員会の構成をすると、ややもするとそこにある一部の強い力の影響力が強くなって、ややもするとそういう声の大きい方の意見が通るような機関になりはしないかということのおそれから申し上げたわけです。今の市長さんはそういう制度ではないということを伺いました。

また、質問の２にします。確かに今伊豆市には五、六人の区から1,700人も占める区、合わせて128の区があります。これはあくまでも自治区ですね。我々の区で1,200人ぐらいいるんですけれども、地区要望を出すにはそれこそ区の中の９つの町内、９つの町内の中には各４つぐらいの組があります。そこの組の意見をみんな集約して出して、そこで区長さんがまとめて、確かにそうです、大きい区も小さい区も今伊豆市の制度は地区要望は基本的に５つです。全く公平性ありません。そのことについては非常に疑問を感じます。

そういう中で、さて、我々の区の中でもどれを出そうかこうかというときには、まず小さい町内会の中で話し合います。大体様子はわかっているからすぐやります。９つの町内が集まってどうしましょうかというときには評議員というのがありまして、そこで決めます。かなり、40や50の中から選ぶわけですからかなりいろいろ腐心します。そういう状態です。さて考えてください。学校単位になると、牧之郷、駅前、柏久保等々を入れると恐らく5,000人ぐらいの世帯になるでしょう。その中からあなたたち勝手に決めてくださいということは非常に理想的には必要ですけれども、それを決めるまでにかける過程というのは、すぐそこあしたからやりましょう、来年からやりましょうなんていうことはまずできないと思います。その前にはまずその地区としてのみんなの協働意識、コミュニティ意識、そして冷静な判断、選ぶ構成員の公正な選出方法等々が確立してからでないとなかなかこれは難しいです。

市長さんは実験的にある区が名を、手を挙げてくれたらば来年からでもやりたいということを言っていますが、これは今申し上げましたように非常に難しい問題がはらんでいるし、ややもするとせっかく今ある長い伝統の上に立った地域の文化や伝統やその風習みたいなものが、ややもするとむしろそがれてしまうようなことも起こりかねないということですので、ぜひ時間をかけてゆっくり、そしてその仕組みをつくるためには市民の意見も聞きながらやっていただきたいなと思いますが、これを来年からでもある地区が手を挙げていただければ

やってみたいという気持ちには変わりございませんか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　四、五千人規模のところもできるかもしれません。その中で意見集約するのは大変難しいと思います。したがって、私が申し上げているのは、先ほど引用されたとおり、市民が自分たちで考え、自分たちで話し合い、自分たちで決め、負担も自分たちで決める、これが本当の民主主義の姿なんですね。どうしても今までの日本の国は、国も県も市も主権者である、本来主権者である市民、国民の皆さんか陳情に行ってお上にお願いをする的なやり方が多かったわけです。そこを本来の民主主義というものをこれから具現しなければいけないということで、今は市が用水の修理から農道の整備からそういった小さな公共事業まで責務を負っているわけですね。それは市が責務を負うわけですが、その中で先ほど言いましたように、何年たってもやっちゃくれないというようなフラストレーションを、一定のコミュニティの規模の中で自分たちで解決していっていただくための手法を、これから一緒に話し合っていきましょうということなんです。既に幾つかの大きな区とかあるいは既に連合区を持っているところがありますから、そこで私がそれをやりなさいというのではなくて、じゃうちはやってみようというところがあれば他に先行してやっていただいて、その教訓を周りに生かしていったらいかがでしょうかということを提案申し上げているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　市民主体はそのとおりです。しかしながら、いきなりさあ皆さん考えてくださいといっても、なかなかその考える基準そういうものがなければ、民主主義の手法にのっとった基準というものがなければ、これは具体的にはいいものが構築できるとは思えません。こういう問題があるからこそ、例えば静岡市の自治基本条例ということを市長はごらんになったことがございましょうか。静岡市の自治基本条例でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　ありません。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　私もいろいろ調べた結果やっと探り当てたことですので、よくわからないところもあります。ここを、今言いましたようなことで、政治参加の意識も含めてどうしたらいいでしょうかと、参加の意識を推進するための手続を含めた条例をつくっています。これはもう２年以上かけてつくった条例です。そのためには、市民が参加することはどんな対象事業であるのかと、そのためのものはどんなものであるかとかいろいろなことを参加の手続と方法について、例えば意見交換、タウンミーティングをしましょうとかいろいろなことを細かく、みんなの合意のもとに細かく市も含めてそういうものをつくったんです。こういうものをつくることによって、客観性を持った間違いのないその市民参加ができるという

ことであります。また一方、名古屋市ではどういうことを考えているかというと、こんな例がございました。もう難しいことはそういうものは余り考えないで、今ある補助金、伊豆市でも補助金を出していますが、その補助金の枠を地区の人口割に従って行政の補助金制度の中で、交付金とかそういうことじゃない補助金制度の中で地区の大きさに分け合って配布しましょうと。そして、そのことのその使い方等は住民に任せましょうというようなことを決めているところがあります。

いろいろなその方法がありますけれども、ぜひこういうことも含めて市民参加ということから、市がやはりさあ民主主義の本旨はみんなでやることだよといってもなかなかそれはいろいろな難しい面がありますから、ぜひ市政が住民を巻き込む、専門家の意見も取り入れながらぜひそういうものをつくっていただけたらどうかなと、重ねてこの今後を含めて基本条例についてお伺いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　お話を伺っていて、私は最優先課題に対する認識が違うと思うんです、議員と私で。議員は、市民の声が届くか、あるいは市長の専制政治にならないかという観点から基本条例が必要だというお考えのようなんですが、３年半市長をやってみてこんなに権限がないのかと思っているわけです。ですから今日本じゅうで首長はみんな地方分権、地方分権と言っているわけです。御承知のとおり、30坪の家を自分の田畑に建てていいかどうかさえ市長にも権限がないですね、地主にも権限がないし市長に権限がない。企業誘致もできない、土地のその使い方を市長が提案することもできない。全部国とか県にお伺いをしなければ自宅の土地の中に家を建てることさえできないわけです。そこを今全国の市長、町長はこれではまちづくりができない、総合的なまちづくりができないといって地方分権の大運動になっているわけです。それが今伊豆市が抱える最優先課題で、これでは幾ら駅がよくなっても道路がよくなってもまちは元気にならない、そこが最優先課題なんです。

今、議員が心配されている市民の協働はどうなのか、市長が独裁で走らないのか。それは議会からも監視をいただいておりますし、非常に広いですけれども３万5,000人の世界の中ですから、タウンミーティングやら、あるいは主権者でありながら声が届かない幼稚園、保育園は毎年私は１カ所ずつ回っていて意見も伺っておりますので、そこはちゃんとやれば制度の上では担保されていると思っています。そこの大前提のところが議員とちょっと認識が違うようですので、私は私の今の認識に基づいて最優先課題を果たしていきたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　これはある意味では市長の考えが姿勢を、方針を決めると。これはもう民主主義の一つのルールですからあれですけれども、基本条例というのは決して私は市長の独裁を防ぐとかどうかということではございません。

市長の権限というのは、御承知のように、地方分権一括法案が平成12年に施行されて以来、いわゆる機関委任事務というものが減って自治事務がほとんどふえていました。ですから、法令上では地方のことは地方にということで権限を持っています。持っているけれども、ややもすると要綱的に働くと、そのことを県の指針や国の指針等をあえて守らないと、法律的には正当性があっても早い話が後から何かしっぺ返しを食らうという自治体の一種のおそれのようなものからなかなか上にお伺いを立てるというのが今の状況じゃないかと思います。早い話が例の阿久根市、名古屋市にしても、阿久根市の市長が議会を無視して議会なんて開かない、要らないと、これは緊急の議会だから開かないということを主張しても、これは議会は緊急性があれば市長の専権事項で開かなくたって決めるという、自治法の枠の中でやっています。そのことに対して違法だということは上からは言ってくれません。最終的には市民のリコールという形でもって阿久根の市長がリタイアしたわけです。

要は、私はやはり確かに上からの規制も強いことがありましょう。だけれどもそこをもう一歩踏み込んで、要するに基本条例のようなものをしっかりとつくって、そしてその上に立った市政の進め方をするということがもう認められているわけですから。例えば要綱政治というのがありましたね、都市開発については、要するに、法律が厳しいから法律の範囲の及ばない条例、あるいは市議会の条例はなかなか難しいからその範囲に及ばない市長の専権事項である要綱でもっていきましょうということでどんどん要綱でもっていろいろな規制を決めて進んできた、これが要綱政治ですね。ところが、その要綱でなくても条例そのものがさっき言いました地方分権一括法案の中でやってもいいですよという方向に僕は変わってきたと思います。ですから、そういうことをぜひ市長さんの勇気を持って、伊豆市に合ったことを、市が条例として確立するようなその方向性を持っていただきたいということをお願いいたします。この件は以上で終わります。

最後の質問をします。さっきの地区委員会に戻りますけれども、私は今当面、大ぐくりな学校単位を一つの枠とした地区委員会の要望ということが市民サイドから強い要望がわき上がっていると思いません。私は、今現在必要なことはそういう市民意識を教育するため、あるいは議会、職員も含めたその意識を、意識改革ということを市長さん盛んに言われていますが、そういうことを進めることがまず基本になるかなと。それからまず五、六人の区から1,700人の区まで128もある区をまずもっと統合すると。いきなり大きいばあんとでかい学校区にするよりも、まず手短にできる区の統合、自治区の統合がまず当面始めるべきことかなと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　議員は何もないところにコミュニティを強制しているということなんですが、実際にあるにはあるんですよ、ぼんやりと。私はその５人の組の小さな区を集約したらという御主張、最後にありましたけれども、それを市長が強制することはできないんで

すよ、やはりそれは市民の皆さんの自治ですから。

そこで、例えば私が土肥にタウンミーティングに行く。土肥に八木沢、小下田の皆さん来てくださいというのはやはり嫌なんです、正直な話。自分たちは、西豆は西豆、小下田は小下田なんですね。この間の小学校区でも署名を見ればやはり湯ヶ島は湯ヶ島の署名、狩野は狩野の署名が集まるんです。狩野小が最適だからといって佐野から持越までみんなの署名を集めるということはしなくて、いろいろな市民の皆さんのタウンミーティングのやりとりとか活動を見ていると、おおむね昔の村とか以前の小学校区でやはり動いていらっしゃるんですね。それくらいをベースにして話し合ってもらって、選出の仕方とか選び方はいいですよ。例えば天城湯ヶ島でいえば昔は上狩野村と中狩野村と２つだったんですね。小学校区だと３つです。それはどうするかを皆さんで決めていただき、役員の選び方も皆さんで決めていただき、そういったやり方を皆さんで話し合って、そしてうちはやってみようかというところは手を挙げていただいたらどうでしょうかということを提案申し上げているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　趣旨は全く同じです。要するにみんなで決めましょうということです。ただ、私の言いたいのは、そのために行政の指導あるいは援助等もアドバイス等も必要ではないかということを申し上げているわけでございます。

以上で質問を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　これで稲葉紀男議員の質問を終了いたします。

### ◇　森　　良　雄　君

**○議長（杉山羌央君）**　次に、12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

私の質問の趣旨は、今伊豆市の人口は３万5,000人を割っております。ところが、平成22年度では何と654人もの人口減少が起こっているんです。危機的な状況と思います。何をする、かにをするじゃないんです。なぜ、市民が逃げ出してしまっているんですよ。古い言葉で言えば「逃散」という言葉。市民の皆さんは、あれが不満だ、これが不満だと言いながら伊豆市を出ていきません。何も言わずに出ていってしまいます。私はこういう状況を前々から指摘している。伊豆市の人口減少は加速化しているんだよと。残念ながら市長も議員の皆さんも余り理解してもらっていない。伊豆市の繁栄を求めるならば、住むなら伊豆市だ、子育てするなら伊豆市だと言えるような住みよいまちをつくる以外にありません。そういう基本姿勢に立ってこれからの質問を進めます。

まず、自然破壊です。

萬城の滝一つに絞りますが、各地で自然破壊が進んでいると思います。伊豆市の自然破壊が進んでいます。残念ながら菊地市長には自然破壊の認識がないようです。萬城の滝の目地

工は自然破壊の最たるものです。それはジオパークサイトの候補から外されるであろうことからも明白です。これ以上の自然破壊はありません。菊地市長は地元要望だとあたかも責任がないように言っております。この工事の予算を審議するとき、あなたは萬城の滝と浄蓮の滝を結ぶ観光開発を述べていました。萬城の滝の工事はあなたが進めたのではありませんか。あくまでも地元要望だと言い張りますか。地元要望とはどこの地元ですか、具体的に述べてください。どの地区からの要望ですか、具体的に述べてください。今お話があったような地区要望だったのでしょうか。書類で要望が出ているのでしょうか、きちんと答えてください。

まるでなまこ壁よろしく目地が打たれています。この白い目地の下は透明な接着剤ではありませんか。この工事はこれで終わるのでしょうか、検査は終わりましたか、工事は終了しましたか、工事代金の支払いは済みましたか、今後この工事はどうなりますか、これで終わりですか、さらに工事を進めるのでしょうか。予定をお聞きしたい。既にジオパークとしての価値はないと思いますが、市長はどのように見ていますか、市長の考えを伺いたい。ジオパークとして復活させる考えはありますか。22年度においては、自然破壊または環境破壊はこれだけでしょうか。山間部などで新しく林道などの新設道路はありましたか、林道に限らず道路の開発はありましたか、伺いたい。

有害鳥獣の捕獲実績について。

シカやイノシシによる農業や林業の被害、山林原野のシカやイノシシによる食害も大きなものがあるようです。被害をどの程度把握していますか。22年度の場合、被害状況はいかがだったでしょうか。最近の被害状況はいかがですか。あわせて最近の捕獲状況を伺いたい。毎回、有害鳥獣について質問しますが、それだけ市民の関心が高いものと理解していただきたい。平成22年度のイノシシ、シカの捕獲状況を伺います。平成22年度のイノシシ、シカの捕獲計画に対し捕獲はいかがでしたか。平成23年度に入り有害鳥獣の捕獲許可を出していると思いますが、許可状況はいかがですか。捕獲許可数に対し捕獲状況はいかがですか。平成22年度の捕獲計画はイノシシ、シカ、それぞれ何頭ですか。今後の捕獲見通しはいかがでしょうか。伊豆市、伊豆半島のシカやイノシシの生息数はふえているのでしょうか、減っているのでしょうか、状況はいかがですか。あわせて食肉加工センターの状況を伺います。処理状況はいかがですか、販売状況はいかがですか。

次、台湾旅行について伺います。

ことしも台湾へ行きました。何しに行きましたか。目的、何をしてきましたか、どこへ行ってきましたか。人員、成果を伺います。昨年度も行っております。何人で行きましたか、どのような成果がありましたか、伺います。きょうは傍聴者の方もいらっしゃいますので、しっかり答えてやってください。

し尿処理施設。地元とはどこでしょうか。

し尿処理場の候補地が決まったようです。田代、大平、下船原の３カ所の候補地から田代に決まった経緯を伺いたい。21年10月に発表された基本計画に変更はありませんか、内容に

変更はありませんか、計画の詳細を伺いたい。田代には断層が走っていると伺いましたが、断層を避けることができましたか。田代の田んぼは圃場整備が済んでいると思いますが、計画はここを避けることができましたか。もし田んぼにかかるようでしたら農地の転用が必要になると思いますが、いかがですか。転用が必要な場合はどのような手続を進めますか。田代の外れだと思いますが、それは加殿に近い場所です。どちらかというと田代の集落よりは加殿の集落に近いのではありませんか。加殿の人家とはどのぐらい接近しているのでしょうか。天城湯ヶ島地区からの運搬路はどのように考えていますか。搬入路を考えると車両の大半は加殿の集落を通行することになります。

供給インフラ整備状況について伺います。

希釈水、プロセス用水はどのように考えていますか。希釈水、プロセス水はどのぐらい必要と考えていますか。上水を使用しますか、その他の用水を考えていますか。用水を使用する場合、どの用水を考えていますか。地元住民の建設同意はいかがでしょうか。加殿地区の住民は同意していますか。加殿地区は地元と認識していますか、どのように認識していますか、説明状況をお伺いしたい。

小学校の統廃合について。

この件は、昨日も十分話し合いが行われましたが、市長や教育長、教育委員会の委員長、子供たちの安心・安全をどう考えているんですか。看過できません。きょうはしっかり議論したいと思う。余りにも無責任な当局の答え、状況に私は怒りさえ感じる。このまま安心・安全を無視するならあなた方に行政を任せることはできない。学校教育を任せることはできない。即刻やめてもらいたい。質問を続ける。

天城湯ヶ島地区の３小学校の統廃合が決まったようです。決まったんですね。狩野小学校に統合するようですが、安全性は確保されているのでしょうか。６月議会及びきのうも鈴木初司議員が危険性を指摘しています。土石流の危険性を指摘しているんです。そこへ子供たちを集めるというんですよ、私たちのまちは。市長と教育長に危険性を認識しているのかどうか。いいですか、はっきり答えてくださいよ。伊豆市のハザードマップに記載されているんですか、答えてくださいよ。市長はハザードマップを、教育長もそうですよ、答えてください。ハザードマップはなんなんですか。どういう認識をしているのか答えてください。ハザードマップというのは危険性があるのかどうかですよね。どういうふうに認識しているのか。危険があるからハザードマップがつくられているんです。狩野小学校はそこに建っているんですよ。

市長と教育長に伺います。少しでも危険性があるなら、そこに子供たちを集めることは危険がふえるということではありませんか、危険が増すのではありませんか。市長と教育長にしっかり答えていただきたい。あなた方は安心・安全ということをどういうふうに考えているのか。口先だけの安心・安全だったら答えなくてもいい。子供の安全を真剣に考えているかどうかなんです。

統合の説明会、私は熊坂と生きプラで行われたものしか見ていません。市の職員に参加を要請しておりませんか。市長と教育長、答えてください。最初はこの統合は2013年４月を目指しているようですが、予定のスケジュールを聞きたい。特別教室を普通教室にするつもりのようですが、教育の質の低下が進みませんか。どんな特別教室なんですか。通学方法は問題ありませんか。きちっとクリアできているんですか。登下校時間に合ったバスの運行がされているのでしょうか。ダイヤの調査はしておりますか。乗車定員に余裕がありますか。調査状況を伺いたい。学童保育を始めるようですがどのように進めるのでしょうか、いつから始めますか。施設についてどのように考えていますか、場所や施設などどうするのかお聞きしたい。学校内で学童保育を進める場合ですが、土石流の危険がある場所に児童をとどめることになります。子供たちを危険な場所に集めとどめることになりませんか。どうも危険性の認識が余りないようですが、お答え願いたい。

市長と教育長に伺います。あなた方は統廃合ではなく再編成だと言っていますが、実態は校名、校歌、校章が変わるだけではありませんか。再編成とは言えません。地域の伝統やよき文化を破壊する統廃合ではありませんか。統廃合は教師を半減させます。傍聴者の皆さん、議員の皆さん、200人いたとする教師が100人程度に減ってしまうんですよ。まともな教育ができると思いますか、今までどおりの教育が。伊豆市の小学校の教育力は確実に低下します。これを補う方法は考えておりますか、どんな考えがあるのか市長と教育長に伺いたい。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの森良雄議員の質問に対し、答弁を求めます。

初めに、市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

まず、萬城の滝についてですが、これは平成15年、合併する前ですね。平成15年８月25日、当時の海瀬町長の名前で萬城の滝周辺整備計画検討会に文書が出されておりまして、そこからの回答が平成15年12月５日、それからさらに萬城の滝周辺整備計画検討委員会委員長の当時関谷和雄さんから大城市長あてに一定の答申内容が入ってきたのが16年８月４日、これは伊豆市になってからでございます。この中で、萬城の滝についてやはり裏見を復元してほしいということが多々書かれておりますので、よろしければコピーを後ほどお渡しいたします。それから、今のその目地のモルタルのところですが、萬城の滝の白くなっているこれは灰色の注入モルタルでございます。それから、完成したかについては、これ６月議会でもお話し申し上げましたが、裏見の滝を復元する事業としてはまだ未完成な部分がございます。それから、ジオサイトについてはこれも当初は外れる可能性はございます。それから、22年度は伊豆市事業主体の山間部での新設道路はありません。

次、有害鳥獣ですが、まず、22年度の被害状況は、被害発生に伴い部農会や自治会を通じて提出される捕獲依頼書の内容からは前年度と同程度の被害が発生しているものと認識をしております。市で実施した農家へのアンケートによると、平成22年度はシカ被害が対前年比

1,000万円減の9,000万円程度、イノシシ被害が対前年比700万円増の3,600万円となっております。

最近の捕獲状況ですが、平成22年度の捕獲計画と捕獲実績、それから23年度の状況と計画ですが、平成22年度の鳥獣被害防止計画上の捕獲計画と実績は、シカは計画数600に対して捕獲実績は357頭、イノシシは計画数200頭に対して実績は136頭でございます。本年度は４月１日から８月末まで連続して捕獲できるよう許可をしています。これまでの捕獲計画数は、22年度と同様にシカ600、イノシシ200ですが、４月から６月までの捕獲実績はシカが308頭、イノシシが48頭となっています。

今後の見通しですが、狩猟期を除いて有害鳥獣捕獲を積極的に実施していく予定であり、最終的な捕獲数は前年を上回るものと見積もっております。

伊豆地域全体のシカの生息数は、県の調査によりますと平成21年度末で推定個体数は約２万2,000頭となっています。猟友会の皆さんからもいろいろ伺うのですが、横ばい程度ではないかというような見方をしています。

この４月に開所いたしましたイズシカ問屋の状況ですが、処理及び販売状況は７月末までにシカが105頭、イノシシが６頭でございます。販売状況は、現在市内の精肉店に卸売をしており、シカ肉は７月末までにロース、モモ及びひき肉の合計で374キロ、70万7,000円を売り上げております。ただ、残念ながら、ツーレーンの処理施設をつくったのですが、まだ職員の確保ができていなくて現時点では１レーンしか稼働しておりません。早急に職員を確保してツーレーン、フルに動けるように指示をしております。

次、台湾旅行ですが、目的は、伊豆市への観光の誘致でございます。

実績は、今回の訪問では台湾観光局、それから台北市、台北市議会、台湾旅行エージェント12社、それから台北市内の有力者が集まるロータリークラブ、これは２カ所ですけれども、等々へプロモーションを実施してきました。また、知事からも強く先方に行ったら先方の観光地を見てきなさいということでございましたので、台北北部の北投温泉に日本式の旅館をつくった加賀屋さんを研修してまいり、また金山温泉という観光地も視察をしてまいりました。

参加者は、私、議長、それから伊豆市インバウンドプロジェクト担当職員が２人、伊豆市インバウンド推進プロジェクトチームメンバーから７人で合計が11人でございます。

成果ですが、これももう再三申し上げておりますけれども、やはり伊豆市のいいところは、市長、議長、観光事業者が一体となってプロモーションすること、これの効果が大変すぐれた効果を上げていると私は思っておりまして、既に４泊５日のゴルフツアーをことしの11月ころから実施予定であると回答をいただいております。７月に行って11月にもう実施ですから。宿泊は市内の旅館を予定し、観光する組とゴルフをする組と分かれて月２回から３回のペースで50人ないし80人を送客する予定になっていると聞いております。ただ、放射能の不安感がございますので、伊豆市で測定した放射線量の生データを台湾の観光エージェントに

送ることで既に送致をしております。それから個人旅行ツアーですが、これライオントラベルというところ、これも行政報告で申し上げておりますけれども、９月に募集を開始して、11月ころからツアーを実施するという予定になっております。また、台北永楽ロータリークラブの伊豆市ツアーが４泊５日の予定で70ないし80人、来年４月６日から10日の予定で伊豆市を訪問されることもほぼ決定をいたしました。ついては、こちら側のロータリークラブに一定の説示をしていただけるようにお願いをしてございます。それから、平成22年度は昨年12月の議会で報告したとおりでございます。

次に、し尿処理施設ですが、経緯は、昨日、西島議員に御説明をしたとおりです。

基本計画は、基本構想については平成20年３月の全員協議会で、基本計画については平成21年12月の福祉環境委員会で詳細な説明をしております。その後、基本計画については平成22年10月に下水道建設の休止等に関連して下水道人口及び行政区域内人口の推計を見直し、計画処理量を１日25キロから27キロリットルへと見直しをいたしました。また、候補地選定の経緯を加えましたが、それ以後の変更はありません。

次に、断層についてですが、断層の調査をした結果、当初の候補地より上流側の圃場整備を行っている場所に変更することとし、残念ながら当初予定していた川側のところが断層の真上になってしまいましたので少し田んぼ側に場所を移すことにさせていただき、これによって断層からは外れることとなりました。

行政手続については農地転用の手続が必要となります。

また、加殿の民家からの距離ですが、約250メートルの離隔となっています。

天城湯ヶ島地区からの運搬路については、県道の伊東修善寺線から道路幅の広い一般農道修善寺中伊豆を通り搬入することが予想されますが、一方に偏るようであれば運送業者と協議をして最適な経路を選定したいと思っております。

希釈水については井戸を掘って使用する予定で、必要とされる水の量ですが、これは処理方式によって異なるようですが、先ほどの計画処理量の約２倍程度とされております。

地元の方々の同意につきましては、きのう報告させていただいたとおりでございます。

加殿地区は地元と認識しているかとの御質問ですが、やはりこのような行政的な公共事業を行う場合には、一般論としては当該施設が所在する、施設の候補地が所在する区というのが地元という、行政の一定の定義ではないかと考えております。ただ、周辺に影響することがございますので、当然まずは周辺区の役員さん、それから必要であれば区の皆さんにも御説明をさせていただいております。

それから、小学校の統廃合については、これは後ほど教育長さんからあると思いますが、きのうも随分小学校の安全の問題で御議論いただきました。そこで提案なのです。私もきのう夕方すぐ見にいって、けさすぐに建設部長とも協議をしたのですが、きょう皆さん、議会が終わった後、時間おありでしょうから現場を一緒に見に行かれたらいかがでしょうか。せっかく近いところですから現場を見て、危険度はもうきのうお渡ししたとおりにデータをお

出ししておりますので、ハード、ソフトともに１年半で間に合うと思っています。ぜひ議員御一緒に狩野小学校に行って、どういう危険があるのか、どういう対応ができるのか、ぜひこれは一緒に現場確認されることを御提案申し上げたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、教育長。

〔教育長　遠藤浩三郎君登壇〕

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　最初に、ハザードマップの件でありますが、当該区域は危険区域に入っております。したがいまして、危険性がないとは言えませんので、今後、建設部等と連絡調整を図り、安全確保に留意をしてまいりたいと思います。また、国土交通省への事業化の要望を早急にしてまいります。

次に、職員の説明会への出席の問題でありますが、強制、強要をしたことはありません。

次に、25年４月を目指した再編スケジュールについてでありますが、本年10月校名募集をし、校名を決めてまいります。12月議会に校地、校名等を議会にお諮りし、24年４月から校舎増改築の設計に入りたいと考えております。その後、増改築工事に入り、25年３月上旬の完成を見込んでおります。その間、路線バスあるいはバスの停留帯整備等を並行して行います。再編準備委員会においては３つの部会を設けて、校名募集、通学等、新しい学校の教育課程等々の問題を検討してまいります。

それから、特別教室についてでありますが、会議室、学習室、生活科室、児童会室等を普通教室に戻してまいりたいと思います。教育の質の低下にはならないというぐあいに考えております。

次に、通学方法、バスについてでありますが、中伊豆地区、その前の土肥地区の前例を踏まえて、事前に対処可能なものについて漏れなく対応してまいります。

放課後児童クラブについてでありますが、現在、湯ヶ島幼稚園わきの子育て支援センターにありますけれども、今後、狩野小学校体育館多目的室を利用する計画であります。体育館のほうは危険区域には入っていないところです。

次に、３つの小学校を一つにすることは再編成であるというぐあいに考えております。地域の伝統、よき文化については破壊されるものではないというぐあいに考えております。

教師の減少についてでありますが、県からの加配措置、あるいは本来のクラス数に適した教員配置にプラスされて教員が補充されますので、また市としての支援員等を置くことで手厚い学校生活を送る上で支援をしてまいりたいと思います。

いずれにしても、今後、周到な事前準備を進めて、支障のないようにしたいというぐあいに考えております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　あるけれども、市長は安全かどうか、ハザードマップについての考

え方は何も答えていないよ。答えさせてください。

**○議長（杉山羌央君）**　では、ハザードマップについての答弁を願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これもきのうからの議論の繰り返しになりますが、当然入っていることは承知していたわけです。そしてその対応策が、条例を通していただいて１年半の時間があればハード、ソフトともに対応ができるという見込みでございますということを申し上げております。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　全くいいかげんな答えしかしていない。安心・安全についてどう考えているのかなんて何も考えて言っていないじゃないですか、あなた。ちょっと議長、順番変えさせていただきますけれども、よろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　はい。

**○１２番（森　良雄君）**　まず自然破壊からいきますけれども、その後、小学校の統廃合をさせていただきます。

まず市長さんね、あなたね、自然破壊について萬城の滝以外はほかにやっていないとおっしゃっているから。今、22年度の決算書を見ると観光施設管理費で下り行幸歩道整備工事で718万円使われているんですよね。どこをどのように整備したんですか。答えてください。あなたはちゃんと答えなきゃだめだよ、傍聴者もいっぱいいるんだよ、きょうは。うそついちゃだめだよ。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　国立公園内あるいはその天城の自然の森林の中で手をつけちゃいけないということは私はないと思っています。これは知事と全く同じですが、我々のこの自然というのはかつて手を入れてきた山ですので、人間が一定の手を入れて管理をするからこそいい、そして健康な森林が育つわけです。その中で当該地域はかつては国が、林野庁が遊歩道として整備をされてきた。ところが、今、林野庁が物すごい圧力を財務省から受けていまして、かつてその遊歩道は国がつくったものであるにもかかわらず地元がやってくれということになったわけです。最初はその地代もという話だったんですが、これは本当は国の事業なんです。そこで、県と市で半分ずつやったらどうかという国からの提案をいただいて、県から、じゃ市と県が半分ずつという事業はありませんので県が補助金を出すから市がやるという事業を昨年実施いたしました。

〔「やったんでしょう。何でやっていませんなんて言うんだね」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　かつて国が整備した遊歩道の補修であって、新設道路ではございません。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　これが菊地流の論法なんですね、補修だから自然破壊じゃないと。

裏見の滝の復活についてはするのかしないのか、未完成なのか、どういう計画があるのか。これからどうするつもりなんですか、お伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これも繰り返しになりますが、先ほど、ここに文書があるんですが、この文書にかかわらず地元の皆さんは、テレビ報道もされたからごらんになったと思いますけれども、裏見ができたころはやはりそこに観光のお客様は多かったと、ぜひ復元してほしいと。ただ、実際にちょっと下のほうは崩落していますので、先般、私も治水砂防協会の研修で山口県に行ったときも秋芳洞の中はどうなっているのかとか見てきたんですが、やはり一定の安全確保はしてあるわけですね。これはジオサイトに入れることが第一優先ではないと思っておりますので、萬城の滝は萬城の滝として安全な対策がとれるように観光施設整備をしていきたいと思っています。ただ、きょうも報道されておりますとおり、県も第四次被害想定をこれから見直したりしており、その作業の最中ですので、最大被害のときにあのような形状の地形がどうなるのかを勘案した上で、したがって少し時間をおいてどのような安全化の事業が必要であるのかを見きわめた上で進めていきたいと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　また同じ質問になるかもしれませんけれども、この工事の結果、萬城の滝はジオパークとしての価値はなくなった、あなたがそうしたというふうに判断してよろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　当初ジオサイトから外れる可能性はあるというふうに認識をしております。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　当初とおっしゃっているようですが、じゃ今後、回復する可能性はあると思っているんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　年月とともに、50年、100年たった後その状況がどうなっているのか。大体日本の伊豆の山の中、日本は全部そうなんですけれども、もう人工物がないというところはほとんどないんですね。それによってどのようなジオパーク、ジオサイトとしての価値があるのかどうなのか私は全く大がかりでわかりませんので、これからの事業の中で、作業

の中でどの時点でどういうふうな判断をされるのかちょっと私には皆目見当がつきません。したがって、現時点では、来年度目指している当初にジオサイトに入るかどうかについては外れる可能性はあるなというように認識をしているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　あなたは伊豆市の貴重な自然遺産に手をつけ、それを破壊してしまったんですよ。残念ながらここではっきりしたのはそういう認識が全くない。

八丁池へ行く道路についてもそうですね。市長、八丁池へ行く道路どのぐらいあると思っていますか、御存じですか、伺いたい。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　いや、数は掌握しておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　あなたの政治というのは全くそうなんですよ。行き当たりばったりの思いつきで仕事をやっているんだ。萬城の滝しかり、地元要望だとおっしゃっていながら破壊してしまったんです。私はこれ自然破壊を問題にしているんですからね。いいですか。わかりもしないで。

当事あなたそこを歩いたと思うんですね。だれかに連れていってもらったんでしょう。まずはそこから確認しましょう。

〔「質問がわからない」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　もう一度。

**○１２番（森　良雄君）**　もう一度言うと私は時間ばかりどんどんいっちゃうんだよ。

**○議長（杉山羌央君）**　はいはい、わかりました。

**○１２番（森　良雄君）**　とめなさいよ。

**○議長（杉山羌央君）**　言っている間にどんどん質問してください。答弁者が意味がわからないところは聞くというふうになっているわけです。

**○１２番（森　良雄君）**　そんな質問じゃないよ、あんた。何で意味がわからないの。私は最初に言っているわけですよ。下り行幸歩道整備工事と言っているんだ。歩いたでしょう、あなた。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　小さいころ歩いたかどうか記憶はありませんが、私が市長になってからはそこを歩いたことはありません。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　あなた、下り行幸歩道ってどこだかわかっていないんじゃないの。わかってんの、言ってください。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　子供のころ遠足で行ったので歩いたかもしれませんが、市長になって

から歩いたことはありませんので、決裁のときに地図は見ましたけれども、自分がどこを歩いたかは記憶にございません。歩いていないかもしれないです。

〔「歩いているんだよ」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　うそついちゃだめだ。天城のガイドはあなたと一緒に歩いたと言っているんだ。いいですか。あの八丁池に行くには縦走路とここの八丁池歩道と下り行幸歩道、本谷歩道、上り行幸歩道、寒天歩道、そのほかに支線がごちゃごちゃ走っていて、みんな好き勝手に歩いているんですよ。こんなにたくさんの歩道があるような、いわゆる国立公園なんていうのは僕はほかにないと思いますよ。そこをあなたはわざわざ伊豆市のお金を使って補修しているんです。その辺どう思いますか、自然破壊だと思いませんか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　天城ガイドクラブの引率であのルートを行ったことがございました。すみません、私が、自分が決裁をしたこういう橋が崩れて階段を直したところ、そこを歩いたことは記憶がありませんでしたのでそこは通らなかったと思うんですが、下り行幸の一部は通ったかもしれません。それはちょっとすみません、私わかりませんので、当該補修を決裁したところは歩いた記憶がないということです。

それで、天城はやはり人が入れる森なんですね。そこでやはり自然とのバランスをとりながらあの心地よい、八甲田や白神山地と違う、全く違うブナの林の中を歩けるというのはやはり私はいいことだと思うんです。これ河津町さんもやっています。そこで自然破壊にならないような歩道のつくり方をしたり苦労しているわけですね。私は、先般、小冊子をつくりました天城ハイキングガイド24、もうこれは県からも知事からも大変高い評価をいただいておりまして、先般の伊豆地域観光交流会でも非常にこのパンフレットはいいという評価をいただいております。もちろん自然破壊は気をつけなければいけませんけれども、今非常にその天城の山中のハイキングコースというのはいいバランスのとれた、ガイドの皆さんにも頑張っていただいていることもあるんですが、いいハイキングコースになっているのではないか、危険なところはもう少し手を入れなければいけないなと考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　私が言いたいのは、これ以上、八丁池周辺、開発は無用だと。今十分に道路はあると。こんなことやっていたらブナ林はどんどん消滅していきますよ。人がどんどん入っていくんですよ。今おっしゃったガイドブック、私が今言ったコースは全部載っている。それ以外に幾つもあるんですよね。以後、十分自然破壊、環境破壊には気をつけていただきたい。

続いて、時間もありますので小学校の統廃合にいきます。

あなたね、市長ね、見に行きましょうとおっしゃっていますけれども、傍聴者の皆さんは

よくわからないだろうけれども、地図やあなたからいただいたような資料でもって、あなたはわからないんですか、ここの状況がどうなのか。市長と教育長にもう一回確認する。あなた方はハザードマップをどういうふうに考えているんだ。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　ハザードマップは施設が入っておりません。つまり、あそこの狩野小学校は切り取ってあるんですが、あそこがずっと２度であったならば、校舎がなかったならば、あのように土砂が流れていくということなんですね、ハザードマップというのは。今回はあそこに校舎があり、校舎は壊れないわけです。体育館も、体育館のほうが少しまだいくかもしれませんけれども、そこでハザードマップの状況と現地は差があるわけです。森議員はいつも大体私が現地に一緒に行こうというと必ず一緒に行かれないんですが、こんな近くですから、子供の安全のことですから、あそこは子供の通学路も入っているんです。それを現地できょうの午後一緒に行きましょうと言っているんです。一緒に行って確認されたらいいじゃないですか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　ハザードマップは３つに分かれていて、特別区域のうち土石流の高さ１メートルを超えるものが特別区域というぐあいになっているのは承知しております。最初のお答えにもいたしましたけれども、全く安全区域であるという認識はありません。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　教育長は教育長だけあってうそはつかないようで。いいですか。これ配られたんですね。黄色い線が警戒区域だとこれに書いてあるんですよ。市長にお伺いしましょう。あなたは警戒区域じゃないと言っているようだけれども、そうなんですか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　私がその警戒区域外であるとは言ってはいないと思うんですが、さっき言いましたように、白紙的にそのような地形がついていればそこまで土石流が行くということなんですね。現地は切り取ったり校舎が建ったりしているわけです。その校舎は倒れないと言っているわけです。ですから、子供の安全を大雨の日にどうしたら確保できるのかということを、じゃせっかくですから、近くですから現場で一緒に協議をして、そして議員と話をして、そして子供はこれなら安全であるな、これは間に合わない、現地で話をしましょうということを私は提案申し上げているわけです。危険だと言っているんです、現状においては。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　危険だということは認めるんですね。もう一度確認しますよ、認めるんですね、答えてくださいよ。話し続けますけれども。

あなたね、この土石流用の指定理由書というのをよく読みなさいよ。それから、この一番最後のところに土石流区域調書というのがあるんです。読めますか、あなた。私はよく読め

るんですよ、あなたには。悪いけれども、いいですか。地図を見た目で言っているんだ。はっきり言わせてもらうと、これぐらいのことがわからないでよく市長がやってられるな。

〔「発言に気をつけるように」と言う人あり〕

**○１２番（森　良雄君）**　発言じゃないですよ。いいか、これから言いますよ。指定理由書、下流端の土地の勾配は２度が必要なんですよ。わかる、これ承知していますね、答えてくださいよ。

それから、最後のページにこの地域の、確かに小学校の校庭だから平らなところもありますよ。しかし、作図上は横断測線番号３番から10番までがここに入るとすると、あなた何度になっているかちょっと言ってみてくださいよ。全く認識していないようだから。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　技術的な事実関係については建設部長から説明をさせます。

〔「あなたが認識しているかどうかなんですよ」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　先ほどの森議員の角度のことについてお答えします。

土石流区域調書のページをお願いします。ここのところに番号、先ほど森議員指摘の３番から10番についての地盤勾配が次の欄に載っています。３番から10番まで順番に角度を発表します。12.1、11.1、9.7、8.6、6.7、5.1、3.1、3.1、これがそこの各地点での地盤の勾配になっています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　市長、わかりましたか、ええ。最大勾配、今言われただけでも最大勾配で12.1もあるんですよ。3.1というのはどこだと思いますか、一番末端ですよ、この広域の。これを中央値をとれば6.7度ぐらい、七、八度あるということですね。何とも思いませんか、こういうところへ子供たちを集めるということに。教育長わかりましたか。いかにここの勾配、危険区域に指定されるように勾配がきついかどうかです。まずわかったかどうかということと、それから現地を見なくたってわかるんですよ。

この土石流が発生したとすると流速はどのぐらいになると思っていますか、市長と教育長にお伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　当該地域で秒速1.9メートル、そして30センチという危険がある、そういった危険がないわけではない、起こるかもしれない。したがって、そこを現地において、我々は安全が図れる対策はとれそうだと言っているわけです。だから一緒に、議員、何でそんなに嫌がるんですかね、子供の安全なんだから現場で本当に危険なのかどうなのかということをね。これはデータはありますよ、そのデータを現地で。我々市ですから、市民、国道

に直結している行政ですから、このデータとこれまでの前提をベースに現地で対策がとれるのかとれないのかを、せっかくきょう議会やっているんだから一緒に行って現場確認しましょうということで、どうしてそんなに現場に行きたがらないのかよくわからないんですけれども、私はぜひ御提案を申し上げたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　この土石流区域調書というのはいただいております。数字はわかりましたが、現実の問題にはよく具体的には頭の中には入っています。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　この流速は、今、市長のお話ですと約２メートル毎秒というふうに考えていいですね。この土石流の発生するであろうところから学校まで何メートルあると思っていますか。今後、土石流が発生したとしたら何秒間でここへ到達すると思っていますか、お伺いしたい。市長と教育長に。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません、私は土木工事については素人なので、この件については建設部長から説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　土石流の発生とそれの到達時間についてですけれども、まず土石流が発生した場所、それと学校までの距離、それとそれの流速、それによって決まってきます。当然勾配のきついところはスピードが速くて、勾配が緩いところではスピードが緩くなってきます。その関係が先ほどの議員指摘の調書に載っているわけです。ですから、どこで発生するかによって時間が変わってきます。そのあたりのところで距離とスピード、その関係になるわけですけれども、スピードも変化していきますので、ここで今図面ではかる材料がないものですから、また後で時間についてはお知らせしたいというふうに考えています。ただ、感覚的に距離見ますと、多分２分から３分程度ではないかなというふうに考えているところです。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　二、三分かかるわけですね。もっと早い可能性もあるんですよ。一番手前から200メートルしかないんです。１分前後で到達する可能性十分にある。さっき言ったように傾斜は12度から3.1度なんですよ。あなたね、土木経験がないから、私だって土木なんて勉強していなかったんです。人生の後半で10年間土木に関係したから一生懸命勉強してこういうふうに読めるようになったんです。あなただって市長やっているんだからね、土木事業は何億ってやっているんですよ、あなた。土木はわかりませんじゃ済みませんよ。わからなくたっていいよ。

あなたは自衛隊の出身ですね。私、山登り好きなんですよ。若いころテントかついでキャ

ンプだの何かやったんですけれども、キャンプやるときの注意事項って知っていますか、お伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　注意事項はたくさんありますが、多分今の文脈から言うと、沢での宿泊は避けるということを私に言わせたいのかなという気はしますが。

〔「教育長は」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　よくわかります。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　あなたね、元自衛隊でしょう。自衛隊で当然野営訓練もやっていると思いますよね。テントの設営の注意というのはないですか。同じようなことがあったんじゃないですか。

**○議長（杉山羌央君）**　求めますか。

**○１２番（森　良雄君）**　求めますよ。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　たくさんありますけれども、繰り返しですが、多分こういったところは避けろと私の口から言わせたいんだろうなということだと推測いたしますが。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　知っているでしょう。ここはね、入の洞というところの谷の出口、いわゆる扇状地の上にここは建っているんですよ。それで、さっき教育長に質問したけれども、ここでやる、学童保育もやるんでしょう。子供たちは教室の中にだけいるとは限んないですよ。通学の登下校時の途中かもしれない、体育の時間かもしれない、雨の日だから体育は外ではやらないかもしれないけれども、最近すごい事故があるんですね。山崩れで岩盤ごっそり、深層崩壊、土石流どころじゃないですよ。裏山が全部崩れて落っこってきちゃうというようなこともある。そういう危険なところへ、私はやめろと言っているんじゃないんですよ。ちゃんと安全を確保してからなぜやらないんだということを言っているんです。

じゃ市長、教育長もわかっていたんなら答えてください。あなた方はソフトやハードをちゃんと整備しますと言っているんですね。どういうソフトやハードを考えているのか。いつまでやろうとしているのかお伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　きのうの議論の中で教育委員長さんから、そもそもそれでは伊豆市の中には安全なところはないではないかというような御答弁がありまして、いやそれはハザードマップでちゃんとわかっているじゃないかというようなこともありました。しかし、実際に去年５月、そして今回も８月下旬にヘリコプターで伊豆市の上空を見たんですが、残念な

がらやはり危険なんです。それから、確かにハザードマップは一つの指標ではありますけれども、我々台風も地震もないのに国道136号線が全部落ちるなんて考えもしていなかったですね。そういったようなところに我々は残念ながらというか御先祖様のお墓と田畑を守りながら住んでいるわけですね。ですから危険がないのかと、あるのかといえば、まあ極端にいえば伊豆市どこにもあるわけで、土肥小学校も決めさせていただきましたけれども、あそこは後ろの工事をやっていますが、津波でまた入る危険性あるわけですね。そうすると避難をしていただくというソフトと一緒にやっているわけです。

狩野小学校は、最大、ヘリコプターには建設部長と一緒に乗りましたから、入の洞は比較的、ハザードマップに入っているけれども、しかしやはり流出量は少ないだろうし、そんなに著しく危険なところであるようには見えない。ただし、こういったデータが出ていますので、では30センチの土石流が、土砂が流れてくるときにそれをブロックできるのかできないのか。そこでまず大もとの、学校だけではありませんから、青羽根地区の住民もいますから、奥のほうのちゃんとした砂防ダムは、国交省ともきのうもきょうも議論しているんですが、一般的には調査をして設計して工事ですから、着工するまでに３年今からかかってしまう。それはやりますと国交省はおっしゃっているわけです。それまでの間に、じゃ子供の……。今焦点になっている校舎の50センチか１メートルの南側はほとんど壁で、出入り口が３カ所あるだけで昇降口がちょっと広くて、あとは１枚扉が２カ所あるだけですから、そこを防げるかどうかを、今、建設部長とそれは１年半でできそうじゃないかと。それと、あとこれも地域の皆さんのこともありますから校舎だけではなしに、２分か３分かわかりませんが、一番上流の狭いところで地面が動いたらサイレンが鳴るような仕組みも、これも１年半でできそうですよねという議論をしているわけです。ですから、そういったことがそれで有効なのかどうなのか。せっかく議員これだけ関心を持っておられるのだから、現時点で持っている我々の案を現場で見ましょうということを申し上げているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　あなたのおっしゃっていることはね、危険性を無視して子供たちをあそこに集めようとしているんですよ。いいですか。あなたに言ってもしようがない、建設部長に聞きますよ。いいですか。二、三分でしか余裕ないところで、教育長にも一緒に答えてもらいたい。危険性を予知して子供たちを退避させると、そんなことが可能なのかどうか。また、センサーを考えているようだけれども、どんなセンサーを置こうとしているんですか。大丈夫ですか、ちゃんと働きますか。お伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　まず、土砂災害についてですけれども、土砂災害の場合にはこの晴れている静かなときに急に起こるとは考えにくいです。当然事前に雨が降ってという中で土砂災害がどういう場合に起きるかと言われますと、まず雨が相当降っていまして地面に水

が入っている場合。それと時間雨量できつい雨量が降っている場合。それと雨がやんでも２時間、３時間後には崩れるという場合もあります。それと、そこの崩れるところの地形の角度、植生、土質、これによって土砂災害が変わってくるということになっています。ですので、その土砂災害なんですけれども、雨量にして時間40ミリ以上、連続雨量で160ミリ以上、このときに土砂災害が発生しやすくなり、20％ぐらい土砂災害が発生するというような経験値がありますので、当然こういうときには何らかの学校側のほうでソフトの対応をしていただけるのではないかなと思います。

また、センサーについてですけれども、今、国土交通省のほうでは土石流の来るところではテレビカメラで土砂を感知してビデオ撮りをするというようなものがあるようです。ただ、この場合には夜とか霧のときには見えないというようなことになっています。あそこの今回の場所については、センサーで糸なりを張ってそれで感知するというような方法がいいのかなと思います。ただ、それについてはフェンスなりを張って、動物なんかにそのセンサーを切られてしまうとまた誤報が鳴ってしまいますので、そういうことで警報も出せるかなというふうに考えているところです。

また、２分、３分ですっと動けるかなというのは、やはりソフトなり訓練なりで、子供たちの逃げるというのは学校のほうの対応でお願いをするような形になるのかなと思います。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員、51秒ですから、それを考えて発言願います。

**○１２番（森　良雄君）**　今確信したわけだね、やっとね。危険は予知できるけれども、確実には予知できないんじゃないですか。まず市長、それを確認したいですよ、市長に。

教育長、大丈夫ですか、そんなんで。学校で対応できますか。私は統廃合をするなと言っているんじゃないんだよ。なぜそんな危険を冒して慌ててやらなきゃいけないんだと。やめなさいよ、そんな子供たちを危険に遭わせるようなことは。もし答えがあるんだったら答えてほしい。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　ハードの話は先ほど市長、建設部長の話ですけれども、学校としては避難体制といいましょうか、避難路、避難場所を徹底して教育をしておきたい、防災教育をしておきたいと思います。集まる話もありましたけれども、現に狩野小の子供たちだって今心配なわけですから、それについては避難路、避難場所等々、避難体制については万全を期したいと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　時間ですので、これで森良雄議員の質問を終了いたします。

ここで10分ほど休憩をいたします。再開を11時20分といたします。

休憩　午前１１時１１分

再開　午前１１時２０分

**○議長（杉山羌央君）**　休憩を閉じ、会議を再開いたします。

**◇　松　本　　覺　君**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、５番、松本覺議員。

〔５番　松本　覺君登壇〕

**○５番（松本　覺君）**　５番、松本覺でございます。

できるだけ簡潔に聞きますので、簡潔に答えていただきたいと思います。

それでは質問をいたします。農地等の荒廃防止対策について伺います。

１番、土肥地区において国道沿いの休耕田の草刈りを市がシルバーセンターに依頼して行っておりますが、土地の所有者のみならず地域の住民にも大変好評です。３年限りの事業と聞いておりますが、乗用式草刈り機の導入もすることも決まっております。それによってコストも大変安くなるという前回の話もございましたので、延長のお考えはありませんか。

また、自走式草刈り機の補助も前向きに検討すると委員会のほうでそんな答弁をしたと伺っておりますが、その点についての進捗状況をお聞かせください。あるいは所見でもいいです。

②番、田んぼ、畑または宅地にするためにかさ上げが自由に行われています。実質的には多少の規制はあるようですけれども、実質的に自由に行われています。土地利用という立場でメリットも大きい一方、かさ上げを行わない土地については相対的に地盤が低くなるということが今起こっておりまして、浸水の危険が強まる現象が生じております。韮山地区等では規制をしていると聞いておりますが、そのような現象をどのようにお考えですか、市長のお考えを聞きたいと思います。

３番目、川底に草木が繁茂している状況が少なからず見受けられます。それによってそこに流木等がつかえ、あるいは土砂が堆積をして川底が上がってきます。大きな川や谷の深い川ではそんな大きな影響は少ないと思われますが、天井川とは言わないまでも耕地と宅地との高さが変わらない川、要するに川以外のところと川底が余り高さが変わらないというそういう川は大変に危険です。平成19年の大雨の際に、草木にごみがつかえダム状になったものが一気に流れて堤防が決壊した状況を私自身が目の当たりにしました。定期的な草木の除去、川底のしゅんせつが必要と思います。実態把握とその対策を伺いたいと思います。

なお、この川、２級河川については県の管理下に置かれているということは承知しております。したがって、市としてできること、やらなければならないことを主体にお答えいただきたいと思います。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの松本覺議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

まず、土肥地区における国道沿いの休耕田の草刈りですが、これは緊急雇用対策事業を活用できましたので、国道沿いの景観維持を目的に平成21年度から実施してまいりました。残念ながら今年度で終了となります。今後は、農業委員会が農地パトロールをして利用状況の調査をし、遊休農地の所有者に対して放置されている場合には指導、勧告を行うことになります。実際、農地は御自分で管理していただかなければいけないのですが、他方、今御指摘のありました乗用式草刈り機、これは今シルバー人材センターに貸与してございますが、これが非常に効果的だそうで、これを使っていただきますと従来の人手による草刈り等よりも作業効率とそれから料金が安くなりますので、今後農地、使われる農地の所有者の皆さんはそのようなことも活用いただければと思っております。

それから、２番目はこれは観光経済部長から答弁をさせます。

３番目の川の中の確かに土肥はあれ、山川か、大川か、土肥の真ん中のところは山川でしょうか、土肥に行くたびにあそこを見ますと川の中にもう木が立っているんですね。国交省に伺いますと、一定の幅があるときにはむしろその木が流れを緩やかにする効果があるんだそうです。そこはまた専門家のほうにその都度現地を見ていただいて、切ったほうがいい場合は県管理は県に切っていただく、市のものについては市のほうで伐採をしていくと。

それから、草刈りのほうは地元でなかなかやっていただけないところについては市がやっていくというようなことで、県と市とそれから地元でできることをお互いに補完し合いながら整備を進めてまいりたいと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　では、②について、観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　松本議員の②番の関係の答弁を申し上げます。

宅地への転用について、農地につきましては農地法により規制が行われておりまして、農地を宅地などに転用するためには農地法第４条及び第５条により規制され、農業委員会を経由して原則都道府県知事の許可を受けなければならないというふうにされております。伊豆市農業委員会におきましては、宅地への転用の場合は法令にのっとり転用により浸水被害の可能性が明らかなときには、その旨の意見を付して県知事へ申請書を上申いたします。田から畑への農地改良については、耕作者自身が農閑期に本当に小ぢんまりと自分たちの農地を実施する場合などについては手続は不要となっております。また、大規模な場合については事前承認が必要となります。

市としての規制についてでございますが、宅地への転用の許可権者は知事でありまして、市は法令に基づく意見書を付すことはできますが独自の規制はなかなか困難な状況でございます。また、田から畑への変更につきましては、大規模の転用、土地改良は土地利用の事前協議が必要となりまして、これは指導の対象となります。

また、議員御指摘がございました伊豆の国市韮山地区においての規制についてでございますが、担当者に確認したところ、農地でのかさ上げ等についての規制は現在行っていないというようなことをちょっと伺っております。そうしますと、農地のかさ上げについては、現在、農地法等の法律を遵守することで、現状において特に市の規制は考えられないというふうに考えております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

松本議員。

**○５番（松本　覺君）**　残念ながら、①番のほうですが、事業が終わっているということですが、そこのところをもう少し何とか延ばしていただけないかというのが私の質問の趣旨であります。

この草刈り機については、前回の議会のときに私も質問をいたしました。自分でやるのが当然、自分の農地は自分で管理するのが当たり前と、これはもちろん知っているわけです。したがって、自走式の小さいものですね、大体私はカタログで見ましたら50万円近辺です。これを補助とか、あるいは補助とかレンタルとかというような形で考えていただけないかという質問をしたわけです。市長の答えは覚えております。自分でやってくださいと。ただし、これ大変生産性のない機械なんですね。しかも今までは刈り払い機でやっております。そうすると、これはもう地域の人たちの高齢化に伴って、耕作をしていないのはできないからしていないのであって、そういう所有者はみんな高齢化していると。でも刈り払い機では無理だということがもう、所有者みんな言っております。せいぜいやって１時間、２時間ですから、１日。そういうことで自走式のもう少し小さいものですね、ちょうど今使っているテーラー型ぐらいのものが実はあるんです。それはここら辺で普及しておりませんから存在すら知らないですね、農家の方が。私がちょっとカタログを見せてこういうのがあるんだよと言ったら、いやあ買いたいけど50万円じゃなと言うから、一銭ももうからないんですから。

そういうことで、国に任せるというよりももう少し国土を守る、市の景観を守るというような公共的な意味合いもあるので少しの補助はいただけないかという話でしたが、私の委員会ではありませんでしたので、それに賛同した議員の方が委員会のときに要望というか質問をしたら前向きに検討したいという返事をいただいたということを聞いたものですから、その後どうなっているんだという質問なんです。希望としたらぜひお願いをしたいと、実はそれを待っている人がもう既に何人もいます。そこら辺でひとつお答えをお願いしたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　この草刈り機を個人が買われる場合の補助というのはちょっとすぐには難しいかなという気がして。ただシルバー人材センターへの貸与の方式というのは、この

台数をふやすことは当然あり得る話かなと思っています。シルバー人材センターについては国と県は事業仕分けでカットされてしまったんですが、伊豆市の場合には非常にシルバー人材センター事業は必要だなという評価をいただいておりますし、上勝町の葉っぱビジネスにありますように年配の方々が積極的にビジネス化されて、それを見て若い人たちが逆に戻っているというようなことも起こっていまして、むしろ私はシルバー人材センターを今お願いしている農業、ジャガイモとタマネギとそれから米、いずれも収穫が上がっておりますので、そこをなるべく広げていただきたい。場所によっては、これ多分小下田だと思うんですが、あそこのように景観作物を置いてジャガイモ、菜っ葉ではないけれども、そこはその付加価値が高まるようなことも自主事業かもしくは市の委託事業としてシルバーさんにやっていただくこともありかなと思っています。

確かに御指摘のとおり全く草刈りだけというのは、たった２枚やっただけで私も、やはりむなしいですよね。だってそこから生産されるものではないので、草刈りはあくまでも次の収穫の準備作業であるというようなことで、次の生産に向かうような支援策を強化していただくという意味で、必要であれば市が購入してシルバーさんに貸与させていただくというようなことのほうが実現性は高いかなという気はいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　松本議員。

**○５番（松本　覺君）**　何かもう一歩、ちょっとしつこいようですけれども、これは小下田に限ったことではありません。いわゆる段々畑といいますかね、狭いところ。それから果樹園、果樹も10年くらいは草刈りが必要なんですね。それにも応用ができるということですから、確かにその補助金というのは大変難しいと思うんです。私もそう思いますが、考え方としては鳥獣駆除の電さくというような形と同じ形、意味合いではないかなというふうに思いますので、これ以上は言いませんけれども、ぜひ考えていただきたいというふうに思います。

それでは、②番のほうですが、法的な規制というのはわかっているんです、もう。ただ、現状は出すと二、三年でみんなクリアしますので、現状を見ていただければわかります。もうクリスタル模様のようにみんなかさ上げされてるわけです。３分の２ぐらいが田んぼのまま残っているんです。住居もそのままかさ上げができませんからそのまま残っているわけです。そうすると、ほかがかさ上げされますから必然的にそこが低くなって雨が降ればその低いところにみんなおりてくるわけですね。それから水路も同じようにかさ上げできません。したがって、90センチの水路があるとすると、深さが２メートルぐらいの水路ができ上がってしまうわけです、コンクリに囲まれた。そして、それが下流へ流れていきますからすごい勢いで流れていって、そこにはうちがあります。床上下浸水というのが、そういう現象が今起こっているわけです。

それから、法的な規制で今こうありますというのはわかっているんだけれども、もっと現実を見て、これにどう対応したらいいかということは私もわからないんです、実は。いいのか悪いのか、じゃ個人に任せるのか。ですから、政策的にどう考えて、専門家に考えてもら

って、何かいいその解決策はないかと、そういう政策的なお考えを聞きたいんです。制度的に規制なんていうことはもうわかっているわけですから。私の地元ですから恐縮なんですけれども、八木沢の危険地域はわかります。国道から下のところに店舗がみんな２メートルぐらい国道と同じ高さに埋め立てて店舗ができているわけですよ。そうすると国道は巨大なダムになっているわけです。そこで全部水がつかえますから。そうすると国道の上は関係なんかというと、国道自身がダムになりますから水がはけないから国道の上も水につかってしまうという現象が起こります。今問題になっている局所的な豪雨ですね。あれが一発来たらもう国道は、みんな今度は土管で抜いてあるわけですから、それが田んぼで平たくなって水がはけるから時間的余裕があったんです、今までは。それが全部国道もかさ上げさせて土管で抜く、国道沿いは全部コンクリートで固められた店舗が建っている、こういう状況です。

ですから、法的な規制とか何とかということではなくて、政策的にこの現状をどう考えるのか、専門家に何か解決策はないのかというようなことを諮ってこの対応策を考えていただけないか、こういう意味であります。お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　実は私も伺いながらどこのことだろうとずっと考えていたんですが、八木沢の国道のところ、ここのところ２つですか、新しく店舗ができて、なるほどと思いました。他方は御承知のとおりあそこ国道の136が海抜３ないし４メートルで、海岸からあそこまでの皆さん方にどうやって避難していただこうかということが対極にあるわけです。ですから、あの店舗のちょっと海岸沿いあたりに津波避難塔が必要かなときのうも考えていたんですが、その２つの観点からどのような土地対策というものをとるべきなのか、少し検討させてください。

このかさ上げによる水がほかに回るということは私今まで認識しておりませんでしたので、八木沢地区の新たな問題としてその両面から、ぜひ検討の時間を少しだけちょうだいしたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　松本議員。

**○５番（松本　覺君）**　大変心強い希望の持てる答弁をいただきました。

もう一つそれに加えていただきたいことがあるんですが、丸山球場の周辺はゼロメートル地帯なんです。ですから潮の干満によって満ちてくると水が上に上がってくるんです。それもやはり一つの要素として考えなきゃいけない。これ具体的な話なんですが、そのための水門がありますが、水門は昨年つくってもらいました。ところが、水門の上はつくったんだけれども下をつくっていないものですから、下がえぐれて下は潮水がフリーパスでいっているというようなことで、こういう細かいことは例えばという話で、そういう要素もあってあそこは水対策を総合的に考えなきゃいけないと。私がこうやってくれという注文じゃなくて、もっと専門的に、広域的に、他要素を考えてあそこの水対策をぜひお願いをしたいとこうい

うことでありますが、つけ加えとして、多分それも入れてしばらくのお時間ということですからお願いしたいと思います。②番はそれで結構です。

③番です。③番は川のしゅんせつについてですが、実は、困ったなということは前々から思っておりました。ところが、困っていたんですが、先日ちょっと南のほうへおりていきましたら仁科川でその対応を今やっているんです。ああこういうことをやってくれればなということで、下田の土木事務所にどのような形でやっているか聞いてみました。期待は、計画的に順次やっているんじゃないかということを期待したんですが、残念ながらそうではないようです。これは全県的にそういうことはやっていないと。じゃどうしているんだと言ったら、下田の土木事務所は目視観察をしていて、必要、どこが優先的なのかということを考えながらやっていると。ですから、観察をしながらここは早くやらなきゃ危ないなというところを順番にやっていると。多分どこもそうだろうという話でした。実は私は土肥の人間だって言ったら、沼津土木事務所さんも多分そうでしょうという話でした。

ですから、ただそれに一言加えて、さっき市長が言ったとおり管轄は県ですから主体は県でやりますけれども、地元の方々も毎日見ていて、しかも身につまされて見ているわけですから地元の方々の御意見も大変重要視して考えておりますと。したがって、それをまとめた市の考え方も決して無視しないと、我々が決めて我々がやるんだと、お任せくださいとは決して思っていないというような担当の話でした。したがって、ぜひ地元の要望とかあるいはそれを確認した市のほうも、じゃここは市でやりましょうと、ここは県でやってください、さっきのお答えのとおりです。そして、現状を早く解決していただきたいと思います。相当太い木があの狭い幅10メートルもないような狭い川に直径10センチ以上の木が生い茂っているわけですよ。突っかえるに決まっているんです、木が。それから、それに土砂がたまって川底は上がるに決まっているんです。

そういう状況がありますので、地元の方々もできることはできるといってもさっき言った高齢化でなかなか思うようにならない、土手の草刈りぐらいしかできない。以前は私は知っておりました。あの太い木も切って、伐採して運び出したらという考えもありますけれどももうちょっとそれも無理だということで、ぜひさっきの三者協働という形で進めていって解消をしていただきたいと。これは見ればすぐわかります。どことどことどこの川がおかしいなというのはもうすぐわかりますので、ぜひそんな対応をしていただきたいと思います。最後に一言だけお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。市長。

**○市長（菊地　豊君）**　土肥地区の河川、原則論として２つ問題がありまして、一つは八木沢のほうの川の水があそここれブロックでせきとめられて、上空から見ると相当やはり水の色が違ってこれを構造的に何とかしなければいけないという問題が一つと、もう一つは土肥地区の御指摘の河川の整備。それについては繰り返しになりますけれども、基本的には国交省は一定幅が、残したほうがいいんだそうです。ただ、そこで一つ心配なのは、切り捨て間伐

の被害は伊豆の山の中は多いんです。そうするとどの程度の大きな木が川に入ってくるのか、これが予測がつかないところが非常に怖いところで、なるべく早く構造的には切り捨て間伐はやめたいと思っておりますが、そういった危険があることは十分承知しております。

今、土肥の河川整備事業についてちょっと私進捗を知りませんので、建設部長からもし掌握していることがあればその範囲内で説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　議員御指摘の川の中の木というのは、山川については承知をしております。ここについては河川断面があるんですけれども、木が相当でかくなってきて地元ではとてもできないと言われています。ここについて沼津土木事務所修善寺支所のほうとも立ち会いを行いまして、木を切ってくれるという回答を得ているところです。また現場は国道沿いでよく見えるところですので、また見ていていただきたいと思っています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　松本議員。

**○５番（松本　覺君）**　当局も御存じのようですので、ぜひフォローをお願いしたいと。終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　これで松本覺議員の質問を終了いたします。

ここで議事の都合により昼の休憩にいたします。再開を午後１時といたします。

休憩　午前１１時４５分
再開　午後　０時５９分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩を閉じ、会議を再開いたします。

**◇　杉　山　　誠　君**

**○議長（杉山羌央君）**　初めに、７番、杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　７番、杉山誠です。通告に従い、一般質問をいたします。

初めに、学校施設の防災機能の向上について市長と教育長に伺います。

大規模地震等の災害発生時、多くの学校施設は地域住民のための応急的な避難施設ともなる役割を担っています。このたびの東日本大震災を初め、過去の大規模地震の際にも学校施設は多くの住民を受け入れ、避難所として重要な役割を担いました。その一方で、当然のことながら学校施設は教育施設であるために防災機能の整備が不十分で、避難所としての使用に際して不便やふぐあいが生じたことも事実です。文部科学省では、７月７日に公表した学校施設に関する緊急提言において、今後の学校施設整備に当たっては、教育機能のみならず、あらかじめ避難場所として必要な諸機能を備えておくという発想の転換が必要であると指摘

をしています。このようなことから、伊豆市における学校施設の防災機能について幾つか伺います。

まず、施設の耐震化については、建物本体に被害がない場合でも、教室、屋内運動場の天井の落下や床の陥没、窓ガラスの破損、備品の転倒・落下といった被害の発生が過去にありました。特に高い場所にある天井材や照明器具などの非構造部材、そしてバスケットゴールなど、落下により致命的な被害を受けるおそれのあるものについての耐震性はいかがでしょうか。

また、避難所として必要な諸機能の確保については、特に高齢化の進展に伴いバリアフリー化や洋式トイレの整備が求められるが、いかがでしょうか。

また、災害時に避難所の運営を円滑に行うためには、事前に具体的な運営方法を定め、関係者の共通理解を得ることが不可欠です。防災担当部局、教育委員会、学校、自主防災組織、地域住民等が互いに連携して地域防災に取り組むことができる体制を構築し、避難所としての学校施設利用計画や実践的な避難所運営マニュアルを作成するとともに、関係者への周知を図ることが重要であるとされておりますが、当市の現状はいかがでしょうか。

そして、学校再編に伴い廃校となっている施設については、民間事業者の利用による地域の活性化を求める声とともに、避難施設の確保は必要不可欠との意見も住民から上がっています。２つのニーズを両立していくための方策を具体的にどのように考えているのでしょうか、伺います。

次に、家屋の倒壊から住民の命を守る施策について市長に伺います。

東日本大震災の場合は津波被害が大きかったために強調されていませんが、阪神淡路大震災初め地震による死者の多くを占めるのは家屋の倒壊による圧死です。想定される東海地震では震源域が近いために強い揺れによる倒壊被害が考えられます。そこで、昭和56年５月31日以前に建築された木造住宅については、県・市による補助を受けることができる制度がありますが、耐震補強工事については実績が低いのが現状です。東海地震の可能性が迫る中で、住宅の耐震性確保は喫緊の課題と考えますが、対策はいかがでしょうか。

また、耐震工事と比べて安価な方法として室内に耐震シェルターを設置する方法があります。工期も短く、自治体がこの補助制度を導入すれば県からの補助も受けられます。特に津波浸水想定区域では、木造家屋は耐震補強で倒壊を免れても津波により流出してしまうことが予想されます。シェルターで地震による倒壊からまず身を守り、避難につなげることができれば効果が大きいと思われますが、いかがでしょうか。

最後に、学校図書館の整備と活用について教育長に伺います。

近年、生活環境の変化やさまざまなメディアの発達・普及などを背景として、国民の読書離れ、活字離れが指摘されています。そんな中で、学校図書館は児童生徒の知的活動を増進し、人間形成や豊かな情操を養う上で極めて重要な役割を担っています。また、今年度から言語力の育成をうたった新しい学習指導要領がスタートしたことにより、学校図書館の役割

はこれまで以上に増してきています。しかし、これまでも学校図書館は、その本来の役割の大きさ、重要さにもかかわらず、人的、物的な面での整備が行き届いていないため、必ずしも十分な活用をされていないことがたびたび指摘されてきました。児童生徒の読書活動を推進し、言語力の育成を図っていくためには、児童生徒が積極的に活用したくなるような学校図書館へと整備する取り組みが求められますが、いかがでしょうか。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの杉山誠議員の質問に対し、答弁を求めます。

初めに、市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

まず、避難地のバリアフリー化についてですが、現在、19ある避難地のうち、バリアフリー化がされているのは10施設です。残りの９施設については、今後、改修の方向で教育委員会と調整をしてまいりたいと思います。洋式トイレについてはすべての施設に設置をしてございます。

避難所の運営については既に運営マニュアルを作成しております。また、県が作成した運営マニュアルを毎年自主防災会長へ配布もしてございます。今後とも、学校、地域住民の皆さん、自主防災会、それから防災担当等が毎年防災教育推進連絡会議を開催し、連携を図りながら前に進めてまいりたいと思います。

それから、学校の跡地利用についてでございますけれども、議員御指摘のとおりでございまして、今後速やかに活用策の検討を進めるとともに、必要な避難所の機能は優先して配慮するように対処してまいります。

それから、学校施設の防災機能の向上についてですが、学校施設等については耐震診断を要するものについては診断結果等に基づき、耐震補強、改築工事を実施してまいりましたが、高い場所に設置されている天井材や照明器具などの非構造部材、バスケットボールゴールなどを含めた内外装設備の耐震性について具体的に診断等をした経緯はございません。教室のサッシ窓の落下防止の対応にとどめてまいりました。今後どのような対応策をとるべきであるか検討をさせていただきたいと思います。

それから、家屋の倒壊につきましては、現在、ＴＯＵＫＡＩ－０の制度を利用し、23年７月末現在で耐震診断事業の実施率については伊豆市が21.6％、全県で18.8％、耐震補強事業では伊豆市は1.77％、全県で4.13％となっております。住宅全体の耐震化率ですが、平成20年度の伊豆市の住宅の耐震化率は約71％となっています。したがって、30％程度が未実施ということですから、今後なお一層耐震補強の推進に努めてまいりたいと思います。

御指摘の耐震シェルターも一案だと考えております。私は過去の答弁の中で、伊豆市は比較的100年以上の古い家が多くて、そのような住宅に年寄りのひとり暮らしとかお２人暮らしがあるんですが、こんな大きな大黒柱を使っているのでその柱の根本は比較的安全なので

はないかということを申し上げたことがあったかと思います。きのうきょうの報道の中で、阿部東大名誉教授の御説明の中に、被害想定を見直した場合に周波数が、木造家屋の倒壊を誘起しそうな周波数になる可能性のことを指摘されておりました。そこの部分を少し研究をさらにさせていただいて、どの程度の古い木造住宅がどういう倒壊の仕方をするのか、その上で耐震補強及びシェルターの導入も含めて誘導策を検討してまいりたいというふうに考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、教育長。

〔教育長　遠藤浩三郎君登壇〕

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　最初に、学校施設の防災機能については、今、市長が答弁いたしましたが、特に体育館の施設であるとか、あるいは教育長研修会でも出ておりましたけれども、食料あるいは毛布、それからラジオの用意等々これから必要だというような今研修をしています。今後、文科省を通じて種々いろいろな話が出てくるかと思いますが、拡充に努めてまいりたいと思います。

次に、図書館の整備についてでありますが、学校図書館は、豊かな感性、情操をはぐくむセンターとして機能を有しているのは議員御指摘のとおりであります。今度の学習指導要領の改訂における言語活動の充実についても議員御指摘のとおりでありまして、学校図書館の機能がますます重要になるだろうというふうに思っております。現在、市内６名の図書館司書を任用しておりまして、種々仕事をしており、先般の評価委員会でも好評だったという話を聞いております。現在、チャレンジ伊豆市読書百選なるもので、クイズ形式の問題を出して読書への関心を高める努力をしております。また、今後、バーコードシステムをすべての小中学校の図書室に導入して、蔵書貸し出し業務が簡素化、迅速化されるほか、新刊本の登録等が容易にでき、子供たちの読書量の統計化あるいはデジタル化も可能となり、改善されているところです。今後は、市立図書館との連携により閲覧可能な図書の増加を図ることや学校図書ボランティアとの共同による読書イベントの開催など、子供たちにとって使いやすく、魅力的な学校図書館になるよう、一層努力をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　まず、施設の非構造部材ですけれども、東日本大震災では多くの学校施設で天井材とか照明器具、それから外壁、外装材の落下で被害があったということであります。そしてまたけが人も出ている。栃木県の中学校では天井材が崩落して鉄製の照明カバーが７個落下して女子生徒１人が８針を縫うけがをした、そして生徒19人が打撲を受けて病院へ搬送されたということが報告されています。また、女川町の総合体育館では余震で被災者のそばにバスケットゴールが落下したということも報告されています。学校施設、やはり応急避難場所としてほとんど指定されているわけですのでそういった事態に備えることが、

これからしっかりと備えていくことが必要ではないかと思います。

特に天井の高い屋内運動場については、体育の授業、平時から体育の授業や行事で大勢の子供たちが頻繁に集まることがあるわけです。そして、体育館の中というのは身を隠すものがありません。机も何もありませんので、大勢の子供たちがいるときに地震で天井材が、あるいは照明器具が落下した場合に逃げ場がありませんので大惨事になるというおそれが指摘されています。これから施設における非構造部材の耐震点検をしていただきたいわけですけれども、この構造部材というのは経年劣化による腐食等の影響も受けることがあるということですので、継続的かつ定期的に点検を実施する必要があるということで、これは文部科学省から地震による落下物や転倒物から子供たちを守るためにということで学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブックというのが平成22年３月に発行されております。これによりますと、ここにその概要があるわけなんですけれども、チェック項目とかチェックリストもこの中に出てきます。そういったこの点検チェックリストを利用して学校でしっかりと定期的に今後確実に取り組んでいく必要があると思いますので、その辺の今後の取り組みはいかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　文科省の通知は承知しておりますので、順次点検をし、補強してまいりたいというふうに思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　なかなか項目が多くなりますので大変だとは思いますけれども、また構造・非構造部材、専門的な分野にかかわることもありますので、ぜひまた点検とともに専門家、事業者によるアドバイスも受けながら行っていっていただきたいと思います。

次に、要援護者への対応ですけれども、今のところ19の避難所のうち、今後残りの９ですか、バリアフリーの改修を計画しているということを伺いました。避難所で問題になるのはやはり一番、６月の議会でも議論いたしましたけれどもトイレということで、洋式トイレは確かに今全校にあるそうですけれども、まず水の問題で水洗トイレ、今全部水洗トイレですから、あっても使えなくなるということが事実あります。それで、やはり水の確保、飲料水はペットボトルで確保できますけれども、洗浄水はなかなか量が要りますのでその辺のところをどのように考えているでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員会事務局長。

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　先ほど市長のほうからも答弁がありましたように、防災施設、学校施設という考え方が２つございますけれども、その辺につきましては今後両方で連携をし合いながら具体的な協議をして対応を進めていきたいと、そのように考えてございます。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　今伺いましたように、やはり一番大事なのはその部局が分かれているということだと思います。それぞれに対応は考えておられるわけですけれども、その連携がうまくいかないと機能しないということは本当に、非常に大事な問題だと思います。

そもそも避難所の設置、避難所として設置の責任者というか、施設管理の一番責任を担っているのはどちらのほうでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　市長にあります。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　それでは、やはり市長部局からしっかりとそういった連携体制を整えていっていただきたいんですけれども、学校施設を避難所として利用する場合にやはりその備えとしてしっかりとした計画、マニュアルが必要だと思うんですけれども、その学校施設の利用計画は、先ほど避難所運営マニュアルはあると言われたんですけれども、どうでしたでしょうか。学校施設利用計画です。避難所としての利用計画です。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません、質問の御趣旨がよくわからないんですが、学校施設は当然避難所として指定しておりますので、そこの運営責任は最終的には市長にありますし、ただ個々の避難所のその現場での責任者というのは今まで余りはっきり権限と責任を明示してございませんでしたので、そこについては、３月11日以降、現場を見て混乱しているところがあったのでそこはしっかりこれから責任者をつけるようにしていきたいということは申し上げたと思うんですが、現時点では市長の責任において避難所を指定し、整備をしているということでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　やはりその運営をどこが中心になって行うかということで、本当に一番大事なことになると思います。

市長部局で学校が避難所に、災害発生時に避難所として運営を始めた場合には市長部局で運営を取り仕切るわけなんですけれども、その場合にやはり避難所運営マニュアルというのはあるそうですけれども、現実、被災した場所でマニュアルどおりにいかないということが多々報告されています。やはりマニュアルはあっても機能しないということを、現実、私たちが視察へ行っても聞かされておりますので、やはりこの訓練が必要であると思います。この関係機関、市長部局、学校、それから地域自主防災、その関係機関との連携と防災教育連絡会議でしたか、そういったものはどのような期間というかタイミングで行われているのでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません、タイミングとか期間という具体的な話よりも、そもそもより大きな問題がありまして、伊豆市の防災計画の中で矛盾点とかあるいは非現実的な箇所が多々散見されます。これは去年の防災訓練以降指摘されてきたところなんですが、国と県の防災計画に従って必要とされている機能を全部網羅しているわけです。そうすると伊豆市の職員では全然対応できないほどの量になっていてしまって、それを今見直そうとするとどこかを削除しなければいけないわけです。そこで、我々にはそのような経験がございませんので平成21年の集中豪雨を経験した防府市でそれを伺ったところ、同じ問題があったと。そこで、市役所の各課に本当に大規模災害のときにどのような機能が必要なのか、何をしなければいけないのかということでもう一回全部見直させたということで、相当な大幅な変更になったそうです。残念ながら伊豆市はまだそこまで着手をしておりません。したがって、マニュアルどおりにいかない、それはそのとおりだし、マニュアル、一定基準をつくってからはそれに従って動けるように訓練もしなければいけない、訓練によって検証されることもあります。ただ、残念ながら今まだそのそもそもの防災計画を、県の計画に従って修正したことはございますけれども、そもそも本当にそれで市役所が動けるのかという観点で見直しをしておりません。まずはそれに着手した上で個々の避難所等のマニュアルを見直し、そしてそれに基づいて地元の皆さんと協議をして訓練をしていくというような手順になっていこうかと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　今、市長が言われたことも大事なことなんですけれども、問題はやはり災害は人間の都合を待ってくれませんので、時間の問題というのはありますのでスピード感を持ってやっていただきたいんですけれども、行政だけですべてを取り仕切るということは当然限界があります。避難所に一番近くにいるのはやはり地域の住民ですので、地域の住民との間の運営の連携、これをしっかり築いていくことが必要だと思います。避難所の運営に限らず、やはり地域の防災力を高めるには自主防災、地域住民のそのコミュニケーションが高いところほど防災力が高いということが言われております。阪神淡路の震災のときでも倒壊家屋から住民を救い出したのは消防ではなく、75％が地域の住民ということは伺っております。そういった意味で、やはり地域住民の防災力を高める取り組みを行政としていかに後押ししていくか、このような取り組みに力を入れていただきたいんですけれども、その辺いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　議員御指摘のとおりで、マニュアルどおりに動けるわけではないし、第一マニュアルどおり災害は起きませんので、実際の状況に応じた現実的な現場での対応が必要になろうかと思います。そこで、その３月11日の午後に土肥の避難所を３カ所回りましたときに、やはり責任者がいて市の職員がいるところは避難されている方はそこを見て、職

員がまだ帰らないでくださいというところは待っておられる。担当者が、責任者がいないところはみんな三々五々自宅に帰ってしまったということを見て、やはり一定の権限と責任を現場にふだんの防災計画の中で付与をして、変な話ですけれども、冬であれば非常用食あるんですが、インスタントのみそ汁にお湯を入れて、特に冷えているお年寄りにはやっていいですかどうですかまでこちらに、市長いいですかというような話まで、今、現状ではしなければいけないわけですね。それはその地域であるものを使って適宜判断してくれと、後で全部予備費を運用するというようなやはり現実的な権限付与というのは大事だと思うんですね。それは６月議会でも申し上げたとおり、多分市役所の職員を張りつけるのは無理ですので、すべての避難所に。場所によっては区の役員さんかあるいは自主防災会長さんかどなたかにそういった権限を付与しなければ恐らく対応できないというようなことで、その方向で。確かにあした来るかもしれませんので悠長なことは言っていられないのですが、現実的に動けるような避難所の分権といいますか、現場への権限付与をしてまいりたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　やはり実際に発災したときは相当精神的にも混乱していますので、やはりいざというときのために平時からその備えをしていくということが大事だと思います。私も６月議会で土肥の避難場所について住民に選定してもらっているというお話を伺ったときに、やはり行政としてはもっと力を入れて職員を、専任の職員を各区に送って一緒になってやっていったらどうかということも申し上げさせていただいたんですけれども、やはり自主防災任せではなく、自主防災といっても各地域によってすごい温度差があります。一生懸命やっているところもあれば全く動いていないところもあります。そんな中で自分の命を守るのは自分たちの責任だよと言ってしまえばそれまでなんですけれども、やはり行政としてできることは、まして平時から、非常時は本当に行政として動けることは限界がありますので平時からやっていく取り組みは非常に求められると思います。そういった意味で、自主防災の育成といっては何ですけれども、応援をもっともっと力を入れていただきたいと思うんですけれども、具体的にどうでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これまたまさに議員御指摘のとおりで、実は先ほどもちょっと引用させていただきました防府の市長さんからも、非難指示はマニュアルどおりやったと。避難場所の安全確保、避難経路の安全確保、すべてマニュアルどおりにやって避難をさせて、それでマスコミと議会から物すごく批判されたというんですね。今回の紀伊半島と同じで遅い、遅い、遅いと言われた。だけれどもマニュアルどおりやっているわけです、安全確保から始まって。そのときには、これ防府の市長さんですが、自分と職員の力が強くないとそのような批判に押しつぶされてしまうというんですね。

もう一つ大事なことは、マニュアルどおりにいかないこともあり得るわけです。今回、紀伊半島を見ていると、対岸は危なかったけれどもこちらはそのような危険度はなかったので

避難指示を出さなかったというところがございますよね。実際にそういったことがハザードマップではないことが起こり得るわけであって、そうすると当然市は市民の皆さんの安全を確保することに責任がありますから、私もその小下田から小峰から冷川まで全部見てやっているつもりですが、しかし現実に動いていただけるのは地元の自主防災会さんなので、市としては防災指導員は恐縮ですが３年間はかわらないでやっていただきたい。しかしほとんどのところはやはり１年でかわられてしまってまたゼロからの教育になってしまう。これは仕方がないところもあろうかと思います。だから市民が悪いというわけではないんですが、そういった現状とそれからこれから逼迫する危険度の中で、市もより一層もちろん防災体制強化してまいりますし、自主防災会の皆さんにも同じような危機意識を共有していただいて、今まで以上に防災計画の見直しと対応策は加速をしていきたいと、これは議員御指摘のとおりにねじを巻いてまいりたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　あと大事なのは女性の視点からの対応ということで、やはり大勢の人が同じ場所で幾日間も過ごすということで非常にプライバシーも尊重されなくなりますし、着替えとか授乳とか非常に深刻な問題も起こっていますので、ぜひこういう会議には女性を参加させていただいて、女性の視点からも避難所の運営計画も立てていただきたいと思います。

あと学校施設、当然学校施設ですので救命期間を、救急避難期間を過ぎれば学校の再開を考えなければなりません。そういった場合に、やはりこの日から、この日で避難所は閉鎖するよといってもなかなか住民の方が次の行き先がないということもありました。やはりあらかじめその避難場所を計画するときに、学校の再開を考えて学校としての機能を残す計画、それも必要だと思います。ここの体育館は避難場所、教室のところは要援護者とかそういったことを計画していく必要があると思うんですけれども、今後、避難場所として使う場合に防災部局とよく連携を取り合って、学校の再開まで考えて時系列的にそういう計画を立てていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　そのとおりだろうと思います。私も東日本の話をいろいろなところで学校開放の後の処理の問題も聞いてまいりましたけれども、一番やはり議員おっしゃるように水が肝心で、あるいはトイレだっていう話をよく聞いてきました。最終的には体育館が最後になると。その前はひどいときは全部の学校校舎、教室も開放したというぐあいに聞いていますが、最終的には体育館が最後まで残ったというのは当たり前といえば当たり前なのかもしれませんが、先ほどからありますように、当局との関係部局との連絡をしながら学校再開も急いでやはりしたいというのが教育委員会としてはありますので、連携をとりながらやっていきたいというふうに思います。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　その辺のところよろしくお願いします。

あと、廃校したところなんですけれども、学校がなくなって寂しい気持ち、それは住民にとってひしひしと感じます。聞かれるのは、やはりこの利活用を早くしてほしいという声を多く聞きます。当然避難所の確保、これは必要です。伊豆市の場合、再編成した学校で廃校となったところはやはり地理的に離れているところが多いものですから、子供たちの教育のためには再編成、これは必要なことなんですけれども、避難所として地域にそういった場所が、学校が、その施設がなくなると確保できないということも聞きますので、その二者、非常にどっちも、どっちも本当に非常に大事なことなんですけれども、そういったところを具体的に考えていただきたいんですけれども、実際に現実的な話、そういった企業誘致というか事業者の方の利用計画、予定、あるいはそういった声は上がっているでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これももう本当に議員が御心配されているとおりで、私も地元の皆さんから、やはり学校統合までは仕方ない、みんなで合意をしたけれども、その後ずっとその次どう使うかの議論もなされていない。大変にフラストレーションがたまっている状況で、事務方にはずっとなるべく早く公募するように言っているんですが、どうしても公募要領、物すごくやはり詰めてしまうんですね。これは入札ではなくてプロポーザルですから、提案していただいて一番いいところとあと個別協議すればいいので、ある程度大枠だけ決めてそして早く公募をして、一番よかれというところを地元の皆さんも含めて、公の施設としていわゆる市民が使える施設としてどこを残すのか、避難所としてどういうふうに使うのかというところを詰めていけばいいと思うんですね。相当細かい条件をつけてから公募するような考え方が多いものですから、そこはある程度大枠設定でいいのでなるべくとにかく早く公募の手続に入るように指示をしておりまして、この秋にも中伊豆地区の小学校の跡地についてもそのような手続に入れるものと思っています。使い方については、もちろんもともと小学校で避難所として使ってきたところですから、その機能は最優先で残せるように考えていきたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　ぜひ進めていただきたいと思います。

次に移ります。住宅の耐震化です。

耐震化、木造住宅の耐震化がなかなか進まない現状、これは県でも悩みなんですけれども、特にこの県の実績があるんですけれども、伊豆市の場合、平成22年度に20件で、先般、公明党の静岡県本部で県下全市町の防災対策のアンケートをとった資料があるんですけれども、各市町によって非常にばらつきはありますけれども、耐震化の目標というのを立てているところがあります。焼津市、そして森町、ここでは平成27年度までに住宅の耐震化の90％を達成したいということで目標を立てています。伊豆市の耐震補強実績が22年度20件で、23年度６月現在３件という報告をいただいたんですけれども、ちょっと気になるこの３件というの

は、震災後でありますので現在８月までの実績はわかりますでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　申しわけありませんが、数値持っておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　上がっていればいいんですけれども、このままで補強工事が進んでいくと、伊豆市は計画があるんでしょうか、何年度までにこれだけ達成したいというそういう目標を持ってやっておられるでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　数値目標は持っておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　ただ耐震化を進めたい、進めたいと言うんじゃなくて、やはり物事取り組むには目標が設定されないと具体策が出てこないと思いますので、ぜひ目標を持って、達成目標を持って取り組んでいただきたいと思います。

今後その耐震化を進める上でより一層の啓発活動を行っていただきたいんですけれども、今般、補正予算で上がってきておりますリフォーム補助、これは伊東市、それから下田市、そして東伊豆町でやっているということなんですけれども、新聞報道によりますと耐震補強、それからバリアフリー化との併用もできるということを見たんですけれども、これは間違いありませんでしょうか。伊豆市のです、今回の予算で上がっている。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　リフォーム補助の内容については、観光経済部長から説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　概要ですけれども、一応上限を10万円補助の、上限10万円ということで、目的につきましては、地元の業者の方を使っていただけるということが条件でございまして、最大で10万円、100万円以上の工事に10万円ということで、100万円未満ですと10％で、最大10万円というふうな制度でございます。

〔「耐震補強工事との併用はできますかということですけれども」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　一応併用といいますか、やはり工事的に耐震補強工事は耐震補強工事のそれなりのやはり工事工種はあるかと思います。それとは別物で、あくまでもそのリフォームという考え方の中での併用ということではできるというふうに思います。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　耐震補強工事を行わない理由の一番はやはり経済的な問題ということがわかっています。高齢になってやはり幾ら補助を受けても100万円前後の実費負担があり

ますので、これは非常に大きな負担となって進まないということを伺っています。やはりこういうリフォームとかそういうことを一緒にやりたいという声も多く上がっているのは聞いております。ですからやはりリフォーム工事を推進すると同時に耐震補強工事も、どうでしょう、今回補正予算で成立すればＰＲをすると思うんですけれども、同時に耐震補強工事のＰＲも一緒にしていただけませんでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　確かに数値目標を設定するのが難しいのは、本当にお金がかかる話なんですね。命よりお金が大事かということはないんですが、現実の問題それだけのお金をかけなければいけませんので、なかなか数値目標を設定するというのは私も逡巡しているところです。ただ、今耐震補強の補助、それからリフォームの補助が新たにありますので、そちらのＰＲのほうは広報手段をもってやっていきたいと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　最終的にやはり自分の命を守る取り組みをしなければなりませんので、そのための負担ということで判断をするわけなんですけれども、その啓発活動、これは市としても一生懸命やっていただいて、住民の命を守る取り組みをしていただきたいと思います。

どうしても経済的に無理だよという人のために耐震シェルターという補助制度が県のほうで、市町がその補助制度を取り入れたところに県のほうでも補助をするということで、県のほうで最大12万5,000円だそうです。今、静岡県内でその制度を取り入れているところが５市町でしたか、その５市町の補助金は12万5,000円。今、既製品として、議会ですのでメーカーは言いませんけれども、25万円の製品があるそうです。静岡県の県内の工務店ですかね、その25万円ですと利用者負担がゼロになります。これを進めている、しかしなかなか実績が上がっていません。実績が上がっていなくてもこれもやはりＰＲによって上がっていく可能性もあると思います。焼津市の事務事業マネジメント、これを見させていただきましたけれども、その有用性ということは認めております。また、御殿場市では住宅の耐震化を啓発しているが、実施できない所有者、高齢者の世帯や低所得者世帯のために耐震シェルターの補助金を検討したいということもあります。これは例えばの話なんですけれども、津波避難、これを幾ら取り組んでも住宅の倒壊で脱出できなければ話になりません。そういうことで、市内で、また私ある集会でこんな話をしましたら、十数人の集会でしたけれども、そういうのを入れてみたいよという人が２人おられました。これは確かに狭いですし、部屋の中にシェルターを組み立てるわけですのでかなり部屋は狭くなります。ベッドが２つ並んで通路ができるぐらいで、ただ、住み心地は非常によさそうです。照明もついていますし障子窓もついています。中はクロス張りです。そういうことで、こういったものをぜひ市でも制度を取り入れていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　シェルターも、私がここへ出ているときは母がひとり暮らしですから考えてみたんですが、シェルターも本当にシェルターのようにいわゆる部屋になっているものと、しかし、倒壊防止であれば大きな４つの柱と屋根だけあればいいんですね。どしゃっと倒れるのを最後抑止できればいいわけなので。したがって、これからどういうシェルターをどういう御家庭に必要なのかもうちょっと勉強したいと思っているんです。今ある既製品のシェルターが本当に、例えば津波のときに出入り口に困るようなものでも困るし、一体どういうような機能が、基本的に議員が御指摘のとおり、家全体を耐震化できないのであれば寝ているところだけでもお年寄りがぐしゃっといかないようにということですよね。そうすると、今既に商品化されているものよりもさらに簡素なものもできるのではないかというような思いもあり、少し勉強させていただきたいと思っています。これはやらないということではなくて、その方向で勉強をさせていただきたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　一言補完させていただきますけれども、シェルター、いろいろな種類があるんです。自分もインターネットで調べましたけれども、25万円というのは本当に珍しいですね。建築の専門家、一級建築士の方に伺うと、25万円でできる代物ではないというんですよ。これはメーカーが命を守るためにサービスとしてやっているということで、この言ってみればその一つのチャンスというか、そういう特別お金がかからないで効果があるということだそうです。ですから、当然市長検討していただくということですけれども、選択肢を広げていただきたいと思います、私は。ですから、ぜひこういったことも選択肢の一つとして住民の方に利用していただけるような取り組みをお願いしたいと思います。

最後に、学校図書館のことについて教育長に伺います。

すみません、今ちょっと言い忘れました。戻っていいですか、学校施設の防災機能なんですけれども、いいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　はい。

**○７番（杉山　誠君）**　すみません。避難所の運営なんですけれども、静岡県が開発した避難所ＨＵＧというのがあるんですけれども、防災ゲーム。ゲームというと不謹慎なように聞こえますけれども、授産所製品として製造販売しているということで、何人かのグループで避難所運営役員を想定して、そこに250枚ぐらいのカードかな、それにぐあいの悪い妊婦が避難所に来ました、どうしますかというような次から次へと質問を投げかける。避難所の役員に当てられた人はそれを45分間以内でそれをこなしていかなければならないということで非常にもうパニック状態になるそうです。そういったこのＨＵＧ、避難所運営ゲーム、単なる頭文字なんですけれども、そういった実践的な住民とのその避難訓練をする場所としてこういったものも取り入れたらいかがかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　ＨＵＧでありますとか、あるいは図上演習と言われているＤＩＧとか手法はございます。問題は、これはプレーヤーのほうは自主防災会等でいいんですが、問題はコントローラーのほうが相当経験がないと余り訓練にならないんですね。２年前は伊豆市役所とそれから富士教導団で一緒に図上演習をやったんですが、そのときはコントローラーもプレーヤーもはっきりできたんですが、学校で地元の人を対象にやらせるだけのコントローラー機能が今まだ市役所にないんです、残念ながら。ですから、まずはそこで外から呼んでくる手もあるんですが、そのためにはシナリオ等が必要ですので、これもやらないと言っているわけじゃないんです、気にはしているんです。ただ、コントローラーのところをどこかでやって、１カ所でやってそれを周りで各自主防災会の役員さんに見ていただくというようなことをできればやっていきたいと思っております。議員から幾つも防災について御指摘いただきましたので、改めて加速をしてまいりたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　あと１分です。

杉山議員。

**○７番（杉山　誠君）**　ぜひ勉強してみてください。非常に実践的で役に立つ、また楽しみながらできるということですので。

すみません、時間がなくて、学校図書館なんですけれども。学校の整備の件は、学校施設の整備、図書館の整備の件は私も事業評価会参加させていただきまして、非常に評価を受けておりました。ただ、これからの図書館のあり方として、やはり地域に開かれた図書館、そして学校、授業時間以外、昼休みあるいは放課後、それらの図書館の活用がこれうたわれています。学校、これからの図書館活用のあり方についてということで、子供読書サポーターズ会議というところで答申されているんですけれども、今、学校の再編成で通学時間の関係で学校に残る子供たちもおりますので、放課後の図書館の開放というか利用できるような姿勢であるとか、あるいは広げて休日にそういった地域の方たちも活用できるような図書館の取り組みも求められておりますけれども、伊豆市の場合はいかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　教育長。

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　実は中伊豆小学校の図書室を今度場所を変えたんですけれども、１階にもっていって本館からではなくて直接図書室へ入れるような、つまり地域の方も入れるようなものにということをちょっと考えることはしました。ただ、現実に運営の問題だとか全体の部屋の配置の関係でだめになっちゃいましたが、言われることはよくわかりますし、勉強していきます。ただ、休日のことはちょっと職員の勤務等々、学校は無理かなというぐあいに思います。ただ、市立図書館は今日曜日開いていますので、そちらでというぐあいには考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　これで杉山誠議員の質問を終わります。

ここで休憩をとりたいと思います。再開を２時ちょうどといたします。

休憩　午後　１時５１分
再開　午後　２時００分

**○議長（杉山羌央君）**　では、休憩を閉じて、会議を再開いたします。

**◇　三　須　重　治　君**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、19番、三須重治議員。

〔１９番　三須重治君登壇〕

**○１９番（三須重治君）**　19番、三須重治です。通告に従いまして、市長に１件質問をいたします。

自治体の長が後援会を持つことについてということで質問いたします。

自治体の長が後援会を持つことは珍しくありませんが、できるならば私は持つべきではないと思います。なぜならば、後援会と長の間に特別な関係が生じ、市民の望まない政治が行われる危険があるからです。後援会に入会し、長と身近な間柄となり個人的または所属する団体もしくは企業のために大きな権限を持つ長の力にすがろうとする、そしてそこに多くの国民が望まない犯罪に発展するような腐敗政治が国、地方を問わず過去何度となく繰り返され、政治が信頼を失ってきています。私は少しでもそのようなリスクが生じる可能性を秘めた後援会を持つべきではないと思います。多くの市民は公平公正な政治を求めています。そこで、ただいま申し上げましたことをベースに下記の質問をいたします。

１、市長が後援会を持つことは多くの市民にとってプラスになりますか。

２、後援会を持つことによる市民差別（会員と非会員）が生じる危険性があると思いませんか。

３、長と後援者との間に癒着関係が生じ、あってはならない事態になるリスクを感じませんか。

４、市から多額の補助金を得ている団体の長や市発注の公共事業の指名業者が後援会の大幹部として名を連ねているとのことですが、これには多くの市民が疑問を抱いています。市長はこれに何の疑問も持たず、よしと考えているのかお伺いします。よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの三須重治議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

私は質問主意書を何度読んでもちょっと御質問の趣旨がよくわからなかったのですが、後援会は公的な委員会や審議会のような市長が編成する組織ではありません。主権者たる市民が行う自由な政治活動としての後援会活動であり、したがってこれは結社の自由と政治活動の自由、いずれも憲法に規定する基本的人権の範疇になります。

したがって、御質問１、２については、市民のだれもが自由に政治活動を許されている民主主義はすべての市民にとってプラスであると考えています。

御質問の３、４については、これは憲法や公職選挙法ではなく刑法第25条汚職の罪に定められていることで、単に犯罪はいけませんということです。したがって、市民の政治活動とは全く無関係であります。

なお、我が国では公職選挙法によって政治活動と選挙活動が明確に定義されていることは当然御案内のことと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

三須議員。

**○１９番（三須重治君）**　私どももそうですけれども、選挙で職を得るという者にとっては選挙時において後援会というものが非常に重要であると、また公職選挙法においてそれが認められているということも百も承知の上で質問をつくっているわけですが、私はリスクというものはじゃあないのかと。それに対しては全く市長の今の答弁ですと、犯罪、これがあるから、後援会があるからそういう犯罪に至っているわけじゃないんだということで今そういう答弁があったわけですけれども、じゃ例えば一つ、そこまで言うんでしたら私も一つ質問させていただきます。

伊豆市の人づくり塾運営委託料、定住体験運営委託料というのが、それが個人の方にその委託料として税金が支出されていると。話に聞きますと、その方は市長と同級生で選挙時でも非常に一生懸命頑張ってくれたと。私は、それが事実でなかったら事実でないと答えてください。そういった今までの委託の仕方、個人に委託をしているようなそういうケースというはあるのかと。それで、その方は後援会にもちろん入っていたんだけれども、そこの人と市長との癒着関係をやはり後ろ指を指されるようなことがあってもいけないということで今は後援会を抜けているというようなことも聞いていますが、事実でなかったら事実でない、そうならばなぜそういうふうな関係になっているのかお伺いします。

それであともう一つ、公平な政治が行われないという、それは伊豆市のことではありませんが、ごく直近の例として玄海原発の再稼働という問題で、玄海町の町長と佐賀県知事がいち早く経産大臣に対して原発の再開を認めるような前向きな発言をしましたね。しかし、それがストレステスト云々ということで総理大臣からストップがかかったわけですけれども、唐津市というのが玄海町を取り巻いているわけですけれども、もしそこの原発に事故があったときには唐津市が全滅するようなそういう状態の位置にあるわけですね。そこの住民は全く再稼働に反対しているわけですよね。その中で玄海町と佐賀県知事は前向き発言をしているわけですよね。それでこの間、私もテレビのコメンテーターの説明でしたから自分が確かめたわけではありませんが、それが事実とすると佐賀県知事のもとには九州電力から多額の政治資金が動いているんだと。それでまた玄海町の町長は弟さんが建設会社やっていて原発でまともに飯を食べているんですよと、そういう説明でした。

やはり長が特別な人間関係をつくりやすい、応援してもらったそれに対する見返り、ギブ・アンド・テイクというものが起こる可能性があるんですよと。ですから私は、後援会は市民がやるもので、自主的にやっていることで市長の私には関係ありません。菊地豊後援会ということになろうと思いますよ。私の後援会も三須重治後援会という名乗り方をしますよ。そのときに、候補者本人に関係なく、それは後援、一般の人たちがやっている行動ですよという、そういう開き直った言い方できますかね。それがただいま申し上げたようなものを、私は候補者であり、また本人である私たちもそうですが、よほど気を引き締めて平素の後援会活動というのは留意してやっていかなきゃならないという、その責任は私ども自身にあると思いますよ。いかがですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　まず後半のほうなんですが、議員、よくよくお考えいただきたいんですが、後援会活動というのは政治活動なんです。後援会の組織というのは結社の問題なんです。これ両方とも憲法に定められた基本的人権の話で、最高裁の実は昭和56年の判例がありまして、この中で、政治活動の自由は自由民主主義国家における最も重要な基本原理をなし、国民各自につきその基本的な権利の一つとして尊重されなければならないものと、これは判例です。ただし、これがなぜ最高裁までいったかというとこれ続きがありまして、公務員がどこまで政治活動をしていいかという議論で最高裁になったんですね。ですから、公務員の政治的活動を制約しなければいけない、どこまで制約していいかという実は判例なんですが、これ普通のいわゆる主権者である国民、それから伊豆市民の政治的活動を理由なく制約すべきだという議論は私はこれは極めて危険な考え方であると思っています。その後援会の役員だから、あるいは会員だから市長が何かをする、これは単なる汚職の罪ですからこれは政治活動とか結社の自由と全く無関係な刑法犯ですから、刑法の犯罪に係ることであって政治活動の自由、結社の自由と全く無関係なことなんです。それは、そうならないように公職選挙法の中で政治活動と選挙活動を日本は法律において明確に定義づけている、これは議員も選挙されていますから御承知のとおりだと思います。したがって、私は伊豆市として、伊豆市議会の中で主権者の基本的人権である政治活動を制約すべきという議論は極めて危険なのではないかと思っているわけです。

そこで、先ほど２つ例を挙げていただきました。そらそい荘と人づくり塾については、そらそい荘は経緯を知っております。当時私は定住促進事業をやっておりましたので、かたつむりに委託料をつけた記憶もございます。しかし、それは彼が後援会員かどうか、私の同級生であるかどうかは全く無関係であります。

もう一つ、人づくり塾のほうは、すみません、私はどういう支出をしているか承知しておりませんので、これは総務部長から説明をさせます。

**○議長（杉山羌央君）**　総務部長。

**○総務部長（鈴木伸二君）**　私が記憶しているところでございますと、人づくり塾、22年度の決算でいきますとこれは株式会社シードに支出をしていると記憶しております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　三須議員。

**○１９番（三須重治君）**　市長はそれほど法律に照らし合わせてという強い気持ちでふだんの政治をやっていただいている方と今初めてわかったんですけれども、市長はよく、そんなことは私も失礼な言い方かもしれませんけれども、政治だけ、法律を盾にとっていたら何もできないという発言をするからただいまそういうふうなことを言ったわけですが、私は法律にもちろん認められているなんてことはわかり切っていますよ。ただ、そこに対しての市長、また私ども個人、後援会の中心にいる候補者たる自分というものが、責任は後援会長を中心に民間がやっていることなんですと、自由の。結社の自由だということですべてのことが、これで例えば何かあったときにいや私は知りませんでしたよと、後援会長がやったことですよと、秘書がやったことですよと。そういう幾らでも今までもそういう逃げ道というのは我々もうんざりするほどニュースなんかで見てきた記憶があるわけですけれども、やはりそうではなくて、やはり中でも許されていることでも、私はそんなよせと言っているわけじゃないですよ。やはりそこをそういうひとつ市民が望まない、国民が望まないような政治に直結していかないようなそこの運用の仕方は考えていってもらわないとならない。

私はひとつ今回この質問を、最後に言おうと思ったんですが、これを取り上げようと思った大きな理由は、実は天城湯ヶ島地区の数人の人たちと食事会をしたことがあります。そのときに少しそんな向きを頼まれてきょう取り上げることになったわけですが、これを取り上げるということではなくて、天城湯ヶ島で例えばいろいろな市からお願いされた委員会、諮問機関のような委員会があっても、いつでも必ず出て主にここへ座っている人たちは菊地市長の後援会に入っている人ばかりなんですよと、ほとんど顔ぶれも変わらないと。これじゃやはり普通の一般庶民の声というのは届いていかないと。もちろんもう事前に市長からいろいろものを聞かされて十分政策理解をしている人たちがそこへ座って政策誘導されているようなそんなふうにしか受け取れませんよという、そういう声があったわけですよ。だから、私はそういう会へ出ているわけでもありませんから、一度たりとも。そういう声を受けて私は後援会のあり方というものをやはり市長に考えていってもらう必要があるなということで今回このようなことを提言させてもらったわけですが、法律の範囲で許されることだけだとか、ということでひとつも改善する気がないようならそれはそれでこれ以上の議論は必要がないと思いますので、私の質問は終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁はよろしいですか。市長。

**○市長（菊地　豊君）**　まだ議員と私の間に一番大事なところの認識のギャップがあると思うんですが、菊地豊という個人は伊豆市民として、伊豆市の主権者として自由な政治活動を行う権利があります。これは憲法が担保している権利なんです。それと同じように、伊豆市の

３万5,000人弱の市民は全員主権者であり、これは基本的人権を担保されているわけです。そこは自由な政治活動ができる、結社も自由なんです。それに対して、市長という行政の長が特定の市民に対してあなたは政治活動をしてはいけませんという制約をするということが可能であるのであれば、伊豆市長という公人はじゃどの政治団体、どの結社にも物を言っていいということになるんですか。私はそんな危険なことはないと思います。

そして今、議員が御指摘されたような何かの委員会か何かの事業で、市長が自分のその選挙に対する影響力を行使しているのであれば、これはさっきから言っているように刑法の問題ですから、この一般論ではなくて具体的にここはこういうことで菊地伊豆市長は公職選挙法か刑法に違反しているとちゃんと言っていただかなければ、これは大変な名誉の問題ですから。私は公職選挙法にも刑法にも違反してそんな行政をやっておりませんので、議場で議員が現職の市長に質問されるのであれば、憲法違反ということはないでしょうから、公職選挙法か刑法かどちらかに明確に何月何日のこのような事業で違反をしているということを言っていただかなければ。それと主権者、国民主権である政治的活動の自由、結社の自由と一緒に議論されているので、私は日本の基本的人権、これは憲法に書いてあります、将来の国民にもこれはちゃんと権利を認めているんですね。この日本国憲法の中で基本的人権というのは今と将来の国民にこの権利を認めているわけですから、そこに行政の長である公人である市長が何らかの制約を与えるというのはこれはゆゆしきことであり、私は菊地豊としても伊豆市長としてもそのような基本的人権の制約はすべきではないと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　三須議員。

**○１９番（三須重治君）**　法律で真っ二つに白か黒か切っていくという問題、それ以上に、それと同時に私どもには道義的責任というのがありますしね、モラルというものもありますよ。今私が初めから言っているのは、どこでどういうふうな犯罪があったとかそういう部分を指摘しているわけじゃないわけですよ。犯罪に結びつくおそれがあるということを言っているし、またモラルとして、道義的な責任としてやはりそういうふうにならないように、市長は市長で後援会は私のものではないという、市民の自由だ、結社だなんだということではなくて、自分の名前を使ってある後援会だったらば、やはりそこに積極的に正しい後援会の運ばれ方というものに対する提言をしていただくということをお願いしているわけですよ。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁を求めますか。

**○１９番（三須重治君）**　結構です。

**○議長（杉山羌央君）**　これで三須重治議員の質問を終了いたします。

### ◇　大　川　　孝　君

**○議長（杉山羌央君）**　次に、11番、大川孝議員。

〔１１番　大川　孝君登壇〕

**○１１番（大川　孝君）**　11番、大川孝です。私は通告してあります１件の質問を、その答弁を市長に求めたいと思います。

伊豆市国民保護計画でございます。

聞きなれない言葉かもしれませんが、国におきましては、平成16年６月、国民保護法が成立し、県では平成18年３月に静岡県国民保護計画が作成されています。伊豆市でも平成19年２月に伊豆市国民保護計画が作成されております。

伊豆市のこの計画書は全世帯に配布していただいたでしょうか。

２つ目、この計画書に基づいてどのように今まで職員並びに市民に対して指導、実践してきたのかお伺いしたいと思います。

いつの時代でも小なり大なり国家間の紛争は絶えません。日本では、北方四島を初め韓国による竹島の領土問題もいまだ解決されていません。また、尖閣諸島も中国による侵犯がされております。お互いの主張は平行線ですので、あってはならない武力衝突も今後ないとは否定できません。この計画書概要では、第１編の第５章に保護計画の対象として、武力攻撃事態では着上陸進攻、ゲリラ特殊部隊による攻撃、弾道ミサイル攻撃、航空攻撃の４類型としております。このほか、緊急対処事態、武力攻撃の手段に準ずる手段を用いて多数の人を殺傷する行為が発生した事態として、原子力事業所の破壊、石油コンビナートの爆破等、ターミナル駅や列車の爆破等、炭疽菌やサリンの大量散布等、航空機による自爆テロ等。第２編の第２章では、武力攻撃がされた場合には市民を安全な場所へ避難させなければならないとしていますが、どこの場所へ避難させたらいいのかお伺いいたします。第２章４には、関係機関相互の連携協力の確保の中で、市は国・県・近隣市町並びに関係指定公共機関及び関係指定地方公共機関と平素から相互の連携体制の整備に努めると条文であらわされております。今までどのような方法で相互の連携をとってきましたのか。また、武力攻撃やテロが引き起こされた場合、住民を守る一番の支援組織は自衛隊ではないかと思いますが、今までどんな連携をし、住民に知らしめてきたのかお伺いいたします。戦後は各国とも近代兵器を保持するようになってきました。備えあれば憂いなしという言葉がありますが、住民を守るにはまず核シェルター、避難所を備えることが賢明な方法だと思いますが、いかがですか。

今、この平和の時代こそ核の恐怖による防災シェルターを建設することにより一次放射線や爆風を避けること、また散らばった放射性物質や二次放射線による爆風を避けることが目的であります。自衛隊出身で伊豆市の最高管理者としてこの核シェルターを設置していく考えはないのか伺います。

ちなみに、ちょっと古い資料かもしれませんが、その資料を取り寄せた中に、日本核シェルター協会の資料ではこの人口当たりの核シェルターの普及率は、例えばスイスが100％、イスラエル100％、ノルウェー99％、アメリカ92％、ロシア79％、イギリス67％、シンガポール54％、日本は0.02％、このほかいろいろスウェーデン、ドイツ、大韓民国、まだまだいろいろの国がやはりこの防衛管理体制を強化していると思います。この数字を見た限りでは

日本の危機管理体制の関心度を疑いたくなるわけでございます。自治体の最大の使命は住民を守るということでございます。

以上、よろしく御答弁のほどお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの大川孝議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

国民保護法は一連の有事法制整備の中で生まれてきたものであり、国の重要な責務でございます。

伊豆市の計画書は全世帯に配布しておりませんし、避難指示、避難訓練をする等の想定も国から示されておりません。市は有事において、この有事というのはこれ国防上の有事であって大災害ではありませんので、国防上の有事においては国・県と有機的に連携して市民の安全と生命を守るということに尽きようかと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　大川議員。

**○１１番（大川　孝君）**　有事のためのこの国民保護計画というふうに今、市長が述べられました。やはりこの有事がなければ腰を上げないというようなことでも困るわけですね。

そして、やはりこの核シェルターというものが、ちょっと御説明させていただきますと、いわゆる大規模災害に備える目的でつくられていると。大規模災害とは、人為的には戦争、テロ、自然災害では地震、津波、火災または化学工場や有害物質を取り扱う場所の事故のことを言っていますと。そして災害のうち最も過酷なものの核爆発、核爆発によって発生する災害や爆風の衝撃、そして熱、火あるいは放射線、二次放射線等による空気や水や土壌の汚染。このように一応大規模災害の中ではうたわれているわけでございます。そして、核シェルターにおいては放射能を初め有害物質を取り除いて安全な空気を供給する空気清浄機は常識と言えますと、そういうことですね。そして、核シェルターの外部に接している出入り口のドアは、強度に加えて水害など一時的にシェルターが水没してもシェルター内に水が浸入しない高密度の施設というふうに今言われております。

私たちはまず、先ほども申しましたように自治体の一番の使命は市民を守る、この一言であろうかと思います。自然災害で言えば、さきの東日本大震災による巨大地震、これに伴う津波、台風、風水害、竜巻、雷など多くの災害があります。また、人為的による一番大きな被害をもたらすのは、先ほども申しましたように戦争です。日本は1945年から66年が経過しましたが、今日まで大きな軍事衝突はなく平和な時代が続いておりありがたいことでありますが、しかしながら、想定外とはいえ３月11日の巨大地震による被害や今続くその余震、沈降など油断ができません。また、収束の見えない福島原発の放射能に対する避難者の対応や先日の台風12号など、特に紀伊半島の大きな被害等を報道で知ったとき、甚大な被害をもたらす自然災害の恐ろしさも改めて痛感をしている次第です。

そうした中、やはりこの防災、防衛危機管理の重要性がいかに大事であるかということを知るべきだと思います。国家の有事がないからこの法律は動かせないというような御発言のことでありましたが、やはり今こうした時代にいろいろと、きょうのニュースを見ましても中国の資源獲得と見えますような尖閣諸島関係、あるいは南シナ海についてのそうしたいろいろの摩擦が助長されているようなニュースが最近非常にふえております。日本にとりましても当然いろいろのそうした外交上の大きな問題をずっと抱えて今日に至っているわけですが、まずやはりそういうものに対する、必ず想定外のそういう大災害が、大規模災害が必ず来るという信念に基づいてやはりこうした今の時代こそいわゆる先取りをして、そしてこの施設を伊豆市においては、どのように核シェルターをつくってやはり市民を守るというその決意というものを独自でこういうものを研究して、そしてまた運営していく必要があるのではないかと思うわけです。

有事がないから、国の指令がないからというようなことでありますれば、先ほどのような0.02％の防衛力のいわゆる武器のない我々国民、市民のそうしたいざというときにどこへも逃げ隠れができないような始末になるというわけでございます。例えば国からの指令がなく、例えばですよ、きょうミサイルが飛んできたと。ならず国家からそうした恐ろしいことをしでかして日本に発射されたと。こういう場合だって100％ないとは言い切れないと思います。例えばそうした国からの指令がないときにあってもそうしたことが起こった場合には、市長としてどのように市民に対して対応していくのかお伺いしたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁を願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　伊豆市長としてどこまでを御質問にお答えして答弁したらいいのかなかなか悩ましいところですが、まずその一つは、国にとって国防、それから市にとって防災、これが大切であることはこれはそのとおりです。しかし、先ほどの議論ありましたように、杉山議員とありましたように、家の中のシェルター25万円、50万円で出せる、出せないという議論のときに、大川議員、前も御質疑ありましたように伊豆箱根は地下鉄にしろとか核シェルターを全部つくれと、これはもうオーダーが違い過ぎて政策の優先順位として、伊豆市長が掲げる政策の優先順位として余りにもオーダーが違い過ぎるんじゃないかと。貴重な伊豆市の資源を投入する先としては違うのではないかということが一つ。

それからもう一つは、日本という国は残念ながら独自で国を守れる体制になっていません。これ陸上自衛隊の約25万人というのも基盤的防衛、今は使っていませんけれども、基盤的防衛力という構想でやってきたわけです。それは国防有事に必要な自衛力とは差があるということは最初から言っているんですね。ある機関にこれエキスパンドしなければいけない、それはできていません。そこのリスクはだれが負うかと、決まっているんですね、そこは政治がそのリスクを負うという議論だったんです。これは市長ではありません、国会です。つまり基盤的防衛力は小さくする、だけれども本当に国防有事が、今のミサイルなんかそうです。

そういうときは、対処、ぐあっとエキスパンドしなければいけない。そこはできない。そのリスクはだれが負っているか、国会が負っているという議論なんです。そこをもし市議会議員として議論されるのであれば、テーマとしていただければ将来の課題たり得るのかなという気はいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　大川議員。

**○１１番（大川　孝君）**　きょうのこの一般質問を、平成19年２月ですから当時こういうものを国からできたということで全世帯にやはりこういうものもお手元に配布しておけば、きょうの一般質問でも知らなかった議員さんというのもいるようですので、そういう意味でもやはり国のこうした法律が一応できているということを知っていただくということもこれは重要ないわゆるその危機管理をやはり市民お一人一人の意識改革を、意識向上してもらわなきゃならないわけですね。さあ、今でかい災害が発生したからどうするかといったって、どうしようもないわけですね。

それで、先ほどの私が申し上げておりますこの国民の保護に関する措置の仕組みの中に避難、救護、武力攻撃災害への対処ということで、国・都道府県・市町村というふうにあるわけですね。そして、食料とか収容施設、医療等、警報とかいろいろそうした災害の応急処置については、その防災等に一つ上回るような対応のことも載っているわけですが、この地方公共団体にかかる、この措置にかかる経費は原則的に国庫が負担するとこういうふうにも記載されているわけですね。ですから、そういうものをぜひひとつ国と、あるいは県とも問い合わせをするならやはりもう少し国から国防意識を真剣に持ってもらわなければならないと思うわけです。

例えばスイスという国がヨーロッパのほうに、小さい国ですね、これも資料によっては多少違いますが746万人の小さなところで、私たち子供のころから中立国で軍隊も軍隊は持っているけれども戦争は仕掛けないということで、非常に模範的なその国のようにも聞いておりましたが、このスイスなんかを一つの例で申しますと、1963年、今から48年ぐらい前、人口1,000人以上の自治体は公共シェルター建設の義務があると。またすべての建物は新築、大改造の際、地下にシェルターをつくらなければならず、既存の建物にもシェルター設置が進められていると。また各地、地域民間防衛隊の司令部には地下に指令通信情報、汚染除去、浄水、換気、食料貯蔵、自家発電の設備を持つほか、数百人の一般住民収容室があり、出入り口が設けられ、厚い扉により風圧、放射能防護がなされています。これらの建造費用は、個人家屋では連邦州から約70％が支給され、市町村からさらに20％の補助がありますと。既存の建物では連邦州から約80％の補助がなされていると。市町村の公共シェルターや病院等は連邦州から約60％が補助されていると。こういうふうにスイスでもいろいろと小さな国でありましても国民を守ってあげようという国家の姿勢があるわけですね。でございますので、日本も拉致問題とかいろいろ全然抵抗をしないうちに日本民族という日本国民が人さらいに遭っているわけです。

いずれにしましても、ますますとこの日本も緊張感が高まっていく国際関係になるのではないかと思います。国会の外交関係を私も見ていましても、非常に毅然とした態度で言葉だけが踊って実践ができていないというふうに思うわけですね。そういう意味で、やはり我々市民に対していつどんなときでも何が来てももうちゃんと伊豆市はできているというようなことで、一遍に物事をやろうとするとそれこそ大変なお金がかかるわけですね、お金がかかるわけです。ですからそうでなく、やはりこの山間部のこういう地形をうまく利用した中で少しずつそうした放射能からの汚染からも守れるようなシェルターをやはりつくっていくと、こういう姿勢がさあといったときに、有事がどうのこうのなんていって伝令が来たときにはもうミサイルが飛んでここは爆発していますよ、全国どこでも。ですからそれでは遅いわけですね。ですから、ただこうした法律的な大金でつくった書類だけで倉庫へ押し込んでおくだけでなくて、これをやはりこういうことが必ず来るという信念を持って市長としてもこういうものについてもっと、出身がそれなりのところから市長も来ているわけですので、もう少し市民のいわゆるその防衛というものについてもより一層、国が県がじゃなくて、伊豆市はちゃんとしているというようなことで私は進めていただきたいですが、その辺についてはいかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　国会による議論に期待したいところですが、市議会というレベルから答弁申し上げますと、議員が一つ非常に大きな間違いをされているのは、スイスでは国が国民を守る、そうではありません。スイスには軍隊はありません。スイスが軍隊なんです。平常時の軍人は３万人ですけれども、48時間で60万人、60万人というのは人口の10％です。それだけの国防は軍隊にやらせない、全員で守るということ。これ実はスイスに軍隊はなくてスイスが軍隊であるというのはスイスの留学生から聞いた話なんですけれども、私が当時確認した時点ではまだすべてのトンネルに爆薬が仕掛けてあり、侵略は許さない、同盟にも入らない、そういった国がスイスなんです。

したがって、市議会での答弁という観点から申し上げますと、日本の国民は日本の国家を主権者である自分がどのように守っていくのか、それは国防自体であれ大災害であれそこの視点が議論がいつもないんですね、残念ながら。ですから、あくまで主権者は国民ですから、日本国民がどれだけの資源を、どれだけの予算を国防の準備に、それから災害の対策に充てるかという議論をぜひ市議会議員としてもこれから御検討をいただきたい。私はその観点で市の行政をあずかるものとして市の予算と資源を防災にどの程度割り振っていくかということは引き続き考えてまいりたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　大川議員。

**○１１番（大川　孝君）**　スイスを一つ例にとらせていただいたわけでございますけれども、民間防衛隊ですね、こういう地域民間防衛隊、こういうものがこの資料では載っております。

いずれにしましても、軍隊がなければ訂正をさせていただきますが、スイスも立派なスイス空軍ですか、そうしたものも持っているようにも前には聞いておりましたが、いずれにしましても、先ほど記載させていただきました国ですね、こういうものもちゃんとしっかりとこうした国民を守る姿勢で進んでいるわけでございます。

そういうことで、国が動かなければできないというようなことでなく、やはり私は常々何かを事を起こすには、今世界という国はどういう例えば紛争とかいろいろなものが起きているかと。そうしたものを見ながらじゃ日本という国もどういうふうになっているか。そしてじゃ伊豆市はどうしていこうかということになるわけですが、やはりいろいろとずっと永久に平和でいくことが住んでいる我々市民にとっては一番ありがたいことになるわけですが、やはり相手の国もありまして言語が違って、そしてまたいい生活をしていくにはいろいろのそうした経済面、そういうものもあるわけですね。軍隊を持っているということはやはりそれなりの目的があるから軍隊というものは持っているわけですね。ですから、やはりよその国からそうしたミサイルやいろいろの航空爆撃とかそういうものがないような外交姿勢を貫いていかなければならないわけですが、いずれにしましても、しっかりとこうした資料もきちんとあるわけでして、やはりこういうものも広報等を通じまして、市が全然動かないということであれば広報を出すだけの理由がないということになろうかと思いますが、やはり日夜この世界経済、世界は動いていますし、また日本も安閑としていられないいろいろな面を抱えているわけでございますので、そういう中、我々は何ら国民として武器やそういうものも何も持っていないわけですから、さあといったときにはやはり逃げる避難場所ぐらいはきちんとやはり整理整頓をする意味でその施設を少しずつつくっていくというこのことが求められていると思います。

そういうことで、この件についてはもう一度市長に対しまして、市民に知らせるようなことをしなくていいのか、あるいはこうした国からの指令がなければ一切こういうものは動かれないから自分だけで、例えばそうした避難場所を頑丈な避難場所を考えてつくっていくという姿勢はあるのかないのかもう一度聞いて終わりにします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　繰り返しですが、国民保護法は本来これは武力事態対処の有事法制ですので、それは政府というよりも国会のほうでの国民の有事の義務等を議論していただければと思います。

ただ、他方、災害対策という観点では相当喫緊の課題でございますので、これはきのうきょうの議論にもありましたとおり、今まで以上に災害対策というものをより効果的ならしめるように対応策を加速して検討させていただきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　これで大川孝議員の質問を終了いたします。

これにて一般質問を終了いたします。

**◎散会宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

お諮りいたします。明日９月８日は議事の都合により休会といたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　御異議なしと認めます。

よって、明日９月８日は休会とすることに決しました。

次の本会議は９月９日午前９時30分から開催いたします。

本日はこれにて散会いたします。御苦労さまでした。

散会　午後　２時４８分

# 平成23年第３回（９月）伊豆市議会定例会

（第４号　９月９日）

開議　午前　９時３０分

**◎開議宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　皆さん、おはようございます。

ただいまから平成23年第３回伊豆市議会定例会を再開いたします。

本日の出席議員は20名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

**◎議事日程説明**

**○議長（杉山羌央君）**　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

**◎議案第５５号の質疑、委員会付託**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第１、議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

これより議案第55号の質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、これを許します。

なお、第１回目の質疑については、議員及び答弁者はいずれも登壇することとし、再質疑については、いずれも自席にて起立の上、発言願います。

最初に、６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

私は、議案第55号、平成22年度一般会計決算につきまして質疑をただいまから行います。

まず最初に、ページでいきますと、決算書の14ページですけれども、平成22年度の市税徴収率は85.22％でありました。ところが、前々年の平成20年度は86.8％、21年度は85.7％、それから22年度が85.22％ということで、この二、三年、ずっと減少、徴収率は低下しているわけであります。これは一般会計収入、歳入減の大きな要因となっているところであります。これをこのまま放置していいとは、だれも考えていないと思いますが、市税の徴収体制を強化する考えはありませんか、お伺いします。

次に、ページでいきますと142ページ、広域処理施設整備事業ですけれども、これは御案内のとおり、伊豆の国市と共同で建設の準備を進めているところでありますが、平成22年度におきましては、施設基本計画策定業務負担金751万2,000円、生活環境影響調査768万2,000円、測量業務負担金172万8,000円、これが執行されておりません。これはやる前から候補地が決まらないから執行されていないと思うんですけれども、これは今後どうするようなお考えか。今回の梅原議員の一般質問では、もう生活環境アセスメント調査は入っているという

ようなお話もありましたが、そこら辺はどのようになっているのかお伺いいたします。

それから、３番目、212ページ、消防設備管理事業でございます。この節は、本来といいますか、例年といいますか、本来でしたら、消防自動車等、そういう施設の購入事業に充てられるわけですけれども、22年度におきましては、可搬ポンプ購入費が69万8,000円執行されたわけであります。伊豆市には、現在、各消防団、分団にポンプ車、可搬積載車があるわけですけれども、ポンプ車は21両、可搬積載車が35両、合計56両、消防団は所有しているわけですけれども、これらの年々古くなっていきますから、老朽化していきますから、更新をどういうふうに考えているのか。この二、三年のようなやり方ですと、１年に１台、消防車、可搬積載車、１台くらいしか更新されていないと。去年は可搬ポンプ１台、それから何か補助で１台、土肥のほうにいったというのを聞いておりますが、とにかく１台程度ということで、これでは全部更新するのに50年以上かかってしまうわけですね。ですから、この辺をどういうふうに考えているのかお伺いをいたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの西島議員の質疑に答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　皆さん、おはようございます。

お答え申し上げます。

現在、市税の滞納数は約3,200件で、徴収担当職員１人当たり640件となり、非常に高い数値となっており、納税催告や滞納整理が十分行き届いていないのが現状でございます。また、市内には別荘地が多いことから、市外在住の納税者の割合が高く、滞納整理が効率的にしにくい状況にもございます。

これらのことから、専門的な知識を持つ職員の養成など、徴収体制を含め、徴収率を向上させることが必要であると考え、このため具体的には、滞納処分の見直しを行い、差し押さえの対象を不動産から預金、保険等に広げたほか、現年分の滞納額の減少対策として、今年度から委託による納税の電話催告業務を始めており、またさらに平成24年度からは従業員３人以上の事業所の個人住民税の特別徴収の推進を行う計画をしております。今後は、コンビニでの収納やクレジットカードによる新しい納税方式についても検討してまいる予定です。

次に、広域処理施設整備事業ですが、決算のほうの内容は、組合設立準備負担金で決算内容としては事務費となっております。進捗状況は、既にお答えしたとおりですが、23年度事業として、生活環境影響調査と施設基本計画の策定を予定しております。

消防のポンプ車ですが、現在、おおむね20年をめどに更新しております。現在、20年以上経過した車両は７台、これはポンプ車が４台と可搬積載車が３台、このうちポンプ車１台を今年度更新し、以後、順次更新する計画をしております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

西島議員。

**○６番（西島信也君）**　それでは、再質疑をさせていただきます。

徴収率の件を言いますと、平成19年度、３年前から比べますと、金額にして市税全体では３億8,000万円減収になっております。市税の徴収率は1.6％の減となっておるわけです。これは税務課で聞いたんですけれども、伊豆市の市税徴収率は全国で何番目かといいますと、全国1,750区市町村があるそうですけれども、1,750団体中、1,576番なんですね。これはまことに低い数字であると思います。

それで、先ほど市長の答弁では、いろいろやっているということで、それは事務方のほうはいろいろ工夫してやっておるとは思いますけれども、一番の問題は何かというと、やはり徴収に行く人数が圧倒的に、市長はよく圧倒的と言いますけれども、圧倒的に少ないということが言えるわけです。昨年と比べまして、税務総務費の職員給与費はほとんど同じ、人数は恐らく変わっていないと思います。臨時職員もほとんど同じ人数ではないかと思います。支出金額、今年度の予算額が昨年、一昨年と余り変わっていないわけです。要するに徴収員を投入しなければ、税収は上がってこないと、私はそれを言っているんです。

市長は昨年６月定例会で、私も質問しましたし、梅原議員も質問したんですけれども、徴収率が上がっていないからどうするんだということで質問しましたら、どのようにして徴収したらいいかということを現在検討していると、人間についてですよ。検討しているということで、少し検討の時間をちょうだいしたいと思っていますと答えているわけですけれども。テクニックのほうはいろいろ検討しているんでしょうけれども、肝心の徴収員の人数、これは私、昨年申し上げましたが、伊豆の国市なんかでは、住民税、固定資産税、そういう関係だけで、たしか６人徴収する人がいるんですね。国保税は２人、専任の徴収員がいるんです。その人たちが毎日毎日回っているわけなんです。

やはり足で稼がなければ、ただ電話で催告する、それも効果あるか知らないけれども、払わない人は払わないんですよ。そこを何とかして払いにいくというのが大事だと思うんですけれども、そこら辺、結局、どんどん徴収率は下がってきている、税収も下がってきているわけですよ。そういう電話催告した、やれ何をしたなんていうことでは上がっていかないと思うんですけれども、人間をもっとふやすとか、そういうお考えは持っているのか持っていないのか、それをお伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　職員数については、御承知のとおり、議会からもより一層削減をという圧力、圧力といいますか、御指摘が続いているわけで、職員を純増する方向では考えておりません。その他のどのような選択肢があるのかについて、先ほど申し上げたような措置をとり、あるいは今後、検討しているわけでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　これはほかのも３回ですか、これはこれだけでいいですか。１議案で。税金だけであれじゃないですか。

**○議長（杉山羌央君）**　款項で。

**○６番（西島信也君）**　款項でね、わかりました。じゃあ款項だけでね。それでは、款ごとということであれします。

今、市長さんは人間が少ないからと、要するに振り分け方なんですよ、人間の、職員の振り分け方。全体的には下げなければならないでしょうけれども、どこに重点を置くか。のんべんだらりと何をやったって、だめですよ。どこに重点を置くかということを考えなければ。

例えばですよ、先ほど伊豆市の市税徴収率は22年度は85.22％と言いましたけれども、全国では下から何番目だというあれなんですけれども、例えば静岡県で言えば、小山町は何％だと思いますか、市税徴収率は98％なんです。長泉町は97.6％なんです。あそこら辺は景気がいいからということがあるかもしれませんけれども、そこだって職員数を物すごい投入しているんですよ。そうでなければ、こんな数字が出るわけないんです、98％。伊豆市より10何％、14％、13％も多いんですよ。ほとんど全部取っているという感じなんですけれども、そういうところもあると。小山町は全国で81番ですけれども、静岡県で１番です。

ですから、とにかく市長はさっき人がいないからだめだというようなことをおっしゃいましたけれども、職員の振り分け、税の徴収なんて一番公平化というか、そういう観点から見れば、みんな賦課しているんですから、払わない人がいて、それでそのままでいいというんじゃ、市長さんがよくおっしゃる公平化公平化、これは水道料じゃないですけどね、そういう公平化ということに問題があるんじゃないですか。

ですから、何とかして徴収率を上げなければ、実質的にもまずいと思うんですよね、税収が少なくなってきているんですから。そこら辺、重点的に税務課に配備するとか、あるいは例えば副市長さんが行って、一緒に督促の仕方を考えるとかなんだとか。税務課の中でも振り分けて、もっと徴収員をふやす。それで、歩いて取りにいっていたんですけれども、前は臨時がいたみたいですけれども、最近は、臨時はいるんでしょうけれども、取りにいっているような人はいるんですかね。とにかく取りにいかなきゃだめなんですよ、私の経験からするとね。そういう重点的に配備をするというお考えはあるのかないのかお伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　滞納を放置しているつもりはございませんが、徴収体制の強化のところに特段人員数を増す考えは現時点では持っておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　人員はふやさないということでね、全くどうも普通の自治体の首長さんとは大分趣が違って、普通の自治体、普通といいますか、多くの自治体の首長さんは、上

げるようにしますと、人員を投入するように頑張りますということを言うんですけれども、そういうふうに人員を投入しないでやろうなんていう首長さんは、私は余り聞いたことがないですね。

それでは、次へいきます。142ページの広域処理施設整備事業ということで、昨年、22年度の決算では、そういうことで、基本計画とか、環境アセスとか、そういうのをやっていなかったということですけれども、私は22年の予算のときに聞いたんですよ。どういう時期というか、これをやるのかと、施設基本計画とか、生活環境とかやるのかと聞いたところ、そのときのお答えでは、だれがお答えしたか、市長さんが直接お答えしたか、ちょっとよく記憶がないんですけれども、住民の了解を得たならば、やりますと、こういうふうな回答だったんです。それは当然のことだと思うんですけれども、この前の梅原議員の一般質問では、もう生活環境アセスはやっているというあれなんですけれども、やっているということは、住民の了解をとったかというと、どうも新聞報道なんかによると、住民は絶対反対していると、花坂、珍野、長塚の住民、３地区の住民は絶対反対ということで、庁舎の説明会にも２日間で７名しか来なかったんだと書いてありましたけれども、恐らく住民の了解はとらないでやっているのではないかと思うわけです。

それで、それは伊豆の国に任せてあるから、伊豆の国がやっているんだと言うかもしれませんけれども、これは２市共同でやっているわけですから、お金も半分出そうとしているわけです。例えば生活環境影響調査にしても、今年度も去年と同じだけ予算がありますけれども、768万2,000円出そうとしているわけです。これをもうやっているということだと、こういうお金が出てくるということは当然考えられるわけです、どの程度かわかりませんけれども、出ていくということは考えられるわけです。そうしますと、地元は了解していないと、勝手に市がやる、両市がやると。そういうことになりますと、やったはいいけれども、つくれなくなったということも当然考えられるわけです。環境調査をやったはいいけれども、建設には至らなかったと。そこはあきらめるんだと、１年後か、２年後かわかりませんよ、そういうことだって当然考えられると。

そうした場合、伊豆市の市長として、こういう負担金を払うということに、そうなった場合ですよ、払ったということは、伊豆の国の市長だって責任はあるんでしょうけれども、伊豆の国の市長としても責任があるんじゃないかと思うんですよね。そこら辺は、あれは伊豆の国市が勝手にやったことだから、おれはただそれに従ってやっただけで、責任はないということはないと思うんですよね。そういうことは十分予想されると思うんですけれども、もしもそういう事態になったら、確率的にはうんと高いと思うんですけれども、どういうふうにお考え、あるいは責任をおとりになるのか、ならないのか、そこら辺をお伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　地元の住民の皆さんと話をする上で、どのような生活への影響がある

のか。したがって、生活環境影響調査というのは、これは前提条件として必要だと思っています。それから、堀切のときにも、当時の行政は、どのようなものをつくるかも含めて、地元の皆さんとお話をしたいということだったのですが、議論の中で、どういうものができるかわからないのに議論ができないというようなことがありまして、したがって、ある程度の施設の構想というものは示さないと、恐らくまたこれも地元の住民の皆さんとの話そのものができないんだろうと思っております。ともあれ、私ども２市は建設の方向で事業を進め、必要な予算をつけているわけでございますので、これが失敗することを前提の予算措置というのはしておりませんので、そのような具体的な事後の検討というのはしておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　それでは、今の件について再質疑します。

堀切では、住民の方から、どういうものができるか示してくれというようなお話があったと思うんですけれども、伊豆長岡の該当地区は、そんなことは言っていないと思うんです。絶対反対だと、とにかく反対だということで来ているわけです。ですから、そんなのをやって、示したって、かえってそんなのとんでもないことをやったということで、火に油を注ぐようなことになりかねませんですね。

伊豆の国の市長は何と言っているかというと、私は伊豆長岡の順天堂の移転問題、移転しないようにするとそれと広域ごみ処理施設の建設については、私は最後までやると、政治生命をかけてと、こうおっしゃっているんですよ。政治生命をかけていると、伊豆の国の市長はね。伊豆の国の市長は、政治生命をかけるということは、できなかったら、政治生命はないと、そうおっしゃっているわけですよ。市長は、伊豆の国の望月市長と一緒になってやっている、絶対やるとおっしゃっているわけですけれども、伊豆市の市長さんも、伊豆の国の市長と運命をともにして、それについて政治生命をかけるお考えはあるかどうかお伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　運命をともにするという意味がわかりませんので、そこはお答えのしようがないのですが、伊豆の国市長と力を合わせて実現できるように努力をしてまいりたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　私が聞きたかったのは、そうじゃない。だめだった場合、政治生命をかけるのか、そういうことをお聞きしたんですけれども、お答えがなかったのは非常に残念であります。

消防設備管理事業の次の質疑に移ります。今、伊豆市には56台の可搬積載車、ポンプ車があるということなんですけれども、さっき20年以上たったポンプ車、可搬積載車は20台以上あるというようなお話だったんですけれども、要するに更新するペースはどういうふうにし

ていくのかということですよね。20年以上あるじゃ、１年に１台ずつやったら、最後のところは20年後ということになっちゃいますよね。そうすれば、ことし買ったポンプ車だって、また更新するのは、20年先は何十台もあるから、またどんどん古くなって、一番古いのは50年になるかもしれません。私の家の近くに可搬ポンプ小屋があるんですけれども、それは私が消防団をやっていた35年ぐらい前からありますから、恐らく四、五十年たっているのではないかと思うんですけれども、あの可搬ポンプは。物すごい重い可搬ポンプで、１台80キロから100キロくらいあるんです。

昔だったら、消防団の団員の数もたんといたから、山火事なんかで持っていくとか何か、人数がいたからいいんでしょうけれども、今は全然少なくなりましたから、近代化をしなくてはならないわけです、設備を。これは市長さんは自衛隊にいらっしゃったから、よくおわかりだと思うんですけれども。とにかくポンプ車、可搬積載車をこれからどういうようなペース、そういうさっき言ったような、しっかり整備してとか、順次とか、そういうのでなくて、私が言っているのは、ペースが遅いということを言っているわけですよ。１年に１台とか、何にもやらないとか、何も購入しないというんじゃ、何年かかったら伊豆市の可搬積載車、どんどん自然と１年ずつ老朽化していくんですから、何年かかったら、使えるようなポンプ車になるのかということになるわけです。まさか30年も40年もたって、そういうポンプ車でいいのかということもないと思うんですけれども、そこら辺、もう一回、どんどん更新していくぞと、そういうふうに国・県へ働きかけてやるぞというあれはないんでしょうか、お伺いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　20年以上経過した車両は20台ではなくて７台、先ほど申し上げましたとおり、ポンプ車が４台で可搬積載車３台の７台でございます。それから、これは普通の車両と違いまして、ポンプ車はなかなか動かす機会が多くありませんので、20年経過しても、大体１万3,000キロぐらいなんですね。そうすると、シャシーがそんなに壊れない。そうすると、いわゆる消火機能がどの程度必要かということで、伊豆市に例えば化学コンビナートのようなものができて、ポンプ車そのものの機能を向上しなければいけない場合には、換装というのは必要になろうかと思います。しかし、現状を見ますと、大事に使いながら、消火機能が年数とともに低減しないのであれば、やはり予算とのバランスを見ながら、順次更新していくのが全体の政策のバランスとしてはいいのではないかと考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　ポンプ車、可搬積載車の更新については、各消防団、あるいは事務方からも、やってくれ、やってくれというあれがあると思うんですけれども、これをやるか、やらないかを決裁するのは市長なんですから、やはり上がってきたものについては速やかに、そんなのいいだと、そういうことを言わないで、いつ何どき壊れるかわからないんですから、

お願いしたいと思います。

以上、これは答弁は要りません。私の決算に対する質疑は終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で西島信也議員の質疑を終わります。

続いて、12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

今の質問を聞いていて、伊豆市は大丈夫なのかなと思いますよ、市長さん。物の劣化には、経年劣化というのがあるんですね。時間がたてば、自然に劣化するんですよ。ぜひその辺をお勉強していただきたい。

それでは、これから質問しますけれども、ごまかすような発言はやめてくださいよ。今回の議会でも例えば、船原ホテルの寮、議会で説明していると言うけれども、説明しているのは委員会とか、全協ですからね。委員会だって、大多数の議員は参加していないような委員会ですよ、説明しているのが。おとといの自然破壊でも、あなたは新設道路はつくっていないとおっしゃっているようですが、私は開発したかどうか聞いているんです。あそこの歩道の補修整備はやっているわけだ。何か言葉でごまかされちゃうような気がしますので、ぜひやってくださいよ。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員、ちょっと御注意申し上げますけれども、議案第55号についての質疑ですので、その質疑に沿って質問を願います。

**○１２番（森　良雄君）**　明快な答えを出させてください、いいですか、議長さん、お願いしますよ。

特に議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定について、まず一つは、決算概要書についてお聞きしたい。主要工事概要、これは主要工事概要だけではありません。補助金なども含めて、補助金などは、多少は少額のものも載っているようですが、主要工事概要、500万円以上の記載しか載っておりませんが、なぜでしょうか。入札方法も記載されていない。随意契約かどうかもわからない。概要書と決算書との対比も非常に難しい。伊豆市契約事務規則を超えた随意契約はすべて記載すべきではないでしょうか。工事場所の不明なところもたくさんあります。これらの改善を。私はふだんは、決算書、予算書に倍するような説明書が必要ではないかということを言っております。残念ながら、ほんの一部しか説明書には載っていない。この辺をぜひ解決してもらいたいと思いますが、お答え願いたい。

次、４款２項２目、146ページ、施設改良工事費4,736万円というのがありますが、その工事内容、契約方法、主要工事概要46ページのナンバー３との金額の違い。多少の説明はされておりますけれども、それらもわかるように説明していただきたい。

次、８款６項２目、206ページ、修善寺駅周辺整備事業1,992万円の成果、主要工事概要51ページのナンバー21、22の成果、決算書では今言った1,992万円と同じなのかどうなのか、金額の違いについてご説明いただきたい。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの森議員の質疑に答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　１つ目ですが、概要書は、決算のうち重要な事項の成果を説明する書類として作成しているものでございます。このうち工事については、伊豆市では、500万円以上としておりまして、工事発注状況については、伊豆市のホームページで公表しております。

それから、その次は市民環境部長、３つ目は建設部長から説明させます。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、市民環境部長。

〔市民環境部長　山本　潔君登壇〕

**○市民環境部長（山本　潔君）**　それでは、146ページの関係ですけれども、決算額全体の中で工事概要に載っております500万円以上のもの以外に、２つのここに載っておりません100万円以下の工事がございまして、これを加えますと、この決算額になります。その２点ですけれども、焼却施設のクレーンの点検整備工事74万2,350円という工事を、この時期に施設の改良と同時にとめているときにやっております。それから、もう一つ、養生ラインベルト、灰を運ぶためのベルトコンベヤーのベルトが壊れまして、これは別の時期に直しております。これが42万円ということでやっております。

それから、契約の方法につきましては、全体につきましては、３本とも随意契約でやっております。議員御承知のとおり、毎年毎年ですけれども、最小限、最も緊急を要する部分だけをやるということで、設計施工業者であります住重環境エンジニアリングとの随意契約でやっております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、建設部長。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、森良雄議員の修善寺駅周辺の関係についてお答えいたします。

まず最初に、1,992万円の成果についてということです。これは決算書の206ページに載っているわけですけれども、主な成果といたしまして、13、委託料になります。繰越明許の委託料598万円と1,313万円の委託料が主なものとなります。繰越明許の598万円につきましては、物件調査を行いました。伊豆箱根鉄道の店舗及びタクシー事務所、日産レンタカー、三島信用金庫のＡＴＭ、缶処理施設の５カ所の物件調査、それと営業が行われていますので、営業のもとデータを調査して、これが成果となります。

続きまして、1,313万円の委託料になるわけですけれども、これについては、修善寺駅及び鉄道附帯設備の実施設計業務といたしまして、4,144万円を契約しているわけですけれど

も、これのうち22年度分としましては20％の進捗、840万円、これと鹿島田公園の実施設計、それにデザインコンテストの業務委託、これが主な成果となります。

決算概要のナンバー21とナンバー22の成果について、まずナンバー21は、駅北広場の設計委託であり、今回中間報告させていただきました駅北側の広場の設計になります。これは23年度に全額繰り越しをされています。そのため今回、中間報告させていただいたわけです。

続きまして、22につきましては、伊豆箱根との協定書による委託で、駅舎、鉄道附帯施設の委託で、22年度、23年度で実施をしているところです。

決算書の記載についてですけれども、まず21、これは先ほど言いましたように、22年度から23年度へ全額繰り越しをしてあります。また、ナンバー22については、4,144万円のうち840万円が22年度分、3,304万円が23年度へ繰り越しされているということで、決算概要書の12ページ、ここの中段に4,092万2,000円の繰り越し分がここに記載されています。また、22年度分の840万円、これは今度は決算書のほうの206ページ、備考欄、下段のところの13、修善寺駅周辺整備計画委託料の1,313万円に含まれています。金額の違いについては、契約は22年度、23年度合わせて契約しますけれども、予算のほうでは22年度分、23年度分と２つに分かれているということでご理解いただきたいと思います。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ございますか。

森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　まず、議長さんにお願いがありますけれども、３つの質問というふうに考えてよろしいですか。款項目出しているのは２つしかないんです。

**○議長（杉山羌央君）**　概要書は決算書の説明なので、できたら２つでもってお願いします。

**○１２番（森　良雄君）**　厳しい要求ですね。議長さんのそういうお話ですので、２つということですので、まず概要書と４款２項２目について質問させていただきます。

まず、概要書ですね、市長さん。あなたは伊豆市のホームページをごらんになったことありますか。まず、それを答えてくださいよ。私はいつも言っているんですよ。工事関係のホームページ、見にくいと。一つ一つ調べていかないと読めないんですよ。大体ここは議会なんです。議会という認識が全くないんですね。議会でお願いしているんですから、もうちょっとわかりやすい概要書ないし説明書を出してくれるようにお願いしますよ、まずこれを答えてください。大体議員の皆さん、今の建設部長には悪いですけれども、一生懸命説明してくれて悪いけれども、皆さん、わかりましたか。私はさっぱりわからない。委員会でお聞きしますけれども、委員会に市長さん、ぜひ出てきてくださいよ。

概要書についてはそれで、焼却施設の施設改良工事について、これも同じですね。質問しなければ、決算書の金額についてはわからない。それでは困りますよ。質問しなくても、わかれば、質問なんかしないんだから、できれば概要書ないし説明書でそういうことがわかるようにやってもらいたい。

もう一つ、ここでお聞きしたいんですけれども、毎年、ほとんど同じ工事ですね。炉の中の清掃、バグフィルターの交換、そのほかいろいろ附帯工事がついてくると。毎年毎年同じところと随意契約しなければならないのかどうか、その辺をお聞きしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　毎年、修繕の箇所は変わっております。そこで一番要するに老朽化がひどい部分ですね、そのところを直しておりますので、私も技術的なところは正直よくわからないのですが、この箇所は、毎年これは変わっていることは間違いないと思います。

〔「それで終わりか。概要書について答えてないよ、工事概要書」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　ホームページについては見ておりません。決算概要書等については、作成するたびに、よりわかりやすいものと心がけてまいりたいと思います。

なお、特定の随意契約をする場合がございます。これは全然別の事業会社にお願いして、より経費がかかることもあります。極めて高い確率で毎年毎年事業会社を変えていては、むしろ非効率になると思いますので、これは市民の利益のためには、非常に老朽化した施設でございますので、過去の経緯と現状を熟知している企業さんに効率的にやっていただくことが、全体として市民の利益にかなうものと判断して、このようなやり方をとっているところでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　ホームページ、物によっては非常にわかりにくいケースが多々あるんですよ。ただ、窓をつくられちゃうと、工事みたくいろいろ見たいなと思うとき、窓を一々あけなきゃ見られないと。わかりますよね、窓ってね。工事ごとに分けちゃうんですけどね。ですから、私みたいに特定の工事を見たいというと、やはり一覧性のあるものでないと、ちょっと見にくいということを指摘しておきたい。これは今言ってもどうこうというあれじゃないでしょうから、お願いにしておきます。

施設改良工事なんですけれども、過去には業者を変えた経験もあるんですよ。その前の業者のとき、何でだ、何でだ、同じところと随意契約ばかりやっていたんじゃだめじゃないかと言って、五、六年前ですか、今の住重、住友さんに変えた経緯があります。やろうと思えば、できるんですね。悪いけれども、私から見ると、比較的単純な工事でないかなと思っているんですよ。ぜひこれもやはり市長さんは１カ所に随意契約でお願いしたほうが、市民の利益になるというようなお考えのようですけれども。だけれども自治体によっては、コンピューターのシステムまでほかに変えちゃうというようなところだってあるわけですね。ぜひ最初から同じところに発注しましょうなんて言っていたのでは、業者に甘い汁を吸われるケースが多いです。ぜひ考えてください。今言ったのは、回答は要らないですから。

次、周辺整備工事に移ります。これまた決算書を見ても、概要説明書を見ても、さっぱりわからないんですよ。これもまた委員会で聞きますけれども、できたら市長さん、委員会に出てきてくださいよ。

おとどい配付された説明書が今回の1,992万円に入っているんでしょうかね。これはひどい駅をつくるなと思っているんですけれども、細かいことを聞いていいですか。

まず、説明書から見ると、修善寺駅という看板はどこにも見えないんだけれども、立てる気があるのかどうなのか、まずそれが第１点。

**○議長（杉山羌央君）**　できましたら、概要にとどめていただいて、詳しいこと、確かに看板もないようですので、それは委員会でもって、出席して、質問してください。

**○１２番（森　良雄君）**　市長は出てこないでしょう、出てくるのか。出てくるんだったらよすけど。基本的な結果を聞いているんですよ、私は。だれだ、ぶつぶつ言っているの。木村君か、私は結果を聞いているんだ。成果が出されたんだよ。

〔発言する人あり〕

**○１２番（森　良雄君）**　木村君、何か言いたいの。よしなさいよ、変な言い方、質問しているんだから。

最後のページのこれなんか、我がまちは観光客のためのまちでしょう。いすなんか置いてないんですかね、これね。それから、店舗の面積、食堂らしいものもある、店舗が２つ用意されておりますけれども、この面積は現状よりもどのぐらいふえているのかどうか。あそこで土産物を全品並べられちゃったら、市内の業者は売る物がなくなっちゃうんですね。

皆さんは細かいことを言うと御不満のようですから、もう１点にしておきますけれども、スロープができている。勾配が６％。この前のスロープは４％なんですね。これの1.5倍のスロープができるんですよ。車いすの人、大丈夫ですかね。その辺、できたら市長さんにお聞きしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　ご質問の中で、最後のスロープのところは、政策的な問題かなということでお答えしますが、当初は、御承知のとおり、下をフラットにしておいて、エレベーターを念頭に置いていました。そこで、内藤廣先生にアドバイスいただいたところ、やはり駅舎から南北は、駅からフラットなほうがいいと、使い勝手がいいということで、このようなやり方に変えたわけですが、まだ絵でしか見ていませんけれども、確かにこのほうが南北との一体感とか、それからやっぱり圧倒的に多くの方は、車いすを使われる方も、車でほとんど来られなくて、下からずっと来られる方はそうそう多いとは思えませんので、多少歩かれるところは、距離は長くなりますけれども、でも全体としての使い勝手のバランスはやはりよくなったのではないかと、このように考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　店舗のことについてですけれども、現状と計画とでどのくらいの差があるかというのは、今、資料を持っていませんので、また議員にお知らせしたいと思います。ただ、このページを見ていただきたいのですが、ここには今度の計画の店舗の面積は記載されていますので、よろしくお願いします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　スロープ、私、ことし、ちょっと痛い目に遭ったもので、ここのエレベーターは大分利用させてもらったんです。よかったですね、つくっておいてもらってね。だけど、エレベーターで到達するまでのスロープは苦労しましたよ。生まれて初めて松葉づえなんて使っちゃってね。やっぱりしんどいですね。あれは４％なんですね。しかし、一般的に弱者に親切なところは３％ですよ、スロープは。４％はきついというのは常識ですから。私は、この東大の先生だか何だか、随分世間知らずの人がやっているなと思っていますよ。

ここは観光のまちだということは、皆さん承知しているわけですね。今、エレベーターを利用する人、いわゆる弱者と言われる人も確かに利用していますけれども、エレベーターを使っているのは、ほとんど観光客ですよ。こんなでっかい荷物持っている人ね。当然階段は使いません。スロープも使いません。エスカレーターも使いません。エレベーターがあるかないかですよ。

その辺、市長さん、詳細設計の打ち合わせは終わったんですか、それを聞きますよ。これで設計はおしまいなのか、それともこれから詳細設計に入るのか、多少の仕様設計の変更も可能なのかどうなのか、その辺をお伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　ここの駅舎については、設計は終わりました。これで今の現時点での単価で積算いたしまして、12月議会には伊豆箱根との協定に持っていきたいというふうに考えています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で森良雄議員の質疑を終わります。

続いて、20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　20番、木村です。

議案第55号の平成22年度一般会計決算認定について何点かにわたって質疑を行います。

決算審議の質疑をするに当たって、平成22年度が市民のためにどのようにお金が使われて、その結果どうだったのかということで、私は当然、当初予算から何回かにわたる補正予算の中で、それぞれが提案理由の中で説明されて質疑されてきた。そういう経過のもとで、大くくりできちっとその総括を私はやっていく必要があるという立場であります。

したがって、中心点は、平成22年度、さまざまな方針を出したけれども、それがどうだったのかと。そこから何を我々は、当然もう今年度は出発していますけれども、来年度の予算編成するに当たって、何が本当に大事なのかというところを、しっかりと市長及び関係部長と質疑をしながら確認していきたいなと思います。そういう立場で質問いたします。

１款の市民税であります。若干今、西島議員のほうから質疑がありましたが、言われるとおり、市民税が年々減少して、徴収率も落ちているわけですけれども、その内容の分析及びそこのところを中心にして質疑をいたします。と同時に、それだけではとどまらないので、当然、来年度予算編成に向けて、何をどういうふうに改善していけばいいのかというところが、やっぱり決算審査にとって、重点ではありません、大事な要素となると思いますので、お願いしたいと思います。

それから、６款の農林振興林業についてであります。市長は平成22年度の当初予算を、所信表明、未来に向かってのこともお話をなされていましたが、こういうことを言っていました。ワサビ、シイタケ、黒米に次ぐ特産野菜の栽培事業を検討したいとしていたんですけれども、ちょっと該当箇所、やったのかどうかを含めてですけれども、該当箇所がページをめくってもわからなかったので、お願いしたいと思います。

それから、民有林の整備計画というのが既に委託されて終わったと思うんですけれども、どういう中身をやられる計画として今現在いるのか、概要の説明をお願いします。

それから、もう１点、農林振興林業で、これも所信表明の中で述べられておりました。長年放置された木を伐採し売却する段階に入るということを言っておりましたけれども、ちょっとその点も見当たりませんので、お願いしたいと思います。

７款です。伊豆魅力プロジェクトについて、スポーツ施設が整備されてから、そういう意味では平成22年というのは初年度の取り組みでしたけれども、総括内容をお願いします。

それから、教育関係です。修善寺南小体育館の財政支出のあり方の問題で、教育委員会の議会の権限と役割の軽視が話題になりましたけれども、私は今後の議会と当局及び教育委員会とのあり方というのはしっかりと総括しながらやっていく必要があると思いますので、教育委員会として、この中でどのような教訓を引き出したのかお答え願いたいと思います。

それから、学校給食についてであります。熊坂小学校、修善寺小学校の給食調理室が廃止になりました。予算、決算になりましたが、これに伴って、食材を入れていた市内仕入れ業者はどうなったのか、質疑しましたが、そのときには提案されたときには、あくまでも廃止したいという提案でしたけれども、それ以降、そのときにもお話ししましたが、地産地消がやっぱり私は行政にとって極めてその役割というのは重要だと思いますので、それとの兼ね合いでの総括の説明をお願いします。

あと、全般についてであります。補助金、あちらこちらにありますけれども、補助金額を決める基準、何に基づいて行われたのかお願いします。

最後であります。これもすべてにわたってになるんですけれども、監査委員の意見書にこ

いう文章があります。不用額について改善を求めるということで、意見書が出されましたけれども、この監査委員からの意見書に基づいて改善策を検討されたのかどうか、改善したのであるならば、その概略でも結構でございますから、御説明願いたい。

以上であります。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの木村議員の質問に答弁願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答えします。

まず、市民税の分析及び改善ですが、市民税には個人と法人があり、その中にはそれぞれ現年分と滞納分がございます。市民税の約８割を占め、近年、収納額、徴収率とも最も変化の大きい個人市民税の現年分について御説明を申し上げます。

市民税は、平成19年度には、税源移譲のために大幅に増額しましたが、その後、平成20年度には、前年度比で納税者数が315人の減、課税総所得でも約６億円の減となりました。また、平成21年度には、納税者数が前年比244人の減、課税所得も10億3,000万円の減少、そして平成22年度においては、納税者数で前年度比763人の減、課税総所得も約35億9,000万円の減少となりました。

平成22年度の個人市民税は、現年分の賦課額、収納額ともに前年度比で約１億5,000万円、10％の減少となっております。この原因としては、人口が減少する一方で、高齢化が進んでおり、平成22年度は納税者数が前年度比で763名減少し、所得割についても２億4,800万円減少したことが挙げられます。

今後の対策ですが、これは人口減少対策の総合政策ともつながってくるのですが、やはり所得をふやすこと、雇用をふやすこと、それから定住促進をすることに尽きようかと思っております。特に税源という意味では、市の政策によって、個人所得を上げ、それから納税者数をふやすこと、これを着実に積み上げることが必要かと考えております。

徴収については、先ほど申し上げましたとおりです。

それから、特産の野菜をふやしたい、これはワサビについては、御承知のとおり、質・量とも日本一、シイタケにおきましては、去年からことしにかけて、農林大臣賞、伊豆市だけで３人受賞されているんです。これは本当にほかにないことであって、品質のレベルの高さというのは本当に日本一だと思っています。ここは今、いかに販路を拡大するかで尽力しているところですが、確かに伊豆市は人口は少ないものの、観光流入数は約300万、宿泊数で約80万近く、この方々にいわゆる普通の食事の中でとっていただくような野菜をふやすことが、まだ可能性があるのではないかと考え、このようなことを申し上げたわけです。

ただ、伊豆市の中には、農業法人が、一般の通常の葉野菜とか、根野菜をつくるような農業生産法人がございませんので、そこでノウハウのあるシルバー人材センターさんに自主事業として農業への進出をお願いし、今、野菜と米でようやく緒についたところでございます。

これは部長から説明をさせます。また、八木沢では、地元のほうで国庫補助を利用したブルーベリーの栽培も着手しているようでございます。

ともあれ、農業というのは、これからまだ将来に向けて、伊豆市においては可能性のある産業だと思っておりますので、引き続き努力をしてまいりたいと思います。実は幾つかの案件もあるのですが、これはちょっとビジネスの世界に入ってしまいますので、幾つか今、抱えている案件については、ここでは答弁を差し控えさせていただきます。

それから、民有林の整備ですが、これは伊豆市内だけではなくて、全国共通なのですが、日本の問題は、森林施業のコスト高がございます。そこで、将来的には国有林、県有林、市有林、民有林等、境界を越えて、団地化というのが必要だと思っております。ただ、現時点では、昨年度の実績としては、報告を既にしておりますけれども、冷川の大幡野の市有林、これの実績があり、民有林としては、大平柿木で案件として挙がってきたようですが、詳細は後ほど部長から説明させますが、なかなか田方森林組合が委託を受けるまでに至らなかったようで、今、幾つかの事業化に向けての検討がなされているやに聞いております。詳細は、後ほど部長から説明させます。

それから、伊豆市魅力プロジェクト。これも私が主導した事業で、なかなか展開が難しいので、苦慮しているところですが、この美しい自然環境と宿泊施設がある中で、数の多い、プロには至らないけれども、アマチュアには十分なスポーツ施設をより活用していく方向で、方向としては、引き続きこの方向に沿って進めていきたいと思っております。ただ、その中で、部分的に市民が逆に使い勝手が悪くなった、あるいは市民の利用料金が下がらないままで、使いづらいまま残っている。それから営業力等で、まだ強化する余地が残っている等々、マイナーチェンジするところがございますので、これはまだ今、検討の作業中でございまして、少し体協との関係も含めて、新たな方向性を見出す必要があろうかなと考えております。これも実績については、後ほど部長から説明をさせます。

それから、次に教育委員会のところに入りますが、修善寺南小の体育館については、これは大変に不手際でございまして、これは教育委員会から後ほどあろうかと思いますが、やはり一番問題は、去年まで、これまでこういうやり方でやってきましたということではなく、その事業を遂行するたびにコンプライアンスのあり方、行政運営の適正な事務手続のあり方、これについては痛切な教訓として、市役所内で徹底をしてまいりたいと思っております。

それから、補助金についてですが、個々の補助金の基準は、要綱で対象、補助率等を定めております。年度ごとの補助金額、内容については、予算ヒアリングの中で行革担当も同席して、担当課からの聞き取りを実施しながら、個々に検討を行っております。

それから、監査委員の意見書については、特に不用額の改善についてですが、合併前の旧町時代には、３月の補正予算で不用額の調整が行われていたようでございます。ただ、本来、補正予算は、当初予算編成以後の事由により、予算の追加を行うもので、不用額を調整するのは、補正予算の意味合いとはいささか異なっているのではないか。また、歳入におきまし

ても、特別交付税など不確定な要素もあり、結果として、今回指摘されたような大きな金額となってまいりました。特交の最終確定がかなり年度末ぎりぎりですので、このような構造的な問題は残ろうかと思いますが、今後も詳細にわたって、まず予算段階でより精密にヒアリングすることに努め、査定段階で慎重な予算査定の作業に心がけてまいりたいと考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　では、初めに観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　それでは、木村議員の質問に対して御答弁申し上げます。

市長の答弁とも重複することがあるかと思いますけれども、まず最初にワサビ、シイタケに次ぐ特産野菜の栽培ということでございます。これにつきましても、シルバー人材センターの自主事業として展開できないかということから始まりまして、耕作放棄地を再生し、野菜づくりを行えば、交付金等の補助があるというふうなことから、耕作放棄地再生事業と結びつけて事業を行いました。具体的には、決算書の160ページでございます。160ページの19、下のほうですけれども、耕作放棄地解消対策事業補助金でございます。これが15万4,500円、これについてシルバー人材センターの費用というふうなことでございます。

なお、作物の選定に当たっては、例えば伊豆の国市におきまして、以前、中国野菜というのを栽培したという実績がございました。しかしながら、中国野菜は、余り栽培が容易でない、難しい、また市場でも余り活用をされないという事例がございまして、そういったことを考えまして、市とシルバー人材センター、あるいはＪＡさんとも打ち合わせを行った結果、ジャガイモとタマネギというものを露地栽培で栽培し、活用されました。これについては、ジャガイモ、タマネギにつきましては、販売も容易であると、だれでも買えるというふうなことであります。ということで、大平地区の耕作放棄地を借用いたしまして、面積的には1,848平米でございますけれども、約２反歩を借りて、生産量として、販売量ですか、販売量としまして、ジャガイモが798キロ、タマネギが1,140キロほど販売してございます。なお、あとそのほかに新たな特産品の実証として、国庫補助を利用しまして、八木沢地区においてブルーベリーの栽培を行っております。また、この事業につきましては、23年度も引き続き実施してございます。

次に、民有林の整備計画でございます。決算書でいきますと166ページの一番下ですか、民有林整備計画策定等委託料ということでございます。これにつきましては、22年度におきましては民有林整備計画ということでございますけれども、具体的には集約化実施計画というものを策定しました。これは民有林の整備につながるということでございまして、伊豆市の集約化ということの可能性ですか、森林の集約化、施業の集約化というのを可能性ということで、森林の樹種、あるいは樹齢、手入れ状況を調査、調査は図上と現地を行いまして、これをもとに林班図に記載、そして台帳整備、そして森林簿に加えるというふうな作業でございます。なかなか現地調査等もございまして、大変な事業でございます。

それから、木材の関係でございますけれども、22年度におきましては、伊豆市市有林の冷川字大幡野の県道中大見八幡野線沿いになりますけれども、施業面積24ヘクタールのうち８ヘクタールの木材を販売いたしました。木材の搬出量につきましては663立米ということでございまして、これにつきましては販売価格から搬出経費を差し引いた金額ということで、71万7,953円というものがございまして、これについて、財産収入、立木売払収入に入金されております。ただし、これにつきましては、22年度、23年度、両年度にまたがりまして、22年度につきましては30万5,727円というふうなことになっております。

なお、先ほどの森林の整備計画の集約化の関係でございますけれども、先ほど市長からも柿木というふうなお話がございました。この結果、現在、23年度、富士にございます日本製紙がこの整備を進めておりまして、これを見本といたしまして、集約化によって、大平柿木地区、これの県有林、市有林、あるいは共有林、民有林等含めて、600ヘクタールほどでございますけれども、これについて、今後こういった事業を進めていこうという考え方を持っております。

続きまして、魅力プロジェクトでございます。これにつきましても、22年度事業の実績でありますが、スポーツ合宿、スポーツ大会等を初め、キャスティングやスポーツカイトといった新しいレクリエーションスポーツの普及・誘致等、27事業を誘致いたしました。その結果の費用対効果といいますか、経済的な効果といいますか、申しますと、合計で宿泊人員が延べ4,554人、宿泊の金額にいたしますと3,165万9,000円ほど、それと弁当につきましては、弁当の注文数が4,451、弁当の金額が308万5,000円というふうなことで、これだけの経済的効果があったというふうに認識しております。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、教育長。

〔教育長　遠藤浩三郎君登壇〕

**○教育長（遠藤浩三郎君）**　修善寺南小学校の財政支出についてでありますが、大変適正を欠き、深く反省をし、教訓を戒めとして、改めて関係法令を遵守し、適正な事務処理の執行を職員にも周知徹底をし、資質向上を図ってまいりたいと考えております。

それから、学校給食についてでありますが、御指摘のとおり、熊坂小学校、修善寺小学校の調理室廃止に伴う食材の仕入れでありますが、市内の業者に納入が可能かどうかを確認しました。そのうち、精肉店１社から辞退がありました。その他の業者については、従前どおり納入をしてもらっております。

それから、地産地消に関してでありますが、米、大豆、シイタケについては100％の地産地消であり、その他、キクラゲ、ジャガイモ、タマネギ、黒米、弘法芋、鶏卵、ヤーコン、梅干し等、地産地消の推進に努めておるところであります。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　すみません、ちょっと議長、どうすればいいのか迷っているんですけれども、というのは、補助金と監査委員の意見書云々というのは全般にわたるんですよね。森議員も言ったように、これは１回と数えなくていい。これはどうしますか。１個１個やらないとわからないと、お答えいただくのがわからないということじゃないんですけれども、これはこれとしてやっていいですか。一緒にしたいなと思っているので、そんなにあと２回も永遠と、永遠というか、やる必要もないと思うので、よろしいでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　はい。

**○２０番（木村建一君）**　わかりました。すみません、最後の補助金の基準と監査委員の意見書、一緒に質疑をしたいと思うんですけれども、補助金の基準、いろいろと調べてみますと、市長が言われるように、補助金の基準というか、例えばチャイルドシート購入補助金とか、それから老人クラブ補助金云々ということで、たくさんあるんですよね。そういう個別にちゃんとはっきりとわかるものは、すっとなるほどなとわかるんですけれども、全般ですから、例えばの例として幾つかお尋ねしますけれども、収穫祭の例えば補助金というのが見ていると、決算を中心にして話します。前年度と比較すると、数字は言いませんけれども総括的だから、どんどん落っこってきたんですよね。途中で業務委託になりました、21年度あたりから。それから、もう一つは、商工会補助金も、ほぼ並行なんですけれども、値段が少しずつ違っていると。

そうすると、全部じゃないんでしょうけれども、補助金の交付基準というのが、部長とも、ちょっとお尋ねあったもんで、何を答えていいのかということで、自分なりの考えを少し述べさせていただいたんですけれども、平成18年度に補助金等に関する基本指針というのがあって、私はそれに基づいて、いろいろな事業を仕分けしながら、補助金をつけているのかなというふうに思っているものですから、全部でなくて、当然とりわけこういう事業をやりたいということに対する判断基準というのはなかなか難しいのかなと。

すみません、繰り返します。チャイルドシート等は基準がぴっと出ているもので、なるほどなとわかるんですけれども、そうしますと、事業に対してどう補助金を出すのかということになりますと、補助金に関する基本指針、行革の中で見直したという話を聞いたんですけれども、そうしますと、当然各種団体から交付申請があります。そして、それを見て、いいですよ、じゃあこの額でいきましょうとなっていきます。１年たちました。その報告書が来ます。以前、議会のほうで、行革委員会を開いたときに、この書類もいただいたんですけれども、事業者の申請書と結果報告書が来たんだけれども、この間、どういうふうに総括したんですか、だから来年度はこれだけ決めましたというのはなかったんですね。

ひょっとしたら出し忘れたか、よくわからないんだけれども、本来そういう書類上のやりとりをやっているものだから、やっぱりこの議会においても、それについてはこういう基準に基づいてやっていますよ。とりあえず、とりわけ事業に対する補助金の必要性の問題、効

率性、有効性はどうだったのかというのは、判断基準がないと、我々も決算するに当たって、なぜ減ったのか、実はというところがはっきりしませんと、なかなか判断がつかないのかなと思うので、そういう判断に基づいて、今回決算をやったのかどうかということです。

それから、監査委員の意見の関係については、不用額というのは、確かに多く見積もれば、不用額はたくさん出てくる。確かに難しいところがあると思うんですけれども、予算のヒアリングというのがしっかりしませんと、多く見積もっておいて、最後になったら、余ったから、これでよかったねという判断じゃないというような話をされていたし、今後もそうやっていきたいということですから、とりわけ不用額のこの点についてどうだったのかということが、いっぱいあるもんですからね、不用額だって。もし決算をずっとつくるに当たって、監査委員から意見書が出された。それについて、この辺を検討したと、その点というのがもしありましたら、主要なところでありましたらお願いしたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　まず、補助金のほうですが、議員のご指摘の趣旨がわかりました。行政サービスを支援するための確かに一定のルールが相当明確にできるものは、それはそれでいいと思うのですが、そうでないほうは、確かに政策と絡んでいるんですね。

例えば収穫祭でしたら、当初、私は伊豆市で一番大きなお祭りだから、観光イベントにもつなげようということで考えていたんですね、実行委員会方式をとっていて。ところが、事業評価を去年やってみたら、5,000人でさえ交通渋滞がひどくて、縮小すべきだという評価になってしまって、これではとてもじゃないけれども、拡大はできない。私が幾つかの収穫祭のあり方について主導していたものですから、実行委員会ではできない、じゃあ市の直営にしようということにして、ことしは今度は来年の育樹祭のプレイベントとかんでいるわけですね。

したがって、収穫祭という一つの事業も、これをいかに活用していくかということで、市長の政策判断が入っているものですから、ふえたり減ったりするということはございます。この収穫祭をどうやって安定させるかどうかについて、安定させたほうがいいのか、やはり多少試行錯誤があっても活用したほうがいいのか、まだ正直なところ、意思決定も、毎年のやり方も固まっておりませんので、来年以降も変動があろうかと思います。特に来年は育樹祭の本番と重なりますので、ほぼですね、また出入りがあろうかと思います。

それから、もう一つ、商工会のほうも、これも政策判断と絡んでおりまして、市民の使い勝手のよさの商品券でやる、例えば商品券事業で。そうすると、アピタまで入れてくださいという声が圧倒的に多いわけです。しかし、市長として、市の小規模小売店をどう維持活性化していくかという観点からすると、リーマンショック以降、当初は商品券は３％だったかな、手数料を出してくれるところの手挙げ方式で入っていただいた。しかし、それでは閉めてしまうところが出てきそうだということで、それをなくして、ですから補助金をふやして、

全店を対象にしたりしたわけです。そこもやはり政策判断と絡んでおりますので、多少出入りがございます。

安定的に商品券、それからその他の商工会の事業もやったほうが、やるべきこと、やってできるものについては、一定の基準をしっかりつくったほうがいいと思うのですが、どうしてもこれだけ経済が乱高下し、しかもリーマンショックと大震災という、どしゃっという急降下が２回もありますと、なかなか政策としての判断を含めた補助金というものは、安定化させることは難しいというような、これは申しわけありません、現状の説明でございます。

不用額について、今、総務部長のほうも明確にどうしたらいいかということはないようですが、例えば入札差金等出たときに、それでまた別の事業をやったり、あるところでは、相当カットして、落札率を。そして、それを別なことに使う市町もあるやに聞いています。うちの懐を考えますと、正直な話、積み上げられるものは積み上げておきたい。なるべく財調で持っておきたい。これは26年、27年で半分、28、29でゼロになるというのは、目の前に財政見通しで出てくると、もちろんずるしてためるわけではありませんが、しかし年度末に積み上げられるものがあれば、市長としてはやっぱり可能な限り積み上げておきたい。それから、衛生施設がございますので、そこの判断については御理解をいただきたい。ただ、当初の査定の仕方については、より精緻な査定作業というのは、これは引き続き尽力させていただきたいと思っています。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　補助金については、政策判断というのは、当然そこは絡むものですから、また委員会のほうで、その点はどういうふうに政策判断して、ふやすということはないでしょうけれども、減らしてきたのかということも含めながら、また聞かせていただければなと思います。

市民税についてお尋ねします。人数が減った。監査委員の報告にあったように、人が減りました。景気が悪くて、それからお年寄りが多いという、お年寄りは稼がないとか、年金だからということで、そういうふうに判断したんですけれども、なかなかここからが難しさがあると思うんですけれども、市長も22年度の当初のときに、仕事をふやすこと、すぐにじゃないなというふうな私は判断をしたんですけれども、もう一つは、所得をふやすということでの政策的なこと、イコール直ちにとならないでしょうけれども、やっぱり学ぶべきところというのは、これだけどんどん、とりわけ今、市長が言われたように、現年分を私は重視して、分析させていただきました。

というのは、滞納なんかを含めますと、22年度は一体全体市民生活はどうだったなんて、なかなか出てこないですね。トータルの税収となると、よくわからないと。個別にそこのところを見ていく。滞納は滞納で個別に見て、当然、財政のほうの収入を得たい、トータル的な形を、自主財源をとりたいということは、そうなるでしょうけれども、市民生活、個人現年が、法人現年もそうですけれども、適切なのかと思います。したがって、所得をふやすと

いうことで政策的に考えているんですけれども、余り遠い将来は結構です、きょうは決算ですから、何を分析されたのかなというふうに思いますので、お願いしたい。

それから、もう一つです。徴収率の問題で、いろいろと聞かせていただきましたけれども、私は住民税というのは、前年所得で課税されるものですから、今のような景気状況の中だと、本当にそのときは稼いでいたんだけれども、その後、仕事がなくなっちゃったとか、首を切られたということについて、前年所得から来る住民税が本当に深刻な方もいらっしゃるというふうに私は判断しています。そうしたときに、どういう対策をとればいいのか。収納率を上げるためには、一概にはそういかないと思うんですけれども、私は一つだけお尋ねします。

どれだけ本当に懇切丁寧に市民の、いわゆる善意あるという立場でちょっと考えて、悪質も当然いろいろいると聞いていますが、善意で払いたいんだけれども、なかなか払えないというようなところで、ただ単に電話でやるとか、督促状をぼんと送りつける、それは本当に心が通わないと思っているんですけれども、相談業務というのは、私は何人かの、年金じゃないですけれども、国保税の問題について、担当部局とちょっと相談して、よりよい方向で、なるべく払いやすいようにということでやったということも一、二件経験したんですけれども、その点は22年度でどういうふうな税を集める方の職員の方で、本当に生活に困っている人たちに本当に手を差し伸べて、残念ながら、義務ですから、払わなくてはならないんだけれども、払いやすいような仕組みを本当に懇切丁寧に話し合っていくということが私はもっと大事になってくるのかなと。上から押しつけて、取ってくるという、義務だから当たり前だというのがどうだったのかなと思うんですけれども、お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これも議員の御主張はよくわかります。私も５年前に戻りましたときに、その前の給料ですから、相当少なくない市民税を新宿区に納めたときに、当時は所得がなかったので、非常に厳しい思いをしたので、この経済の強烈な変化の中で、多分苦労されている市民の皆さんはかなりいるだろうなということは推測いたします。そこで、市のスタッフとしては、いろいろな苦労と努力をしておりまして、その中、説明申し上げられるところの一端を今から市民環境部長から説明をさせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　先ほどの納税の相談につきましては、これはお電話をいただくなり、窓口に来ていただければ、分納なり何なりの相談はさせていただいております。私ども滞納処分をする対象と申しますと、ほとんど何も連絡が来ないという方につきましては、何らかの処分をさせてもらうということになりますけれども、いずれにいたしましても、こういう状況であるということの申し出をいただければ、ご相談をさせていただいております。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　22年度の中で、上から目線でなくて、そういう相談をやっているというお話を伺いましたが、市民税について最後に、具体的に月日がたてばたつほど、請求額

はどんどん大きくなるものだから、払えなくなる。身近だと何とか、例えば５万円あったんだけれども、それを5,000円ずつやる。そうすると、あとの先は少しずつまた減ってくるんですけれども、どのくらいの件数で相談なされたのか、ちょっと細かくなって申しわけないです、総括質疑の中で、わかりますか、どれだけの件数。いわゆる滞納件数ってありますよね、個人で結構です。滞納件数の中で、その中で、本当に分納したりなんかということの手続をとったパーセンテージでも結構です、件数でもいいです。すみませんね、大事なところなので、ちょっとわかったら、件数わかりますか、お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　市民環境部長。

**○市民環境部長（山本　潔君）**　申しわけございません。今、手元に相談件数等の資料を持っておりませんので、後ほどお調べいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　次の農林振興林業についてお尋ねします。

当初予算を組むに当たって、市長が特産野菜の栽培事業、シルバー人材センターの自主事業ということで、農業法人のちょっとすぐにはできないということで伺って、そういうことをやっているのなかということを、状況はわかりましたから、これは結構でございます。

木の伐採で売却する段階に入ったことでは、小さな一歩か、大きな一歩かわかりませんが、一つ前進したのかなと思って聞かせていただきましたが、具体的にお尋ねしたい。民有林の整備計画、いろいろとお話しなされていましたけれども、集約化実施計画で、そうすると、台帳整備したということになると、当然民有林を整備するに当たって、隣に市有林があれば、それとの兼ね合いでいろいろ出てくると思うんですよね。民有林だけぴっと分けて、ここだけやりましょうというのはないと思うんです。市有林も当然やっていくし、共有林もやっていくでしょうけれども、そういう山をきちっと整備しようという意味での台帳整備をしたということですから、22年度の決算の中で。それに基づく、ことし、来年、再来年ということで、整備の台帳に基づいて、整備計画が計画的に山を整備する目標というか、できたということでよろしいですか、そういう理解ですか、22年度の決算。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　私からお答え申し上げますが、そこまで至っておりません。本来は、民有林が圧倒的に多いので、森林組合が2,300会員の山に対する整備計画をつくるんです、法律上の趣旨は。ただ、日本全国の森林組合はほとんどそうなっておりませんで、森林組合の事務局の、あるいはその作業班の人件費をとらえる分くらいの公共事業を森林組合みずから受けて、そして人件費分の利益を上げていくというような事業に陥っているところが圧倒的な多数というように聞いております。

そこで、本来の森林組合の職責を果たしてもらおうということで、それは専門家がおりませんので、市のほうに県から技官の専門官に来てもらって、彼のアドバイスを受けながら、森林組合にそういったスキルをつけてもらう。それはまだ本当にスタートの段階なんです。

それから、もう一つ、制度的に悩ましいのが、必ず森林組合とか、あるいはその他森林事業をやっている方から、コストに合いませんという話が出るんですね。そこで、機械化というのももちろんありますけれども、日本のほかの国と比較した問題は、路網整備が搬出コストの中に入ってしまっているわけです。今、ビジネス化している北欧なんかは、路網整備までは国の事業としてやっているんです。ですから、国と県がどこまでやってくれるかのところを少し整理しませんと、今、ただ単純に森林組合にこうやって市も一緒にやるから、計画をつくって、切ってくれと言っても、恐らくなかなか進まない。そこを今、県のほうも相当森林事業には、目標が4,500万立米かな、県内算出試算。そこで、具体的な目標を掲げて、県もことしから動いているところですので、その枠の中で市がどうやってこれをビジネスとして成立させることができるかを、今まさにそこを始めたところですので、来年以降、どこを切って、幾ら売り上げるという計画までは、まだ残念ながら至っておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　そうしますと、台帳整備したと、集約実施計画の。伊豆市の山の現状はどうなっているのか、足元が見えたということですか。次に発展する大きな土台ができたというふうに判断してよろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　そのとおりで、ようやく土俵が見えてきたというところです。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　伊豆魅力プロジェクトに質疑いたします。

新しい27事業があって、それへの成果云々ということを聞かせていただきましたが、例えば天城ふるさと広場、人工芝を張りかえていきました。それから、大改修したところ二つだけ、丸山グラウンドもそうですね。それで、ここはどうだったのかというところで、決算概要書の82ページに、天城ふるさと広場のどうだったのかと、あくまでも去年との対比で載っています。見ますと、天城ドームだけに限らせていただきますが、何件というか、申し込んだというところでは、若干ふえたと、ほぼ横ばいというかな、横ばいというよりも少しふえてきたんですが、整備して、１年たって、22年度、新しい人工芝といったときには、約5,000人減少しているという状況でございますね。

それから、もう一つ、丸山グラウンドの関係で見ても、本年度と前年度との比較で見ると、免除使用者数というのはほぼ同じなんですけれども、お金を払ってのスポーツ利用者が、ほんのわずかですけれども、下がっていっている状況なんですね。

そうしますと、市長が当初言っていた、イコールすぐには、相手があることですから、いかないということは重々承知しているんですけれども、交流人口の拡大を図るとともに、市内のスポーツ団体に優先的に施設を使用していただくことも可能にしますと。それから、ユニークだなと思って当初予算で聞いていましたのが、地元のスポーツ団体に市外からチーム

を誘致しまして、一緒になって、スポーツ施設がたくさんある伊豆市を大いに活用してもらおうと。そうすれば、ここで言っているのは、１チーム50人で行っていた合宿は150人、200人になります。

こういうことで、受け入れる体制はたくさんあるんだということだったんですけれども、結果は、今、新たな運動の種目でとか、団体が来たのは、今、部長のほうから聞いて、そういうこともあるんだなと思うんですけれども、全体を見たときに、そんなに思ったほどのふえたねということがないんですね、その点はどのように分析されていましたでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これも御指摘のとおりです。何とか下げないで済んだ、横ばいぐらいの状況です。幾つか問題がございまして、ふるさと広場の天城ドームは、これは半日単位の使用料金ですと、地元の方が１試合２時間は使いたいというときに使えない。そういう料金の使い勝手の悪さがありましたので、これを変更して、市民の皆さんが１試合のとき、あるいはちょっとみんなと使いたいというときに使えるような料金体系の変更をいたしました。これによって、恐らく市民の皆さんにとっては、今までより使い勝手がよくなったと思います。

それから、丸山球場については、せっかく整備しておきながら、ほとんど外からの誘客につながっていないので、ここはてこ入れが必要だと思っています。これは狩野グラウンド、ふるさと広場、丸山スポーツ公園共通なんですが、このような誘致のときに、パーソン・ツー・パーソンなんですね。だれだれはどこと関係が強い。だから、そこの協会の役員にお願いして来てもらう。組織として、伊豆市の観光事業、スポーツを誘客に使う場合には観光事業ですから、組織として、幾つかの団体とか、組織に営業しているということができなったものですから、そこの体制を今どうやって強化していこうかということで、担当を観光交流課にしたりしているわけです。ここはまだ改善の余地があろうかと思っています。

それと、もう一つ、ちょっと予期せぬ事態が起こってしまったのが、市内の相当活動範囲の広いクラブチームにホスト的になってもらって、誘致してもらおうと思っていたのですが、最近、隣接地に別な野球チームができてしまって、せっかく彼らが一生懸命これまでボランティア的に整備してきた野球場を、相当な頻度で外から予約されている状況が出てしまって、市内のそういったチームを優先的にブロックする今システムはございませんので、せっかく伊豆市に拠点を置いているチーム、伊豆市に本籍地のあるチームをこれからどうやって、これも人材育成と重なりますので、どのような改善策がとれるのか、これは新たな課題となって出てまいりました。

すみません、説明ばかりで恐縮なんですが、そういった課題を踏まえて、改善策をとってまいりたいと考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　課題はわかりました。それで、ちょっとお尋ねしたいのは、一番わ

からないのは、伊豆魅力プロジェクトはどこが担当するのか、本当にわからなかったんですね。教育委員会に行ったらどうもそうでもなさそうだし、でも実質的には施設は教育委員会が把握しているから、それはごめんなさい、余計なことを言ったけれども、担当部長になるのかだれか、事細かなことを市長がわかっていればいいんですけれども、22年度は現実に新しい張りかえたり、それから丸山グラウンドはピッチングができるような施設もつくりました。それに対して、どういう働きかけをした結果、なかなかうまくいかなかった、そこのところをちょっとお尋ねしたいんですけれども、どういう取り組みを22年度やってきたのか。どこですか、わかりますか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これもすみません、言いわけじみた説明になってしまうのですが、丸山スポーツ公園はまだ教育委員会ですよね。施設の担当が違うものですから、これは正直いって、私が中途半端な体制で進めたことによると思っています。魅力プロジェクトを重点事業としてやろうとした場合には、やはり学校教育を教育委員会に集中的にやっていただいて、ほかの市町でやっているように、社会教育の部分は、文化とスポーツは市長部局に持ってきて、管理も一元化し、営業も一元化する、そういう体制が必要だろうと思っています。丸山スポーツ公園は、管理人さんが今５人いますけれども、そこの営業を特段強化してやっているわけでありませんので、施設はきれいになったけれども、地元の小学生、中学生が週末に使っているというようなところから脱却できなかったと私は分析をしています。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　最後の教育委員会関係でお尋ねします。適正を欠いていたということで、両トップというか、教育長と市長からお話を伺いましたが、少し突っ込んでお尋ねします。

今回の工事契約のもとになっているのは、当然提案理由で述べられていましたように、地方自治法の第96条の第１項第５号に基づいてあったんですね。それに基づいてやっているんだけれども、こういうやりとりが振り返ってみますとあったんですね。予算はオーバーしないんだけれども、その中における契約変更ですから、何回契約をやってもいいんだけれども、手続をしない場合には、指示書というのを出して、一般的に予算上の問題も勘案しながら施工させていただくということで進めているんだと。だから、変更契約を結ばせていただくというやり方で進めているんです。したがって、工事契約の金額が予算よりもまだ低いんだから、自分たちでやってしまったという認識だったのかなと私は思うんですけれども、別にいじめようということで質疑しているわけではありません。

地方自治法の96条の何が具体的にやっぱりまずかったから、こうやったのかとやりませんと、ただ単に議会から指摘されて云々だから、適正を欠いていたとかというんじゃ、我々もそうですけれども、担当職員の方々の法律に基づく判断がぐらついちゃうと思うんですね。ましてや法律でがんじがらめでやっているわけではない。判断が少し緩やかなところも当然

あるものですから、今回の件は、今言った、繰り返して申しわけないんですけれども、予算があって、その中で工事請負契約の金額を変更したんだから、まだ工事も終わっていないんだから、いいじゃないのということでお金で支出しちゃったということなんですよね。その点はどのように理解されましたか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

教育委員会事務局長。

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　今、議員の御指摘をいただきました、そういった概念といいますか、そういう認識があったと考えています。議員がおっしゃられるとおり、予算上あるから、中での議会議決を必要とする契約案件も含めて、そういった考え方で進めていたやに教育委員会のほうは進めていったと、そういう考え方があったというふうに結果的に解釈をしてございます。

その辺につきましては、大変先ほど教育長が申し上げましたとおり、地方自治法、契約事務規則等々、十分正しく理解していなかったというように現在反省してございまして、そういう部分については、議員がおっしゃられた内容のように認識をしていたというふうに思っておりますので、そういう部分について、改めて言葉だけではなくて、法令等をもう一回しっかり見直して進めていくように、現在といいますか、既に昨年から指摘を受けた部分につきましては考えを改めてですね、改めてといいますか、もう一度見直して、適正な事務の執行を行うように職員に通達をしているところでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　学校給食の件ですが、ちょっとすみません、いろいろ聞いていて、考えながら聞いているので、繰り返しになるかもしれません。熊坂と修善寺小学校だけについて限定してお尋ねします。地産地消と言われたように、前から聞いていて、いろいろなところでいろいろなものを、地場産品を学校給食で使っているということは、本当にそういう意味で評価したいんですけれども、１社だけが外れて、その他何社が、何社というか、商店ですよね、現実には、さらに引き継いでいるということ、どういう状況になったのか、説明していただけますか。

**○議長（杉山羌央君）**　事務局長。

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　先ほど教育長のほうからお話をさせていただきましたけれども、まず地産地消につきましては、先ほど言ったような品目、10数品目になってございますけれども、これにつきましては、ただ地場産品を使っているというだけではなくて、年々数量、それから当然利用頻度がふえますので、数量もふえてございますし、それと食材の数といいますか、品数もふえてきているというところで、これはセンターエリアだけではなくて、お互いに地域、地元という、伊豆市以外の小さなエリアがありますので、そこでしかとれないというものもございますけれども、その辺はうまく融通をしてやっているという、融通といいますか、お互いに利用できる数量がある範囲で市内に全域にわたることができる

ものは、そういうような調整をして、給食に取り入れているということ。

それと、もう一つ、２校が廃止されて、そのときに納入していただいていた地元の小売店さん、具体的にいいますと、先ほど言いました肉屋さんもございますけれども、ほかにも挙げると、野菜とか、そういうものが、八百屋さんとかがあるわけでございますけれども、今までの考え、やり方として、センター方式になって、自校方式の調理場を閉鎖する、廃止するときには、そこに入れていただいていた、納入していただいていた小売店といいますか、商店さんのほうに一応お話をかけます。今後もセンター方式になりますけれども、引き続いて品物の納入をしていただけるでしょうかというお話を持っていきまして、相手の商店さんの意向を確認させていただきます。その中で、今度は中伊豆のほうに、今回の場合、中伊豆の給食センターのほうに行くようであるならば、ちょっと遠慮させてもらいたいというのが、先ほど出てきました精肉店さん、お肉屋さんが１店あったということです。

それ以外にも、このお肉屋さん、今まで修善寺小学校、熊坂小学校におさめていたお肉屋さんが、その分の営業収入が減るわけでございますが、そういう分につきましては、例えば南小学校、修善寺中学、そういうところの納入をうまく入れ込んで、少しでも収入が減らないようにというような対応の仕方も現在してございますので、全くできませんというところは、それっ切りといいますか、取引がなくなるわけでございますけれども、栄養士さんとうちのほうの担当者との中で、どうしてもどこかもう少し今までの分はどこかへ入れないかというようなときには、地元でないと嫌だよということであれば、今回の場合は南小学校、それから修善寺中学校へと肉屋さんがそこに入って、今までも入っている人もありますので、それを少しローテーションが３カ月、４カ月のローテーションになりますけれども、少しそういうところに入ってもらって、そこで一部営業の補給といいますか、補てんをしてもらうような話をして進めているというのが状況でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で木村建一議員の質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第55号については、会議規則第37条第１項の規定により、お手元に配付いたしております議案付託表のとおり、それぞれ所管の委員会に付託いたします。

時間がちょっと変則ではありますけれども、大変お疲れのようですので、ここで10分間ほど休憩をしたいと思います。11時40分に再開をいたします。

休憩　午前１１時２９分

再開　午前１１時３９分

**○議長（杉山羌央君）**　休憩を閉じ会議を再開いたします。

**◎議案第５６号～議案第７３号の質疑、委員会付託**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第２、議案第56号　平成22年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定についてから日程第19、議案第73号　平成22年度伊豆市矢熊財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてまでの18議案を一括して議題といたします。

これより質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、これを許します。

議案第62号、63号の２議案について一括して、１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　１番、鈴木初司でございます。

発言通告書質疑についてさせていただきます。

議案第62号　平成22年度伊豆市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

下水道事業特別会計歳入歳出決算書のうち、123ページから124ページでございます。使用料及び手数料、これは当初予定額が33億何がしでございまして、調定額が３億1,051万354円、収入済額が２億8,385万228円、不納欠損額が45万4,382円、収入未済額2,620万5,744円、予算現額と収入済額の比較でマイナスの4,621万7,772円でございます。この結果を行政当局はどのように受けとめ、どのように認識しているか、説明を求めます。

議案第63号　平成22年度伊豆市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

平成22年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算書の147ページから148ページでございます。使用料及び手数料、調定額が3,365万8,259円、収入済額が2,900万3,907円、不納欠損額12万996円、収入未済額453万3,356円になっております。農業集落排水は、公共下水道と比べ、加入率が100％に近く、比較することはできないのですが、この結果を行政当局はどうのように認識しているか説明を求めます。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの質疑に対し答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

まず、議案第62号ですが、これは平成22年度の使用料予算の算定において、平成20年のリーマンショック以来、景気が落ち込んでいたものを、22年度は大きく回復すると見積もり、平成19年度並みの収入が見込めるのではないかと判断した結果でございます。残念ながら、そのようにはなりませんでした。

まず、１つ目は、景気低迷と一般家庭の節水等で有収水量が減少したということ、２つ目は、未収金がふえているということ、それから３つ目は、接続率の問題でございます。このような構造的な問題から大きく減額をしてしまいましたと認識しております。

それから、議案第63号については、収納率で見ると、平成20年度が86.5%、21年度が85%、22年度が86.5%と大きくは変わっておりません。これは通常の上水道が、企業等で使われるのと異なり、景気に左右されない一般家庭の使用が主なものであるためと考えております。

いずれにしましても、まずは伊豆市内の産業構造をしっかりして、上水道、それから下水道の使用料の低落に歯どめをかけるということが一つ。それから、もう一つは、公共料金の負担の公平性からいって、徴収をしっかり着実に進めていくということに尽きようかと思っております。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　下水道は毎回議論させていただいて、一番心配しとるところなものですから、やらせていただくというのは、収入未済額が2,620万円という、私の考える中では膨大だなと。なぜかと申し上げますと、私どもが下水道に入っておらないわけなんですよ。それで、普通に下水を処理します、浄化槽を。そうしますと、年３回、あと２回ぐらい吸い上げをしてやりますと、大体１回が検査で8,000円ぐらい、それで抜くので２万円ぐらいかかっています。

そうすると、入っていないところの人だと、大体平均すると７万円ぐらい自分のお金を常に出して、川をきれいにしていると、貢献しているということでございますけれども、ここの下水道の方々は、毎回言っているように、一般会計から繰り入れて、なおかつ払わないと。払っている人たちは倍払っているじゃないかという、この不公平感が著しくあるというのが収入未済額、なおかつそれで払わないということになりますと、ここに何らかのてこ入れをしていかないと、ことしの予算も３億3,000万円が３億円に減っているわけですよ。

それで、なおかつ収入未済額がどんどんふえていったら、どんどん一般会計から繰り入れていかなければならないという、そういう事態に陥っているわけで、ことし、先ほど市長からお話がありまして、これからつなぐほうも一生懸命やっていくと。それしないで、どんどん距離が延びていく。ことしはやらないということなんですけれども、その辺の一般、入っていない家庭についてのその辺の救済というんですか、公平感を著しく欠いているということもトータルで考えて、下水道事業はあると思うので、その辺はどう考えますか、答弁ください。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　これは以前、議会で申し上げているとおり、そのとおりです。構造的に、下水道に入っている方々と、それから自宅の浄化槽の方々と負担が著しく大きい。そこで、下水と農業集排と合併浄化槽とその機能に着目をして、市が一元管理できないかということを検討しているわけです。その中で、議員もたしか以前、御指摘されたとおり、10億円近い一般財源からの繰り入れを下水道事業に行っておりますので、これも別の構造の問題がある。

そこで、シダックスの志太代表が創設されました公民連携研究会というところで、上下水道を丸ごとアウトソースすることについて研究をいただきました。その研究報告会が今月、伊豆市のまずは観光業協会の皆さんに説明会を行います。その上で、こういった事業をどの程度外に出せるのか、それは実現可能なのかどうかを検証して、３事業を一元化することと上下水道事業をセットでアウトソースすることと両方、相当大きな構造改革になりますので、その実現の可能性について研究しているところでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　もう少し踏み込んで話を答弁いただきたいのは、トータル的に考えていくというのはわかるんですけれども、個人のほうで管理をしている方々に対しての恩恵じゃないですけれども、多少なりとも、そちらに対しても税のほうから補助を出すという考え方がないと、その人たちは自分で出していると、何回も言いますけれども。この人たちは一般会計から繰り入れたものに対しての13億円ですね、工事費まで入れると大体13億円ぐらいあるんですけれども、入れないと、収入未済額が2,600万円、なおかつ払わないで、ただ流しておる方もおるわけですよ。その差というのは相当なものがあります。

これは建設部長のほうに一つ聞きたいんですけれども、今回の災害のときにヘリコプターで上から伊豆市全体を眺めたときに、このままの下水道事業のあり方というのは、新しくなられて、変わったわけですから、見た感じ、相当の距離があるわけですよね。市街化調整区域のところから市街化があり、何もやっていないところもあると。これ以上の事業をどう考えるか。これから大切な決算を踏まえての新たな道へ進んでいかなければならないということがありますから、その辺の見解もいただきたいので、よろしくどうぞお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　議員質問の前に、収入未済額について話させてください。払わない方がいるわけです。そのために上水道と一緒にお金の徴収をしています。２カ月に一遍そのお金を徴収しているものですから、払わない方には給水停止のまず予告をします。これが年に２回、２カ月ごとなものですから、半年ごとで年に２回行っています。このときに123軒の給水停止の予告をさせていただきました。そして、大体連絡が来ますと、いろいろ連絡が来まして、払ってくれる方もいますし、そのまま何もしない方がいます。実際に給水停止をした方が23軒あります。本当にとめたのかというような連絡もあります。そのため、先ほど木村議員からも質問のあったように、滞納している方、こういう方に全額払うのがなかなか難しいという方がいますので、少しでもお金をいただきながら、給水予告から給水停止には至らないという部分が多くあります。

そして、次にヘリコプターの件ですけれども、ヘリコプターに乗って、天城山のところの砂防の調査ということで、天城山の頂上から持越のところへと流域を調査したわけですけれども、その過程で途中に集落があるところを通るわけです。明らかに、沼津、清水町、そし

て伊豆の国市、それと伊豆市を見ますと、家の点在するところが相当密度が違います。果たして本当に下水道を延ばしていくのがどうなのかというあたりを痛感したところです。このために毎年５年ごとに変更認可というものを下水事業ではやっています。このときに伊豆市の財政も見ながら、慎重にその変更認可を行っていかなければいけないのかなということを痛感した次第です。

以上です。

〔「補助を考えていないということ」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　決算の認定ですから……。鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　続いて、63号の集落排水でございます。これは公共下水道と違いまして、農林水産省のほうの関係のお金でやってあるわけでございますけれども、もうこれは入っている件数がこれ以上、調べたけれども、90何％で、やめられれば、いなくなるのかなというだけなんですけれども、一つ、この事業の中で問題点があるのは、今回はこれで済みましたけれども、事業をやっていくに、下水道は、公共下水の場合は、違って、集落に入る人はそこに大きい処理施設を抱えているわけですけれども、それが壊れたときには、相当のまたお金がそこにつぎ込まなければならない。ここも相当一般会計から行っているわけですけれども、その辺の今のままのやり方でどうなのかというところがありますので、その辺、貯金も何もできない、壊れれば、また一般会計からつぎ込むということの解釈なんですけれども、その辺はどう考えているか、見解を求めたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　つまるところ、将来的に今の伊豆市の364平方キロにずっと住んでいただいて、そこに今と同じレベルの行政サービスを維持する、あるいは維持できるのか、あるいは一定の地域に住宅を時間をかけて集まっていただくのかという方向を決める必要があるんだろうと思います。ただ、現時点においては、伊豆市内どこにでもお住まいの方のサービスを切るわけにいきませんので、必要な修理について、維持補修の事業については、やっぱり一財から予算を充てて、現にお住まいの方々の行政サービスが低下しないような措置をせざるを得ないというように考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　集落ですから、課が、部課が、箇所が違って、公共下水と違うんですけれども、その辺の公共下水等を利用するとか、それにどうのこうのというわけでないですけれども、それにつなげとは言わないですけれども、それとの関係をうまくやって、解決をしていく方法とかは考えられないのでしょうか。一つのでかいものを直すんじゃなくて、公共下水との関係、将来的にこの辺は市長、何とか考えられるものかどうか、ちょっとここの点だけは答弁をいただきたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　下水道事業、集落排水も含めてですけれども、お金がかかるところが処理場になります。そして、その処理場については、必ず寿命が来ます。そのための施策としまして、特にこの洞では、ここの洞しか処理ができないという場合には、そこを存続させて、生かしていくしかない。ほかへは水は流れてくれませんので。ただ、日向、加殿の集落排水のようなものですと、そばに公共下水の管がありますので、そことの将来つなげるというようなものはできるかと思います。ただ、今、片や国交省、片や農林水産省という壁がありますので、そのあたりで伊豆市が何をもって一番皆さんにとって有利になるのかなというあたりは十分検討させていただきたいというふうに考えています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　これで鈴木初司議員の質疑を終わります。

ちょうど12時ですので、これで昼の休憩といたします。再開は13時ちょうどといたします。

休憩　午前１１時５８分
再開　午後　０時５９分

**○議長（杉山羌央君）**　休憩を閉じ会議を再開いたします。

なお、会議に先立ち、９番、関邦夫議員のほうから早退届が出ておりますので、お知らせいたします。

次に、議案第60号について、12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

議案第60号　平成22年度伊豆市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定についてお伺いします。

介護予防事業の事業の詳細について御説明いただきたい。介護予防事業の内容、対象者、介護予防とはどのように考えているのかお伺いしたい。できるだけ再質問したくないので、この内容において、しっかりお答えいただきたいと思います。お答えない場合には再質問させていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの森議員の質疑に対して答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　健康福祉部長から説明させます。

**○議長（杉山羌央君）**　健康福祉部長。

〔健康福祉部長　大城栄一君登壇〕

**○健康福祉部長（大城栄一君）**　それでは、森良雄議員の介護予防の詳細について、内容、対象者についてお答えいたします。決算書96ページとなります。

まず初めに、特定高齢者施策事業の食の自立支援事業ですが、月曜日から金曜日まで、安否確認を兼ねまして、昼食、または夕食を配食するものです。対象者は、特定高齢者のうち単身世帯、高齢者のみの世帯及びこれに準ずる世帯となっております。

次に、高齢者筋力向上トレーニング事業は、トレーニング機械等を使用いたしまして、柔軟性やバランス感覚の筋力を向上させ、要介護状態への予防を図るものでございます。対象者は、生活機能評価で足腰の機能低下が見られる方でございます。

次に、生活機能評価事業につきましては、基本チェックリスト25項目のチェックによりまして、特定高齢者と一般高齢者を確認する事業でございます。対象者は介護認定を受けていない65歳以上の方でございます。

次に、元気はつらつ事業は、利用者のニーズや身体の状況に応じ、教養講座、レクリエーション、趣味活動を通じて、自己の健康管理能力を身につけ、社会性を保ちながら、疾病を予防できるよう援助することで、要介護状態への予防を図る事業でございます。対象者は、運動機能の低下者や軽度の認知症の方、また家に閉じこもりな方を対象としてございます。

次に、一般高齢者施策事業ですが、特定高齢者施策事業と同様、高齢者筋力向上トレーニング、元気はつらつ事業と日常生活や家事に関する支援・指導を実施する生活管理指導員派遣事業、特別養護老人ホームでの生活習慣等に関する指導や体調調整を図る生活管理指導短期宿泊事業で、対象者は介護認定を受けた方、特定高齢者と判定された方以外の一般高齢者の方となります。

最後に、介護予防とはについてお答えをいたします。生活機能の維持向上を図り、できる限り要介護状態にならずに、地域で自立した生活が維持できるように支援するものでございます。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　大分詳しく御説明いただきましたので、１点についてだけお聞きします。あとは、また委員会で聞きたいと思いますけれども、１点だけこれからね。一般高齢者という意味は、介護保険の対象者でないという方というふうに理解してよろしいですね、それが一つ。

それと、今、御説明いただいた各事業では、一般高齢者も受けられると、受けられたというふうに理解してよろしいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。健康福祉部長。

**○健康福祉部長（大城栄一君）**　一般高齢者につきましては、介護認定を受けていない方で、また特定高齢者の範囲に入らない方となります。先ほど申しましたように、筋力向上トレーニング事業とか、元気はつらつ事業については、一般高齢者の方も御参加いただいております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　これで森良雄議員の質疑を終わります。

以上で通告による質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第56号から議案第73号までの18議案については、議案付託表のとおり、それぞれ所管の委員会に付託いたします。

**◎議案第７４号～議案第８０号の質疑、委員会付託**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第20、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）から日程第26、議案第80号　平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算（第２回）までの７議案を一括して議題といたします。

これより質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、これを許します。

初めに、議案第74号及び77号の２議案について一括して、１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　１番、鈴木でございます。

議案第74号、77号について質疑をいたします。

議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）、ページでございます、７款、67ページ、１項３目、15－55、19－41でございます。９月補正予算の説明のほうをいただいていますけれども、これにも何ら内容が、ただ八木沢ポケットパーク整備附帯工事の減と土肥港観光案内所整備事業補助金の新設としか書かれておりませんので、内容について質疑をいたします。

まず、15－55、八木沢ポケットパーク整備工事でございますが、当初予算ですと3,000万円の予算が計上されてございました。2,500万円ですけれども、大幅な見直しで、残額500万円しかないんですが、どのような整備を考えていられるのかということでございます。

２点目でございます。この八木沢ポケットパークについては、再三いろいろな話がありまして、前に小学生からつくられたものを何年もかけて、やっと予算化し、あそこにできるよということの説明で、けんけんがくがくありましたけれども、前からの詳細な流れですね、その辺の流れをもう一度お願いしたいと思います。

19－41でございます。土肥港観光案内所整備事業補助金、どのような整備事業でしょうか、具体的に説明を求めます。また、事業総額は幾らになるのでしょうか、補助金は市単だけでしょうか、県費もあるのでしょうか、国の補助もあるのでしょうか、その辺の説明を求めます。

議案第77号　平成23年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算（第２回）でございます。95から99ページまでで、国庫支出金１億3,984万円が減額され、２億8,500万円となったわけですけれども、これによって計画が変更になると思いますが、変更になる工事内容、工事場所

の詳細な説明を求めます。

この３点でございます。よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの鈴木議員の質疑に答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　それぞれ担当する部長から説明させます。

**○議長（杉山羌央君）**　初めに、観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　それでは、鈴木議員の質問にお答えいたします。

まず最初に、八木沢ポケットパーク整備工事の残額500万円はどのような整備ができるかというふうなことでございますが、２番の県の意向があって始めた工事と承知しているがというふうなことで、２番との関連がございます。２番から先に回答させていただきたいと思います。

八木沢ポケットパーク整備工事につきましては、サンセットブリッジの完成に伴いまして、余剰地となりました旧国道敷地の活用と、同所が伊豆の道風景30選に選定されていることの２点から、観光支援に活性できないかと整備が検討されたことに始まります。整備計画は、当初、平成17年に土肥中学校生徒によるワークショップにより検討され、翌年、県と伊豆市で事業工程等の確認がされましたが、しかしながら、財政状況等により着手されず、現在のような状況になっているところでございます。

現在の状況でございます。これにつきまして、県のほうへも再三問い合わせております。そういった中で、県の内部での調整を再度行っているということです。具体的にいいますと、沼津土木事務所と県道路局道路整備課で調整を行っているというふうに伺っております。これが整備が調整が整った段階で、市との協議をまた持つこととなるということでございます。

１番の500万円のということでございますが、あくまでも敷地が県の管理地でありまして、市としては、県の整備とあわせて、事業執行しなければならないことを御理解いただきたいと思います。御質問の500万円での整備範囲ですが、県の工事にあわせました基盤整備になるというふうに考えております。

次に、土肥港観光案内所整備事業補助金についてお答えいたします。

本件につきましては、市の総合計画に記載された海の玄関口整備、あるいは駿河湾海上交通活性化協議会において提言された陸と海との交通結節点の整備の必要性により、計画するものでございます。

整備内容につきましては、現フェリーターミナルを観光案内所に改修し、公共交通機関であるフェリーとバスの乗り継ぎ場としての機能及び伊豆観光の玄関口としての機能を有する施設とするものです。１階に案内所と待合室、多目的トイレを、２階に展望待合室を整備する計画でございます。また、今回の整備は、先ほど申しました陸と海の交通結節点の整備を

兼ねているため、東海バスの路線バスのバス停をターミナル前に設け、一部のバスを下におりるようにするというものでございます。

事業費は2,500万円で、事業実施に当たっては、県の観光施設整備費補助金を活用し、補助率は２分の１以内です。なお、ここで整備事業補助金というふうなことになっておりますのは、これにつきましては、伊豆市の観光協会が事業主体となるというふうなことで、そちらへの補助金というふうなことでございます。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

〔建設部長　佐藤喜好君登壇〕

**○建設部長（佐藤喜好君）**　それでは、議案第77号、変更になる工事内容についての詳細な説明を求めるというものに対してお答えいたします。

城、大平の管渠工事部分を取りやめましたというのがすべてです。そして、これについては、補正予算の99ページ、ここに１億2,300万円の減額というものが記載されています。ここになります。

工事の詳細説明をさせていただきます。

大平、１工区から６工区まであります。１工区、ＶＵ⌀ 200、Ｌ、延長が100メートル、２工区、マンホールポンプ１カ所、３工区、ＶＵ⌀ 200、これが210メートル、４工区、ＶＵ⌀ 200、Ｌイコール70メートル、５工区、ＶＵ⌀ 200、Ｌイコール60メートル、６工区、推進工法によりますヒューム管⌀ 250、これがＬイコール130メートルになります。

続きまして、城地区につきましては４工区あります。１工区がＶＵ⌀ 150が150メートル、２工区がマンホールポンプが１カ所、３工区、ＶＵ⌀ 150、Ｌイコール100メートル、４工区、ＶＵ⌀ 150、Ｌイコール210メートル。

以上の工事を取りやめることといたしました。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　２回目は、議長、この55と41を一緒にやって２回になります。それとも上だけやっていいですか。

**○議長（杉山羌央君）**　７款でもってやってください。

**○１番（鈴木初司君）**　では、質問いたします。

今の説明で、まず初めに基盤整備をやるという説明がありましたけれども、基盤整備、具体的に何をやるのかなと。基盤整備だから、ただ平らにして、駐車場をつくるのか、何をやりたいのかわからないので、教えてください。

それと、今、沼土と県の整備局で話を進め、まだ進めていると。ですから、わからないということでございましたけれども、であるならば、ここで2,500万円減額してしまって、今

の説明だと、減額をしてしまっていいのかなと。まだやるんですよと、進むんですよという話でして、なぜここですぱっと切ってしまうのかわからない。再度言いますけれども、今の説明だと、まだ調整はしていまして、その後にやりますよ、だから500万円あるんですよというような説明でしたので、何でやめるのか、減額をしてしまうのか、わかりません。説明をください。

次に、土肥港観光案内所整備事業補助金で、これは観光協会へ2,500万円やるんだよと。ですけど、整備するのは、駿河湾フェリーの待合所の持ち物ですということであって、観光協会を迂回して、そこの個人の企業に融資をするという解釈にしかとれないんですけれども、そのような解釈をしてよろしいのか。直接、そういう公営交通ですか、そういうものにやるのであるならば、直接そういうことをしなくたって、やったっていいじゃないかと私は思うんですけれども、そういう難しいこと、へたすると、人に疑義があるようなとらえ方をされるような補助金の出し方というのは、逆にうまくないんではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

それと、トータルで今、市が２分の１、県が２分の１で2,500万円、このまた図面とか、内容は、正確に、ぽっと出てきて、いきなり私どもに、当初からあったものでなくて、いきなり出てきたわけですね、2,500万円。どういう過程があって出てきたのか、この話が。先ほど県がとか言っていますけれども、我々は全く知らなくて、４月のときにもこういう話は全くなかった。上の2,500万円をなくして、ただ下に持ってきたというのでは、説明にはならないと思いますけれども、その辺を詳細に説明をさらに求めます。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　私のほうから背景を説明申し上げます。

２月にですね、ですから、まだ22年度予算のときに、駿河湾フェリーのほうから、何とかことしは、23年度ですね、うまくいけば黒字も見込めそうで頑張っていきたいと。逆に活性化されないと、駿河湾フェリーを廃止ということも、そんな議論も起こらないとも限らないということで、静岡市、伊豆市、そして３町の皆さんとフェリー協議会をやりましょうと。協議会は、事務方の会議ですから、この首長が集まってサミットをやりましょうと言ったのが、ちょうど地震の後になってしまったわけです。それで、ずっと延びてきたのが、がくっと落ちてしまった。

ちょうどそのころに地震があったものですから、私が総務部長に、国からのいろいろな予算が削減されるだろうと。とりあえずことしどうしてもやらなくていい事業をピックアップしておいてくれという指示をしましたところが、県と八木沢ポケットパークと重なったんですね。県のほうも、これは急ぐものではないので、ちょっと置きましょうということになって、そしてこの約3,000万円の事業を一たん、生涯やらないということでなくて、とりあえずことし大震災の後で直後にやる必要はないのではないかということになったわけです。

そのときに今度は知事も交えて、駿河湾フェリーのサミットをやっていたものですから、

土肥港のほうをより魅力的にするにはどうしたらいいかのところで、将来はあそこのコンクリートのちょっと凹型というんですか、へこんだところがあって、あの辺を埋めるなんていうのもあるんですが、そういった大規模な改修工事をやって、伊東のマリンタウンの数分の１のような商業施設をつくるような構想になると、５年、10年先になってしまうので、まずは今の２階建ての切符売り場のところをきれいにしましょうという事業が、タイミングとして同時に起こったんですね。

それで、こちらの予算は一時凍結して、そしてこちらの予算を新たにつける。実際には、予算作業としては、そうなるんですが、ちょうどそこが、すみません、言い方は悪いんですけれども、同じレベル、程度の予算規模になったものですから、結果を見ると、あたかも振り回しているように見えるのですが、本来別に進んできた事業がタイミングとして一緒になったということのわけです。そこで、土肥の観光案内所のほうは、上物が駿河湾フェリーの施設ですので、県の観光施設整備の補助金を充てて、このような枠組みをつくったということが背景説明でございます。

あと、議員がどういう趣旨でどういう内容について確認されたいのか、もし個別にございましたら、そのような中で再度、何についてお答えしたらいいのか、もう一度伺いたいのですが。

〔「わかっているから、聞いていたから」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　基盤整備というふうなお話でございます。これにつきましては、県の工事と市の工事を合わせて行うわけでございますけれども、県の工事の附帯工事というような形の中で基盤工事をやりたいというふうに考えております。具体的に何をするかということは、今この段階では言えないですけれども、県の附帯工事になるかと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　観光協会の。

〔「補助金」と言う人あり〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　これにつきましては、市長からも話がございましたけれども、持ち物が駿河湾カーフェリーのものでございまして、観光案内所というふうなことでございます。こうした中で最終的に観光案内を市で行うことはちょっとできないというふうに考えております。職員を張りつけてまでということは考えられませんので、これはあくまで観光協会にお願いすべきものというふうに考えております。

〔「駿河湾フェリーに直接やって、迂回しなくていいでしょという説明」と言う人あり〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　これにつきましては県の補助事業でございまして、直接駿河湾カーフェリーへの補助といいますか、県の補助というのは行かないものですから。要するに駿河湾カーフェリーがですね、あくまでも観光案内所という枠組みの中での話ですので、要するに駿河湾カーフェリーへの補助といいますか、そういったものではございませんので、

こういった形にならざるを得ないというふうに考えています。

〔「それと、もう一つ、沼土と県が話をしているのに、やめるのか、やめないのか。市長は市長でやるけど、細かいことは部長が知っていられるんだから、その辺の内容は詳細にください、説明を。土木事務所と整備事業団が話をしてて、まだやめるんでないという話をしたじゃないですか」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　この事業につきましては、当初予算で3,000万円というような予算をいただきました。これについては、昨年の議会あたりでもかなり、ことしの３月議会でもかなり議論されたかと思います。そういう中で、私どもも3,000万円というものを引き継いだ中で、事業を新年度になってから始めるということで、いろいろ県のほうへも話をしておりました。その中で、県から工事の執行に関する協議というのが、今まで私どもは県の土木事務所とか、再三再四言っているわけです、はっきり言って。そういう中で、県の方針がまだ全然決まっていなくて、今でも全くないわけですけれども、仮に県の方針が決定したとしても、今年度事業については一部の施工でとどまるものではないかというふうな判断から、今回減額させていただいたということであります。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員にちょっとお願いがあります。ちょっと質問事項が詳細にわたっておりますので、もう少し概要にとどめていただきたい。詳細については、委員会へ付託をいたしますので、そのときにより細かく数字をお聞きになってください。

**○１番（鈴木初司君）**　委員外議員なもので、あれが違うから、僕は総務教育なもので。

**○議長（杉山羌央君）**　質問は聞かれますので、委員外議員で。

鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　大枠で、難しいことを聞きません。僕が聞いているのは、観光協会へでなくて、なぜ駿河湾フェリーにというのは、フェリーターミナルを直すのに、今の説明だと2,500万円かかって、バス停もちょっとという話なものですから、ただ伊豆箱根にだって、直すときには伊豆箱根鉄道に拠出するわけですよね。公共交通機関にお金を拠出するのに、そこへお金が片や払える、片や払えない、そこを迂回するというのがよくわからないものですから、先ほどからわかるように明瞭に説明をいただきたいと言っているだけなので、そんなに難しい話ではないと思います。

それと、もう一つ、先ほどから言っているのに、これは部長のほうが沼土と県の整備事業で話をしていて、まだ話を続行中であるという、そちらが言ったものですから、その経緯をもう少し詳細に教えてくださいと言っているわけで、そんな難しい質問でないと思うんですけれども、この辺お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　沼津土木事務所と県の道路局道路整備課で現在、内部調整を行っているということで、県に対しても問い合わせをしておりますけれども、それ以上の答えは出ておりません、はっきり言いまして。調整しているということしか言ってもらえません、はっきり言いまして。そういう状況でございます。先ほど言いましたように、うちのほうからも新年度になってから、県のほうへ問い合わせをしています。そういった答えしか返ってきておりません、今のところ。そういう状況でございます。

今のフェリーへ直接というふうなことでございますけれども、あくまでもこれはフェリーの、カーフェリーが観光案内所というふうな考え方でなくて、あくまでも観光の立場として、フェリーのところを借りて、観光案内所をつくるというふうな考え方という私どもは判断しておりまして、直接フェリーというのは考えにくいのではないかなというふうに考えております。

県からの補助金が２分の１あるわけですけれども、それがフェリーのほうへは直接は、そちらのほうへ補助金を、フェリーのほうへやると、うちのほうへは補助金は入ってこないという、そういう状況もあります。

〔「議長、少しわからないので、もう少しわかるように」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　非常に簡単なんですけれども、場所は、駿河湾フェリーの施設をお借りするんですね。だけど、駿河湾フェリーが案内所をつくるわけではなくて、そこを場所を借りて、観光協会のですね、だれをどう配置するかというのは協議中なんですが、伊豆市の観光協会のほうが運営する観光案内所をそこに設置するということなんです。ですから、駿河湾フェリーは場所を貸してくれているだけであって、彼らが観光案内所の事業主体ではございませんので、そこには直接補助金は出せないと。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　この件は、あとのまだ数名の議員が質問をするみたいですので、お任せして、３回終わりましたので、次の77号のほうに移ります。

先ほど建設部長から詳細な説明がありまして、この工事をやるときには、この地区に説明会をして、理解を得、工事を始めているというのが今のやり方と承知をしていますけれども、これをやめるについて、大平地区、城地区のほうに説明会等は当然されるんだろうと思いますけれども、その辺がどうなっているかというのが１点でございます。

それと、２つ目でございます。残りの金額がすべてこれもまた土肥へ持っていくということでありましたけれども、当初２億8,500万円を土肥の工事に使うという予定があったとは承知していないんですけれども、その辺の内容について御説明をお願いします。

この２点でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　まず、１点目の地区の説明会というものですけれども、これについては、前々から工事をやります、やりますというお願いをしながら、黙っているわけにはいかないものですから、文書にて連絡をさせていただきました。

それと、２億8,500万円、これについてですけれども、国費ベースの補助金ベースで話をさせてもらっていますので、当初、大平の実施設計、それと大平と城の管工事、それと大平の管工事の設計、それに土肥の中継ポンプ、土肥の浄化槽の受変電設備、それと土肥の浄化センターの耐震設計、そして水処理電気工事というもので計画していたわけです。その中が変更になったものですから、土肥の浄化センターのほうへ集中的にお金を持っていったということです。ただ、１点だけ、次の年の工事に困るものですから、１カ所だけ、大平地区の管渠工事の設計委託、これをやっています。それ以外はすべて土肥地区の工事とさせていただいています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　よくわかりました。大平と城地区の方々には、来年、またこれが予算が来るとはわかりませんよね、はっきり言って。わからない中で、この辺のこともきちっと来年度以降必ずやれるという責任を持てない状況の中ですから、予算、補助金が来る、わからない、見えていないわけですから、その辺をあわせて、回覧板でもなんでも伝え方はあると思いますけれども、問題のないように進めていただきたいと思いますけれども、最後、その１点をお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　建設部長。

**○建設部長（佐藤喜好君）**　やはり国の予算が相当ことし厳しかったんだと思います。例年ですと、６月の議会では下水道工事、大きい事業で６月議会で工事の承認をいただいているところですけれども、今年度、国の予算が正式に伊豆市についたのは７月７日、しかもこれだけの金額が下がったという中で、我々はそれをいかにスムーズに事業の展開ができるかということを考えてやったわけです。来年についても、お金が幾らつくかというのは全く未定なわけですけれども、ぜひともここの管工事については実施をするように要望関係も含めて努力していきたいというふうに考えています。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　これで鈴木初司議員の質疑を終わります。

続いて、議案第74号について、６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

私は、議案第74号につきまして何点か質疑をさせていただきます。

最初に、67ページ、鈴木議員と同じところですけれども、観光施設整備事業ということで、

15－55、八木沢ポケットパーク工事費の縮小の理由というのが第１点ですけれども、ただいま鈴木議員の質疑で、私も聞いていまして、大分理解したところがあったんですけれども、わからないところもあるもので、お伺いするわけですけれども、その縮小の理由がはっきりわからなかったんですけれども、とにかく県が調整しているところだということが言っていたわけですね。それで、お伺いしたいのは、調整しているということは、もうやめることが決定したということなのかどうなのか、１点お伺いします。やめることが県において決定したのかどうなのか。

それから、やめることが決定したとしましたら、先ほど凍結というお話もございましたが、ポケットパークの工事は、延期をしてやるのか、何年か後に延期をしてやるのか、それとも全くやめちゃうのか、廃止しちゃうのか、500万円は別にしまして、そこをお伺いします。それが２点目。

それから、このポケットパークの工事費の提案は、前々回の定例会、３月定例会で提案されて、議会で承認された予算ですけれども、６カ月もたたないうちにやめちゃうというのは、これはいかがかなと。さっき地震があったというお話も、津波があったという話もありましたけれども、どうもそこら辺が余りに安易に考えているのではないかなという気がするんですけれども、そこはそういうこともあり得るということでどうなのか、これは市長にお伺いします。

それから、その下の19－41、土肥港観光案内所整備事業の補助内容についてですけれども、今、土肥港観光案内所というのは、今の駿河湾フェリーの切符売り場ですよね。切符売り場の２階建ての建物を改修してつくるよということなんですね。それで、伊豆市の観光協会が観光案内所をやるということですね、借りてやるというお話ですけれども、まず全部借りるということはないと思うんですよね。切符売り場は残さないとならないと思うんですよね、売店だってありますから、そういうのは残して、駿河湾カーフェリーの会社の事業と観光協会とが両者であそこを使うと、そういう認識でよろしいかどうかということが一つですね。

それで、今、あそこの駿河湾カーフェリーのところに行きますと、職員の人がいるわけですよね。おじさんみたいな人が１人、私、前に行きましたら、いましたけれども、観光協会の職員はいないと思うんですけれども、当然、そうしますと、観光協会の職員が来て、１人だか、２人だかわかりませんけれども、来て、そこで観光案内をするということなのかどうなのかお伺いします。

それで、所有者は、駿河湾カーフェリーという会社の、現在の建物ですね、駿河湾カーフェリーという会社の建物ですけれども、それは観光協会に所属しているから観光協会がやるよと。さっき鈴木議員も言いましたけれども、変な気も私もして、どうも余り理解、人の建物の修繕を何で全然違う団体がやるのか、どうもよくわけがわからないわけです。たとえ借りるにしてもね、そこら辺がよくわけがわからないわけですけれども、この補助ですね、2,500万円が事業費だそうですけれども、補助の内訳をお伺いします。補助、幾らどこが出

して、幾らどこが出すということですね。観光協会が事業主体というんですけれども、観光協会もお金を出すのかどうなのか伺います。

以上、ポケットパークと土肥港観光案内所につきましてはお伺いします。

それから、その下へ、下といいますか、67ページの13－54ですね、天城会館の指定管理料というのが1,040万円あるわけですけれども、この1,040万円の内訳につきましては、何も説明がないわけですね。どういう積算根拠で1,040万円になっているか、どういう事業をやるのか、何にお金がかかるのかということの説明がゼロだったものですから聞くわけですけれども、これはできればね、私も聞いていて、書くのが大変ですから、できれば刷り物でいただきたいと思いますけれども、刷り物を用意していない、どっちかわからないけれども、とにかくわかるようにしていただきたい、積算根拠。

それから、その下の施設改修工事の内訳ということですけれども、これは展示館の修繕とか、あるいはポンプの入れかえとか、それからもう一つ、エアコンが書いてありましたけれども、展示館の修繕といいますか、改修はどんなことをやるのか、それからエアコンというのは今、ないのかあるのか。それから、もう一つのポンプというのは、水道のことですか、よくわかりませんけれども、その辺の説明をお願いいたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの西島議員の質疑に答弁願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　私のほうから何点かお答え申し上げます。

まず、八木沢ポケットパークですが、これも予算をつけたばかりで、すぐ見直すのかということですが、御承知のとおり、３月11日に大震災が起こったわけで、即座に公共事業５％一律留保、それから今、来年度予算の編成で一律公共事業10％カットでしょうか、そのような動きは、今回の10％を明言されなくても、３月12日以降、相当予算は減額されるというのは予期できたわけです。

そこで、繰り返しになりますけれども、伊豆市として、ことしどうしてもやらなくてもいい事業はどれなのか、すぐに見直せということを総務部長に指示したところが、そのタイミングで、県からこの八木沢ポケットパークというのは今すぐやらなくてもいい事業ですねということでちょうどあったわけです。ここから先は推測が入ってしまいますけれども、我々は県の職員でございませんので。今、県の道路とか、港湾をやっているスタッフからすれば、申しわけないけれども、恐らく八木沢ポケットパークをあしたやるか、来年やるかという議論ではなくて、これだけ公共事業費が激減する中で、当然、道路、それから橋梁等のニーズは非常に高いわけですから、そういった作業をしているだろうということは容易に推測できるわけです。

ですから、県のほうは、八木沢のポケットパークについて、一たんは保留して、いつどの

ような形でやるかというのは、きょうあしたは結論を出せないのはいたし方ないのではないかとしばらくやっぱり県の意向から中止せざるを得ないのではないか。あした結論を出してくださいと言っても、優先順位が違うのではないかという見方をしているわけです。したがって、このままやめるのか、凍結するのか、２年後なのか、そこはまだ予測はつきません。

それから、次の土肥の観光案内所ですが、これはかつてのように民間にも行政にもお金がある程度があって、ここからここ、ここからこっちだと明確にできない。したがって、そこでＴＰＰとか、公民連携とか、いろいろな議論がある中で、今回も駿河湾フェリーの施設を無償でお借りして、そしてそこにこちら側のニーズである観光案内所をつくりましょうという話をしているわけです。

議会でも申し上げたことがありますけれども、今、静岡空港に行くと自動的にみんな伊東を紹介するわけです。とにかく静岡空港に外国人が個人客がおりる。そうすると、熱海で乗りかえて伊東に行ってください。伊東にさえ行けば、一元的な情報案内所もあるんです。だから、土肥にもつくってくださいというのが、静岡空港に行ったときの私へのアドバイスだったんですね。

そんなことを認識しながら、２月24日だったでしょうか、それからもう一度、７月にもう一回知事が来られましたね。あのときに特に知事が来られたときに、中部の運輸局長さんも初めて来られたんですが、あの土肥側の海岸、フェリーのところをごらんになって、バス停の横の凹凸の凹にえぐれているところを、「菊地市長、あそこを埋めるんだ、あそこを埋めて平らにするぞ、バスはこっちに回すんだ」と情熱的におっしゃるわけです。「知事、それは伺っていましたけど10年か20年か先ぐらい」と言ったら、「そんな待てない、予算をつけるぞ」と言って、そんな勢いだったわけです。

皆さん御承知のとおり、知事が情熱的にやると言ったときには、我々は伊豆も汗をかいてやる、わかりましたと。それをし損なったのが伊豆スカイラインでございまして、せっかく知事に３ケ月200円にしていただいて、伊豆側は何も汗をかかなかったと今でもおしかりをいただくわけです。

その中で、そういった状況の中で、伊豆が我々がすぐやりましょうということで、駿河湾フェリーに、あの２階建ての切符売り場を貸してください。そこを一緒にきれいにして、そして切符売り場は残し、観光案内所を一緒につくりましょうということで、ここまで来たわけです。施設整備ですから、中の運営について、まだ詳細までは煮詰まっていません。

というのは、私は事業は急がなければいけないので、伊豆市が補助金を県からいただいて、施設整備することでいいと思っているのですが、中の運営は、本当は伊豆半島の案内所にしたいので、伊豆観光推進協議会の案内所にするのが一番いいと思っているんです。ただ、それは物すごく時間がかかります。

そこで、セカンドベストが、駿河湾フェリー協議会、静岡市、伊豆市、西伊豆町、松崎町、南伊豆町、この協議会で観光案内所をつくるのがセカンドベストだと思っているんです。そ

れで、やむを得なければ、観光協会が単独でやる。伊豆市の観光協会が単独でやる場合にも、臨時職員を置くのか、コンシェルジュを置くのか、あるいは人件費を割けなければ、パソコンの画面だけにするのか、そのあたりはまだ詰め切っておりません。

ただ、施設整備のほうは、県が今これでやると協力をいただいて、補助金も確定させていただいていますので、その中でやむを得なければ市が単独でやりますが、引き続き駿河湾フェリー協議会の各市町には声はかけ続けていきたいと思っております。

指定管理料の積算根拠については部長から説明させます。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　指定管理料の関係でございますけれども、その前に１点だけ、土肥港観光案内所整備の関係で補助率の関係が市長から話がなかったんですけれども、2,500万円のうち半分の２分の１は県でございます。あと、その半分のうちの半分、要するに４分の１はフェリーの会社からいただけるというふうに考えております。

それでは、指定管理料の積算根拠及び施設改修工事の内容についてお答えいたします。

指定管理料につきましては、主に管理運営に係る経費と展示事業に係る経費から展示入場料収入を差し引いた不足分を根拠としております。管理運営に係る経費の主なものは、人件費およそ340万円、光熱水費及び燃料費が120万円、広報費及び印刷製本費がおよそ250万円、その他の経費が580万円と見込んでおります。そのうち展示事業に係る経費はおよそ300万円を見込んでいます。これに対しまして、展示入場料収入は250万円程度を見込んでおりますので、差し引き1,040万円程度の不足となりますので、これを指定管理料として算出したところでございます。

施設改修工事ですが、電気工事と空調工事を行います。まず、電気工事ですが、電気の子メーターを設置して、指定管理者が払う電気料と市が払う電気料を区分けするとともに、電気設備の工事を私どもが実施いたします。

次に、空調工事ですが、現在、１階から３階すべてを循環するよう、ダクト管がすべてつながっておりますが、当面３階のみで空調を使用することになりますので、熱のロスをなくすために、ダクト管にバルブを設置します。そのほかに、給水ポンプが現在、予備が全くない状況でございますので、給水ポンプの取りかえも行う予定でございます。

以上、最低限の改修工事を市において施工いたしたいと思っております。

なお、展示施設としての内外装のリニューアル工事につきましては、指定管理者において実施するというふうなことになっております。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

西島議員。

**○６番（西島信也君）**　それでは、再質疑をさせていただきます。

ポケットパークについて、やめてもいいだから、やめたと、こういうわけですけれども、

どうもそれでは話が、今まで何のためにあれだけ議会でもやってきたかと非常に疑問に思うところですね。今度の３月の委員会では、沼津土木事務所との間の話で、23年度で整備をすることが決定しましたと、こう言っているわけなんですよ、当局側は。決定したのに、地震があったからと。それは岩手や宮城のところの予算だったら、それは大変かもしれないけれども、静岡県は離れていますから、特段の特別の被害はなかったと思いますから、何で決定したのが急にひっくり返るのか、どうも疑問ですけれども。それともう一つは、平成19年に土肥の小池地区というところで説明会を市と県が共同で行って、ぜひ地元と一緒になって、サンセットブリッジの夕日を売り出そうということで話をしたのに、そういうのをそう簡単にほごにしていいのかというのは全く問題だと思います。

それでは、１点聞きたいんですけれども、今、あくまでも県がやるから、再開するかどうかわからないというお話だったんですけれども、市としては、これを再開するよう働きかけるのかどうなのか、１点お伺いします。それが一つ。

それから、土肥港観光案内所ですけれども、今、市長の説明では、観光協会がどういうふうな観光案内をするのかということが、まだ全然把握をされていないようですけれども、臨時職員を置くのか、コンシェルジュ、何かよくわからないですけれども、コンシェルジュ、そういう人を置くのか、あるいはパソコンを置いて、勝手にやってくんなと、見てくんなというのかわからないという、それは何だかそういうこともわからないのに、ただ建物をつくってやるというのは、改修するというのはおかしいじゃないかなと思うんですよね。

それで、先ほど補助金、事業費ですけれども、４分の１がフェリー会社が出すという、事業費の４分の１をフェリー会社が出す。観光案内所ですから、その観光協会もどこの観光協会がやるんだかわからないというのは、全くあいまいで、何がなんだかよくわからないわけですよね、これじゃあ。

これ以上聞いても、的確な回答、答弁があるとはとても思えませんので、これでやめますけれども、ぜひ次の質疑の方とか、あるいは委員会で、また十分御審議していただきたいと思うんですけれども。それで次に指定管理料の積算根拠で、今、部長さんが言ってくれたんですけれども、何だか余りよく書き取れなかったんですけれども、これは要するに何月から営業を開始して、多分来年の３月までだと思うんですけれども、何カ月間の運営、指定管理料なのか、それを一つお伺いします。

それから、250万円の収入があると言いましたけれども、展示料の収入が250万円ということですかね。そうすると、あれは1,000円くらいでしたか、入場料というか、500円。そうすると、結構たくさん入りますね、5,000人、そうですか、それを見込んでいるということなんですかね。5,000人を見込んでいるということで、わかりました。

それで、これのですね、またちょっとメモでもいいですから刷って、やっぱり議員の皆さんも欲しい、私だけ書き取れなかったのかもしれませんけれども、皆さんがあれだったら、皆さん要らなかったら、私だけにくださるようにお願いします。

何か質問、質疑しましたかね、何か一つぐらいしたと思ったんだけれども、忘れてしまったけれども、お願いします。してない、してなきゃいいです。

**○議長（杉山羌央君）**　フェリーの４分の１じゃなかったですか。それと、あとは指定管理料のいつまで。

〔「それそれ、それです」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　まず、順番にいきますと、せっかく議論して決めたことを変えるのはおかしいじゃないかと。全体の公共事業は下がっているわけですから、既に。同じ事業ができないわけですね。これはわかり切っているわけです。当初予算から全部公共事業は減っているわけですから、同じ事業ができるわけがない。そして、その中で今、八木沢のポケットパークが第一優先かと言うと。例えば土肥こども園の避難塔をつくれとか、逃げ場がない八木沢に避難タワーをつくりなさいという議論ならわかりますけれども、何がなんでもポケットパークというのは、私は行政をつかさどる市長の優先順位として、そこは違うと思います。

それから、土肥の観光案内所も今、事業をフィックスしているわけですね。予算としては、県、市、そして駿河湾フェリーということで、予算はフィックスしているわけです。そこから先が私はいつも考え方が違うんです。西島議員はいつもこうやって決めた、決めたらそのとおり変えないことが正しい、あのときの根拠はこうだったじゃないか。それが大体今までですね、やっぱりフットワークの軽い機動力のある行政をやっている欧米と日本の違いであって、私はここで事業が決まった。決まったって、事業化する段階、あるいは事業化した後でもいいと思うんです。どんどんよくできるのであれば、どんどんよくしていけばいいわけです。

だから、私はフェリーの埠頭を持っている伊豆市の長として、ここを整備します。だけど、南伊豆町の皆さん、松崎町の皆さん、みんなで一緒に運営していきませんか。そのときは運営費なりなんなり、また案分すればいいのであって、どんなタイミングであれ、よりよい方向に改善することに何らちゅうちょするべきでないと思っています。

積算根拠については部長から説明させます。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　期間でございますけれども、今回、公の施設の指定管理の指定ということで提案してございますけれども、10月１日からということで考えております。なお、展示につきましては１月から３月まで、今年度につきましては３カ月間ということでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　今、地震が起きた、そういうときが起きたらフットワークやれという、それはそのとおりですけれども、じゃあ今まで決めてあるポケットパークをやめて、観光案

内所がそんなに喫緊の課題なんですか。それは観光客が来ることは大事ですよ。ただ、あの建物を改築して、それが喫緊の課題なんですか。それで、お客さんが、建てかえたって、余りお客さんが来るとも思えないんですけどね。それで、観光案内するったって、それも全然はっきりしていなくて、場合によったら、パソコン１台置いて、それで見てくんなと。そんなことで何で建てかえる、改修ですか、そんなする必要があるんですか。パソコン１台置くスペースなんて、あそこにいっぱいあるじゃないですか、広いです、結構あそこの売店は。

全然内容がですね、何を観光案内するのか、どこを観光案内するのか、だれがするのか、どうやってするのか、何も決まっていないのに、改修だけするというのはおかしいじゃないですか、どうも変だと思いますね。変だと思うのは私だけかもしれませんけれども、とにかく私は変だと思う。

それで、市長にお伺いしますが、ポケットパークは、あんなのやめたっていいんだよと。何で観光案内をする必要があるんでしょうけれども、何で必要か、内容をどうやってやるかも決まっていないのに、ただ必要だ、必要だといったって、ただ建物を改修したって、ただ川勝知事が言ったからって。伊豆市の市長は堂々とね、やっぱり幾ら知事が言ったからどうのこうのなんて、そんなのはおかしいですよ。そこら辺どう思いますか、伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　甚だしくいつも姿勢が違うので、私は非常にわかりやすくていいと思うのですが、そういうお考えでお客さんが来ることは絶対ない。やっぱり今の観光のお客様は、きれいでなきゃ嫌なんです。女性は、有料でもきれいなトイレという方が圧倒的に多くて、スペースがあるから、そこにパソコンを置けばいいということでは、絶対お客様はいらっしゃらないです。逆に、御承知のとおり、伊東のマリンタウンなんて、あれだけきれいにして、やっぱりそういったところに、もちろん一番大事なことは、第一当事者である我々市民とか、観光事業者さんのおもてなしの心ということはもちろんですけれども、しかし、やはり観光地というのは、非日常を味わいに行くわけですから、予算のバランスとの中で整備をしたり、きれいにしたり、改修したりすることは、絶対必要なんですね。

さらに言えば、これは２階建ての切符売り場の改修ですが、これとあわせて、バス停のほうの安全化も考えているわけです。今、あそこへ徒歩で着いたお客様は、道路を渡って、海花亭の前に行って、松崎方向のバスに乗って、あそこが非常に危険なわけですね。ですから、バス停を中に、ターミナルのほうに、フェリー埠頭のほうに入れていただいて、バスの乗りおりを安全にする等々の事業をやりながら、ここもきれいにしようということでやっているわけですから、私はこちらはなるべく早く実施をすべきだろうと思うし、ポケットパークは、不必要だとは思いませんよ、不必要だとは思わないけれども、今、きょうあしたやらなければいけない事業だとは、この状況において、やらなければいけない事業だとは思いません。

**○議長（杉山羌央君）**　これで西島信也議員の質疑を終わります。

ここで、ただいま６分ですので、２時15分まで休憩といたします。

休憩　午後　２時０６分
再開　午後　２時１５分

**○議長（杉山羌央君）**　会議を再開いたします。

続いて、議案第74号について、12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）について質問させていただきます。

２款１項８目、61ページ、定住促進事業補助金1,400万円、対象の内容、定住者の見込みについて、またどこへどんな事業者に補助金を出すつもりなのかお伺いしたい。今回は、補助金についてはこれ１項目ですが、できるだけ質問時間を短縮するために１項目にしております。また、委員会ではしっかり質問させていただきたいと思いますので、少なくともこれについては再質問しなくて済むように、後で資料を出しますからでも結構ですから、お答え願います。

次、７款１項３目、67ページ、八木沢ポケットパーク整備工事2,500万円、本件については既に十分御質問が出ておりますけれども、どうも聞いていますと、市長の熱弁にはぐらかされているような感じを受けております。市長さん、あなたはこのポケットパークをつくるときに、やはり同じように情熱を込めて、このポケットパークをつくれば、少なくとも西海岸には大勢の観光客が来るというような雰囲気で説明したんではありませんか。それが地震が来たから。地震は、３月議会の採決する前に来ていたんじゃないんですかね、僕の記憶違いかな。そうなったら、上程を取り消したほうがよかったんじゃないですかね、そういうお考えだったら。

さて、ポケットパーク、まずあなたはちゃんと観光発展のためだと言っているんですよ、撤回する理由は何もないはず。減額の理由、私は今の説明ではちょっと納得いかない。ただ、八木沢ポケットパークをつくれば、観光客がわんさか来るとは私も思っておりませんでした。

次、土肥観光案内整備事業補助金2,500万円、今までいろいろ聞いていまして、ただ、この融資の仕方は、少なくとも民間ではやりませんね。Ａさんにお金をやるために、Ｂさんに融資をするということは、民間ではやらないと思いますよ。そんなことをしたらば、何かあるんじゃないかと疑われます。はっきり言わせてもらうと、こういうのを迂回融資というんですね。市長さん、答えてください、そうじゃないのかな。

それから、今までの質問でわからない点について何点かお伺いします。

この事業は総額幾らなんですか。どういう事業者が、県も含めて、国も含めて、幾らずつ

出す事業なのか、伊豆市だけが2,500万円払うだけなのか、その辺御説明いただきます。

続いて、これはどうもお話を聞いていると、新設ではないようですね。建物の改修のようですが、内部改修だけなのか、増築するのかとか、この建物の所有権はだれが持っているのか。案内所もいろいろありますよね。そういう案内所の形式も考えた上での案内所をつくろうとしているのか。例えばあなたの大好きな東京駅の案内所、パンフレットを差し込んであるだけ。その程度の案内所を考えているのか。パソコンも置くのか。パソコンを置くとなると、それなりの電気設備が必要だろうと思いますし、どんな案内所、人を配置するのか。今のこのあれでは、2,500万円の使い方がさっぱりわからない。2,500万円の使い方の内訳を説明していただきます。

それと、もう一つ、観光案内所と言っていますけれども、八木沢ポケットパークと同じなんですよ。観光効果をねらって、観光案内所をつくろうとしているんでしょうけれども、どの程度の観光効果があるんですか。皆さん、フェリーの旅行をしたことありますか。船というのは、出船、入り船とあるんですね。出船、出港するときは、十分時間があるんですよ。フェリーというのは１時間前に来いとかなんとか言われますからね、待機しているときに。ここで僕はそうなるとね、伊豆半島で旅行が終わった人にとっては、観光案内は必要だろうと思います。時間はいっぱいあります。ところが、伊豆半島へ来た人は、果たしてここで寄ると思いますか。車で来た人だけでないですから、歩いてきたというか、バスに乗る人はここへとまるでしょうけれども、大体車で来た人、市長は車でフェリーに乗ったことありますか。車でフェリーからおりたら、みんなさぁっと行っちゃうんですよ。少なくともフェリー客については、観光案内所としての効果は私は皆無だと思います。ですから、効果をどう考えているのか。2,500万円、伊豆市が2,500万円負担するわけでしょう、それとも全額伊豆市持ちなのかな。

長くなりますので、以上で質問を終わります。よろしくお答え願います。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの森議員の質疑に答弁願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

まず、定住促進事業ですが、内容について、定住促進住宅補助金の補助対象につきましては、市内に土地を購入して、住宅を建築するか、土地つきの中古住宅を購入した夫婦で、どちらかが40歳以下の世帯で、補助金交付後、10年以上居住する者、これが条件でございます。

実績は、平成22年度12件、46人、うち市外から入ってこられた方は18人、それから23年度は、見込みになりますが、申し込みの状況で、大体これが確定に近い数字だと思いますが、予算どおり、年間通じて24件、80人、うち市外から60人となっております。このような見込みを立てております。

それから、ポケットパークと観光案内所は再三申し上げているとおりですが、ポケットパ

ークは申し上げたとおり、観光案内所はそのとおりで、森議員は私は要らない、そうなんです。そういう方は使わないんです。ただ、伊豆市、伊豆半島に来にくい、例えばこれまで一人旅がなかなか伊豆半島というのは来にくかったんですね。それから、外国人のバックパッカー、私なんかも若いころは一人であちこち行ったもんなんですが、やはり行った先々のターミナルで情報が欲しいわけです。できれば母国語、どうしてもだめなら英語というのが、やはり大体世界の国際観光地のスタンダードであって、大きなインフォメーションがあって、これがないんですね、伊豆半島というのは。

ですから、西の海の玄関である土肥には、そういった機能をまずは、将来はもうちょっと拡張したいんですけれども、まずは複数の言語が使える、パソコンを置くのはミニマムであって、そこからプラスのところは、また周辺の市町と協議をして、膨らませていきましょうということであって、こういう機能がないと、外国の若い方、あるいは国内の若い大学生とか、ヤングビジネスマンとか、そういう方を受け入れる前提がないわけです。ですから、それをつくりましょうということを提案申し上げているわけです。

補助金の内訳は、再三説明していると思うのですが、部長から改めて説明させます。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　補助金の内訳ですけれども、県の補助事業の中では、事業費は2,500万円になっております。そのうち、２分の１が県の補助、あと４分の１はカーフェリーから出していただくというふうな予定にしております。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　いつも市長さんにははぐらかされちゃってね、本当のあれが伝わってこないんですね。２回目だから、定住促進事業だけにこだわっていいのかな、そうだね。1,400万円出して、市外から入ってきたのは、22年度は20人しかいなかったんですね。今回も、この1,400万円、22年度が18人で、23年度、この1,400万円では20人ですか。私、市長さんのお金の使い方というのは、ちょっと的外れなのかなと思っているんですけれども、一般質問でも言ったと思いますけれども、伊豆市を出ていく人は、今まで市長さんが想定していた人数の1.5倍ぐらい出ちゃっているんですね、22年度はね。18人だ、20人だ。普通、事業をやるんだったら、入れることも大切だと思いますよ。しかし、564人だったかな、当然この中には死亡した方もいらっしゃるでしょうね。といいながらも、やはりこの数字というのは、伊豆市を見捨てていってしまった方が僕は多いと思いますよ。やはりどうやったら、伊豆市にとどまってもらえるか。伊豆市は住みよい、子育てしやすいまちだ、そういう施策を僕はするべきだと思います。

きのう、おとといですか、狩野小学校へいらっしゃったんですか。安全確認できましたか。お天気の日に見にいったからって、安全なんて確認できっこないんですよ。建設部長、やっぱりどういう日に見にいったらいいか、アドバイスしてやってくださいよ。私はちょっと的

外れだと思いますけれども、定住促進事業が伊豆市の定住者をふやすための政策とおっしゃるなら、少なくともまた４年間、市長さんをやるつもりだというから、定住促進でどのぐらいの効果をねらっているのかお伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　議員御指摘のとおりで、伊豆市から流出が多い。やっぱり気持ちですよね、一番大事なのは我々にとって。市内に企業が来ようとすれば、いやちょっと。市内で企業は出ていかんばかりのことをされれば、それは出ていくでしょうし、私はいつも申し上げているとおり、こんないいところなんですから、もっと人に来ていただきたい。私たちは、伊豆の市民は、より多くの皆さんに来ていただきたいと思っていますよと、歓迎しますよということを表明し、それから施策として具現化する中で、より多くの人が来ていただけると思っているわけです。

ただ、内心、この制度だと、伊豆市から出ていこうとする若い世代の七、八割がこの制度を使うかなと思っていたのですが、去年で半分近く、ことし、このままいけば半分以上、市外から来られるわけですから、この種の事業は、内容は多少改善するかもしれませんけれども、ほぼ効果が検証できていますので、着実に進めていきたいと思っています。いろいろな方と話をすると、もう少し住宅地とか、いろいろな整備をしていけば、価格の問題はありますけれども、伊豆市は十分に戦えるというようなアドバイスもいただいておりますので、しっかりやれば、やっただけの効果が上がると、このように見ています。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　どういうアドバイザーを使っていらっしゃるのかわかりませんけれども、難しい先生、東大の先生だとか、そんなのを使わなくたって、不動産屋に行って聞いてくればいいんですよ。現場の方の意見をどうしたらいいのか。ぜひそうしていただきたい。そして、もっと実効性のある施策をやってもらいたい。

次、聞いても堂々めぐりになりますので、定住促進事業はこれでやめますけれども、市長さん、あなたみたいに若くて、元気がいいんだから、県知事が言ったからなんて言っていたんじゃだめですよ。私は箱根によく行くんだけれども、松沢さんがまだやっているかどうか知らないけれども、松沢知事が芦ノ湖の西側、西岸というところを歩いたんですよ。道路整備をやるというから、僕はやめてくれと言ったんです。せっかく自然がいっぱいで、自然が維持されているところへ道路整備されたら、またまた人がいっぱい入ってきて、いわゆる自然破壊だと。知事が言ったからって、知事が万能じゃないんですから、知事があそこを整備しろと言ったら、知事は観光案内所をつくったら、観光客がふえると思っていますかね。ふえると思ってやっているんですけどね。

さっきの質問では、国が幾ら出してくれて、県が幾ら出して、伊豆市が幾ら出したという御説明です。でも、伊豆市だけが2,500万円出すんですか。

〔「４分の１」と言う人あり〕

**○１２番（森　良雄君）**　４分の１。ということは、2,500万円の中に国や県の補助金が入っているんですか、入っていないの。そうしますと、2,500万円で、どんなものをつくろうとしているのか、そういう説明が余りなかったね。建物全体の色を塗りかえるとか、内装を全部きれいにするとか、そういうことも、いわゆるどういう仕様で、これは改装ですよね。どういう仕様の改装をしようとしているんですか、お伺いしたい。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　建てかえはしませんので、外の塗りかえをしますが、雰囲気は変わるもので、この本庁舎の１階、去年の12月29日に職員が塗っただけで、随分やっぱり変わりますよね。そういったことで、やっぱり建てかえられなくても、外装を塗りかえるということだけでも、随分変わると思っています。

それを含んだ改修事業は行いますが、県が何を言おうと、違うことをやったほうがいい、そこなんです、私と違うのは。私は、国と県と市と事業者と民間企業とみんなで力を合わせれば、もっともっとよくなるじゃないですかと言っているんです。駿河湾フェリー、あそこを見ながら、知事が「菊地君、ここをどうするんだ。県もやるから、おまえも汗をかくか」「私も、伊豆市も頑張りましょう」、事業化する。それがよかれこそ、しかも今度、駿河湾フェリー、事業会社ですから、フェリーの、そこも自分の範囲内で協力をいただく。観光協会ももちろんやる。さらに私はフェリー協議会のほかの市町にも声をかけましょう、今後と言っているわけです。このやり方が悪いんだったら、反論しませんけれども、私は一番伊豆市の将来にとって、このようなやり方こそ、あるべき姿だと思っています。内容については、財源も含めて、既にるるこれまで御説明したとおりです。

**○議長（杉山羌央君）**　森議員。

**○１２番（森　良雄君）**　私がどんなに反対したって、この2,500万円は無駄金になるよと言ったって、やるんでしょうけれども、伊豆市がやるんだったら、僕は対岸の向こうの清水ですか、あそこは、伊豆市のパンフレットは向こうに置くべきですよ。来る人が、ターミナルで時間があるのは、乗船する前なんです。バックパッカーだとか、バスを利用した人も当然寄るでしょう。しかし、さっき市長が言ったのは、何本かしかバスはとまらないんですね。僕はパソコンをどうしても起きたいんだったら、あっちへ置くべきじゃないんですか、松原公園にも観光案内所があるでしょう、ここだけじゃないわけですね。

市長の施策を見ていると、どうも散漫なんですよ。あっちにもお金、こっちにもお金。土肥の観光案内所はどこにあるのか、それがさっぱりわからない。パソコンを置くんだったら、パソコンを使えない人だっていっぱいいるんですよ。若い人は使えるかもしれないけれども、人がいないところへパソコンを置いたって、使える人は限定されちゃいますよ。松原公園のほうは人がいるんでしょう。私が見たところではいるようですね。

もうちょっと2,500万円、伊豆市の出す分は少ないようですけれども、いずれにしろ、市

民の税金を使ってやるんですから、最少の投資でもって、最大の効果を上げてくださいよ。来年になったら、2,500万円の効果がちっとも出ていないとか、それでは困りますから、ぜひ頑張ってやってください。

もしお答えがあるんだったらしてください、なければいいです。

**○議長（杉山羌央君）**　これで森良雄議員の質疑を終わります。

続いて、議案第74号について、20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　議案第74号　平成23年度一般会計補正予算（第２回）について質疑を行います。

７款です。観光振興事業というのがあります。その中に観光協会緊急誘客宣伝補助金というのがあります。提案理由の中ですと、秋以降の対策だというところまでわかったんですけれども、どういう内容での観光客の誘客のための宣伝が必要と考えての提案なのか、お尋ねします。

２つ目、観光施設整備事業、八木沢ポケットパークの状況はわかりました。ただ、ちょっとわからなかったのは、県の方針が決まっていないと言われたんですけれども、御質疑を聞いた中で。改めてお尋ねしますけれども、県の方針は決まっていないということと、それから基盤整備の500万円、県工事の附帯工事の仕事なんだけれども、内容がわからないという、この２つがちょっと不明確、何なのかなと思ったものですから、お願いします。

それから、観光施設管理事業の天城温泉会館指定管理料の積算根拠は、そういうことなのかなとわかりましたので、後ほどまたもう少しお尋ねしたいと思います。よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの木村建一議員の質疑に答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　まず、観光振興事業ですが、これは内容は部長から説明させますが、私も３年余り、観光振興事業をやってきて、余りイベントとか、ＰＲとかにお金を使うよりも、こちらの心地よい環境整備のほうがと思っていたんです。今でもその主体はそちらにあるべきだろうと思っています。しかし、いろいろな方と話をすると、やっぱり私の世代とは違って、今の若い人たちは伊豆を本当に知らないんですね。修善寺、土肥、湯ヶ島、どこですかの世界です。若い人たちでも、今、東京でも修善寺ってどこですか、修善寺行ったことありません、それくらいの認知度になっているんですね。ですから、やっぱり一定規模のＰＲというのは必要なんだろうと思っています。また、これまで薄かった中京・関西圏へのＰＲも必要になってきますので、そのような内容を含めております。詳細は後ほど。

それから、八木沢ポケットパークは、これも繰り返しになりますが、これを不必要だと認定しているわけではありません。ただ、あそこの本来事業は、136号線とサンセットブリッ

ジの整備で、その残りの土地をどう活用していくかという事業ですので、当然観光施設として、基本的には駐車場とか、ちょっと高台の見晴らしのいいところにするとか、トイレ程度はやりたいと思いますが、きょうあしたやるということではありませんので、県と一緒に一たん留保したということでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

〔観光経済部長　潮木　信君登壇〕

**○観光経済部長（潮木　信君）**　観光振興事業についてお答え申し上げます。

観光協会緊急誘客宣伝補助金450万円でございます。これにつきましては、ことしは３月の東日本大震災によりまして、伊豆市の観光入り込み客は大幅に減少しました。このため伊豆市の観光振興の誘客宣伝事業を実施する伊豆市観光協会では、予算を前倒しして、春先から誘客キャンペーンを実施し、夏場の誘客対策を積極的に実施していただきました。

しかし、７月の台風や地震、天候不順、放射能汚染の懸念、あるいは津波への不安等の複合要因によりまして、伊豆市内への夏の入り込みは、昨年に引き続き厳しい状況であります。伊豆市観光協会の集計によりますと、３月の震災から８月末までの観光入り込み客は、宿泊客で前年比15％の減、これは３月から８月でございます。これが15％の減。市内主要観光施設及び海水浴客入り込み客では24％の大幅減と依然として厳しい状況が続いております。

今回の緊急誘客宣伝補助金は、こうした厳しい状況を打開すべく、今後の観光シーズンである秋から年末にかけて、平日の宿泊者の誘客につながるおもてなしキャンペーンの実施に係る宣伝関係の費用及び観光協会が実施する誘客プロモーションに係る費用の一部を伊豆市で助成したいということで、観光交流客の増加によります市内経済の活性化を図りたいと、これによって考えております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問ありますか。

木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　現状が厳しくてということは重々わかっているし、現実に数字が出てきたことに、またびっくりしたんですけれども、それで、より具体的にお尋ねしたいのは、当初予算の中にもお話ししました。そのときの当初予算のときには、大震災がなかったものですから、当初予算、提案しているときもなかったですからね。審議しているときは、それ以降ですから。しかしながら、審議するのは、震災前の論議ですから、それはある面ではいたし方ないんですけれども、平成22年度にはない観光振興の事業がたくさん含まれていますねというお話をさせていただきました。

それで、より具体的にお尋ねしたいのは、いろいろな観光発信事業というのをやられていますよね。それで、そこのところ、もし観光協会と話し合われていたら、お尋ねしたいんですけれども、一定期間がたっています。そうすると、５割増しの、例えば具体的にいったら、大学の連携商品開発委託料とか、全部言うと大変ですから、地域振興観光情報発信事業、い

わゆるＫ－ＭＩＸと、私もちょこちょこ聞いて、おもしろいことをやっているなと勉強になるんですけれども、そういうもろもろのところを、今までないような宣伝誘客補助金、宣伝のためにやりましたが、そこのところを中間総括していての提案なのか、もしあったらお願いしたい。

それから、もう１点お尋ねしたいのは、今までの宣伝内容、何人かの方に聞いてみますと、観光協会が補助金をもらっているんだけれども、現実に何をやっているかと。すべてじゃないんでしょうけれども、旅館のＰＲで終わっていると。それだったら、旅館組合に補助金を出すべきであって、観光協会というのはもっと、旅館が中心かもしれないんだけれども、ドライブインとか、さまざまに観光に関連する事業の人たちが、市の補助金をいただいて、補助金と自分たちのお金を使っているとなると、もっと幅広い宣伝を本来すべきなのに、たまにかなと思うんですけれども、押しなべて旅館のためにコマーシャルをやっている。

そうすると、市が求めていることと私は違ってくると思うんですね。その点の今回の件についてのきちっと事細かなことを要求しちゃうと、それこそ観光協会が自主性がなくなって、市長の下請では僕はまずいと思う。そこは避けなくてはならないんだけれども、せっかく市民の税金をそこに投入するわけですから、その点のいい意味でのチェックというのはやられてきたのか、中間的に。やろうとしているのか、お願いします。

八木沢ポケットパーク、急遽、聞きながら質問したもので、ちょっとお答えなかったのは仕方ないなと思うんですけれども、もう一度繰り返します。いろいろな今、他の議員の話を聞いていますと、県の方針が決まっていないということを言われたんですよ。それはどういう意味なのかちょっとわからない。ということは、県は当然ポケットパークをつくるに当たって、方針を決めたから、こういう話ですよね。委員会の議事録なんかを読むと、以前から沼津土木事務所との間で同時整備を進めていきましょうという方針だったんだよという話が出てきているわけですよね。だから、市も受け取った。でも、県の方針が決まっていないという意味がちょっとわからない。

それから、もう一つ、基盤整備、残りの500万円です。もう一度聞きます。基盤整備というのは県工事の附帯工事なんだけれども、内容がわからないと。附帯工事、何だかわからないので、500万円残してつけるのかということの意味もわかりません。お願いしたい。

それから、天城温泉会館の指定管理委託料について、どうなるのかなということでお尋ねします。今回は、約６カ月分が1,040万円。そうしますと、今後この方向でいくと、2,080万円が指定管理料になります、このままいきますとね。そうすると、当初予算の会館の管理事業費が、アバウトでいきます、1,800万円です。そうすると、足しますと3,000万円ちょいかな、4,000万円弱ぐらいのお金が天城温泉会館の費用として出されている、出ていくという判断でよろしいでしょうか、お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　観光振興事業については、なかなか評価が、予算・決算のたびにいつも議論になって、ちゃんと事業の評価をしているかということですが、この年度途中で担当者が集まって、みんなで評価、チェックしたわけではありませんが、私も幾つか大事な場面では直接出ておりますので、そういったところから感じたことですが、まだ緩いという気がします、やり方がですね。先般もある旅行代理店の方から緊張感、危機感がないと。変な話、困っているこちら側がおしかりを受けて、とにかくＰＲの仕方そのものがまだ洗練されていないんですね。やっぱりまだ自動的にお客さんが来た時代を少し引きずっている気がしまして、去年の東日本のキャンペーンからは、伊豆市だけ相当変えていますので、これを何度も何度もやるたびに、新しいやり方、よりインパトクの強いやり方に変えていって、効果を確たるものにしていく。ある意味、ＯＪＴで走りながら改善していくということにならざるを得ないと思っています。どの事業で何をしたかというのは、なかなか正直いって、検証が難しい状況です。

それから、ポケットパークは、また部長から説明させますが、天城会館については、まさに計算のとおり、このまま積算すれば、年間3,000万円近い維持管理料が来年も必要になります。そこで、確かにそのとおり、どこまで圧縮できるかわかりませんが、これも繰り返しですけれども、天城温泉会館という事業は、やはりコンセプトの失敗だったと思うんです。ですから、あの大きな施設の目的外使用にならざるを得ません。言葉は悪いけれども、敗戦処理でしかないんですね。ただ、これは議会の皆さんとの本当に御議論なんですが、もうあきらめろと。幾ら宿のど真ん中でも廃墟にしたほうがいいということであれば、そういう選択肢もないではありません。

ただ、これから道路網が変わり、それから新宿ライナーが将来、今、修善寺でとまっているものが、月ヶ瀬まで行くのか、湯ヶ島まで行くのか、そういったところもまだ先が少し明かりが見えている中で、あそこに廃墟をつくってしまうことが本当に正しい選択なのか。そうすると、最低限の経費で、地元の協力を、地元の尽力を得ながら維持すべきであろうというのが現時点の判断なわけです。

そこで、今回は、ある一番安い形で若いお客さんを呼べそうな展示プログラムと、そして地元の観光協会の天城支部で自分でやれる事業とあわせて、とりあえず当分これが一番少ない予算で施設を維持できるだろうということを見積もったわけです。ですから、ベストセレクションで積み上げた結果の積算根拠と言われると、それは非常に論拠は弱いものになりますが、先ほど申し上げたような経緯の中で、何とかあの地域の廃墟をつくらない事業として、このようなものを提案させていただいております。

**○議長（杉山羌央君）**　観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　ポケットパークの工事でございますけれども、県と同時進行といいますか、県の工事の附帯ということで、基盤整備というようなお話を申し上げたわけですけれども、当初の一番最初の話といいますか、3,000万円のときの話といいますか。た

しか私の記憶しているところでは、路盤といいますか、それについてはある程度は県でやりますよと、上物は市でというような話でなかったかと私は記憶しているんですけれども。そういう中で、県がどういった形で今後進めていくかというのは、まだ調整中であるということですので、それをもとにして、市としてどういうふうなものができるか、附帯工事として何をすべきかということを考えていきたいというふうに考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　まだお答えを聞いていないもので。県の方針は決まっていないという意味がわからなかったもので。繰り返しますね。前は決まっていたんですよね、方針が。震災によって決まらなくなった、将来にわたって決まらないと見たんですけれども。だから、県の方針は決まっていないというお話をなされました。何が決まっているのかわからないもので、私も次にいきようもない。質疑する必要がないのでその点の説明を。言っている意味わかりますよね。当初はわかりました。そして、震災があって、どうのこうのという話がなったんだけれども、繰り返します、ごめんなさい。県の方針は決まっていないと言って、今度、おろしちゃったんですよね、おろしたというか、保留していると、その意味がわからないんです。県の方針の何が決まらないのか、わかりますか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　なかなか部長も答えにくそうなんですけれども、これは県が管理する国道の工事のサンセットブリッジの残った土地で、そこで県の土地ですね、県が整備するから、伊豆市はそこに観光施設を一緒につくらないかということだったわけです。御承知のとおり、21年度に一回流しているんですね。あのときは、私も流すのと聞いたら、いつもどおり、トイレをつくったら、地元が管理してくださいという話のときに、小池のほうから管理はしたくないというような話があったようで、それで一回流した記憶があるんですね。

今回、22年度やるときに、売店とトイレの管理を観光協会で、あるいは旅館組合という話のときも、どうもいい返事がなかったそうで、それで駐車場と展望台のような最低限の、あのまま見苦しい状況というのも何ですので、そこまで整備しようということまでは私は承知しているのですが、そのときに今回こういうような地震以降の予算見直しがあったものですから、それ以降、今、県の方針がどうなっているか、私はわかりません。

ただ、これも推測ですが、極めて常識的な推測を言えば、どう考えても、今、県がこれを最優先に検討しているとは思えないので、私が直接聞いたところで、恐らくまだ検討中ですという答えしか返ってこないのではないか。それを我々が主導して、どうしてもここにこういうものが必要なので、県のほうも一緒にやりましょうというような、そのような性格の公共事業ではございませんので、既に安全な道路、安全な橋は終わっているわけですから。ですから、ここは少し時間を置かせていただきたいし、こちらから県に働きかけるのも、優先順位からいって、今、我々が優先的に県と協議する性格のものではないのではないかというふうに考えているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　ポケットパークについては、当然、当初予算がちょっとだって、３・11の関係があって、公共事業の問題があって、聞いていると、よくわかります。それで、こういうふうに言うと、自分の発言になっちゃうので、県の方針が決まっていないと言われたんですから、そこのところは、県は今後どう考えているのか、当然私たちは質疑したいと思うもので、それは委員会のほうでまた調べていただいて、明確な御答弁をいただく。答弁というか、なるほどなとわかるような形をしていていただければなと思いますので、よろしくお願いしたいんです。

それから、観光振興の宣伝の問題。確かに幾ら出した、幾ら客来た、そんなひもがついているものじゃないもんで、わからないんだけれども、中身だけはきちっと本当にどういう宣伝をしようとしているのかなというようなところは、せっかく出すんだから、ぼんとお任せでなくて、やっぱり一緒になって、どういうふうにしていこうか。どこに向かって、ましてや観光協会なのに旅館だけの宣伝に使われたということは、安くもないような形を、そういう意味でのチェックが必要なのかなと聞いていて思いました。ぜひまたその辺はよろしくお願いします。

それから、八木沢の関係で、当初提案でこうだったんですね。調整がうまくいかないというのは、多分そのあたりだから、それはいいでしょう。改善要求のあったもので、2,500万円をいわゆる減額補正したいという提案だった。改善要求って何かあったのかなと思ったもので、私はそういうのをメモっています。気がついたもので、わかったらお願いしたい。

それから、最後の天城温泉会館委託料。お尋ねしたいのは、前のときの、ちょっとどこだか、当然我々議会は知る必要はないんですけれども、どこかの企業が来て、指定管理料の問題で、なかなかうまくいかなかったと。それは約四千数百万円の指定管理料だったら、市が管理しても同じことだと、何の効果もない。ましてや、指定管理の位置づけもちゃんとやられているものですから、経済効果の問題、効率の問題。そうしますと、今、聞く中で、今現在の中では約4,000万円ですよね、指定管理料が年間通じると。そうすると、何年か前に申し出があったんだけれども、お断りしたのと状況というのは、それほど変わらないのかなと。私は別によすがための質疑でなくて、やっぱり比較検討しながら、指定管理料というのは、ベストはどうなのかなということを考えていきたいなと思っているもので、その辺の質疑をやりたいので、御回答願えますか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　まず、観光キャンペーンは、御指摘のとおりです。ただ、ずっと見ていますと、うちの場合には、必ずしも旅館のＰＲだけにはなっていない。むしろ伊豆市のイメージといいますか、心地よさといいますか、そういったものを広く宣伝しようというようなことにはしているつもりです。この内容を見ますと、確かに宿泊助成で宿泊助成金を100

名、１万円掛ける100名で100万円とかありますが、去年でしょうか、大妻女子大生の発表会に宿泊券を出したんですね。これは旅館から出してもらったんですが、２万円で８組ぐらい出したんですが、やっぱり女子大生ですね、もらうと妹、お兄ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、その何倍かで来るわけです。

そういった導入の策としては、やっぱり宿泊を何らかの形でつけるというのは、私はそれはそれで効果があると思いますので、それがすべてではありませんが、そういった材料も入れながら、それから中京と関西圏への広告宣伝で、それぞれ40万円程度ずつかけておりますし、それからインターネットでの広告宣伝というのは、なかなか難しいのですが、やはりじゃらんとか、楽天のような大手に聞きますと、インターネットを無視した広告宣伝というのはあり得ない。先般もある方と話をしていたら、使い方のうまいところは、ドタキャンが嫌ですから、自分の旅館で２週間前までは、旅館さんですよ、募集をする。そこで切って、残り２週間になったら、インターネットに上げると。そういったところで相当埋めているところもあるんだそうです。ですから、やはりインターネットというのは使い方で、そこはある程度プロの世界がありますから、委託をせざるを得ないんですが、そこは信頼できる、効果が見込めるところに委託をするという形にならざるを得ないと思います。

いずれにせよ、旅館だけの後押しではなしに、総合的・複合的にやってまいります。そして、これをやりながら、旅館とホテルには、可能な限り地元の野菜、地元の魚を使ってください。なるべく近いうちに地元の食材利用率ぐらいは堂々と出させていただくと。それくらいのところまでは踏み込んでいきたいと思っています。

それから、天城温泉会館は、これは非常につらい厳しい立場です。確かにこのまま維持管理費がセットでかぶってしまいますと4,000万円近くになります。それを今度は会館のほうと光熱水費とか、維持管理費をもう一回整理した段階で、どこまで圧縮できるかわかりませんが、あわせて深刻なのは利用率で、天城会館のホールの利用率が極めて低いんですね。ですから、まさにここからが地元の底力の見せどころであって、文学の里として、あるいはあそこは音響も一番よくつくってあるわけであって、これから朗読会とか、文学イベントとか、あるいは太鼓のイベントとか、あるいはもみじまつり、ホタル祭りの中でどうやってあわせて使っていくのか等を、本当に地元のほうでよく考えて、よく汗をかいていただかないと、このままずるずるいったら、本当に５年後には、残念だけれども、全面凍結ということもないではありませんので、まず運営を維持できるぎりぎりのところで確保した上で、地元の皆さんの御尽力を期待しながら、行政と一緒に再活性化を目指していきたいと思っています。

〔「改善要求があったということなので。当初、補正予算の説明でそういうふうなお話。調整がうまくいかない、改善要求もあったので、減額だと。調整がうまくいかない。多分いろいろな震災との兼ね合いだと思うんですけれども、改善要求もあったという記憶がなければ、仕方がない。私はそういうふうにメモったんだけれども。今度、補正予

算のときにそういう説明をして、△2,500万円したというお話だった。記憶になければ、議事録を起こすしかないもので、いいです。構いません。何か見直そうとしているのかなということもあったものですから、なければいいです。なければでなくて、記憶になければ結構です」「記憶にはないです、すみません」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　これで木村建一議員の質疑を終わります。

以上で通告による質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第74号から議案第80号までの７議案については、議案付託表のとおり、それぞれ所管の委員会に付託いたします。

ここで10分ほど休憩したいと思います。再開を３時15分といたします。

休憩　午後　３時０４分

再開　午後　３時１４分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩を閉じ会議を再開いたします。

**◎議案第８１号～議案第８３号の質疑、委員会付託**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第27、議案第81号　伊豆市税条例の一部改正についてから日程第29、議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてまでの３議案を一括して議題といたします。

これより質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、これを許します。

初めに、議案第82号について、３番、稲葉紀男議員。

〔３番　稲葉紀男君登壇〕

**○３番（稲葉紀男君）**　通告書に従い質疑いたします。

経済建設委員会の所管のことですので、大綱だけにとどめておきます。

議案第82号　伊豆市湯の国会館条例の一部を改正する条例について、131ページです。

公の施設である湯の国会館に指定管理者制度を今回導入すると。その理由は何でしょう。今回、指定管理とすることの理由、すなわち市民福祉サービスの向上とか、経費の効率化、このための具体的な方策ということについて御説明願います。

それから、目的の一つに市の活性化ということをうたっていますが、湯の国会館を指定管理することによって、具体的にどういう市の活性化が図れるのか、あるいはそれをどういう尺度をもって評価、判定するかということです。

大きな２番目です。指定管理することに対して、指定管理者に対して、市は管理運営のた

めにいわゆる委託料、これを払うんでしょうか、払わないんでしょうか、よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの稲葉議員の質疑に答弁願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

湯の国会館とか、あるいはだるま山のレストハウス、こういった魅力のある施設については、私は市が直営をしてもやっていけると思っておりましたし、湯の国会館も黒字で維持できると今でも思っています。特にレストラン等は、地産地消を使ったアンテナショップとして活用することも当初考えたり、スタッフと話をしてみたりしました。

しかし、やはり営業を行政職員がやるというのは限界を感じておりまして、私が市長になったばかりのころ、例えば収益が去年より1,000万円上がったら、500万円を半分を職員にボーナスで出せばいいじゃないかと、こういうことはできないんですね。やっぱりやる気の維持をする、それから、よりやりがいを持って仕事をしてもらうというのは非常に難しい、ゼロではないけれども、非常に難しい。つまり職員がたまたまそういう職員を振り分けられればいいけれども、そうでない職員だっていっぱいいるわけですね、我々は営業マンではございませんので。そこで、やはり恒常的にサービスや維持管理をよくして運営するためには、民間手法のほうがいいだろうというように判断したわけです。

それから、利用者の内訳を見ますと、半分は市民ですから、当初念頭に置いていた市民向けの厚生施設的な施設というのは、性格は残るのですが、料金制をですね、指定管理にした場合に、料金をこちらが指定できますので、その性格は残すことができます。そこで、指定管理に踏み込もうとしているわけです。

したがいまして、委託料は、利用料金の中で、自主事業収入の中で管理運営をお願いすることで、追加の委託料を、つまりこちらから幾らか出して、指定管理をするということは考えておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　今の具体的な活性化の何を目指しているのかということと評価、それをどう評価するかということ。例えば湯の国会館では、具体的には、温泉の利用客数とか、レストランとか、売店の売り上げとか、こういう具体的な指標が数字的に出るわけですから、そのことによって、これを市の直営より、指定管理にしたほうがよかったかどうかということの判定は、比較的つけやすいかと思うんですけれども、そういう目でもって、例えばの話ですけれども、そういう判定をすることをお考えでしょうか、どうでしょうか。

それから、委託料を払わなくても済むということで、これは大変いいことだと思います。具体的には、今、市の４名の職員の給料、あるいは年間700万円から800万円ぐらいの繰出金、

繰入金というのを払っているわけですけれども、これもなくなるということでよろしいのでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　今、議員おっしゃいましたように、活性化の具体策ということにつきましては、入場者数、あるいは利用者数の増加をもって判断せざるを得ないのではないかと、売り上げ等は、そういったものだと思います。

指定管理料について、現在、一部、一般会計から繰り入れというような形をとっております。原則的には、先ほど市長から言いましたように、利用料金というようなもので管理運営をお願いするということで、指定管理料の委託料ということは現在のところ考えておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　具体的に職員の人件費、それから繰出金というのはないということでよろしいんですね。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

観光経済部長。

**○観光経済部長（潮木　信君）**　具体的に現在、職員が４名おりますけれども、それの職員が張りついているというふうなことは考えられませんので、それはありません。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　わかりました。また詳しくは委員会のほうで。

**○議長（杉山羌央君）**　これで稲葉紀男議員の質疑を終わります。

次に、議案第83号について、６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

伊豆市スポーツ振興審議会条例につきまして、条例の一部改正につきまして、質疑をさせていただきます。

本年、これは７月ですか、スポーツ基本法というのが、法律が定められました。これに基づきまして、第１条に書いてありますが、伊豆市スポーツ推進審議会を置くというふうになっております。これは従来はスポーツ振興審議会と言っておったんですけれども、これがスポーツ推進審議会に変更されるということでございます。この「振興」が「推進」に変わることによりまして、何がどう変わってくるのかお伺いいたします。

なお、提出者が市長ですので、答弁は市長ということにしてありますが、教育委員会のほうでしたら、教育委員会で結構です。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの西島議員の質疑に答弁を願います。

教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長　間野孝一君登壇〕

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　それでは、西島議員の質疑にお答えをさせていただきます。

提案理由で申し上げましたとおり、今回の条例改正は、根拠法となりますスポーツ振興法がスポーツ基本法に全面改正されたことに伴う改正でございます。改正前、スポーツ振興審議会は、旧法のスポーツ振興法の規定に基づく審議会の名称でありました。今回の条例改正も、新法のスポーツ基本法に規定されているスポーツ推進審議会と名称を改正するものでありまして、審議会の役割につきましては、いずれも旧法と新法の規定に基づくスポーツに関する教育委員会の諮問機関であることには変わりございません。

それから、つけ加えますと、改正の内容の第２条の１号に新たに追加いたしました地方スポーツ推進計画に関することは、改正前では、法律で審議会への諮問事項として義務づけられていたものですけれども、今回の法律の改正では、義務づけられておらず、市の判断にゆだねられるということでございましたものですから、今回の法律の改正で市の判断にゆだねられたため、市の条例で規定する必要がありますので、１号に追加をさせていただいたということでございます。

先ほどお話をさせてもらいましたとおり、審議会の役割につきましても、改正後も同様、同じでございます。それ以外に「スポーツ振興」という文言が「スポーツ推進」との文言に置きかえられておりますけれども、これは条例におきまして、法の改正にのっとりまして、文言を置きかえているという内容でございますので、そのように御理解をいただければと思います。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

西島議員。

**○６番（西島信也君）**　今、御説明を伺ったわけですけれども、一つ変わるというところは、地方スポーツ推進計画というのをやってもやらなくてもいいようなことを今おっしゃったと思うんですけれども、スポーツ基本計画、スポーツ基本法の第10条は、地方スポーツ推進計画ということで、都道府県及び市はスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとするということになっているんですけれども、定めるよう努めるものとするんですけれども、当伊豆市の教育委員会におきましては、この地方スポーツ推進計画、伊豆市の推進計画というのをつくる御予定はあるのか、これから考えるのか、どうするのか、お伺いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

事務局長。

**○教育委員会事務局長（間野孝一君）**　伊豆市では、旧法のスポーツ振興法の規定に基づきまして、国や県のスポーツ振興基本計画を参酌しまして、平成19年３月に伊豆市スポーツ振興

基本計画を策定して、現在、スポーツに関する施策を実施しているところでございます。新法におきましても、国のスポーツ基本計画を参酌し、地方の実情に即した地方スポーツ推進計画を策定するよう求められておりますけれども、旧法の規定による策定済みの伊豆市スポーツ振興基本計画は、新法の地方スポーツ推進計画とみなす経過措置がなされておりますので、今後も同様に策定済みの伊豆市スポーツ振興基本計画をもとに、スポーツに関する施策を実施してまいりたいと考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　これで西島議員の質疑を終わります。

以上で通告による質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第81号から議案第83号までの３議案については、議案付託表のとおり、それぞれ所管の委員会に付託いたします。

**◎議案第８４号の質疑、委員会付託**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第30、議案第84号　伊豆市指定金融機関の指定についてを議題といたします。

これより質疑に入りますが、質疑の通告がありませんので、質疑はないものと認め、質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております議案第84号については、議案付託表のとおり、総務教育委員会に付託いたします。

**◎議案第８５号の質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第31、議案第85号　建設工事委託に関する協定の締結についてを議題といたします。

これより質疑に入りますが、質疑の通告がありませんので、質疑はないものと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第85号については、会議規則第37条第３項の規定により、委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」「異議あり」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　異議ありでありますので、ここで起立により採決いたします。

本案は委員会付託を省略することに賛成の議員の起立を願います。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、委員会付託を省略することは可決されました。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

討論ありということですので、これより暫時休憩いたします。この休憩中に討論のある議員は通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩　午後　３時３１分
再開　午後　３時３２分

**○議長（杉山羌央君）**　会議を再開いたします。

ただいま議案第85号について、討論を行います。

討論を通告順に行います。

議案第85号について、反対討論を行います。

12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

議案第85号　建設工事委託に関する協定の締結について、反対討論をさせていただきます。

これは土肥浄化センターの改修工事です。皆さん、この改修工事、総額は幾らですか。ここに載っているだけでも４億3,600万円の工事です。これが随意契約で行われております。相手は日本下水道事業団です。これから改修工事を下水道事業団と締結するということですが、内容については皆さん御存じですか。私は何も知りません。全体のどの部分をいつからいつまでやるのか。億単位の工事で何もわからないまま、委員会での審議も行われないまま認めてよろしいのでしょうか。私は到底容認できませんので、反対させていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で通告による討論は終わりました。

これで討論を終結いたします。

これより採決を行います。

議案第85号　建設工事委託に関する協定の締結についてを採決いたします。

原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第85号は原案のとおり可決されました。

**◎議案第８６号の質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第32、議案第86号　建設工事委託に関する協定の変更についてを議題といたします。

これより質疑に入りますが、質疑の通告がありませんので、質疑はないものと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第86号については、会議規則第37条第３項の規定により、委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　御異議なしと認めます。

よって、委員会付託を省略いたします。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、討論を行います。

暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時３７分

再開　午後　３時３９分

**○議長（杉山羌央君）**　では、休憩を閉じ会議を再開いたします。

ただいまから議案第86号について、討論を行います。

討論は通告順に行います。

最初に、反対討論。

12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

議案第86号　建設工事委託に関する協定の変更について、反対討論をさせていただきます。

この工事は、土肥の浄化センターの改修工事です。変更前の額が４億8,800万円、変更後の額が３億7,520万円、減少する額は１億1,280万円です。少なくとも、これは当初の計画のずさんさにあります。２割近い減少などは一般的には考えられません。いかに下水道事業団の当初の見積もりがずさんであるかです。

残念ながら、私たちのまちは、土肥の浄化センターは下水道事業団一本で改修工事を進めております。私は、少なくとも下水の浄化装置、そんな難しいシステムではないと思っております。この事業そのものの下水道事業団へ発注する理由は、手続だけの問題ではありませんか。下水道事業団でなければできないという工事ではありません。いつも下水道事業団と随意契約で結んでいるということ、少なくともどういう理由であれ、今議会に諮るならば、工事の内容、進捗状況、工期についても説明があってしかるべきと思いますが、何の説明もないまま、ただ協定の契約の変更だけを上程して、はい承認してくださいでよろしいのでしょうか。到底容認できませんので、反対させていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、賛成討論を行います。

１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　１番、鈴木でございます。

議案第86号　建設工事委託に関する協定の変更についてについて、賛成の立場で討論させていただきます。

これは平成22年６月25日に締結した伊豆市特定環境保全公共下水道土肥浄化センターの建設工事委託に関する協定が下記のとおり変更されたための内容でありまして、私は建設部のほうに行って調べてまいりました。これは相手方、日本下水道事業団に随意契約をされたものではございますが、下水道事業団のほうで、これは企業を工事をしてくれるところを選択するという中で、全く同じ仕事が事業が、企業の努力によって、利益差益が出たということを確認してまいりましたので、これは非常にいいこと、逆に少しでも伊豆市にとってはプラスなのかなという私は解釈をして、建設部のほうに行って調査をしてきましたので、私はこの１億1,280万円の利益差益が出たということの解釈で、前に契約行為を承認しているということの中で、何ら反対する立場ではなく、賛成いたします。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で通告による討論は終わりました。

これで討論を終結いたします。

これより採決を行います。

議案第86号　建設工事委託に関する協定の変更についてを採決いたします。

原案のとおり決することに賛成議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第86号は原案のとおり可決されました。

**◎議案第８７号の質疑、委員会付託**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第33、議案第87号　字の区域の変更についてを議題といたします。

これより質疑に入りますが、質疑の通告がありませんので、質疑はないものと認め、質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております議案第87号については、議案付託表のとおり、経済建設委員会に付託をいたします。

**◎議案第８８号の質疑、委員会付託**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第34、議案第88号　公の施設の指定管理者の指定について（天城会館）を議題といたします。

これより質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、これを許します。

初めに、３番、稲葉紀男議員。

〔３番　稲葉紀男君登壇〕

**○３番（稲葉紀男君）**　３番、稲葉紀男です。

質疑いたします。

議案第88号　公の施設の指定管理者の指定について（天城会館）、150ページです。

これも所属の経済建設委員会のマターですが、大綱にとどめておきます。

１番目です。指定管理者となる伊豆市観光協会は、公の施設である天城会館で具体的で何の事業を計画しているのですか。蛍の飼育に関する事業が一つ見えてきませんので、その件についてさらにお願いします。

さらに、その事業は公の施設での事業ということの前提の中に立って、すなわち公の施設とは、広く住民の利用に供することが必要であると、２つ目には、市民が主な利用者であること、３つ目、大切なところですが、住民の福祉を直接に増進することを目的にすることということに照らして、抵触しているところはないかということの質問でございます。

３番目、指定管理の大きな目的の一つに経費の削減ということがございます。今回の指定管理することによって、天城会館全体の経費の削減につながるのかどうなのかということ、またむしろ増額になるというような場合には、このことを市民全体にどう説明するのかということです。

繰り返しますが、４番目は、蛍の飼育事業は行うのか、どうなのですか。行うということの本事業のこのことのですね、本会議での議案、どこにも触れられていません。このことについてはどう説明なさいますか。

指定管理料1,040万円のことについては、内訳を説明してくださいということですが、大体聞きましたが、もし経費がこれ以上上がると、平成27年３月31日までということをうたっていますが、その間、費用がふえたというようなときには、この増額というようなことがあるのかないのか、そのことについて伺います。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの稲葉議員の質疑に答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

観光協会から出されている提案では、展示館の１階部分、昔、温泉に使っていたところですね、ここで蛍を扱いたいと。ただ、蛍を飼育することそのものが目的ではなくて、あの地域は６月にホタル祭りをやっておりますので、本来は事業の目的はそこの部分なんですね。そのための蛍を飼育する、あるいは天候によっては、そこでも蛍を展示するようなことが主たる事業になろうかと思います。期間的には、そのための準備として、飼育期間のほうが長くなるかもしれませんけれども、いずれにせよ、蛍関連の事業が１階部分になります。

それから、３階部分では、サブカルチャーをテーマにしたミュージアムとそれに関連した

物販ということになっております。２階部分の食体験施設につきましては、当初は使わずに、お客様の入り込み状況によって、段階的に地元の商業者さんに入っていただくことを念頭に置いているようでございます。

これが住民の公の施設になるかならないかということが焦点になるわけでございますけれども、伊豆市のどの施設も、100％住民、100％観光客というのは余りないんですね。したがって、住民も使える、そしてそこで観光のお客様にも使っていただけるような性格にならざるを得ません。そこで、圧倒的に多くの利用者がどちらかになるかというのは予測がつかないのですが、地域の活性化のためにここを閉所せずにやっている事業でございますので、その内容がサブカルチャーであっても、地域の住民も使うと、観光客にも入っていただけるということで考えております。

それから、住民の福祉に寄与するかどうかということですが、これはやはり総合的に考えざるを得ませんで、いわゆる狭義の福祉のような意味でなくて、その地域住民の総合的な福祉につながるという意味では広義にとらえていただくほうがいいのではないかと考えております。やはりここをこのまま閉じて、さわらなければ絶対廃墟になりますから、そういったことが本当にその地域、それから地域住民のためにとっていいのかどうかということは、総合的に考えざるを得ないと思っております。

ただ、維持管理費が総額として、かつての5,000万円を上回るようであれば、それは運営を続ける意味がありませんので、かつて以上に運営費がふえることは全く想定しておりませんし、仮にそうなったら、そのときは抜本的に見直さざるを得ないというふうに考えています。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　維持費は、かつての5,000万円でなくて、現在の1,800万円をベースに比較すべきことではないかと思います。

それから、結局今まで蛍の飼育は、民間である観光協会がみずからのお金を出してやっていた事業を、結局その事業を市の仕事、市の事業として認めて、そしてそのために指定管理者制度にして、ここで言うと2,500万円のお金を払って、蛍を飼育しましょうというのが最終的なことになると思うのですが、それでよろしいのでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　私、今の御質問の趣旨を正確に理解できなかったかもしれませんが、観光協会の自主事業でやっていたものをここに移して、そのまま100％同じものを継続するということではなくて、ホタル祭りが一つのこの地域の単なる観光施設ではなくて、まちづくりの核になっておりますので、当然１階でやっていただく場合には、公の施設ですから、子供の啓発のような展示施設も必要になるでしょうし、そういった意味で次世代教育も含め

た、そういった使い方にしていかざるを得ません。それはもちろん使い方のところでこれから協議してまいりますが、100％自主事業を場所を移すということにはしないように協議をしてまいります。

**○議長（杉山羌央君）**　稲葉議員。

**○３番（稲葉紀男君）**　回数が限られていますもので、もう３回。

**○議長（杉山羌央君）**　はい。

**○３番（稲葉紀男君）**　もう３回。

まず、さっき、これは明らかに天城温泉会館の目的外使用であるということをおっしゃいましたね。確かに展示館とか、蛍の飼育は、旧の天城温泉会館の目的に外れていますから、目的外使用として、新たに指定管理者制度、天城会館をつくろうとしているということだと思います。こういう中で、指定管理というのは、今までも既存の市の事業なりとしてあって、それを民間なりに委託しましょうというのが指定管理の基本だと思います。

指定管理の指標、法律ではないんですけれども、指針として、公の施設にするのか、あるいは指定管理にするのかということのチェックのポイントというのがあるそうでございます。そのとき、チェックの一つの中に、さっきの使用目的の変更です。目的外使用のとき、運営形態の変更を実施中、または検討中の施設は、指定管理ではなく、市の直接関与が必要とされていますというようなことが見受けられました。そうでしょう、まだどうなるかわからないような事業をいきなり指定管理にされる方も困っちゃいますよね、どうなるもんだかわからない。そういう不安定な時期にあるものは、これは指定管理でなく、同じ事業をやるにしても、市の直接的なところでやって、そして安定する、あるいはうまくいかなかった場合も含めて、その後、指定管理にするかどうかは分類しましょうというのは、これは一つのチェックポイントであるかと思います。その点について質問します。

さらに、これについては指定管理者制度審議会を行いましたね。そこの議事録等々、あるいは現在、観光協会との協定書、これがございましたらば、委員会のほうにぜひ事前に提示願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　すみません、これを指定管理してから協定書の締結ということですので、この手続の順番はあるようですが、これも本当に繰り返し申し上げざるを得ないのですが、この施設は、蛍を管理するためにつくった建物ではありませんので、私であれば、当時はこういった事業はやりたくなかった。こういった都会型の日帰り温泉を、湯ヶ島の温泉につくりたくなかった。

しかし、あるんです、現前として。そして、民間活力で何とかできないかということで、使ってもいい、ぜひ使いたいという声が耳に入ったものですから、指定管理も公募をして、２回とも空振りだったわけですね。何人かの業者さんが入っても、結局使えなかった。その後、何人かにも見ていただきました。見ていただいたけれども、純粋に民間ベースで使える

状況にはなさそうである、極めて高い確率で。別にもう一回公募してもいいのですが、既に２回空振りし、さらに数件見ていただいても、引き続き民間ベースで使えそうにないという状況で、繰り返しますが、この場所で皆さんが、市民の皆さんと議会の皆さんがもういいと、そこは朽ちていくのを待ちなさいということであれば、それも一つの選択肢なんです。

だけれども、今からあそこに月ヶ瀬にインターができ、これからジオパーク、ジオサイトのビジターセンターをどこに持っていくか、湯ヶ島の文学のまちづくりをどうのように再構築していくかという全体の活性化の構想の中で、あそこを今、廃墟にすることについては、私はやはりちゅうちょせざるを得ないということで、やむを得ざる方策として、一つは、それなら地元がもう一回考えて、自分たちで使いたいということが１階の蛍の飼育であり、そして３階部分をいろいろなところに打診した結果、これが一番経費がかからなさそうだということで、しかるべきところに提案をいただき、何とかここまで形をつくってきたものなんです。

ですから、すべて理路整然と、かくあるべきこのような手続で、このような考え方で理路整然としているべきだといったら、できません、はっきり言って。ですから、もし稲葉議員がわかる、菊地の言うことはわかるけれども、全部あきらめて廃墟にしなさいということであれば、それは御意見だと思いますが、私は先ほど申し上げたような理由で、現時点でここをすべて使用を凍結して廃墟にするのは、まだちゅうちょしているという状況でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　もう３回ですから、また委員会等でじっくり御検討ください。

〔「ぜひ委員会に市長に出席をお願いします」と言う人あり〕

これで稲葉紀男議員の質疑を終わります。

続いて、６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

公の施設の指定管理者の指定についてと、この議案につきまして質疑を行います。

今、稲葉議員から質問、質疑がありまして、わかってきたこともあったんですけれども、大体この議案を提出するときに、ろくな説明がなかったですね、何をどうするか。さっきお金、予算のこと、補正予算のことを質問、質疑したんですけれども、何を大体やるのかということがよくわからなかった。

それで、私が前議会の、前定例会のときの委員会なんかの出席して聞いたところによりますと、これは要するに天城会館の昔、昔といいますか、今、３階、昔、物販フロアといったところですけれども、そこをミュージアムとして、その一部に小規模な物販コーナーを設置すると。それから、蛍の飼養を１階でやると。それで、物販フロアをミュージアムというんですけれども、ミュージアムとは何かというと、この前、前回もらった資料によると、お笑い芸人の作品を展示するとか、そういうようなことをやると。それで、物販コーナーとは何かというと、お土産品を販売すると。地元の物かもしれませんけれども、とにかくそういう

販売行為をするということですね。

それで、地方自治法第244条の２の規定により、公の施設の指定管理者を指定すると、こうなっているわけです。地方自治法第244条の２はどうなっているかといいますと、ちょっと言いますと、普通地方公共団体は、公の施設の設置の目的を効果的に達成するため必要があると認めるときは、条例の定めるところにより、法人その他の団体であって、当該普通公共団体が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に、当該公の施設の管理を行わせることができるということになっております。

それで、問題は、公の施設とは何かということなんですね。先ほど稲葉議員がいろいろ何点か申されましたとおり、公の施設は、住民の利用に供するための施設、それから地方公共団体が設けると、それから住民の福祉を増進するために設けるということなんですね。それで、先ほど市長は住民の福祉といったって、もっと大きく考えろというふうなことをおっしゃっていましたけれども、それはどうかなと思うんですけれども、とにかくこれから当てはめますと、お笑い芸人の作品を、言ってみれば小学生か、そんなような作品ですよ、そういう作品を展示する。お土産物を販売する。蛍を飼う。こういうことがね、市の事業をその施設でやるために指定管理を置くんですよ、あくまでも市の事業なんですよ。何でそんなお笑い芸人の作品、絵とかなんかを展示するとか、お土産物を販売する、蛍を飼う、何でそういうのが市の事業になるんですか、それが一つと。

それから、さっき言った公の施設ですね。要するに今までの天城会館というのは、今言った物販コーナー、いろいろありますけれども、メーンは劇場ホール、それから夕鶴会館ですよ。そっちのほうは隔離して、市がやってくれと。それで、自分んちが、自分んちというのは観光協会天城支部、そこがやるかどうか知りませんけれども、そこが直接やるんじゃないんでしょうけれども、どこかほかへまた委託するんでしょうけれども、そこがもうかりそうなことだけやって、それを指定管理者制度に当てはめると、公の施設であるというのは、どうしても無理があるんですよ。

全部をやって、その一部にこういうのがあるよというんだったら、それはそれも百歩譲れば考えられなくもないけれども、そんな自分んちがもうかるものだけをやって、それで公の施設でござい、指定管理者制度で市の事業をやっていますというのは、とても認められるあれじゃないですよ。

とにかく一つは、さっき言いましたけれども、公の施設か公の施設でないかということ、ちゃんとこういうのは行政実例に出ていますから、どういうふうに考えているのか、お伺いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの西島議員の質疑に答弁願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　御質問の中で尋ねられた内容は、今まで申し上げたとおりでございま

す。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　だから、再質疑ですけれども、特段の内容がないといったって、さっき言ったことはおかしいと言っているんです、私はね。いいですか、要するに一つは、大きく考えれば、大きくというか、まずとにかく公の施設というのはどういうものかということですよね、大体一般的に考えられている公の施設。体育館、運動場、プール、博物館、美術館、図書館、文化会館、老人福祉施設、児童福祉施設、保育園、公立病院、上下水道、公園、道路、河川、学校等と、こういうことになっているんですよ。それでも、なかなか紛らわしいものもあると。どういうものが公の施設と判断されているか。これは行政実例で判断されているんですよ、行政実例で。国で判断しているんですよ、行政実例。いいですか、公の施設とされたものは、都市公園、公営住宅、共同作業所、職業補導所、その他いろいろありますけれども、紛らわしいのもある。

公の施設でないのはどういうものがあるか。防波堤、研究所、研究機関、物品陳列所、観光物産あっせん所、あとは留置場、救護院、競馬場、競輪場、この中の物品陳列所、観光物産あっせん所とあるんですね。これは行政実例だと、公の施設ではないということになっているんですね。まさに物販コーナーというのがあるじゃないですか。何か売るところなんでしょう。まさに物品陳列所、観光物産あっせん所じゃないですか。まさにこれは公の施設じゃありませんよ。

さっき言ったお笑い芸人の展示というの、アートミュージアムもそうですけれども、それは無理やり考えれば、美術館と言えないことはないですよ。普通考えないと思うんですけれども、お笑い芸人ですから、何しろ。お笑い芸人とか、この前もらったやつにはどんなのがあるかといいますと、ウルトラマン・大魔神・ゴジラ大集合、信じるか信じないかはあなた次第・都市伝説展、こんなものは美術館に入ることはないと思いますけどね。

とにかく天城会館、前は文化会館だったかもしれませんよ。文化会館ということで公の施設と認定、今だったら認定されるかもしれませんけれども、今現在だったら、確かに公の施設と言えるんですけれども、そんな物品販売所とか、展示場、物販コーナーがあるようなところを分けて、それだけ指定管理者、公の施設だから指定管理者にしてくれというのは、これは絶対無理です、だれが考えたって無理ですよ。私、きのう県に聞いたんですよ。県の行政改革課だか、そういうところへ聞いたら、若い人が出てきたけれども、余りよくわからなかったけどね。

とにかくこれはもしも指定管理者にしますと、公の施設の指定管理者にすると、これは明白な地方自治法違反ですよ。もっとも市長は、これを言うと、いつも正確に言ってくれと言うんだけれども、法律を守ったら日本は滅びると何とかという先生が言ったと前も言いますけれども、そんなことを言うかもしれませんけれども、とにかくこれは明々白々たる地方自治法違反ですよ。どうですか。これはぜひ取り下げてもらいたいと思うんですけれども、こ

の議案は。先ほどの……

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員、ちょっと時間が押していますので、疑問点については簡単明瞭に質疑をお願いいたします。

**○６番（西島信也君）**　この議案と、それから補正予算は、全然地方自治法違反だと私は思いますので、取り下げてもらいたいと思いますが、どうでしょう。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　西島議員はいつも国・県の法制度に基づくフォーマットをしっかりして、それに全部きちっと当てはめられるということなんですが、そのとおりやろうとすると、方法は唯一なんですね、天城温泉会館をもとに戻すということなんです。そうすると、また億単位で設備投資をして、まだ5,000万円の赤字を繰り返しなさいと言うけれども、それだと全くもとのとおり、制度上に適合するんです。それは著しく市民の不利益になるから、私はやめましたということを申し上げているんです。

その中で、このまま使わない手もあります。そうしたら、維持管理費はゼロなんです。だけど、将来の湯ヶ島のまちづくりの中で、今、そのような決心をする状況ではないと私は判断をして、そして市長が提起し、議会の皆さんにお諮りして、そしてこれは理路整然と説明できませんので、議会の皆さん、これでお願いできないでしょうかということを申し上げているわけです。ですから、私は、西島さんのおっしゃるとおり、理路整然と昔の天城温泉会館でやれば通るけれども、そのようなことはすべきではない。それは市民の利益に合致しないという判断でこのような提案をさせていただいているわけです。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　法律には合致しないけれども、天城地区の発展のためにはやむを得ないということをおっしゃって、それならもっといいところを探して、ただで貸すから、ただでやれと。だって、年間2,500万円も金を出すんでしょう。さっき市長は5,000万円に戻すどうの言ったけれども、ことしの天城会館の当初予算は1,800万円ですよ。駐車場も返したし、温泉をやっていないしするから。1,800万円でできるんですよ、もし廃墟にしなくても。それを何で5,000万円が出てくるんですか。まことにおかしいと、そこが紛らわしい、何かごまかすようなことを言っているわけですけれども。とにかく2,500万円出して、指定管理料を出して、市がやるべき事業でないことをやって、それで何が予算を削減するとか、そんなことを言うんですか。どうも話がまるっきり正反対のことを言っているんですけれども、年間千何百万円ですけれども、年間2,500万円出すことについてどう考えているんですかと質問したいんだけれども、またこれは最後と思うと、市長はべらべらしゃべるからいいですけれども、皆さん、ぜひそこら辺を議員の皆さん、お考えいただいて、また審査をしていただきたいと思います。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　これで西島信也議員の質疑を終わります。

続いて、20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　同じく議案第88号について２点お尋ねします。

いろいろ状況を聞いていますと、指定管理者の審査会が開かれたのは、前の提案理由のときは８月10日であります。ちょっと振り返ってみますと、その審査会を開かれる数カ月前、６月議会で指定管理者の名前が挙がって論議された経過がありますけれども、審査会はどう位置づけているのか伺います。

それから、もう１点は、指定管理者審査会での主な今回の件についての審議内容を伺います。

以上であります。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの木村議員の質疑に答弁を願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　お答え申し上げます。

多分最初の質問は、審査会のやり方の手続のことについて、議員がお持ちだと思うんですが、審査会は伊豆市の公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例第５条の２に規定しておるものでございまして、指定管理者を選定する上で、その是非についての諮問をするものです。６月議会で観光協会という具体的な名前を既に出しておりますが、これ以降、審査会への諮問をするというものであって、手続的にそこにそごはないものと考えています。

審査会の審議の内容については、担当の部長から説明させます。

**○議長（杉山羌央君）**　総務部長。

〔総務部長　鈴木伸二君登壇〕

**○総務部長（鈴木伸二君）**　今回の指定管理者の審査の内容ということでございました。一つには、事業内容についてでございます。それから、もう１点は、その事業をするに当たっての収支の計画、その内容でございます。また、３点目としましては、指定管理料についてというようなことについて審議をしてございます。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　主な審議内容、主だったもので、また委員会のほうでやられると思うので傍聴させていただきたいなと思っています。

ちょっとどうなのかなと思ったのが、指定管理の審査会をどう見るのかなということで、ちょっと考え方がわからないもので、お尋ねします。通常ですと、指定管理者審査会にかけて、そこでオーケーとなったよとなって、初めて名前が表に出てくるという仕組みかなと私

は思っていたんです。それは今、市長が言われるように、今回の件については、指定管理者条例の第５条に基づいている、わかるんだけれども、今言った順番というのが、審査会をやる前に公の場、ある意味では議会だって、そういう意味では公ですから、そこの場所で名前が出てくるということが、そういう順番はいいのかな。ちょっと私はわからないもので、お尋ねします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

**○市長（菊地　豊君）**　まさに原則そのとおりで、公募して、どこが出てきているかわからない、あるいはこれからも出る可能性があるというときは、全くそのとおりだと思うのですが、２回空振りをした後、提案を観光協会の天城支部からいただいて、それを審査するというものでしたから、審議等に影響はないと思いますし、そのような手続は、先にここに決めるからということでなくて、提案があったものも一つしかなかったものですから、そこは余り本質的に影響があったとは考えておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員。

**○２０番（木村建一君）**　別にこれ論議するとこじゃないですからね、質疑したい。指定管理者の公に募集しようと、私はあなただよと言ってやろうとも、指定管理者の審査会をきちんと通じて表に出てくるというのが、審査会の重荷というのが、ルートからいくと、そうなのかなと思うんですけれども、そうではないというか、一律にそうはいかないよというお考えでしょうか。

**○議長（杉山羌央君）**　市長。

**○市長（菊地　豊君）**　今回の場合には、観光協会が、苦肉の策ですから、何度も言いますけれども、どこに打診してもなかったんです。ただで使ってくれるところなんかなかったんですから、２年もかけて。苦肉の策で、ようやく地元から上がってきたということで、これについて審議してもらうということを議会で申し上げたということですので、一般的な例ではないと思いますが、それによって審議に影響が出たというようには考えておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で木村議員の質疑を終わります。

以上で通告による質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第88号については、議案付託表のとおり、経済建設委員会に付託いたします。

**◎散会宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　以上で本日の議事はすべて終了いたしました。

お諮りいたします。

９月12日から16日並びに20日から22日及び26日は、議事の都合により休会といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　異議なしと認めます。

よって、９月12日から16日並びに20日から22日まで及び26日は、休会とすることに決しました。

９月10日、11日並びに17日から19日までと23日から25日までは、市の休日のため休会といたします。

次の本議会は、９月27日午前９時30分から開催いたします。

本日はこれにて散会いたします。

御苦労さまでした。

散会　午後　４時２０分

# 平成23年第３回（９月）伊豆市議会定例会

（第５号　９月27日）

開議　午前　９時３０分

◎開議宣告

**○議長（杉山羌央君）**　皆さん、おはようございます。

ただいまから平成23年第３回伊豆市議会定例会を再開いたします。

本日の出席議員は20名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立しました。

直ちに本日の会議を開きます。

◎諸般の報告

**○議長（杉山羌央君）**　日程第１、諸般の報告を行います。

一部事務組合議会議員から、議会報告を行います。

初めに、伊豆市沼津市衛生施設組合議会について。

２番、梅原泰嗣議員。

〔２番　梅原泰嗣君登壇〕

**○２番（梅原泰嗣君）**　皆さん、おはようございます。

御報告します。

８月18日に平成23年第２回伊豆市沼津市衛生施設組合議会定例会が開催され、平成22年度会計の歳入歳出決算の認定について審議が行われましたので、御報告いたします。

歳入総額は２億6,337万円、歳出総額は２億5,114万円で、歳入歳出差引額1,223万円の収入超過となっております。

歳入の主なものは両市からの負担金であり、歳出の主なものは施設の管理、ごみ焼却等に係る運転経費です。また、今決算の特徴としましては、平成22年度末をもちまして火葬場事業の廃止に伴う施設取り壊し費用として、1,930万円の支出をしております。

組合議員８名による審議の結果、平成22年度決算の認定について全会一致により可決されましたので、御報告いたします。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、田方地区消防組合議会について、一部事務組合議会議員から議会報告の申し出がありましたので、これを許します。

５番、松本覺議員。

〔５番　松本　覺君登壇〕

**○５番（松本　覺君）**　５番、松本でございます。

御報告を申し上げます。

去る８月30日、田方地区消防組合定例会が行われまして、主な議題としては平成22年度決算の認定についてでございました。

決算総額、歳入総額15億7,276万3,565円、歳出総額15億4,432万7,992円、差引残高2,843万5,573円となりました。前年度に比べまして歳入で0.12％、歳出で0.37％の減となりました。

歳入歳出減の主な要因としましては、歳入では基金繰入れがなかったこと、歳出では人事院の勧告に伴う給料、期末勤勉手当のベースダウンでございました。

投資的歳出の主なものといたしましては、建設事業費の多機能災害対応車2,423万4,000円が主なものでございます。

次に額の多いものは、換気設備改修工事の81万2,000円というようなものでございました。

県の支出金が805万5,000円でしたが、これは先ほどの多機能災害対応車に充当をいたしました。

監査報告の後、特段の質疑、討論はなく全会一致で認定されましたことを御報告いたします。

以上でございます。

**○議長（杉山羌央君）**　これで諸般の報告を終わります。

**◎議案第５５号の委員長報告、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第２、議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

本案については、各常任委員会に審査を付託してありましたので、審査の経過と結果について、各委員長の報告を求めます。

初めに、総務教育委員会委員長、内田勝行議員。

〔総務教育委員長　内田勝行君登壇〕

**○総務教育委員長（内田勝行君）**　８番、内田勝行です。

ただいま議長から報告を求められました議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定、総務教育委員会所管科目について、主な審査の経過と結果を御報告申し上げます。

詳細につきましては、委員会室にて概要書が閲覧できますので、質疑の主なものを御報告いたします。

初めに、教育委員会関係ですが、当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。審査における質疑の主なものですが、決算書264ページ、丸山スポーツ公園管理事業、受付等業務委託料について、受付以外には何をしているのか。また人を配置しているかとの質疑に対して、委託内容は、受付業務のほかにトイレ清掃と施設周辺の清掃です。平成22年度からは、廃校になった旧土肥南小学校体育館のかぎの貸し出しもあり、午前８時30分から午後７時までお願いしておりますとの説明がありました。

続いて、使用料収入が160万円弱であるのに、１日の平均が二、三件の受付や清掃、かぎの貸し出し業務だけで426万円の委託料はいかがなものか。土肥支所で受付業務をするなど考えてはいないのかとの質疑があり、当局からは、使用料と管理料の収支のバランスは重要だと考えますが、旧土肥南小学校体育館の利用に関しては、夜間に利用する地域の方の利便

性を考え、かぎの貸し出しを丸山公園にいたしました。この受付は土肥支所にお願いしていますが、いろいろな方策を考えていく必要はあるかと思いますとの説明があり、委員からは、かぎの貸し出しが必要であれば、防災倉庫のように区長に頼むなど、これからの課題としてほしいとの意見が出されました。

続きまして、丸山スポーツ公園管理事業に関連し、野球場は平成21年度に数千万円をかけて整備したが、利用率が悪い。予約受付期間やシステムの問題、魅力プロジェクトの関係など、改善の余地が多くあると思うが、どのように考えているのかとの質疑に対して、地域の方、スポーツ少年団、それから魅力プロジェクトと予約受付の時期に関しては、スポーツ振興審議会でも話が出ておりますので、検討を進め、最良の方法を考えていきたいと思っていますとの説明がありました。

続きまして、決算書26ページ、修善寺郷土資料館入館料について、平成20年度から毎年減っていると思う。文化財の保護と資料収集、管理ということはあるが、260ページの郷土資料館管理事業では、900万円以上支出があるので、今後、入場者をふやすことを図ってもらいたいが、どのように考えているかとの質疑に対して、平成23年度より任期付臨時職員として、郷土資料館に学芸員を採用しました。展示内容や展示方法のほか、郷土資料に興味のある市外の方へのホームページを使ったＰＲなど、おくればせながら情報発信を進めているところでありますとの説明がありました。

続きまして、総務部の関係ですが、当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。

決算書72ページ、天城湯ヶ島支所費、天城湯ヶ島地区まちづくり業務委託料について、これは成果品があるのか。今後の方向性をどのように考えているのかとの質疑に対して、湯ヶ島地区を中心とした20人ほどのメンバーで６回の会議を行い、検討した内容を成果品として冊子にまとめ、観光協会、旅館組合、商工会、天城湯ヶ島地区の各区長に配布いたしました。今後、いろいろな事業展開をしていく中で活用していければと考えていますとの説明がありました。委員からは、地区の中で非常に重い役割があると感じたので、できればしっかりと予算をつけて進めてもらいたいとの意見がありました。

続きまして、決算書の74ページ、コミュニティＦＭ調査委託料の当初予算は100万円だったのが、決算が21万円となった理由は何か。また、成果はどうであったかとの質疑に対して、これは当初、全面的に委託して調査する予定でしたが、近隣や全国の状況、採算性など、さまざまな問題について臨時職員に調査をさせる形にしました。単独での運営の難しさや経費のこと、中継塔の場所については検討ができています。平成23年度は防災面も含め、情報を伝達することの有効性について継続して調査することになっておりますとの説明がありました。

その他、年度途中で減額補正されたものも含め、当初予算と決算の差が大きなものや、平成21年度の決算審査で検討すると説明のあったものについて、多くの質疑がありました。

以上、審査経過の後、討論はなく、採決の結果、付託されました議案第55号、総務教育委

員会所管科目につきましては、全会一致で原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。

以上で総務教育委員会委員長報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、福祉環境委員会委員長、古見梅子議員。

〔福祉環境委員長　古見梅子君登壇〕

**○福祉環境委員長（古見梅子君）**　13番、古見です。

ただいま議長から報告を求められました議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算、福祉環境委員会所管科目の認定について、主な審査の経過と結果を御報告申し上げます。

まず、市民環境部の関係では、補足説明はなく質疑を行いました。

税務課の関係では、86ページの静岡県地方税滞納整理機構事業負担金とその収納額についての質疑に対し、滞納整理機構には318万円ほど支払い、収納金額は397万8,000円です。ただし、負担金の中には職員の研修負担金と軽自動車税の電算化による負担金54万円も含まれているため、滞納整理事務の負担として支払った金額は257万7,000円となり、約140万円が差し引いた収納額となりましたとの答弁がありました。

また、入湯税と観光施策について、財政的な面での観光支援により入湯税を分析したことはありますか。との質疑に対し、観光でどれぐらい施策をやるから、どれくらい入湯客がふえるだろうかということを事前に調整し、入湯税の予算を策定する際に上乗せをするというような作業は、昨年度はしていませんとの答弁でした。

環境衛生課の関係では、26ページの新たなにごみ処理手数料約7,000万円が収入としてあるが、施設改良工事費は前年度と比較して大きな変更がなく、政策的な変更が見受けられないが、との質疑に対し、手数料については6,900万円、基本的に有料化するときに施設の改良をする費用に充てたいと説明はしていますが、清掃センターの施設は現在１炉しかなく、今は工事の期間を約20日間で改修をやっています。その間、伊東市や土肥・戸田清掃センターへごみを持ち込む負担金もふえてしまうため、改修工事については、緊急度の高いところだけをだましだまし修理して使っているというのが現状です。全体が老朽化しているために５年分のお金をかけてやれば、５年以上もつかという判断は業者にも確認してみますが、非常に難しい状況です。ごみ処理手数料収入の充当先については、炉の修繕に限った話ではなく、ごみ処理の事業全体に大変大きなお金がかかっている、その一部を御負担いただきたいという考えです。なお、手数料の使徒については、平成23年度予算には加味して計上させてもらってありますとの答弁がありました。

続いて健康福祉部関係では、平成21年度から平成23年度の３年間の高齢者保健福祉計画という冊子の中にあります計画の点検５つの事項について、平成22年度としての総括した検証はされたかとの質疑に対し、項目１つずつにおいて総括はしてございませんが、包括支援センターを委託することにより、今まで職員と施設の職員１名の各２名体制だったところが社会福祉士、保健師、主任ケアマネという３職種の体制をとれるようになりました。また、地

域の高齢者福祉の施策をきめ細かくやるようにお願いし、介護予防サービスのほうも徐々にではございますが、充実を図る努力をしてきておりますとの答弁がありました。

健康増進課の関係では、134ページの検診事業で一般健診において病気を未然に防ぐ効果のある方法をやっていますかとの質疑に対し、39歳以下の方の一般健診につきましては、年間250人前後の方が受けています。主に自営業の方とか農林水産業の方が受けられます。異常の結果が出やすくなる30歳過ぎの方には、指導により健康教室、糖尿病教室、高血圧教室の勧誘をしたり、必要に応じて相談をしています。現在「健康伊豆21」を作成中であり、それらも評価をして今後の対策をもう少し具体的にしていく予定ですとの答弁でした。

こども課の関係では、114ページの児童福祉事業で、出産祝金を２子目、３子目にそれぞれ２万円、５万円の支給をしているが、第１子目への対応は検討されたのかとの質疑に対し、当初、導入のときの経緯はよくわかりませんが、子供さんをたくさん産んでいただきたいというところで金額をふやしてあります。出産祝金については、平成22年度で終了となりました。それにかわる制度として３万円から４万円までの出産準備金へと移行し、１子目も支給対象となりましたとの答弁でした。

ファミリーサポートの協力会員はふえているが、活用はされていないようだが、その原因は何かとの質疑に対し、平成22年度の活動については１件です。ＰＲ不足も原因と考えています。今年度は２世帯で利用回数はふえてきていますが、各教室でのＰＲや、託児が必要な教室事業などへの事業活用を広く検討してみたいと思いますとの答弁でした。

128ページの生活保護扶助費について、平成16年度から比べると保護世帯が150％ふえている。自立される方はどれくらいいるのか、また、高齢者世帯が多くなる理由の説明をとの質疑に対し、自立された方は２人です。高齢者世帯の増加原因としては、旅館などで長年働いていた仲居さんなど、ひとり暮らしで高齢になった方の保護対象がふえてきました。全体では６割を高齢者、３割を障害者が占めています。現状では自立ができにくい方がほとんどです。減る要因としては、介護保険施設に入所されるケースや残念ながら亡くなられるケースがありますとの答弁でした。

132ページの歯科保健事業で１歳６カ月から３歳までの罹患率が10倍にふえている原因と対策についてとの質疑に対し、虫歯予防事業としては、妊婦教室や離乳食教室の中で歯科保健の講義を行ったり、１歳半、２歳、２歳半、３歳児健診のときには健診とあわせて歯科健診やフッ素塗布実施しています。また、フッ素塗布は３カ月に１回程度行える体制づくりをしています。最近の傾向として、子供が泣けばすぐあめ玉をくれたりチョコレートをくれたり、また、だらだら食いなどの食生活に関する母親の育児姿勢の問題が見えてきています。現在「健康伊豆21」の策定に当たり、お母さん方への育児姿勢が改善できるような指導を検討していきますとの答弁でした。

以上、審査した後、討論はなく、採決の結果、挙手多数で議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定の福祉環境委員会所管科目については、原案のとおり認定すべ

きものと決定しました。

以上で報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、経済建設委員会委員長、塩谷尚司議員。

〔経済建設委員長　塩谷尚司君登壇〕

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　14番、塩谷尚司です。

ただいま議長から報告を求められました議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定にかかわる経済建設委員会所管科目について、審査の経過と結果について御報告申し上げます。

初めに、建設部所管科目についてですが、当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。

主な質疑でありますが、まず、166ページ８目、農業農村整備費４の県営農道整備事業、19節の県営一般農道整備事業共同工事負担金3,240万3,000円について、大見川の橋の供用開始はいつごろを予定しているのかお伺いしたいとの質疑に対し、基本的には県が全額負担することになっているが、地元要望による歩道橋、歩道設置費用の分を市が負担するので、河川における工事期間の制約もあるので、平成24年５月ごろではないかというふうに考えていますとの答弁がありました。

その後、決算概要書46ページの主要工事概要に関連し、落札率等に関する意見交換がありました。

また、206ページ、修善寺駅周辺整備事業については、成果品である設計概要に対し、駅北広場の歩道スロープの勾配が６％ということに対し、車いすなどを利用する人たちのために、もっと緩い勾配に見直しをすべきとの意見がありました。

このほか住民のアンケートとか住民の意見を十分に反映しているかどうかとの質疑について、駅前まちづくり委員会など地元といろいろ長く検討してきた事業であります。また、アンケートについては１回行い、その中で現在に来ているということですとの答弁がありました。

そのほか、この事業に続く駅周辺の中心街地域活性化計画について意見が述べられました。

次に、観光経済部所管科目についてですが、特に当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。

審査の過程における質疑の主なものとして、初めに、２目農業委員会費の関係で、154ページ、14節、農地情報システムハードウエア借上料６万8,292円について、これは担当課ごとにパソコンを借り上げているのか、また、専用のソフトが入っているという意味かとの質疑に対し、農地システムのみのパソコンで、13節に農地情報管理システム保守点検委託料がありますが、これがソフトの関係になりますとの答弁がありました。

次に、３目観光振興費の関係で、178ページ、19節観光協会補助金5,623万円は、旧４町ごとに配分していると思うが、その割合というのはわかりませんかとの質疑に対し、平成21年度の入湯税の額を基準に配分しています。おおよその割合ということで、修善寺支部に29％、

土肥支部に36％、天城支部に26％、中伊豆支部に4.6％、本部事業ということで2.2％。この構成比を基準に平成22年度の入湯税の額によって最終的に配分しているという状況ですとの答弁がありました。

次に、伊豆魅力プロジェクト推進事業補助金に関連し、魅力プロジェクトは市長が期待してスタートした事業であると思いますが、なかなか思うように成果が上がらない。この事業は見直していく必要があるというような説明がありましたが、具体的に市長がそれに対してどういう思いを持っていますかとの質疑に対し、観光客の利用と地元の方々との利用をどうやって折り合いをつけていくか、あるいは施設をどうやってもっと効率的に予約をしていける体制をとるのか、そういった部分で課題が出てきています。当然、地元の人たちにとっても使いやすい施設でなければならないですし、そういったところを改善しながら、あるいはあいたところを使って、外からの観光客に使っていただいて観光に資する、そういうことでにぎわいを取り戻していく、そこのところが課題です。今後改善していきたいということでございますとの答弁がありました。

次に、４目観光施設管理費の関係で、188ページの松原公園管理事業について、13節花時計管理委託料160万円、この花時計はギネスブック認定と聞いたような記憶がありますが、もう少し大々的なＰＲをしてもいいんじゃないかとの質疑に対し、伊豆半島というか、土肥地区の観光のＰＲ部分で主に宣伝しているだけでなく、いろいろなＰＲの方法を検討したいとの答弁がありました。

以上、質疑を経て討論に付したところ、反対討論１名、賛成討論１名があり、採決を行った結果、議案第55号は挙手多数で原案のとおり認定すべきものと決しました。

以上で議案第55号の報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で各委員長の報告は終わりました。

これより暫時休憩いたします。

なお、この休憩中に、ただいまの各委員長の報告に対し、質疑、討論のある議員は、通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩　午前　９時５８分

再開　午前１０時０１分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまから議案第55号　平成22年度一般会計歳入歳出決算の認定について、質疑、討論、採決を行います。

これより各委員長報告に対する質疑でありますが、質疑がございませんので質疑を終了いたします。

なお、討論の通告がありますので、討論の発言を許します。

最初に、反対討論から行います。

12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定について、反対討論をさせていただきます。

ただいま議長から、委員長報告に対する質疑はありませんというお話でしたが、とうとう菊地豊市長は委員会に一度も顔を出さなかった。市長でなければ答えられないことがいっぱいあるんです。過去の例からして、各委員長に質問しても、その件については審議しておりません、だから、答えられません。残念ながら、これが我が市の議会の委員会における実態である。十分な質疑がなされた結果の議案の上程ではない。

けさの新聞では、小沢一郎氏の３人の秘書の裁判が一面トップで、きのうの夕方からのニュースで国民の大きな関心を寄せております。小沢氏の天の声があったのかないのか、これが今、日本の国政における民主党を揺るがす大きな問題であることは、皆さん御承知のとおりだと思います。

決算概要書をごらんください。ここには、私たちのまちの主要工事概要、工事500万円以上というのが載っております。落札率はすべて80％以上です。100％というのも10本以上ある。菊地市長、予定価格を知っているのはあなたしかいないんですよ。そうですね、副市長、総務部長。

繰り返します。予定価格を知っているのは菊地市長しかいない、なのに100％というのが10本以上もある。80％以上がすべてだ。これが我がまちの、我が市というんですか、我が市の公共工事の入札の実態です。これを無視して、この決算の認定をすることはできません。

談合以前の問題なんです。談合があったとは言いません。談合以前ですよ。知っているのは市長しかいないんだ、たった１人。なのに100％が10本以上ある。すべてが80％以上で落札されている。

いいですか、市長、落札率の計算ができるようになったのは、あなたが市長になってからなんですよ。我が市は、それ以前は落札率の計算はできなかった。なぜですか、予定価格がなかったんです。それが我が市の実態なんですよ。予定価格ができた。落札率の計算ができるようになった。結構なことだと思います。日本全国どこでも公共工事は落札率を計算してある、ほとんどが公表されている。

しかし、我がまちは予定価格を知っているのは市長、あなた１人なんです。建設部長は、市長を守るために、積算ソフトは進歩している、100％もあり得るということをおっしゃっておりました。しかし、多くのまちは、入札予定者が予定価格を知り得るんだったら、それをわからないようにするための工夫をしているんです。残念ながら、何らそういうことはしていないんじゃないですか。

公務員の不作為は、私は犯罪に等しいと思っておりますよ。市民を裏切る行為だ。幾らでも入札予定者が予定価格を知り得るなら、それに対抗する処置を講ずるべきです。何らしていない。これも500万円以上について私は今言っているんです。500万未満は、残念ながら決算概要書には載っていないんです。

私は常々、決算書に倍する資料を出せと言っているんです。残念ながらそれすら行われていない。この薄っぺらな概要報告書に特別会計まで載っているんですよ。もっと透明で、市民に実態を報告するような、報告できるような決算書をつくってください。説明書をつくってください。私たちのまちは談合以前なんです。天の声が出ていると言っても過言ではない。公務員の不作為は市民に対する裏切り行為です。

決算書には修善寺駅の建てかえについての設計も載っております。北口にできるスロープは、勾配が６％もある。なぜ６％なんでしょう。弱者に対するスロープは、使い勝手を考えたら３％なんです。多分、この駅の設計をした東大の偉い先生という方は、最近の法令等をもとに６％という数値を出したんだと思います。なぜ６％が可なんでしょうか。それにかわる施設がほかの駅にはつくられているんです。６％でもいいというのは、エレベーター等、車いすを使う方でも駅を利用できるように、別の施設をつくっているんです。だから６％でいいんだよということになるんですよ。

皆さん、私たちのまちの人口は平成22年度に何人減ったと思いますか。非常に覚えやすい数字なんです。654人です。６・５・４人。まるでつくられたような数字で、市民はもう見放してしまっているんですよ。これは私の推測ですけど、654人という数字は、いわゆる団塊の世代が伊豆市を逃げ出しているというふうに見ます。

個々の施策じゃないですよ、市長。住みよいまちをつくらなければだめです。観光客もどんどん減っていきます。伊豆市はいいまちだと、そうしない限り観光客もふえません。修善寺駅、来月、市民に説明会が開かれるそうですけれども、駅の西側はどうなるんですか。バスターミナルはどうなるんですか。私は、修善寺駅の最大の魅力はバスターミナルだと思っているんです。ああ、旅に出てきたなと感じられるのが修善寺駅のバスターミナルですよ。

多くの駅にはバスターミナルはありません。だが、我がまちには旅情を誘うバスターミナルがある。ボンネットバスまで置いてある。修善寺駅の看板はあるんですか、市長さん。この間、ＪＲ三島駅の建てかえの写真が載っていましたけど、ＪＲ三島駅という看板が大きく載っていましたね。残念ながら私のところに来た資料には載っていません。

修善寺駅という看板を置いて観光客は写真を撮っているんです。どこから見ても、北口から見ても南口から見ても修善寺駅の看板が置いてあるような駅であってほしいと思います。修善寺駅の建てかえについては、既に２億円ぐらいかかっていると思います。だのにこのような不十分な設計しか、私たちの前には出てきておりません。言い出したら、一つ一つ上げておくと切りがありませんもので、この辺でやめますけれども、これからもまちづくりはね、市長さん、議員の皆さん、ハードではありません、ソフトを充実させましょう。住むなら伊

豆市だ、子育てするなら伊豆市だというような住みよいまちをつくらない限り、伊豆市の再生はありません。

近隣市町に負けないようなまちづくりをしてください。ハードではありませんよ。

以上、反対討論を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、賛成討論を行います。

１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　１番、鈴木初司でございます。

私は、平成22年度一般会計歳入歳出決算の認定について、賛成の立場から討論を行います。

まず、歳入ですが、その根幹である市税の徴収においては、前年比約１億2,000万円の減収になっております。これは景気の低迷等が大きな要因となり、市民税、固定資産税等、多くの税目の収入済額が前年を下回っております。

景気回復を望めない中、市税の徴収率を向上させるには数多くの人、マンパワーを投入することが必要不可欠と考えます。

実施できていないことは遺憾ではありますが、ただし、税務当局の徴収に向けての努力については評価できます。

指定ごみ袋でございます。値上げについては市民からいろいろな意見、不満の声が多く寄せられていますが、その使途を明確にして、市民の理解を得られるよう努めていただきたいと思います。

支出の部でございます。定住促進事業補助金、1,200万円、実際にこの金額が人口減に歯どめをかけているのか、検証は必要と思われます。

修善寺駅周辺事業、1,992万円については、市当局は、今後最小費用で最大効果を得られるコンセプトを持って事業を進めてもらいたい。

食肉加工センター建設事業費、約6,000万円については、これから当初目標の年間800頭処理に向けて全力を挙げてやっていただきたい。赤字経営あれば市民の理解は得られることはない。利益を出せとは言いませんが、存在価値、マイナスと等しいと言われないようにしていただきたい。

次に、小中学校の通学補助金であります。当初予算に対して決算が4,000万円以上の減でございます。これは、通学費だけの問題ではなく、路線バスの存続にかかわる大変大きな問題でございます。平成24年度予算編成に対しては十分に調査・精査し、進めていただきたいと考えます。

ほかにも多々指摘すべき点はありますが、とにかく行政職員は先の見通しを持つと同時に、法令、規則を遵守し、仕事を進めていってもらいたいと思います。

伊豆市行政職員の平成24年度予算編成やこれからに期待し、賛成討論といたします。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、反対討論。

20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　議案第55号　平成22年度一般会計決算認定について、反対討論を行います。

私は、今まで何度となくこのようなことを言ってきました。予算編成には政策的課題や目標を提案しているんだから、決算議会では、そのことがどうだったのか説明するように、その改善を求めました。しかしながら、何の変わり映えもしない。

会計管理者は、その職責から執行率を分野ごとに説明しておりました。これは当然のことであります。市長が掲げた政策はどこまで進んだのか、何の説明もない。私は、所信表明や補正予算時の議案説明をもとに総括質疑をしていますが、私が求めているのは、質疑をする前に重点施策及び数字は少ないが、新たに取り組んだこと、その到達点がどうだったのかなどの説明はできるはずです。議会及び市民にわかるように議案説明の改善を求めていきます。

つくづく思いますのは、１年間の活動を振り返らないで、どうして来年、再来年の政策的課題が明らかになるでしょうか。

具体的な反対討論に移ります。

反対理由の第１は、修善寺駅周辺整備についてであります。平成22年度の実施設計をつくるに当たって、市民への十分な説明と理解を求める機会を保障することを、私は当初予算のときに求めましたが、そのような機会は一度もありませんでした。整備計画は何のために必要なのか、商店の再生、また、住宅整備だと言っておりますけれども、このことが十分に市民に知らされないまま、理解されないまま、計画をつくることになるから凍結を求めましたが、懸念されたことが現実問題となっております。

この計画は伊豆の玄関口にふさわしい、訪れやすくて、住みやすい、誇りあるまちづくりを大目標に掲げております。そして、その目標の中にユニバーサルデザインに配慮した安心・安全な空間を創出するとあります。整備計画では、駅の北口と道路の高低差を解消するためのエレベーターの計画をしていましたが、設計段階は、そのエレベーターはなくなりました。高齢者や障害者、車いすを利用する市民や観光客に配慮した修善寺駅周辺整備を考えたから、私は、北口と南口を結ぶ通路をつくる、そういう計画が出てきたと思います。南北通路はつくろうとするけれども、弱者は角度のきついスロープを利用しなければならない。何のための南北通路をつくろうとしているのかもわかりません。

伊豆市も高齢化率が年々高くなっている状況の中で、本当に伊豆市民も、そして、観光客も使いやすい施設にするというならば、これらのことを十分に考えた上で市民の声を聞くべきであります。

伊豆市のホームページに、「伊豆市の民主主義」と題して市長のメッセージが掲載されております。このように市長は言っております。「行政が起案し、様々な枠組みで市民の意見に耳を傾け、それらを総合的に判断して結論に導く。私は、これこそが「伊豆市の民主主義

のあり方」だと信じています」、このように述べております。

有言実行、貫くことを強く求めます。

反対の第２の理由は、ごみ有料化による目的を逸脱しているということであります。

ごみの処理には多くの費用がかかるから、負担の公平になるからという名のもとに有料化し、ごみ処理手数料はごみ処理の要する経費となりますとしました。ごみ処理手数料収入は、この平成22年度、約7,000万円、市民からいただきました。ところがじんかい処理費は５億1,280万円から５億600万円、680万円減っております。7,000万円は一体どこに行ったのか、何のための有料だったのか、市民との約束を破ったことになる。

反対理由の第３は、老人憩いの家のふろが有料化されたことであります。入浴された方が２万9,900人から４割も減少し、１万2,000人になった実態をしっかりととらえて、利用者増への対策を講じるべきであります。ちなみにふろの収入が243万円でした。

伊豆市若者交流施設は、使用料が無料であります。若者が積極的に行動する拠点として施設を使えるようにする、お断りしておきますが、使用料を取れとは、私は言っておりません。政策の範疇だと考えます。

入浴施設も有料化するかどうかは、いろいろな論議がありましたけれども、結果として、市の政策の範疇であるということでした。したがって、有料化で利用者が減少したのですから、老人憩いの家の設置目的である60歳以上の高齢者の健康の増進、教養の向上なども十分考え、請願者が求めていた使用料の減額を求めていきます。

反対理由の第４は、再編成に絡む教育委員会のみずからの都合を中心にしようとする政治姿勢であります。６月議会で、議会では中伊豆地区の再編問題が継続審査中だというのに、再編成のための施設の増築の予算を提示してくるという、自分の都合で物事を進めようとするこの政治スタンスは、今も続いているから指摘しておかなければなりません。

平成22年度の決算討論ですから多くは触れません。一言だけ言っておきます。天城地区の学校再編成準備会で都合の悪い情報は、２カ月が経過しようとしているのに、極めて不十分な情報しか広報で保護者、市民にしか知らせない。

インターネットでは、第５回の準備会までずっと一貫して記事を掲載しているのに、ぴたりととまった。多様な意見をきちんと知らせて、議論するというのが私は教育で最も大事なことであるのに、それをやろうとしない教育委員会の猛省を求めます。

私たち市議会議員の評価の物差しに、市長派とか反市長派とかいう物差しで評価する話を時として耳にしますけれども、市長も市議会議員も、市民から選挙で選ばれた市民の代表者であります。市民生活を、営業をどう守り遂行していくのかということが共通して市長、市議会議員に求められる評価の物差しだと思います。それぞれの役割分担のもとで、ともに有権者から選ばれた、その立場に立って論議していくというのが市長、また、市議会議員の役割だと思います。

私は、今回の決算認定について、すべてがすべてだめだという評価はいたしません。平成

22年度10月から入院医療費の助成年齢を中学生まで引き上げたことや、肺炎球菌ワクチン接種の助成や通学費補助制度を充実したこと、また、市道、農道の改良工事や農林水産施設の災害復旧事業等々、さまざまなことが市民生活、また営業にかかわる、命を守るというところで使われているということについては評価をするものですけれども、今、４点申し上げましたけども、基本姿勢等々も含めて反対の立場を貫く、私は堅持することを述べて反対討論を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で通告による討論は終わりました。

これで討論を終結いたします。

これより本案を採決いたします。

議案第55号　平成22年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定について、各委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第55号は原案のとおり認定されました。

では、ここで10分ほど休憩をいたします。

休憩　午前１０時３１分

再開　午前１０時４０分

**○議長（杉山羌央君）**　では、休憩前に引き続き会議を開きます。

**◎議案第５６号～議案第７３号の委員長報告、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、日程第３、議案第56号　平成22年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定についてから、日程第20、議案第73号　平成22年度伊豆市矢熊財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてまでの18議案を一括して議題といたします。

本案についても、各常任委員会に審査を付託してありましたで、各委員長の報告を求めます。

初めに、議案第56号及び議案第66号から議案第73号までの９議案について。

総務教育委員会委員長、内田勝行議員。

〔総務教育委員長　内田勝行君登壇〕

**○総務教育委員長（内田勝行君）**　８番、内田勝行です。

ただいま議長から報告を求められました議案第56号、議案第66号、議案第67号から第73号までの各特別会計決算の認定について、主な審査の経過と結果を御報告いたします。

初めに、議案第56号、議案第66号については、質疑、討論はなく、採決の結果、２議案と

も全会一致で原案のとおり認定すべきものと決定をいたしました。

続きまして、議案第67号から第73号までの７議案の審査における質疑の主なものですが、財産区の金融資産は決算書に載っているものがすべてか。地域にはこれ以外の金融資産はないのかとの質疑に対して、財産区は自治会組織の区とは違うので、財産区という団体が持っているものは、決算書に載っているものがすべてですとの説明がありました。

以上の審査経過の後、討論はなく、採決の結果、付託されました議案第67号から第73号までの７議案につきましては、いずれも全会一致で原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。

以上、委員長報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、議案第57号から議案第60号までの４議案について。

福祉環境委員会委員長、古見梅子議員。

〔福祉環境委員長　古見梅子君登壇〕

**○福祉環境委員長（古見梅子君）**　13番、古見です。

ただいま議長から報告を求められました議案第57号から議案第60号までについての主な審査の経過と結果を御報告いたします。

議案第57号　平成22年度伊豆市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定についてですが、補足説明はなく、審査の過程における質疑等の主なものとしまして、委員より、平成21年度の国保会計の収支額と比べ、歳入歳出の差額が多く出た理由は何かとの質疑には、医療費の支払い状況から国民健康保険連合会を通じて支払う医療費の予測が立てにくいのが現状です。一般会計からの繰り入れについても同じことが言えます。また、後期高齢者の支援金の前々年度精算分の7,000万円が入り、かつ、支援金の算定基礎となる被保険者数が前年と比べ基準時点で800人ほど減り、支援金も減ったため収支の差額が広がったのが主な要因となりますとの答弁がありました。

国民健康保険の収納率を確保し、未納者に対しての法規的な対処はどのようにされていますか。また、その対象者数と滞納世帯数はどれくらいいるのかとの質疑に対し、平成22年度中は滞納処分はせずに、分納誓約、短期被保険者証、あるいは資格証明書への切りかえにより、保険税の納付をするように指導に努めております。法的な対処としては、１年以上の未納者に対し、保険証の返還を求め、短期被保険者証を交付しています。それにもこたえていただけない未納者には、資格証明書に切りかえています。資格証明書は病院窓口での医療費の支払いが10割負担となり、後日、国保の窓口へ医療費の申請が必要となり、その際に指導する対応となります。短期保険証と資格証明書の交付世帯数は、８月末時点で677世帯となります。そのうち資格証明書継続世帯は93世帯となっています。滞納世帯は平成22年度で1,370世帯、加入世帯数の約20％となりますとの答弁でした。

国民健康保険特別会計そのもののバランスが崩れている状況で、税負担の公平性を考えると国保の納税者に積極的な対応ができないものかとの質疑に対し、一般会計の平成22年度の

繰入金から算定すると、被保険者１人当たり１万6,700円弱の繰入額となります。全国でもかなりの市町村で一般会計から繰り入れをしていますが、静岡県平均は8,800円で、伊豆市はその倍となります。市町村税の課税状況では、平成22年度と平成23年度でマイナス2.3％で、伊豆市の納税義務者の所得平均が約253万円に対し、国保の被保険者の平均が約130万円となり、国保税の所得割を上げさせていただいても、税の確保には結びつかない状況となっています。また、国保の医療費は減らないという現状でありますとの答弁がありました。

以上、審査した後、反対討論があり、採決の結果、議案第57号は挙手多数で原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、議案第58号　平成22年度伊豆市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定については、補足説明はなく、質疑、討論もありませんでした。採決の結果、議案第58号は全会一致で原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、議案第59号　平成22年度伊豆市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定については、補足説明はなく、審査の経過における主な質疑としまして、委員より、滞納繰り越し分についてどのような方が滞納されるのかという質疑に対して、後期高齢者の場合は個人に課税されます。傾向としては、国保の滞納者が国保から後期高齢者医療に切りかわっても滞納してしまう方、年金天引きと口座天引きの特例的な対応により支払いを忘れてしまう方、また、後期高齢者医療制度に反対し支払いをしない方などがいます。これらの方には催促等の通知により問い合わせいただき、納付をしていただいていますとの答弁がありました。

以上、審査した後、討論はなく、採決の結果、議案第59号は挙手多数で原案のとおり認定すべきものと決定しました。

次に、議案第60号　平成22年度伊豆市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定については、補足説明はなく、審査の経過における質疑等の主なものとしまして、委員より、介護保険制度の事業は、包括支援センターも含め事業所への委託が多くなるが、市の管理としてさまざまな課題、問題点について事業所との横の連携はされていますかとの質疑に対し、介護保険スタッフで年に３回程度の研修を含めた事業所連絡会や包括支援センターが主体となる勉強会、各事業所の代表者、民生委員、警察署、消防署との関係団体を招いて、年２回、包括支援センターによるケア会議等を開催し、横の連携をとっておりますとの答弁がありました。

96ページの一般高齢者施策事業では、各事業とも全部委託となっているが、直接指導するということはないのかとの質疑に対し、介護予防事業は集団で実施するものと、個別で実施するものとがあります。高齢者筋力向上トレーニング事業や元気はつらつ事業などの集団で実施するものは委託で行っています。また、事業計画のプランを立てたり事業を評価するのは、包括支援センターにいる保健師、看護師等が行っています。個別では訪問指導など、保健師等が家庭訪問して行っておりますとの答弁でした。

以上、審査した後、反対討論があり、採決の結果、議案第60号は挙手多数で原案のとおり認定すべきものと決定しました。

以上で報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、議案第61号から議案第65号までの５議案について。

経済建設委員会委員長、塩谷尚司議員。

〔経済建設委員長　塩谷尚司君登壇〕

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　ただいま議長から報告を求められました議案第61号から議案第65号までの５議案について、審査の経過と結果を御報告申し上げます。

初めに、議案第61号　平成22年度伊豆市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定については、当局からの補足説明はなく、直ちに質疑を行いました。

審査の過程における質疑の主なものとして、使用料手数料の収入未済額の原因は何かとの質疑に対し、支払わないという滞納です。中には生活が苦しくてという方がいますが、そういう方はごく少数で、ほとんどの人が自分の都合で払わないというようなことだととらえていますとの答弁がありました。

以上、質疑の後、討論に付したところ討論はなく、採決の結果、全会一致で議案第61号は原案のとおり認定すべきものと決しました。

次に、議案第62号の認定については、当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。

審査の過程における質疑の主なものとして、128ページの下水道使用料、収入未済額2,600万円に関連し、滞納者に対するペナルティーはどうするのかとの質疑に、下水道はとめるということは物理的に不可能です。最終的にどうするかというと、上水道と下水道は一緒に徴収していますので、当然下水だけ払わないという人はまずいないものですから、上水道の滞納処分に基づいて行います。あくまでも水道の停止となりますが、下水道も一緒に払ってくださいというようなお願いをしておりますとの答弁がありました。

１目公共下水道事業費の関係で、134ページの工事関係委託料1,071万円は何を行ったのかとの質疑に対し、修善寺ニュータウン地区は市街化区域ですが、市街化区域でまだ未整備のところはこのニュータウン地区だけです。そこで、この地区の基本調査を行ったものですとの答弁がありました。

138ページ、19節漁協用地占用料負担金137万8,000円について、漁協というのは自前の土地を持っているのかとの質疑に対し、土肥漁協のところの分で、土肥町時代に終末処理場をつくるについて、海を汚すということから協定により、漁協の用地の占用料をこちらで払うということになっているものを引き継いでおりますとの答弁がありました。

以上、質疑の後、討論に付したところ討論はなく、採決の結果、全会一致で議案第62号は原案のとおり認定すべきものと決しました。

次に、議案第63号　平成22年度伊豆市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定については、当局からの補足説明はなく、審査を行いました。審査の過程における質疑の主なものとして、158ページに処理施設工事が記載されております。これは加殿の腐食工事ということですが、この腐食工事と土肥の処理場の腐食工事は、どこか基本的に違うところはあり

ますかとの質疑に対し、基本的には全く同じだと思いますが、処理量が全然違います。片一方は小さいもの、片一方は大きなプラントと考えていただければよろしいかと思います。当然、電気に関しては、制御盤とか受電盤とか機械に関してはポンプ、大きなものを動かすものでから、当然複雑になってきます。ですから基本的な処理システムは変わりませんが、動かすシステムは全然違うと思いますとの答弁がありました。

以上、質疑の後、討論に付したところ討論はなく、採決の結果、全会一致で議案第63号は原案のとおり認定すべきものと決しました。

次に、議案第64号　平成22年度伊豆市湯の国会館事業特別会計歳入歳出決算の認定については、当局からの補足説明はなく質疑を行いました。

決算概要書118ページの工事等の概況について、ここに記されたものはすべて随意契約でしょうかとの質疑に対し、揚湯ポンプ取りかえ工事は指名競争入札です。あとは随意契約ですとの答弁がありました。

１名の反対討論に続き、採決を行った結果、議案第64号は挙手多数で原案のとおり可決すべきものと決しました。

最後に、議案第65号　平成22年度伊豆市上水道事業会計決算の認定についてですが、当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。

審査の過程における質疑の主なものとして、伊豆市の有収率については約６割、近郊の市町村に比べても相当低い。水圧が高いというのも１つ原因かもしれませんが、ここはどんな管を使っているという図面を見せながら、更新していくなど。このままいつまでもほうっておいていいという話ではないので、財源を確保し漏水問題に取り組んでいただきたいとの意見に対し、布設がえは計画的に実施しているところで、漏水以外に耐震性を持たせたパイプというところまで考え、布設がえを今実施しているところです。料金改定のときに、皆さんにお示しした工事に基づいて予算化していますが、当然それだけではいかないものですから、漏水が多いようなところについて布設がえを計画以外に実施していますとの答弁がありました。

次に、値上げして２年になるが、予算に比べ既に収入が五、六％減っているんじゃないかと思うが、そうすると収入減はどんなものが主な原因なのかお聞きしたいとの質疑に対し、収入減の主な理由は、平成19年のリーマンショックから一気に悪くなっています。原因といたしましては、やはり大口需要者が需要を控えている点、あるいは事業をやめてしまったというようなことです。あとは、節水器具が物すごく進んでいます。今、洗濯機など節水機能をつけたからどのくらい減ったかという節水志向があります。このほか、トイレではトイレタンクの水も、昔、18リットルぐらい使っていたのが、今はその３分の１で６リットル、あるいはもっと下ぐらいであるという状況です。それから、もう１点、人口が減っているというのがあります。グラフにしてみますと、人口減と有収水量が比例していますとの答弁がありました。

そのほか、有収率や漏水対策に対する意見交換の後、討論に付したところ討論はなく、採決の結果、全会一致で議案第65号は原案のとおり認定すべきものと決しました。

以上、報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で、各委員長の報告は終わりました。

これより暫時休憩いたします。

なお、この休憩中に、ただいまの各委員長の報告に対し、質疑、討論のある議員は、通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩　午前１１時０１分

再開　午前１１時０６分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまから日程第３、議案第56号　平成22年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定についてから、日程第20、議案第73号　平成22年度伊豆市矢熊財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてまでの18議案について質疑、討論、採決を行います。

これより各委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑の通告がありませんので、質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論の通告がありますので、発言を許します。

最初に、第57号、反対討論。

20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　議案第57号　平成22年度伊豆市国民健康保険特別会計決算認定について、反対討論を行います。

私は、平成22年の９月議会でこんなことを一般質問で取り上げて、市当局と論議をいたしました。内容はこうです。

1958年に制定された国民健康保険法第１条に目的というのがありますが、「この法律は、国民健康保険事業の健全な運営を確保し、もって社会保障及び国民保健の向上に寄与することを目的とする」とありますが、相互扶助、お互いに助け合っていきましょうねと、お金を出しなさい、あなたが医者にかかったり病院に入院したときは、それぞれお金を出し合いましょうというのが相互扶助制度だが、相互扶助制度ということは書かれていないがとの問いに間違いありませんねということに対して、そのとおりでありますという当局のお話でありました。

まさに国民健康保険、今決算認定に掲げている特別会計の精神というのは、相互扶助制度じゃなくて社会保障制度です。だから、一般会計から法で定められた一般会計以外に伊豆市も一般会計から国保会計へ繰り入れをし始めました。このことは評価します。

今年度決算では、トータル４億4,000万円のうち、法的に入れなければならないということを除いて、一般会計からの法定外繰り入れは約２億円でありますが、委員長報告にもありましたが、伊豆市全体の１人当たりの平均所得と、国民健康保険に加入している方の平均所得を比べますと、国保加入者のほうが100万円以上も安いという状況であります。市民全体も所得が減り、生活が大変ですが、それよりも国民健康保険に加入している方の生活がもっと深刻なことは、市当局に出していただいていた資料で明らかになりました。

だからこそ社会保障という立場に立って、せめておぎゃあとこの世に生まれてくると２万1,000円の国保税、税金がつきますが、この世に生まれてすぐに税金を徴収するのは、さまざまな社会保険制度の中で国保会計だけであります。したがって、私は繰り返し要求いたします。せめて18歳未満の減免制度を求めます。

委員会でも話になりましたが、国保会計は全国の自治体が本当に財政が厳しい、やりくりに苦労しております。この原因は、国庫負担を1980年度の50％から2001年に27％に引き下げたことであります。国に対して近隣自治体の市町が建設道路に当たっては、期成同盟会などの組織を立ち上げて、インフラ整備等々国に要望しております。国保会計の国庫負担の引き上げを求める運動についても、ぜひとも一致団結して国への働きかけを起こしてほしいということを節に願って、反対討論を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、賛成討論を行います。

２番、梅原泰嗣議員。

〔２番　梅原泰嗣君登壇〕

**○２番（梅原泰嗣君）**　議案第57号　平成22年度伊豆市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について賛成討論を行います。

平成22年度の国民健康保険特別会計決算は、昨年度と比較し、わずかではありますが歳入総額は増額となっており、歳出総額が抑えられ、結果、２億6,902万円の収入超過となっております。

この会計の主な役割であります医療費給付につきましては、被保険者の高齢化、医療の高度化が進む中、昨年度対比約１億7,800万円増の給付を行い、また、出産育児一時金、葬祭費等も支給したことを評価し、同時に適正な事業運営が行われたものと判断いたします。

ただ、１点、保険税収納率が89.3％と、前年度に比べ0.3％低下したことは、一般会計、基金から繰り入れていることを念頭に置いていただき、なお一層収納改善の努力をお願いして、賛成討論とします。

**○議長（杉山羌央君）**　続きまして、議案第60号について反対討論を行います。

20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　議案第60号　平成22年度伊豆市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について反対討論を行います。

繰り返し要求いたします。

介護保険制度で施設を利用するときには、利用料の減免制度があるんです。ところが、家に来てくださいと、例えば訪問看護、介護等々やろうとすると利用料を減免しない、１割負担ですよと。こんな不合理は私はないと思っています。

国保会計と同じように、根本的には国が解決すべき問題でありますけれども、地方自治体としてできることがある、だからこそ私は繰り返し要求しております。低所得者の方々が、例えば住民税を払わない方、こういう方の家に訪問したとき、これについては利用料の減免制度を実施するよう、繰り返し、繰り返し要求いたしまして、反対討論といたします。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、賛成討論を行います。

９番、関邦夫議員。

〔９番　関　邦夫君登壇〕

**○９番（関　邦夫君）**　９番、関邦夫です。

議案第60号について、賛成討論を行います。

平成22年度予算は、歳入歳出28億2,550万円に対し、平成22年度決算額は歳入、28億847万905円、歳出は27億6,721万1,572円でした。差し引き4,125万9,333円。

平成22年度決算は、予算に比べると歳入は99.4％、歳出は98％ですので、ほぼ予算どおりに執行されました。

ちなみに平成21年度予算は、歳入歳出26億9,440万円、平成21年度決算は、歳入は27億5,052万6,042円、歳出、26億6,919万8,934円。差し引き8,132万7,108円です。

前年度に比べて、歳入は5,794万4,000円増、歳出は9,801万3,000円増ですが、増額は予算において承認されています。

一般会計からの繰り入れは、平成21年度は４億1,300万円、平成22年度は４億1,250万円で、50万円違いです。予算に対して変更はほとんどなく、適切に執行されていますし、介護サービスの向上、地域支援事業の充実等に努力されています。

委員会では、賛成４、反対討論を行った方の反対がありました。介護保険に対する党としての立場の反対だと思いますが、たとえ党としての反対でも、委員会の総意を理解するのが一般的な考えだと思います。反対の意見は十分拝聴しましたが、同じ委員会のメンバーとしての反対討論には、同意できません。

したがって、ほとんど予算どおりに執行され、介護事業の充実に努力の見られる議案第60号について、反対する理由は何らなく、委員長報告に賛成することを皆様にお願いして、賛成討論とします。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、議案第65号について反対討論を行います。

20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　議案第65号　平成22年度伊豆市上水道事業会計決算の認定について、

反対討論を行います。

思い起こしてみますと、おととし、平成21年９月議会において、この上水道の統一料金をどうするのかということで、大いに論議されました。今回の平成22年度の上水道決算は、それがスタートする年であります。２年ごとに水道料金が５年間で３回値上げする仕組み、例えば口径13ミリでの基本料金、１カ月ですけれども、210円から420円、420円から643円と、２倍、３倍となる最初の年度になりました。

起債という有利な借金はせずに、水道料金という現金収入で施設の改良をしたいとする。水道施設の建設改良というのは、市民への一時的な負担の少ない起債で、私は行うべきだというふうに考えております。水道施設の改良工事は、現在の市民が安心・安全な水を使って、快適な生活が送れるだけではなくて、何十年先にも利用する方々、市民がその建設改良工事にのっとって、保証されるという性質を持った設備であります。

したがって、将来の人にも水道施設改良工事にかかった費用の一部を負担する、だから、長期の起債を起こしていく、これこそが負担の公平にもつながるものだと、私は確信しております。残念ながら、この原則が今回の決算認定にはありません。

以上で反対討論を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で通告による討論は終わりました。

これで討論を終結いたします。

これより議案第56号から議案第73号までの18議案について、分割採決いたします。

まず、議案第56号　平成22年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第56号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第57号　平成22年度伊豆市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第57号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第58号　平成22年度伊豆市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第58号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第59号　平成22年度伊豆市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第59号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第60号　平成22年度伊豆市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第60号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第61号　平成22年度伊豆市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第61号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第62号　平成22年度伊豆市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第62号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第63号　平成22年度伊豆市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第63号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第64号　平成22年度伊豆市湯の国会館事業特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第64号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第65号　平成22年度伊豆市上水道事業会計決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第65号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第66号　平成22年度伊豆市温泉事業特別会計決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第66号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第67号　平成22年度伊豆市持越財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第67号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第68号　平成22年度伊豆市市山財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第68号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第69号　平成22年度伊豆市門野原財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第69号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第70号　平成22年度伊豆市吉奈財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第70号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第71号　平成22年度伊豆市月ヶ瀬財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第71号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第72号　平成22年度伊豆市田沢財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第72号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第73号　平成22年度伊豆市矢熊財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は認定であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第73号は原案のとおり認定されました。

**◎議案第７４号～議案第８０号の委員長報告、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第21、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）から、日程第27、議案第80号　平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算（第２回）までの７議案を一括して議題といたします。

本案についても、各常任委員会に審査を付託してありましたので、審査の経過と結果について各委員長の報告を求めます。

最初に、議案第74号について。

総務教育委員会委員長、内田勝行議員。

〔総務教育委員長　内田勝行君登壇〕

**○総務教育委員長（内田勝行君）**　８番、内田勝行です。

ただいま議長から報告を求められました議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）総務教育委員会の所管科目について、主な審査の経過と結果を御報告いたします。

初めに、教育委員会の関係ですが、当局からの補足説明に引き続き、質疑を行いました。

審査における質疑の主なものですが、議案書69ページ、修善寺小学校体育館の下水処理に関する維持補修工事について、既設のものを撤去して新設をするとのことだが、勾配はどのくらいに変わるのかとの質疑に対して、現在の勾配は平均で0.4％なので、今回、体育館に一番近いマンホールから川側の路上に新設するますまでの高低さを、２倍の0.8％にする計画です。なお、マンホールにある穴からグラウンドの砂が落ちてしまうことも、流れの悪い原因と考えられますので、砂が落ちないものにいたしますとの説明がありました。

続いて、もっと傾斜がとれるような方法はないのか。深く掘り、大きなますをつくって、上から水が流れるような方法はどうかとの質疑に対して、マンホールの中にポンプを入れ、圧送していく方法もありますが、現在、全く流れていないわけではありませんので、ポンプの交換や電気料等の維持経費と比較し、今回の工事内容といたしましたとの説明がありました。

続きまして、総務部の関係ですが、当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。質疑の主なものですが、議案書61ページ、定住促進事業補助金について、１人でも多くの人に定住してもらうのであれば、夫婦のいずれかが満40歳未満という年齢の制限は見直すべきだと考えるがどうかとの質疑に対して、制度を要綱化していく過程で、子供をふやしたいということが働き、年齢に関する要件を加えたようですが、人口をふやすということであれば、年齢の制限は撤廃してもいいのではという議論はあるかと思います。制度の存続・中止は別として、要件については見直しの時期に来ていますので、検討させていただきますとの説明が

ありました。

続きまして、議案書69ページ、防災対策事業について、津波海抜表示看板等設置工事は何カ所の予定か、また、計測震度計の設置は本庁舎のどこになるのか。また、放射線測定機器は、貸し出しすることを考えているのかとの質疑に対して、津波海抜表示看板等設置工事は100カ所の予定です。計測震度計は、本庁の男子更衣室の一画に設置する予定です。放射線測定機器は２台購入し、本庁と支所に置く予定ですが、貸し出しは今後検討していきますとの説明がありました。

以上の審査経過の後、討論はなく、採決の結果、付託されました議案第74号、総務教育委員会所管科目については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定しました。

委員長報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、議案第74号及び議案第75号の２議案について。

福祉環境委員会委員長、古見梅子議員。

〔福祉環境委員長　古見梅子君登壇〕

**○福祉環境委員長（古見梅子君）**　13番、古見です。

ただいま議長から報告を求められました議案第75号及び第75号について、審査の経過と結果を報告申し上げます。

初めに、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）福祉環境委員会所管分についてですが、補足説明はなく質疑を行いました。

主な質疑として委員より、63ページの児童福祉費消耗品で、子育て支援ガイドブックを作成する予定と伺っているが、予定する内容を伺いたいとの質疑に対し、保育園等の入所関係、母子医療や子供の医療費の関係、健診の関係などを掲載し、携帯できるサイズで作成を検討しています。作成費については安心こども基金から10分の10の補助がありますとの答弁でした。

私立こども園施設整備費補助金の増額補正についての質疑に対し、当初、県補助金については少な目に予算化するように指導がありましたが、今回、静岡県から補助金の増額として補助対象分の２分の１、1,470万8,000円の補助額が決まり、この1,470万8,000円はこども園を運営する信愛会と伊豆市が２分の１ずつとなりますので、735万4,000円は信愛会へ補助する額となりますとの答弁でした。

しゃくなげ保育園の備品について、何を購入する予定なのかとの質疑に対し、調理室のオーブンの温度調整ができなくなり、購入後18年も経過しているため部品がなく、修理もできない状況ですので、調理用のガスオーブンを購入する予定ですとの答弁でした。

以上、審査した結果、討論はなく、採決の結果、議案第74号は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定しました。

次に、議案第75号　平成23年度伊豆市介護保険特別会計補正予算（第２回）については、質疑、討論はなく、採決の結果、議案第75号については全会一致で原案のとおり可決すべき

ものと決定しました。

以上で報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、議案第74号及び議案第76号から議案第80号までの６議案について、経済建設委員会委員長、塩谷尚司議員。

〔経済建設委員長　塩谷尚司君登壇〕

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　ただいま議長から報告を求められました議案第74号及び議案第76号から議案第80号までの６議案について、審査の経過と結果を御報告申し上げます。

初めに、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）所管科目についてでありますが、初めに、建設部の関係ですが、補足説明は特になく、質疑を行いました。

審査の過程における質疑の主なものとして、69ページ、河川愛護活動事業補助金16万円について、１件当たり３万円ぐらいの草刈りという説明であったが、内訳を伺いたいとの質疑に対し、150平米以上1,000平米未満が２万円、1,000平米以上１万平米未満が３万5,000円、１万平米以上２万平米未満が５万円、２万平米以上が８万円という区分で助成しています。また、1,000平米以下の申請が18件、1,000平米から１万平米未満が37件、１万平米から２万平米未満が４件、２万平米以上が５件の団体という申請になっていますとの答弁がありました。

次に、観光経済部の関係ですが、補足説明は特になく、質疑を行いました。

審査の過程における質疑の主なものとして、初めに、67ページ、なぜ八木沢ポケットパークがなくなったのか、また、土肥港観光案内所整備事業補助金2,500万円について、国から幾ら、県から幾ら、伊豆市が幾ら、さらに2,500万円使ったら伊豆市の観光が発展するのかしないのか、どういう考えであるのかお聞きしたいとの質疑に対し、この八木沢ポケットパークについては、震災が起こった以上は、今後公共事業費というのが東北に振り向けられる可能性が非常に高いので、その中でどれならとめられるかという判断をした結果、八木沢ポケットパークは、とにかく今直ちにやらなければならない事業ではないということで、ここは保留しましょうという話になったということです。

次に、土肥港観光案内所整備事業の関係ですが、基本的に県が２分の１、そして市負担が２分の１という形で、県のほうと調整をしています。また、どういう形で観光振興に役立つかという話ですが、駿河湾の海上交通活性化協議会で提言された交通結節点整備の必要性及び市の総合計画に記載された海の玄関口整備に基づき、この事業へと転換しているということです。この事業で現在のフェリーターミナルを観光案内所に改修し、交通結節点ですので、東海バスを乗り入れ、フェリー利用者の公共交通機関への乗り継ぎの利便性を高めるとか、観光案内所を設けることによって、西海岸、土肥地区、並びに修善寺、湯ヶ島、伊豆市の全域、それに対する案内機能を充実していくというような考えでおります。今の情勢では、基本的に運用は観光協会のほうにお願いする形になっていますので、１名の配置になると思います。その中で当然のことながらインターネット環境とかも充足していくと理解しています

との答弁がありました。

次に、トイレもつくるかとの質疑に、交通結節地点整備の施設要件の中に、建物内にトイレということが要件にされております。今回の整備計画では、身障者対応のトイレを建物内に設置します。との答弁がありました。

続いて、土肥港観光案内所整備関係で、このフェリーを実際に３回ほど利用しているが、車に乗っている人がおりているのを見たことがない。だからフェリーの乗り場に案内所の必要性というものは全く感じないがどうかとの質疑に対し、この話が出て、実際に現場のほうに行き、現場の方々といろいろ話していく中で、やはり繁忙期には、特に待合室には人がいっぱいになるほどいるんだという声も聞いています。したがって、こういう整備はある程度マックスを見ていかないとできないわけです。また、逆におりてきてそのまま行ってしまうのではという話ですけど、繁忙期になると道がわからないとかで、清水港で案内を受けてきたにしても、さらに土肥で確認をしていくとかということがあります。なおかつ、バスの乗り場が今道の上の海花亭さんの前で、実際ここには入っていないということで、そのあたりは活性化協議会でも非常に議論の対象になったようでして、バス路線を入れるようにという話があり、進めてきたわけです。以下案内所の必要性について意見交換が行われ、土肥については、例えばお昼が食べたいな、どこかいいところはないだろうかというようなことも考えられるので、ある程度の案内機能があるところが必要だろうというように考えますとの答弁がありました。

このほか、施設整備に関連し、利用者推移等に基づく必要性に対する意見などがあり、土肥港の観光案内所の整備は、伊豆市だけではなく松崎町であるとか、西伊豆町との協議に連携の中で土肥港とか、あるいはフェリーとか、そういったものの振興を図ろうという中で、たまたま知事から、それはいいぞというような話があったということで、そこで今なら県から支援が望めるという話があり、近隣の市町との連携の中でやっていけるということで、この事業費を今回計上したものですとの答弁がありました。

次に、67ページの観光施設管理費、13節の天城温泉会館管理事業について、施設改修工事は具体的にどこをやるのか。修繕料等の施設改良工事の違いも含めてお伺いしたいとの質疑に対し、これは基本的に電気施設、エアコン等がヒートポンプで一体化になっているものを切り離してやることが非常に有効だという考えのもとに、バルブのつけかえと電気も５メートル管理にして、使用者側から徴収するような工事ですとの答弁がありました。

また、67ページのその他観光施設事業は、13節測量委託料148万5,000円は、浄蓮の滝の遊歩道ということでの測量化、また浄蓮の滝観光施設改修工事300万円の内容はどのようなものかとの質疑に対し、手すりが破損している部分があり、根が腐り危険だという連絡があり、現地確認の結果、手すりばかりでなく、歩道部分のコンクリート面が非常に滑りやすくなっているので、手すりと路面をノンスリップ使用にするということで、300万円の予算を見ていますとの答弁がありました。

次に、67ページの天城温泉会館指定管理料の料金算定の根拠を教えてくださいとの質疑に、人件費がおよそ340万円、光熱水費及び燃料費がおよそ120万円、広報費及び印刷費がおよそ250万円、その他経費が580万円ということで、合計が1,290万円。それから、展示料の収入として３カ月分の250万円程度を見込んでおりまして、それを引いた金額が1,040万円ということになってございますとの答弁がありました。

さらにその人件費340万円というのは、その展示事業とホタルの事業、これは両方を含めた上の人件費でしょうかとの質疑に、人件費の340万円の内訳につきましては、改修工事の部分から先にしたたるべきものは当然タッチしていただかないとできません。それから、その方が当然営業にも歩きますので、その館長が１人、５カ月分です。あと、１月から３月のパートさんの分という構成になっています。なお、ホタルの事業については、指定管理料に見ていませんとの答弁がありました。

次に、65ページ、観光協会緊急誘客宣伝費450万円は、秋以降の誘客という説明を伺いましたが、この誘客については、本年度も観光協会に約5,300万円近くの補助金を出していきます。これは、協会の運営費だけでなく、誘客事業にも充てるという補助金で、この中に秋以降の修善寺のもみじまつりとか、天城路のもみじまつりなど入っているのではないかと思います。さらに、450万円かけて行う主な企画は何でしょうかとの質疑に対し、キャンペーン名は紅葉と温泉伊豆市平日おもてなしキャンペーンという内容で、10月１日から12月20日までの平日に泊まったお客さんにサービスをするということで、全宿泊者に対し、総額250万円のプレゼント行うというものです。450万円の内訳ですが、１万円の伊豆市内宿泊助成金を100名、それから１万円相当の伊豆市特産品セットを100名様、5,000円相当の伊豆市主要観光施設の優待券セットを100名様、これが300枚で250万円です。それから、そのための告知用パンフレットに100万円、それからキャンペーン告知に50万円、観光情報パンフレットが50万円ということですとの答弁がありました。

以上の質疑の後、２人の反対討論の後、採決を行ったところ、議案第74号は可否同数であったため、委員会条例第16条の規定に基づき、委員長の採択により原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第76号　平成23年度伊豆市簡易水道事業特別会計補正予算（第２回）についてですが、当局からの補足説明はなく、審査の過程における質疑の主なものとして、八木沢、小下田というのは新しく水源を求めているのかとの質疑に対し、現在ある水源は表流水であり、水質的によくないため、水量が安定した、あるいは量が安定した新しい水源をということで、かんがい排水の水を現在予定しております。八木沢地区については、井戸を掘ったので、とりあえず現在の水源は将来的にはやめる方向で動いていますとの答弁がありました。

討論はなく、採決の結果、議案第76号は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第77号　平成23年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算（第２回）についてで

すが、当局の補足説明はなく、審査の過程における質疑の主なものとして、伊豆市の下水道工事、大規模工事、そろそろ終わりに近づいてきたんではないかと思うが、今回の２億5,000万円の減額というのは、その地区を一時的にやめたのか、それとも将来的に整備を取りやめるという判断なのかとの質疑に対し、現在の計画では１年送り、来年ぜひ実施したいと考えております。また、認可をとってあるところは実施していきたいと考えております。それ以外の全体計画、区域については、当然見直しが必要かと考えていますとの答弁がありました。

次に、伊豆市全体の整備について、流域下水道に限らず、特環下水道や農業集落排水事業で全部やったとしても、６割いくかいかないぐらいかと思うのが、それ以外のところは、今後どういうふうにやっていく計画なのか、基本的な考え、方針みたいなものはお持ちでしょうかとの質疑に対し、今のところ合併浄化槽でいこうと。ただそのやり方につきましては、今までどおりの補助金を出して、皆さんに自分たちで運営してもらうのか、あるいは市で運営するのかというような二者択一の問題もあると思いますけれども、そこまではいっておりませんとの答弁がありました。

質疑の後、討論に付したところ討論はなく、採決した結果、議案第77号は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第78号　平成23年度伊豆市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２回）については、当局からの補足説明、質疑、討論ともなく、採決の結果、議案第78号は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第79号　平成23年度伊豆市湯の国会館事業特別会計補正予算（第２回）についてですが、当局からの補足説明はありませんでした。審査の過程における質疑の主なものとして、修繕料235万円は、雨漏りの補修というふうに伺っているが、いつごろから雨漏りが始まったのかとの質疑に対し、建物が特定建物であり、年１回、特殊建物検査報告を土木事務所のほうへ提出する中で指摘を受けました。また、修繕予定部分が待合室とか玄関先とかであり、かなり目立ってきたということもありまして、これ以上放置しておくと大きくなるというふうなことで、予算をお願いするものですとの答弁がありました。

質疑の後、１名の反対討論に続き、採決を行った結果、議案第79号は挙手多数で原案のとおり可決すべきものと決しました。

最後になりますが、議案第80号　平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算（第２回）について、当局の補足説明、質疑、討論ともになく、採決の結果、議案第80号は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で、各委員長の報告は終わりました。

ここで都合により昼の休憩にいたします。再開は午後１時からといたします。

なお、この休憩に入る前に、ただいまの各委員長の報告に対し質疑、討論のある議員は、

通告書を議長に速やかに提出を願います。

休憩といたします。

休憩　午後　０時０１分

再開　午後　１時００分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまから日程21、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）から、日程第27、議案第80号　平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算（第２回）までの７議案について質疑、討論、採決を行います。

これより各委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑がありませんので質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、これを許します。

議案順に議案ごと、通告順に行います。

議案第74号について反対討論を行います。

19番、三須重治議員。

〔１９番　三須重治君登壇〕

**○１９番（三須重治君）**　19番、三須重治です。

議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）について反対討論をいたします。

７款商工費のうち観光施設整備事業、土肥港観光安全所整備事業補助金については、補助金の正当性を全く感じません。建物の外装リニューアルやトイレ整備は、その施設を利用する人たちのほとんどはフェリー利用者に限られるために、当然、フェリー会社が行うべきです。過去、公共性の高いバス、電車を運行している東海バスや伊豆箱根鉄道が行う同等の事業に対し、このような補助金が出た記憶が私はありません。したがって、この補助金は出すべきではないと思います。

また、観光案内所にしても全く必要性を感じません。今の旅行は昔と違い、インターネット等で事前に調査しますし、旅へ行く前の計画を練るところから旅は始まっているのです。それらをかんがみたとき、このような案内所は全く必要ないと思います。むしろ補助金を出す口実に、この案内所事業を盛り込んだのではないかとさえ思えてなりません。

また、もう１点、天城温泉会館管理事業のうち、指定管理料1,040万円については、議案第88号に賛成しかねますので、ここで賛成するわけにはいきません。

以上、２点をもって、議案第74号は反対といたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、賛成討論を行います。

７番、杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　７番、杉山誠です。

議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）について、賛成の立場で討論をいたします。

深刻な人口減少が続いている伊豆市にとって、積極的に魅力あるまちづくりを進めることが求められています。この補正予算では、財源に繰越金と地方交付税の増額分３億8,500万円を活用して、効果的な事業を提案していると思います。

まず、定住促進事業補助金ですが、人口減少に歯どめをかける施策の一つとして、大変好評を博しており、昨年度は12件、そして今年度は、既に６月に10件の予算枠が埋まったとのことです。

その内訳は、市内の移動が10件で、市外からの転入は12件です。若者の定住促進は、長期的な人口減少対策として大きな効果を上げることが期待できます。補正の14件分についても、既に申請希望があるとのことで、非常に効果的な事業として評価できます。

そして、定住促進には、市内に働く場の確保が欠かせません。企業誘致とともに既存産業の育成支援を図ることも重要です。

東日本大震災の影響で冷え切った経済の中で、中小企業は苦しい経営を強いられています。商工振興事業の中小企業災害対策資金利子補給金や住宅リフォーム事業補助金など、市場の活性化と経営支援に役立つものと期待できます。

また、魅力あるまちとして、多くの市民の評価を受けるのが子育て支援策の充実です。伊豆市では、財政が厳しい中で、少子化対策として不妊治療費の助成や出産準備手当、そして、保育園の民営化や認定こども園の開設など、保護者の多様なニーズへの対応やサービスの向上に努めていると思いますし、近隣市町と比較しても保育料は低く設定していますが、子育て支援の全般的な案内所がなく、その都度窓口で相談しなければならないという点が指摘されていました。

児童福祉事業費35万円は、新たに子育て支援ガイドブックを作成するとのことで、子育て世帯に対するサービスの向上に大きく貢献するものと期待します。

そのほか、震災以後急激に高まっている自然エネルギーの活用についても、住宅用太陽光発電システム設置補助金の増額補正も評価できます。

質疑の中で議論となった天城温泉会館管理事業の指定管理料については、指定管理導入の一時的経費が含まれており、その後、そのままの金額で推移するものではないとのこと。また、土肥港観光案内所整備事業補助金については、よくフェリーを利用するという人の話を聞きましたが、車に乗らずに利用する人はかなりおられるとのことで、海の玄関口としての機能強化に期待ができます。

最後に、住民の命を守る防災対策では、いつ起こるかわからない東海地震３連動地震への備えは欠かせません。今回の補正では、津波海抜表示看板等の設置が盛り込まれ、できるところから早く手を打とうとする姿勢が見られます。

そのほかの資機材購入も必要かつ効果的な選択であると思います。財政の状況もありますが、今後とも緊急度を勘案して防災対策には積極的な取り組みを求めたいと思います。

また、ハード面の充実とともに防災意識や避難対応など、ソフト面の対策も大変重要です。この点については一言申し上げさせていただきます。先日の台風15号では、進路予想もはっきりしていて、気象庁では、最大規模の警戒をしてくださいと何度も呼びかけ、また、午後からは風雨が急激に強まることを繰り返し伝えていました。

しかし、当市の対応は、住民の安全に対して余りにも緩慢であったと思います。暴風の中で同報無線は聞こえません。土砂災害警戒情報が私の防災フリーメールに入ったのは、午後２時24分、既に風雨が強く外出は危険な状況でした。この時点で避難所は開設されていたのでしょうか。上船原では水路の水があふれて、住民が緊急避難をしたと聞きました。また、危険を感じてみずから避難の手助けを求めた障害者のお話も伺いました。暴風雨の中での移動がどれほど危険を伴うか、承知しておいででしょうか。

台風12号では避難勧告、避難指示が出されないまま土砂崩れ等で多くの犠牲者が出ました。ＮＨＫの番組である首長が、過去に避難勧告が空振りして、区長からしかられたことを理由に上げていましたが、当市でもそうだったのでしょうか。それとも大した影響はないと判断したのでしょうか。

伊豆市は地形的に災害が起こりやすい地域であることは承知しているはずです。あと１時間、あの雨が降り続いていたらどうなったかわかりません。早目の避難は命を守る防災の基本中の基本です。今後は口で言うだけでなく、最悪の状況を想定した対策をしっかりとっていただきたいことを、ここで強く要望します。

以上、厳しい意見も申し添えさせていただきましたが、議案第74号については、補正予算として適切かつ必要な内容と判断いたします。今後とも住民本位のまちづくりが進められることを願って、賛成討論といたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、反対討論を順次行います。

12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）について、反対討論をさせていただきます。

ただいまの賛成討論、反対なのか賛成なのかさっぱりわからない。賛成討論の皆さんの御意見をお聞きしてもわかるように、我がまちはお金がないのではないのです。いかに使うか

なんです、いいですか。ハードだけではいけません。今ソフトの時代なんです。観光案内１つとっても、観光案内所をつくるのか。観光案内所なんかなくても、本当に必要ならば有能なガイドをそこへ置いておけばいいんです。おいしものはどこにありますか、大体、聞きに来るのは道かおいしいものか、いい観光、名勝はあるか、そういうところです。

それを適切に説明できる人が必要なんです。施設ではありません、ソフトなんです、人材の育成なんです。いろいろ定住促進策をやっている、10世帯ぐらい集めたい。しかし、先ほども言いましたように、たしか市長さん、350人か400人ぐらい減っていると今まではおっしゃっていましたけれども、現実には平成22年度は654人の方が伊豆市を去っているんです。

私の推測では、恐らく団塊の世代の方たちは伊豆市に残ることを選ばないで出ていってしまった。今は地域間競争の時代なんです。我がまちは確実に、我が市は確実に地域間競争に敗れている。これを打開するには、やはり住むなら伊豆市だ、子育てするなら伊豆市だ、こういうソフトを充実させなければいけないんです。

病院へ行け、安くしてあります、１つや２つ、ほかの町から優位に立っていてもだめなんですよ。トータルで総合的に老後は伊豆市だ、子育てするなら伊豆市だと、長泉町に負けないような子育て支援をする、１つだけよくたってだめなんです。

この予算書を見ると1,400万円、定住促進事業補助金、10件分でしょう。この10倍ぐらいの人がいなくなってしまうんですよ。観光振興事業、減額90万円ということになっていますが、何ですか、私はいつもよく言っているね。行き当たりばったりの思いつき行政なんです。典型的じゃないですか。540万円要らなくなったから、観光協会緊急誘客宣伝補助金に450万円つけましょうと。

市長さん、あなた、この間言いましたね。首都圏の若い人たちは伊豆市のことを知らないと。そりゃ知らないですよ。伊豆市がやっている有名な小説家、もう１時代も２時代も前の方なんですね。私、よく言いますよね。箱根では首都圏向けにラジオで箱根だ、箱根だ、箱根だってやっているんですよ。

伊豆市はパンフレットをつくるのは上手です。見事な高額なパンフレットをつくる。しかし、それが配られたって、1,000枚とか多くても１万枚単位でしょう。市長の好きな東京駅のそばの森ビル、年間何枚パンフレットを配れるんですか。

要は宣伝の仕方が全然違うんです、我がまちと。我がまちの観光施設、政策、いわゆる旅館に来れば、はい、幾らかお金をバックさせましょう、そうじゃないです。旅館へ来る人は限られているんです。不特定多数の人に伊豆市だ、修善寺だ、天城だ、土肥だ、中伊豆だ、宣伝しないと覚えてもらえませんよ。

八木沢ポケットパークについても同じです。八木沢ポケットパークをつくろうというときに、市長さん、ここで熱弁を振るったんじゃないですか。まるで観光客がわんさと押しかけるような熱弁を振るっていたんですよ。しかし、だめになったから、はい、今度は土肥に観光案内所をつくりましょうと。こんなことをやっていたんじゃ、いつまでたったって観光客

は来ません。これからも反対討論は続くんでしょうから、この件については、いろいろな方からいろいろな意見が出ると思います。

私も観光案内所をつくるんだったら、もっと土肥の観光案内を充実させましょうよ。花時計のそばにある観光案内所、人がいるんです。あそこへ行ったらおいしいものが、あそこへ行ってください、ここへ行ってください、案内できるような人をつくってくださいよ。私はあっちこっち行くんです、修善寺でもそうです。おいしいもの、お菓子屋さん、どこかいいところありますかって、そういう案内は、答えは戻ってこないんです。

施設ではありません、そういう人です。人材の育成です。やはり観光に興味のある方がそういうことをやってくれる必要があるんです。ただそこへ人を張りつければいいというものじゃないんです。パソコンを置いておけばいいというものじゃありません。パソコン扱いができる人だったら、恐らく来る前に調べてくるでしょう。2,500万円のお金をぜひ教育や福祉の充実に充ててもらいたい。

天城温泉会館も同様です。私は、天城温泉会館については、常々、ここの施設はもう死に体と言っているんです。はっきり言わせてもらいます。どんなに手を尽くしても生きる道はありません。これを行かせる人がいないからなんです。

きょうは27日です。市長の考えでは、10月１日から動かそうとしているんでしょうから、既にだれが館長になるか決まっているんでしょう。それすら公表できないんですね。自信があるならぜひ公表してください。

一つ一つやっていきますと長くなりますので、はっきり言わせてもらって、無駄な投資は賛成できません。私たちのまちは、いいですか、平成22年度は654人も人口が減少しているんです。ぜひ平成23年度はどのぐらい人口が減少するか、市長さん、予測しなさいよ。そして、どうやって対応するか、もっと当局も含めて議会も一緒になって、伊豆市は今どうすべきか考えませんか。

私は、私たちのまちはお金がないのではないと思っています。億単位のお金は幾らでも使える。ぜひ市民が伊豆市で住もう、首都圏から伊豆市へ行こうと言えるようなまちづくりにお金を使っていただきたい。

反対討論を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて反対討論。

３番、稲葉紀男議員。

〔３番　稲葉紀男君登壇〕

**○３番（稲葉紀男君）**　３番、稲葉紀男です。

議案第74号　平成23年度一般会計補正予算（第２回）に対して、反対討論を行います。

本補正予算は、商工費、観光振興費として、土肥港観光案内所整備事業補助金2,500万円が含まれております。この予算は、県よりサンセットパーク計画の見直しを指摘されたための単なるすげかえではありませんか。必要性、有効性、緊急性が十分に検討された結果の議

案であるとは思われません。

土肥港・駿河湾海上フェリーによる来客者数は、平成20年度の来客者26万1,000人、車両は５万台、以降、年々減少し続け、平成22年度には来客者17万人、平成20年度に比べて65％、車両は３万台、平成20年度に比べて66％減っております。昨今の不況は、さらに追い討ちをかけることさえ懸念されます。

また、静岡市、伊豆市、松崎町、西伊豆町からなる駿河湾海上交通活性化協議会は、来年度をもって終了されるとされています。これによっても来客数はますます減少することが心配されます。このような状況でフェリー案内所のトイレの整備やペンキの塗りかえにより、土肥港への来客数が増加するとは考えられません。

また、案内所そのものに、これから伊豆市を訪れる車や観客がどの程度必要か有効でしょうか。かける費用と効果の点よりも大いに疑問があります。

そもそも民間企業の案内所、待合室の整備に公のお金を使う必要性が、公共性がどこまであるかも疑問です。伊豆市にはもっともっと観光対策にしても、お金をかければ、投資すれば効果の期待できることがたくさんあります。また、津波対策を初め、市民の安全・安心に関する緊急かつ需要のある提案もたくさんあります。

市長はよく、せっかく国や県からいただいたお金を使わない手はないと発言されておりますが、せっかくついた補助金は、本当に役立つことに集中と選択、大切に使うことが必要と言えます。

このような、本件のような単なる予算消化のための効果の少ない事業に2,500万円もの大金を積むことに、これを含む議案第74号に対しては反対いたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　１番、鈴木初司でございます。

議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）に反対の立場から討論を行います。

まず、最初に、市長は本年３月11に発生した東日本大震災により、当初予算のうち削れるところを精査するよう事務方に指示し、答えは八木沢ポケットパーク（サンセットパーク）整備事業3,000万円のうち2,500万円の減額との説明でありました。

また、市長が最優先事業とした土肥港観光案内所整備事業への2,500万円補助金とし、予算の組み替えであります。市長が説明した東日本大震災が発生したから、防災関係に市民の血税を使わせていただきたいなら理解できますが、東日本大震災が発生したから、土肥港観光案内所整備事業へ2,500万円補助金を支出したいとの予算案の説明であり、私の中では意味不明、理解不能であります。

まず、一番大事なことは、行政も議会も市民の生命の安全と財産を守ることであります。

先ほど杉山議員からありましたけれども、私もそのことについて少し触れさせていただきます。

さきの台風15号で、上船原、平並沢で土石流がＰＭ２時45分ごろ発生し、生命の危険を感じ、何も持たないで逃げた者、逃げたというんですか、避難された方10名、その後、区長命で６名、市に対して再三再四救助、毛布等の要求に対し、市の職員が来たのは夜の７時半。６人の方は身の危険を感じ、公民館に泊まりました。憤りさえ感じます。

初日、土砂流入４件、床下３件、４時過ぎに地元消防団と地域の方、35名で土のう、土砂かきをやりまして、２日目に地域消防20名、役員等地域の方10名、ダンプ２台、重機１台、これはすべて区で支度しました。数十立米の土砂と倒木を早朝から夕方まで行いました。２日間、市の職員は１名も手伝いに来ません。ただ現地は見に来ました、次の日でございました、建設課が。

もう一つ、言わせていただければ、その当日の１時には、天城支所では、二十数名の民生委員が通例の常会をしていました。これも驚くことであります。台風の日です。台風の１時に二十数名、一番地域のことを知っておられる方々がそこで通例会をやっていた。

行政に対し猛省を求めます。

また、防災無線等は、何ら機能せず、１回も聞こえないという状況でございました。今もその200メートル上流には堰堤ではなく土砂ダムがございます。雨が降った場合には、また土砂の流れができることが考えられております。

こういうところにこそ補正予算を投入すべきではないでしょうか。

もう一つです。市民の皆様が他市町へ流出しないよう、歯どめをかけることが今伊豆市に置かれている最優先課題ではないでしょうか。私は、土肥港観光案内所整備事業が最優先課題ではないと考えます。

次に、当局の説明についてであります。

八木沢ポケットパークを減額した理由は、県から今の時点ではわからないとの説明。私の解釈では、予算を執行できるか決まっていないとの理解ですが、基盤整備はするんですとの説明です。ならば、今減額する理由は全くなく、事業執行できなければ、平成24年３月で減額補正すれば済むし、平成24年度に継続するのであれば、繰越明許費扱いにすれば済むのではないかと考えます。

今減額して、事業が当初どおりですとなれば、また補正で予算計上しなければならないなんて、だれが考えてもおかしいと思わないでしょうか。私は承知できません。

土肥港観光案内所整備事業補助金についての当局の説明は、県支出1,250万円、企業が625万円、伊豆市で625万円との説明でありますけれども、議案予算書にはそのような説明は一切載っておらず、整合性が全く見当たりません。

市長は、県知事が汗をかけということでありまして、当然、議会も行政も汗をかきましょう。であるならば、ポケットパークは県の最終方向が決まるまで減額せず、市の当初予算ど

おり土肥港観光案内整備事業補助金については、新たに625万円支出する本議案を否決し、否決でない議案として、次の議会等で新たに出されることが私は望ましいと考えます。

それ以上でもそれ以下でもありません。

以上であります。

**○議長（杉山羌央君）**　続きまして、20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　議案第74号　平成23年度一般会計補正予算（第２回）について、反対討論を行います。

今回提案されている補正予算全体を見てみますと、例えばですが、幾つか既にお話、討論の中に出ていますけれども、子育て用のためのガイドブックの作成とか、住宅用太陽光発電システムの設置のための補助金、住宅リフォーム事業補助金など、市民生活に必要な補正予算が提案されています。残念ながら議会としての修正案を出すというところまでは至りませんでした。

したがって、賛成するか反対するかの選択しか、私にはありません。反対の立場をとらせていただきます。

第１に、土肥港観光案内所整備事業補助金2,500万円、運用は観光協会だと。補助金というものの整備する財源は県と伊豆市が持つ、観光協会はゼロ。よくわからないおかしな補助金であります。

さて、駿河湾海上交通活性化協議会には、静岡市、伊豆市、西伊豆町、松崎町、南伊豆町が参画し、それぞれが連携して駿河湾フェリーの活用をふやしていこうじゃないかということなんですけれども、財政支出するのは伊豆市、しかもカーフェリーの会社は負担なしと。何のための観光案内所なのかということも、極めて不明確なことであります。

委員会の中で、こういう発言をする議員がいました。観光案内なら船の中で十分対応できるのではないか、まさに私も同感であります。調べてみますと１時間５分かかります。その中で清水港から出ようが、土肥港から出ようが、十分にその中に観光する、案内する仕組みをつくっておけば十分であります。来客を促すためのパンフレットを置くんだという話もありました。だから、この観光案内所が必要だと。船の中に置けば十分ではないでしょうか。

大きな２つ目。天城温泉会館の指定管理料1,040万円です。市の説明によると、こういうことを言っていました。この中に人件費がありますが、年間200万円の労働条件の子細については把握していない。年間400万円の館長に至っては、高額と見えるかどうかというのは考え方の問題。その難しい仕事に張りついていただいて、実際ににぎわいを取り戻すということをやっていただけるのであればいいんじゃないかと。館長の役割は非常に大きくなるんじゃないか、そういう能力を持った人にやってもらう必要があるというようなお話をしておりまして、その能力に沿った内容で積算されているのではないかと考えております。こんな説明で市民は本当に納得するでしょうか。

人件費だけに焦点を絞りましたけれども、1,040万円をどのように使うのかということは、市当局が提案していることであります。にもかかわらず、今お話ししたように、他人ごとのような答えしかずっと返ってこない。主体性を持った説明が本当に求められているというふうに思います。

以上で反対討論を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

私は、議案第74号に対し、反対の立場から討論を行います。

７款１項４目観光施設整備事業ですが、これは八木沢ポケットパーク整備工事費2,500万円を取りやめて、それをそっくりそのまま土肥港観光案内所整備事業補助金としてスライドさせるものであります。

それでは、なぜ八木沢ポケットパークはやめなければならないのかの質疑に対し、市長の答弁は、緊急性のない事業は中止しろと県から指示があったためと、こういうふうに言っております。この答弁は、都合の悪いことはすべて人のせいにするといった市長の政治姿勢のまさに見本であります。

３月定例会では、これからの土肥港の観光には、いかに八木沢ポケットパークが重要になるかということを力説しておきながら、半年もたたないうちに、今度は駿河湾フェリーだと、ころっと方針転換して、それを臆面もなく議会に提案するとは、議会を愚弄し、また、地元の皆さんの期待を裏切る行為そのものであります。

そして、中止するポケットパークの受け皿である土肥港観光案内所整備事業なるものの内容は、全く理解できないものであります。まず、この2,500万円の補助金はどこへ支出するのかと問うと、伊豆市観光協会だと、こう答えるわけです。建物はだれのものかと聞くと、民間会社である駿河湾カーフェリーの所有物で、現在、駿河湾カーフェリーの職員が乗船券の発売所として使用しているという、そういう施設であります。観光協会の職員が観光案内をするのかと聞くと、市長の答弁では、職員を置くかどうかはわからない、職員は置かないでパソコンを設置することになるかもしれないという、あいまいな答弁しか返ってきません。こういう答弁では、何のために大金をかけて観光案内所を設置するのか、私には理解不能であります。

大体、伊豆市観光協会がどういう体制で観光案内をするのか、フェリーの発着所で観光案内を行う必要性があるのか、それらの検討が何もなされていないということは、まことに不自然と言わざるを得ません。

また、この2,500万円の補助金の内訳は２分の１が県で、残りの２分の１が市ということになっておりますが、大体、総事業費が明らかになっておりません。補助金交付先の伊豆市観光協会は、この事業に金を出すのか出さないのか、それさえも不明であります。

一方、建物所有者である駿河湾フェリーは2,500万円の補助金の市支出分の２分の１、すなわち625万円を出すという説明が本会議で出されました。駿河湾カーフェリーが持っている自分の所有物に自分が補助金を出すというのですか、これをどう解釈するのか、ますますわからなくなってきます。一体全体、この事業の事業主体者はだれなのか、本当は建物の持ち主の駿河湾フェリーではないんですか。

民間会社に補助金を交付するのはまずいので、伊豆市観光協会がフェリーの乗降客に観光案内を行うという、そういう名目にして、これを進めようとしているのではないんでしょうか。観光協会の名前を変えただけではないんですか。なぜ市長は、このような説明不能な手法を使って議会を欺き、市民を欺くような、そういうことをするのか、なぜ正々堂々と市政に立ち向かっていかないのか、私は不思議でなりません。

市長は、私、今言いますけど、「天網恢々疎にして漏らさず」という、こういう言葉を御存じでしょうか。この言葉の意味は、お天道様はお見通しというようなことですけれども、底が見えるような策を弄するのもほどほどにしていただきたいと思うわけであります。

本予算案のうちポケットパークと駿河湾フェリーの件及び指定管理者の件については、経済建設委員会においてより深く専門的に審査されましたが、委員６人中３人が反対ということで、非常に問題がある尋常ならざる補正予算案であると、改めて認識いたしました。私は、このようなだれが見てもおかしい本議案は、速やかに否決すべきものと確信し、反対討論といたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　続いて、11番、大川孝議員。

〔１１番　大川　孝君登壇〕

**○１１番（大川　孝君）**　11番、大川孝でございます。

私は、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）につきまして、１点だけの件で反対討論をさせていただきたいと思います。

67ページの観光施設管理事業の７款４項13節の天城温泉会館の件でございます。この件につきましては、平成７年のオープン以来、大変厳しい行政運営の中で努力されてやってきたわけでございますが、依然として明るい見通しが立たないまま来ているわけでございます。そして、この行政がやる運営施設というのは、大方どこの自治体でも非常に苦しんでおりまして、そこで編み出されたのがこの指定管理者ではないかと思いますが、やはり第三セクター、あるいは市の直営とかいろいろ施設というのはございますが、この天城温泉会館につきましても、この指定管理者、いわゆる行政から運営予算をいただいて、そして行政にかわって民間なりの人が運営していくと、こういう運営の仕方になっているわけでございますが、いずれにしても、この程度の指定管理の転換でしたら、やはり相当にうまくいかないんじゃないかと思うわけです。

そして、また、観光行政につきましても、御承知のように観光協会本体に大変な補助金、

また、それ以外の各事業にも無数の多くの観光補助金も拠出されているわけでございます。そうした中、やはり市の行政の考え方について、私自身ある程度の警鐘を鳴らす必要があるのではないかと思いまして、反対討論というふうな形で立たせていただいているわけでございます。

やはり費用対効果と申しますか、収入をいただいて、そして、また支出をしていくというようなことでございますが、やはり親方日の丸というような考え方でなくて、伊豆市の財政を見た場合でも、自主財源は約40％です。そして、依存財源が60％で、その中には当然市債も入っているわけでございます、13億円ですか。そうした中、交付金、地方交付税というものも、御承知のように合併後10年間は一定の率でいただけるという補助金で今はなっていますが、その10年を過ぎますと５年間非常に少なくなり、そして16年目からは一切交付金はありませんよと、こういうようなことになるわけでございます。

でございますので、やはり一番の財源の基礎であります自主財源、これについてふるいにかけて、市の財政運営というものを考えていかなければならないわけですが、当然、補助金というものが国や県からありますから、それを活用するということは大変、また活用しなければいけないわけですが、いつまでたってもその補助金が来ると思ったら大間違いです。こうしたものは、私は、常々世界の今起きている大きな問題は何が起きているかと、そういうものをいろいろに考えた中、日本の財政力もどうなっているのかと、非常に日本の財政力自身も危機的な状況に置かれているようでございます。

そうしていきますと、いろいろの今回の震災等におきましても、テレビや新聞でも13兆円何がしの復興財源ということで、非常に出どころについてのいろいろの議論が闘わされているわけでございますが、やはりそうした中を考えた中で、我々のところへは安定した、こうした地方交付税というものもずっと未来永劫に来るかということを考えた場合には、決してそういうことではないと思うわけです。

そこで、私は、この天城会館の今回の内容につきまして、もう少し、あれだけの自然環境がよくて、温泉が出てということであれば、温泉を利用する１つの考え方としては、もっと資本力の大きい企業にトップセールスをして、日本経済連、あるいは日本商工会議所あたりに行って事情をすれば、伊豆半島、伊豆市というのは日本の観光の代表的な地域であるということは知ってるわけです。

そうした中で資本のあるような企業は、自分自身の観光の保養所にしようとか、いろいろ職員のそうした福利厚生面にもお使いになれると、そういうことにもやはり行政のほうとしましても、それは公募していろいろ募ったけれどもないから、こういう形というようなお話もあったわけですが、もっともっと広く努力して、大きな資本力を持ったものに来ていただいて、そして地域の周りの人たちにも社員として使っていただくと、こういうことが非常に大事じゃないかと思います。

また、民間企業であっても、いろいろと研究や何かするような、そうした会社なんかは、

やはりそうした施設を利用した中で、じゃいろいろと建物を建てて、そして研究者でいろいろとやってみようかとかあるはずなんです。

ですから、もっと力の強いトップセールスの中で優秀な企業を呼び込んで、そして、ともに温泉会館がすばらしい施設に生まれ変わるような努力、とことん積極セールスというものを展開していかなければ、どこも沈んでしまうような形で終わってしまうと思うんです。

でございますので、自分たちの資金でやるから、そこの施設はひとつ貸してくれと、黒字になるまでは貸してくれというようなことであれば、そういう姿勢は大変変わられていいわけですが、この天城温泉会館も、これからの経済見通しを見ますと、やはりバブルのような時代は、ほとんどここ数十年は奈落の底に、緩やかであるかわかりませんが、落ちていくような、こうしたことでありまして、民間の企業も大企業を中心に空洞化して、人件費の削減と称して海外に行っているわけです。

でございますので、観光はとにかく観光に行く人口というのは、バブルからがんと減ってしまっているわけです。そこの中で取り合いをするわけです。ですから、観光に行くお客さんは、とにかく大変すばらしい魅力のあるテーマパークがない限りは、お客さんは、普通どおりの営業のパンフレットをつくったり何かしても、お客さんは、ほとんど来てくれないというようなことじゃないかと思います。

そういう意味で、私はこの天城温泉会館につきましては、もう一考、ぜひひとつ考えた中での施策を、大きな施策を練っていただいて、再度提案していただくということが、私は大事じゃないかというふうな気がいたしまして、雑駁ではございますが、一応反対討論とさせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で通告による討論は終わりました。

これで討論を終結いたします。

これより議案第74号から議案第80号について分割採決いたします。

まず、議案第74号　平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第２回）について採決いたします。

本案に対する各委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、議案第74号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第75号　平成23年度伊豆市介護保険特別会計補正予算（第２回）について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第75号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第76号　平成23年度伊豆市簡易水道事業特別会計補正予算（第２回）について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第76号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第77号　平成23年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算（第２回）について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第77号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第78号　平成23年度伊豆市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２回）について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第78号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第79号　平成23年度伊豆市湯の国会館事業特別会計補正予算（第２回）について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第79号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第80号　平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算（第２回）について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第80号は原案のとおり可決されました。

ここで10分ほど休憩をいたします。

再開を２時10分といたします。

休憩　午後　１時５９分

再開　午後　２時１０分

**○議長（杉山羌央君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

**◎議案第８１号～議案第８３号の委員長報告、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　日程第28、議案第81号　伊豆市税条例の一部改正についてから、日程第30、議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてまでの３議案を一括して議題といたします。

本案についても、各常任委員会に審査を付託してありましたので、審査の経過と結果について各委員長の報告を求めます。

最初に、議案第81号について。

福祉環境委員会委員長、古見梅子議員。

〔福祉環境委員長　古見梅子君登壇〕

**○福祉環境委員長（古見梅子君）**　13番、古見です。

ただいま議長から報告を求められました議案第81号について、審査の経過と結果を報告申し上げます。

議案第81号　伊豆市税条例の一部改正についてですが、質疑、討論はなく、採決の結果、議案第81号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、議案第82号　伊豆市湯の国会館条例の一部改正について。

経済建設委員会委員長、塩谷尚司議員。

〔経済建設委員長　塩谷尚司君登壇〕

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　ただいま議長から報告を求められました議案第82号について、審査の経過と結果を御報告申し上げます。

特に補足説明はなく質疑を行いました。

当議案の質疑でございますが、まずは、今回指定管理にすることによって、従来の市の職員４名、あるいは臨時の方の給与はなしになる。要するに湯の国会館独自の裁量の中で一切の経費を賄う、いわゆる市からの委託料というものは発生しないということを確認したいと

の質疑に対し、そのとおりですとの答弁がありました。

また、指定管理にするというのが今回の趣旨と思うが、指定管理先はどう考えているんですか、との質疑に対し、指定管理者については、一応公募ということを考えておりますとの答弁がありました。

以上、付託されました議案第82号については、討論に付したところ討論はなく、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上、報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について。

総務教育委員会委員長、内田勝行議員。

〔総務教育委員長　内田勝行君登壇〕

**○総務教育委員長（内田勝行君）**　８番、内田勝行です。

ただいま議長から報告を求められました議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、審査の経過と結果を御報告いたします。

初めに、当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。

法律で用語が変わったとのことだが、そのままでは問題があるのかとの質疑に対して、根拠となるスポーツ振興法が全部改正され、スポーツ基本法となりましたので、新法に基づいて改正していくことが順当だと考えますとの説明がありました。

続きまして、スポーツ基本法に改正された目的や趣旨は何かとの質疑があり、旧法は施設整備に主眼を置いた東京オリンピック以前の昭和36年に制定されたもので、既に50年が経過しており、今の社会にふさわしい法の整備ということだと思います。新法では、国家戦略としてスポーツ立国の実現を目指すスポーツの推進が位置づけられていますとの説明がありました。

以上の審査経過ののち、討論はなく、採決の結果、付託されました議案第83号につきましては、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上、委員長報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で各委員長の報告は終わりました。

これより暫時休憩いたします。

なお、この休憩中に、ただいまの各委員長の報告に対し、質疑、討論のある議員は通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩　午後　２時１６分

再開　午後　２時１７分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまから日程第28、議案第81号　伊豆市税条例の一部改正についてから、日程第30、議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてまでの３議案について、質疑、討論、採決を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、討論の通告がありませんので、討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより議案第81号から議案第83号までについて分割採決いたします。

まず、議案第81号　伊豆市税条例の一部改正について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第81号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第82号　伊豆市湯の国会館条例の一部改正について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第82号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第83号　伊豆市スポーツ振興審議会条例及び伊豆市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第83号は原案のとおり可決されました。

**◎議案第８４号の委員長報告、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、日程第31、議案第84号　伊豆市指定金融機関の指定についてを議題といたします。

本案についても、総務教育委員会に審査を付託してありましたので、審査の経過と結果について委員長の報告を求めます。

総務教育委員会委員長、内田勝行議員。

〔総務教育委員長　内田勝行君登壇〕

**○総務教育委員長（内田勝行君）**　８番、内田勝行です。

ただいま議長から報告を求められました議案第84号　伊豆市指定金融機関の指定について、審査の経過と結果を御報告いたします。

当局からの補足説明はなく、質疑を行いました。

現在の指定金融機関であるスルガ銀行は承知しているか。また、三島信用金庫への交代は１月１日からだということだが、うまくいくのかとの質疑に対して、もちろんスルガ銀行は承知しております。コンピューターの入れかえは、年末の閉庁期間を利用して行いますので、１月１日から稼働できる予定ですとの説明がありました。

以上の審査経過の後、討論はなく、採決の結果、付託されました議案第84号につきましては、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上、委員長報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で各委員長の報告は終わりました。

これより暫時休憩いたします。

なお、この休憩中に、ただいまの委員長の報告に対し、質疑、討論のある議員は通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩　午後　２時２１分

再開　午後　２時２２分

**○議長（杉山羌央君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまから議案第84号について、質疑、討論、採決を行います。

質疑の通告がありませんので、質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、討論に入ります。

討論の通告がありませんので、討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第84号は原案のとおり可決されました。

**◎議案第８７号の委員長報告、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、日程第32、議案第87号　字の区域の変更についてを議題といたします。

本案についても、経済建設委員会に審査を付託してありましたので、審査の経過と結果に

ついて委員長の報告を求めます。

経済建設委員会委員長、塩谷尚司議員。

〔経済建設委員長　塩谷尚司君登壇〕

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　ただいま議長から報告を求められました議案第87号について、主な審査の経過と結果を御報告申し上げます。

特に補足説明はなく、質疑を行いました。

委員より、参考図面の内容を確認後、この図面１は、区画整理前の図面のように見えるが、現地はもっときれいに整理されているかとの質疑に対し、図面の赤い線が法手続をとるための範囲で、４つの字が混在しています。この範囲を土地改良法で換地という作業を行い、一たん公図を閉鎖してしまいます。いわゆる真っ白にしてしまい、換地結果のとおり道路や水路、個人個人の境を整理したほうの公図につくり変えるものです。赤い線の範囲以内について公図をつくり変えるということですとの答弁がありました。

そのほかに質疑はなく、討論に付したところ、討論はなく、採決の結果、議案第87号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上、報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で委員長の報告は終わりました。

これより暫時休憩いたします。

なお、この休憩中に、ただいまの委員長の報告に対し、質疑、討論のある議員は通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩　午後　２時２４分

再開　午後　２時２６分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑の通告がありませんので、質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、討論を行います。

討論の通告がありませんので、討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第87号は原案のとおり可決されました。

**◎議案第８８号の委員長報告、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　次に、日程第33、議案第88号　公の施設の指定管理者の指定について（天城会館）を議題といたします。

本案についても、経済建設委員会に審査を付託してありましたので、審査の経過と結果について委員長の報告を求めます。

経済建設委員会委員長、塩谷尚司議員。

〔経済建設委員長　塩谷尚司君登壇〕

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　ただいま議長から報告を求められました議案第88号について、主な審査の経過と結果を御報告申し上げます。

特に補足説明はなく、質疑を行いました。

当議案の質疑の主なものとして、審査会の委員はどなたがなっているか、構成メンバーを教えてください。そして、その方たちはどういう採決をしたのか、どういう意見を出したのかをお尋ねいたしますとの質疑に、委員は10人以内となっておりますが、現在は７名でございます。学識経験者のうちから市長が委嘱する者というのが３名、それから、職員のうちから市長が任命する者というのが副市長を入れて４名の計７名です。主な意見といたしまして、事業内容についてですが、展示物だけで集客が見込めるのかどうかというような、観光振興にどのくらいつながっていくのかというような意見が出されております。また、天城会館でやる必要がある事業なのかという意見も出されております。お手元に配付されております審査会議事録の意見のところを今読ませていただきましたが、子細は資料にかえせていただきます。審査結果だけ申し上げますと、200点満点で100点を出したものが４名以上、過半数いればよいということになっておりまして、100点以上をつけたものが４名、以下が３名、以上でございますとの答弁がありました。

次に、天城の観光協会に1,000万円も投入して効果が出るような経営がここでできるのかどうなのか、ただ単に無駄な税金を投入するだけじゃないかと思いますが、いかがでしょうという質疑に対して、あのまま天城会館も廃墟と化していいのかどうなのか、そこの考え方１つになるのかと考えております。廃墟にするんではなく、こうやって地元からそこを使って、何とかしていこうという機運が今出てきている以上、そこを後押ししながら天城ににぎわいを取り戻すために支援していきたい、そう考えて今回の提案をしているわけですとの答弁がありました。

死に体のところに幾ら金を投入しても無駄金を投入しているだけではないかとの質疑に対し、もちろんこのままであれば衰退してしまう。そういう危機感があそこにあるから、あそこに今の指定管理者を導入しながら、にぎわいを取り戻していこうということであります。また、一方で、文学の里であるとか、そういうような地域の動きを生かしながら観光施設として生かしていくということが、今後のにぎわいづくりにつながっていくものと考えておりますとの答弁がありました。

また、目的はわかるが、自治法にのっとった指定管理なのかどうなのか、特に行政の仕事

というのは、ちゃんとしたルールにのっとっているかどうかということがまず前提条件であると思います。そういう意味で、この仕事は本当に蛍を飼うこと、土産物を売ること、吉本興業を呼んでウルトラマンや大魔神、ゴリラ、あるいは所ジョージのいろいろなことをやることが行政の仕事であるのか、どのようにとらえていますかとの質疑に対し、まず、基本的に条例改正し、指定管理者制度を導入することができるかどうか、そういうことをまず６月の議会で議決していただいたわけです。その上でこの施設をその施設の目的に沿った形で運営していく上で、管理の仕方をどうするかというのが指定管理者制度をとるのか、それとも直営でやるのかという議論になりますが、その上で今回、私どもは指定管理者制度をとるということで提案させてもらっているわけです。その内容につきまして、もし公の施設として間違っているということであるのかないのかという話になるかと思いますが、それに関しては、通常公の施設として５つの基準というものがありまして、ただいま住民の福祉に資するものであるとか、利用に供するものであるとか、そういったものがありますが、６月議会のときにも話をさせてもらいましたが、若干基準にはグレーゾーンがあります。グレーゾーンがありますが、こういう部分で多の市町村の動向等をかんがみまして、私どもは、これは公の施設として問題がないものというふうに考えています。その上で、先ほどの質問でありますが、地域活性化、あるいはカンフル剤として成り立つのかどうかということですが、これも市長の本会議の答弁のとおり、本当の意味でのカンフル剤となるかどうかというのは、実際のところ難しいところがあります。ただ、あそこをあのまま廃墟にしていいのかどうなのか、これは市長も答弁で申し上げたとおり地元から上がってきたプランの中で、これを運営していきましょうということで、この指定管理者制度が出ていますので、これが本当に最後のチャンスではないかというようなことで、市長が答弁申し上げたとおりです。また、先ほどの御質問の中で指定管理の審査会の中で１年ごとに見直したらどうかという話がありましたが、これは制度の中で毎年報告を求められることになっています。報告を求め、自己評価してもらった中で、もしそれがまずければ改善勧告を市から出すということにしているものです。指定管理について可決いただきましたならば、その後に協定を結んで指定管理に移行するわけですが、１年たてば実際にちゃんと成果が出ているかどうか、そうした報告ももらい、もし成果が出ていないようであれば、私どものほうできっちりと改善勧告に向けて正していく、そういうやり方をしながら進めていきたいと思っているところですとの答弁がありました。

次に、敗戦処理の事業とは、このような大盤振る舞いで３日に１回しか働かない人に400万円、そのパート、普通パートというのは大体800円です。800円で８時間働いて6400円、20日間働いて13万円ぐらいです。このパートの人たちは200万円かせぐのにどういう労働条件でやるのか、館長の仕事についても、その辺のところの400万円の根拠というものを説明してくださいとの質疑に対し、労働条件についての子細は申しわけないですが、把握しておりません。人件費単価ですが、時間850円の25日稼働で見ているようです。そうするとちょう

どこの数字に落ちつく形になります。館長のほうですが、積算資料で10日ということで、これは伊豆市に在住するのが10日で、あと営業とかに回るというふうな形で聞いていますとの答弁がありました。

さらに地域の競合、あるいはいろいろな意味で民間の圧迫というようなことが可能性として考えられるのではないかと思いますが、その点に対する配慮のようなものはどのように考えていますかとの質疑に対し、観光協会が提案してくれたことで、観光協会は幅広い分野からの地域の団体で、会員も相当いらっしゃるという状況にあります。したがって、そのような形でのパイの場合という部分については考えにくい団体ですので、純然たる民間でやるよりも、よほど安心というふうに感じます。だからこそ協会がこうした提案をしてきただろうというふうに理解しておりますとの答弁がありました。

また、10月１日から指定管理機関にするという提案ですが、審査会の意見を拝見して、確かに心配になるところが幾つもありますので、当然指定管理者との協定書の案というのはできていますか。その中で審査会の意見というのはどの程度反映されていますかとの質疑に対し、原案はつくってありますが、まだ議会で御承認をいただかないとどこへも出せませんが、あくまでも事務方の準備として着手してございます。４点について答申書をいただいていますので、その答申書に基づいた項目は入れてあります。具体的には、展示等誘客関連事業の具体策を明確にすること、収支計画の見直しを図ること、提案要綱の確実な実施を図ること、自己評価を行うことです。もう一つは、地域住民と一体となった物販の実施とか、文化的な観光資源の有効活用を図ることを盛り込みます。答申書をもらってありますから、これは盛り込まざるを得ないというふうに考えておりますとの答弁がありました。

質疑に引き続き討論に付する前に、継続審議の動議が出され、継続審査とするか否かについて諮ったところ、可否同数でありましたが、当議案の指定期間が10月１日からであり、閉会中の継続審査とすることは議案にそぐわないと私が判断しましたので、委員会条例第16条の規定に基づき委員長採択により、否決といたしました。

続いて、討論では３人の反対討論、１人の賛成討論があり、採決したところ、退席による棄権者が２名ありましたが、定足数に達しておりましたので、棄権者以外の出席委員で採決を行った結果、挙手少数で、原案は否決すべきものと決定いたしました。

以上、報告を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で委員長の報告は終わりました。

これより暫時休憩いたします。

なお、この休憩中に、ただいまの委員長の報告に対し、質疑、討論のある議員は通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩　午後　２時４０分

再開　午後　２時４４分

**○議長（杉山羌央君）**　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑の通告がありますので、これを許します。

５番松本覺議員。

〔５番　松本　覺君登壇〕

**○５番（松本　覺君）**　５番、松本でございます。

議案第88号　公の施設の指定管理者の指定について（天城会館）について質疑を行います。

①、平成22年12月22日付総務省自治行政局長の助言、通告に基づく審査がなされましたか。具体的に申しますと、指定管理者制度の意義を踏まえ、事業計画書が委員会に提出資料として提出されましたか、明記されております。これをまず伺います。

そして、出ているいないにかかわらず、それに基づく審査がなされ、適切な選定がなされましたか、これが①番です。

②番、選定に当たって法令順守、労働条件への適切な配慮がなされ、審査が行われましたか。適正な法令という言葉が入っておりますが、市長の答弁の中に、必ずしも法令に触れないと、100％それは断言できないという答弁がございました。それに基づいて、委員会でそれの指定するか釈明するか、こういうことでやるかということが明確にされたかどうかということであります、２番目。

３番目、この議案が法に触れる可能性はないか審査がなされましたか。ちょっとダブりましたけれども、前のほうは労働条件等の法令と考えてください。３番目が、先ほど言いました市長の答弁というふうに考えてください。必ずしも100％法に触れないと、断言できないという節であります。それについて、委員会ではその審査がなされたか、釈明がなされたかということであります。そういうことが論議なされて、そして結論がはっきりされましたか。

４番目、これは、この制度の意義ということで読みかえていいわけですが、住民の利便性の向上及び市の経営負担の軽減の担保が保障されているか、この審査はなされましたか。先ほど報告にも若干ありましたけれども、明確にしてくれないと、法の精神といいますか、法の意義が守れませんので、改めてその審査の概要というか結論をお伺いしたいと思います。

５番目、選定候補の実務者の実績評価はなされましたか。

以上、５点を伺います。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

塩谷委員長。

〔経済建設委員長　塩谷尚司君登壇〕

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　松本議員の質疑にお答えいたします。

１番の自治省行政局の助言に基づいた指定管理制度についての審査がなされたかということでございます。

これにつきましては、６月の定例会のときにいろいろ議論がありましたが、指定管理にす

るということで条例を改正したので、そのときに話ができたのかなと、私は思っております。

それから、事業計画でございますが、事業計画につきましては、そういったものははっきりしたものは出ておりません。ただ、６月の定例会に観光協会天城支部の提案書というのはいただいて、それを回してもらっております。

それから、法令遵守、労働条件ですが、先ほど報告書の中でお話をしたと思いますが、労働条件のほうですが、労働条件と言えるかどうかわからないんですが、850円で25日のパートと、400万円の支配人の人件費ということは聞いております。子細については把握していないとの答弁がございました。

それから、法令に触れる可能性はないかという審査はされたかということでございますが、委員会でも法令に違うじゃないかというような言い方は、話し合いはしましたが、副市長の答弁として、若干グレーゾーンがありますけれども、６月の議会で天城温泉会館を天城会館に変更するということで、条例改正の議案を可決いただきましたが、その中で同会館の目的についても若干の変更を加えております。従来は伊豆市の生活文化、観光及び農林業の振興並びに地域経済の活性化を図るためとしておりましたけれども、条例改正の中で生活文化と産業の振興及び地域経済の活性化を図ることを目的にこの施設をしたわけで、それを公の施設というという説明でございました。

それから、住民の利便性の向上及び市の経費負担の軽減、この概要書の中にはそういった文面が余り深くは入っていなかったと思っておりますが、松本議員の質問の中に若干触れてあるということでしたので、どこだったかなと、今戸惑っているところでございます。

最後の選定候補者の実績評価はしておりません。

また、質問があったらひとつお願いします。すみません。

**○議長（杉山羌央君）**　松本覺議員。

**○５番（松本　覺君）**　突然の長い質問で戸惑ったかと思いますが、確認いたします。

①番目、事業計画書は出されているか、いないかというのは、主な質問であります。ここは、行政局長の助言には、はっきりと管理者制度候補については、事業計画書を提出して、それに基づいた選定が望ましいと書いてあります。望ましいというのはどういうことかというと、非常に単一的な、例えばこのホールを管理指定にして貸せるか貸せないかという、非常に単純な問題ならば、これは口頭で済むかもしれません。入場料幾らとか、時間幾らとか、どういう条件で貸せますよとかということなら、これは簡単に済みます。

しかし、このたびのように使用目的とか、非常に多様な使用方法と委託がなされるわけですから、当然はっきりと議案書に添付した資料として、この事業計画書がつけられなければいけないと、私は思っておりますし、そのように局長通達には書いてあります。

ですから、何とか提案というようなものがあったのかもしれませんが、それは、これには該当しません。しっかりと事業計画書という明文を打って、議案書に添付しなければならないと私は考えますが、それはないでいいですね。

**○議長（杉山羌央君）**　委員長。

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　はい。

**○議長（杉山羌央君）**　松本覺議員。

**○５番（松本　覺君）**　はい、わかりました。

それから、２番目の選定に当たっての法令遵守、労働条件はということですが、答弁の中には、はっきり決まっておりませんというふうな答弁が当局からあったと書いてあります。つまり給料ぐらいはあるけれども、例えば勤務時間はどうなのか、こういう労働条件、雇用条件が明記されていなければ、これは労働条件とは言わない。そのことは提案されていましたか、どうですか、お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　委員長。

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　子細については、まだ把握しておりませんという答弁でした。

**○議長（杉山羌央君）**　松本覺議員。

**○５番（松本　覺君）**　把握していない、提案されていないと。

３番目、法に触れる可能性があるという市長の言葉がありました。私としては、大変重要な問題だと思っておりましたが、それが委員会について、グレーゾーンがあるというような答弁がなされたというふうに先ほども報告がされました、副市長からあったと。グレーゾーンがあるということは、法に触れる可能性があると言っていることと同意語ですね。それでいいですね、そうとらえて。グレーゾーンはあると言っているんですから、そういう解釈でいいですね。

**○議長（杉山羌央君）**　委員長。

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　それは副市長の答弁ですので、グレーゾーンがどうかというようなことがあったときに……

**○議長（杉山羌央君）**　松本覺議員。

**○５番（松本　覺君）**　あったことは事実ですね、副市長からグレーゾーンの部分があるという答弁があったということ。それから市長は、100％法に触れないとは断言できないというのはここでおっしゃった、そのことが３番目。

それから、今までは選定についてですから、６月のことは関係ないわけです。現在は、選定について私は申し上げているんですから。

そこで、４番目は、これは全体にかかってきますが、選定に当たって、例えば観光協会を選定した場合に、住民の利便性の向上につながるということが具体的に述べられていますかと。事業計画書がないんですから、述べられていないと私は解釈しますが、利便性、それから市の負担の軽減というのが指定管理者制度の意義でありますから、根幹にかかわりますから、この方たちに管理委託して利便性や市の負担が軽減されるかどうかというのは、非常に重要な問題です。そこのところがはっきりと審査されて、結論はいかがですか。

**○議長（杉山羌央君）**　委員長。

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　されておりません。

**○議長（杉山羌央君）**　松本覺議員。

**○５番（松本　覺君）**　５番目、選定、実務者の、当然選定するには、この方なら大丈夫だろうと、私たちが思わないと選定にならないですから、私らもそうなんですが、実務者の実績評価はしましたか。つまり市の観光協会はこういう仕事の実績があるかどうか、その実績評価はされましたか。

**○議長（杉山羌央君）**　委員長。

**○経済建設委員長（塩谷尚司君）**　委員会では実績の報告はございません。

〔「質問は了解、これまで」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　以上で、通告による質疑は終わりました。

これで質疑を終結いたします。

**○議長（杉山羌央君）**　松本覺議員。

**○５番（松本　覺君）**　動議を提案いたします。

それでは、自席で動議を出させていただきます。

私ごとで申しわけありませんが、天城地区には勤務16年、住民として８年を生活いたしました。伊豆市の産業振興はもちろんですが、当該地区に対する観光産業の復興の思いは殊さら強く持っております。天城会館の有効な活用について何の異存もありません。

しかし、今の質問でおわかりのとおり、法に触れるかどうか明確でありません。我々は法に触れるかもしれないような提案をのむわけにはいきません。これは明快にしないとならないと、私は思っております。

２つ目、事業計画が提出されていないということが明らかになりました。

３つ目、選定基準が不明確であり、指定管理者制度の意義に合致しているかどうかも審査がされていないんですから、不明確であります。

要約して、以上、３点によって、私は活用については大賛成なんですが、一方、このような不明確なまま是非の採決をするには、私は大変に困惑いたします。少なくとも、この３点が明確にならなければならない。それでないと市民に負託された議員の職責が果たせない、私は思うところであります。市民に確信を持って説明ができるよう、十分な審議を必要とすると思います。

したがって、会期の延長を求める動議を提出いたします。あえて申し上げますが、この提案は審議の延長でありますので、議案に対する賛否とは、基本的に違うことを申し添えます。

以上であります。

**○議長（杉山羌央君）**　会期の延長の動議ですか。

〔「そうです」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　動議の提出に２名以上の方が必要ですので、賛成をする方。

今の松本議員の動議に対して同意をする方は、会議規則ですと２名以上ですので……現の伊豆市会議規則によって、松本議員の動議に賛成の方は挙手願います。動議を取り上げるかどうかについて、賛同される方の挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

**○議長（杉山羌央君）**　３名以上いますので、動議を受け付けます。

ここで暫時休憩をいたします。

休憩中に、議会運営委員会を開催していただきたいと思いますので、議運の委員長は招集を願います。

休憩　午後　３時０９分

再開　午後　３時２６分

**○議長（杉山羌央君）**　おそろいのようですので、休憩前に引き続いて会議を開きます。

先ほど松本議員のほうより動議が出されました。会期の延長ということで動議が出されまして、それを同意される議員が３名以上いましたので、これの動議については受理されました。

その後、議運の皆さんに参考意見として私のほうでお聞きしました。

次に皆さんにお諮りいたします。

この松本議員の会期の延長という動議について、賛成の議員の起立を求めます。

〔「動議」「動議の動議はちょっとない」「休憩動議。判断できないからその時間ほしい、いきなり言われても。ないのか」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　もう一度、申し上げます。

松本議員より出されました動議の会期の延長についての議員の賛否を求めます。

松本議員の会期の延長について、賛成の議員の起立を求めます。

〔起立少数〕

**○議長（杉山羌央君）**　わかりました。

動議につきまして賛成少数。よって、この動議は否決されました。

では、次に、討論に入ります。

討論の通告がありますので、これを許します。

最初に、19番、三須重治議員。

〔１９番　三須重治君登壇〕

**○１９番（三須重治君）**　19番、三須重治です。

議案第88号　公の施設の指定管理の指定について（天城会館）について反対討論をいたします。

今回の指定管理の提案内容に対し、この指定管理事業そのものが法に違反するのではない

かといった質疑が担当委員会でありました。これに対し、行政運営ではままグレーゾーンで行う政策もあり、今回のこれもそれに順ずるといった趣旨の答弁がありました。

私も、この事業内容を公の仕事として指定管理をすることには大いに疑問を感じますが、唯一、当局提出の提案書の運営体制３にうたわれている地元との協力による地域に貢献する運営として以下のように述べています。

伊豆市役所はもとより、商工会、観光協会、ＪＡ等、地元団体との連携を密にし、地元との協力関係構築に注力し、地域の特色を生かし、地域に貢献できる運営を行うとうたっております。

私は、ここにグレーゾーンの範囲の何とか正当性を見出そうとしたのですが、運営収支案を見たときに、これでどうして地域に貢献できる施設になるのか、全くイメージがわきませんでした。また、この議案が提出されてから今日まで相当日数もありましたから、事あるごとに市民の中に話題を提供してきましたが、だれ１人これを評価した人はいません。全員が無駄なお金を使うねという意見でした。さらに、地域の活性化を本当に考えているのであれば、内容の吟味をさらにすべきだと思います。

以上の理由で反対をいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　次の反対討論を行います。

３番、稲葉紀男議員。

〔３番　稲葉紀男君登壇〕

**○３番（稲葉紀男君）**　３番、稲葉紀男です。

本議案に対する反対の立場から討論をいたします。

この議案は、さきの６月の議会にて旧天城温泉会館を天城地区の生活文化と産業の振興のためと称して、その実態は雇用対策と私の団体である観光協会の営利目的のため、天城会館を指定管理とする条例をこの場で、我々の議会の場で可決してつくったわけです。そして、今回、このことを法的根拠にして観光協会天城支部に対して施設の無料貸し付けと年間2,500万円もの公の金を市の事業を委託料として払い、指定管理に指定しようとするものです。

本来、天城会館は公の施設としての伊豆市民全員の持ち物であり、その目的は公共の利益のため、多数の住民に対して均等に行政サービスや福祉を提供することを目的として設置、使用されるべきものです。また、指定管理者制度とは、そのサービスや福祉の向上のため、さらに経費節減を目的としてその管理を民間に委託する制度であります。決して一部地域の観光業者のための蛍の飼育や、お金もうけのものを売る事業の施設ではありません。しかしながら、我々は、冒頭言いましたように、このことも含めて地域の文化が、あるいは産業の振興ということで、この議会で可決したわけです。そういう前提が今まであるということを認識しなければいけないと思います。

今回、経費が２倍以上になると、今は1,800万円だったのが、さらに2,500万円オンすると

いうことも既にわかることです。そして、これを前提に今議論しているわけですけれども、しかし、今本当にこれが天城地区の文化と産業の振興になるかどうかということが今回の論点の一つであろうかと思います。

私は、幾らもうかるかもしれませんけれども、吉本芸人の作品の展示が、井上靖や川端康成ゆかりのある誇りと伝統のある、伊豆市天城地区の生活文化の振興につながるとは思いません。また、蛍の飼育を伊豆市の仕事として取り入れ、それを業務委託して、しかも、これは公の施設の明らかに施設を目的外使用にすると、このことは市長さんの口からも述べられています。本来あるべく指定管理者制度の施設の目的から外れた事業です。こういう必要が果たしてあるでしょうか。そして、このことが産業の振興にどのくらいつながるんでしょうか、大いに疑問です。

指定管理者制度の運用については、先ほど平成22年12月の総務省自治行政局局長の、これは適切な運用についての助言という形で出されています。その場合に、平成20年６月、これは指定管理者制度が始まってから５年たった区切りのいいときで、そのときには、総務省次官通達として出されています。その中では、指定管理者の選定の際の基準設定に当たっては、公共サービスの水準の確保の重要性とともに、指定管理者の適切な評価、選定、今回は観光協会の天城支部に該当していますけれども、選定に当たっては、専門的知見を有する外部有識者等の視点を導入することの重要性、外部の意見も聞きなさいよということの重要性が強調されています。

この点、本件については、去る８月10日に外部有識者３名、副市長以下、伊豆市役所内部委員４名、計７名から成る指定管理者審査会が開催され、ここで指定管理者制度の採用と管理者としての伊豆市観光協会天城支部の適否、これが審査会のマターとして、仕事としてここで議論されたわけです。

その結果、どういうことが議論されたかというと、事業内容や収支計画、また、指定管理料や指定管理の見直し、さらには、館長について月10日の非常勤勤務で年俸400万円ということの妥当性、意義、さらにその有識力、あるいは営業力というものがいかがなものかというものが議論されたというふうに議事録から見ると読み取れます。

そして、問題点も多く出されたわけです。そして、賛否については、先ほどの採点方式200点満点で100点以上のものの数の多数決ということで決められました。結果は４対３、ぎりぎりの結果でした。

この問題点は、内容は委員会、あるいは本会議で議論されたことが多く含まれています。極めて常識的なことだと思います。それで、この問題点は市長へ答申書という形で提出されております。しかしながら、今回の議案の段階では、これが少しも反映されているとは感じられません。

ところで、４対３の可決は、内部委員４名と外部委員３名の数と一致します。これは単なる偶然なのでしょうか。総務省通達の外部有識者の視点の重要性は尊重されたのでしょうか、

多いに疑問です。

我々議会は、さらに議案の今回の指定管理者制度が将来にわたって安定的、継続的に運営していくことが可能かどうかも考えなければいけません。この点、本議案は、市長の言う敗戦処理であり極めて不安があります。これでは議員として、広く伊豆市市民へ対して議案賛成、可決の納得のいく説明は、私にはできません。

上位法である地方自治法の精神、これは、指定管理者の公の施設の当たり前の広く住民への福祉とサービスの向上、さらには経費の節減というふうなものが指定管理者制度の本旨であります。これに照らして、この精神を、法律を曲げて、我々は伊豆市の条例としてつくちゃったわけです、産業振興ということでつくっちゃったわけです。これは、一部の者の雇用や金もうけのためのルールとするということに、私には思えてなりません。現在、財政の厳しいおり、先の見えない事業への我々の甘さは許されないと思います。

以上をもちまして、反対討論といたします。

**○議長（杉山羌央君）**　次の反対討論、12番、森良雄議員。

〔１２番　森　良雄君登壇〕

**○１２番（森　良雄君）**　12番、森良雄です。

議案第88号　公の施設の指定管理者の指定について、天城会館について反対討論をさせていただきます。

さて、議員の皆さん、出てくるのは反対討論ばかりです。なぜ賛成討論をやらないんですか。堂々と賛成なら賛成と議論しましょうよ。ただ賛成ありきでは、伊豆市の発展はありませんよ。我々は伊豆市を発展させるためにここで議論するんです。それが議員の務めだと思っているからです。

さて、市長さん、21日の台風15号、大変でしたね。市長さんはどこにいらっしゃいましたか。教育長、狩野小学校をごらんになりましたか。大変でしたでしょうね。

ところで、建設部長からは台風15号の被害状況について、復旧状況について、道路についてはほぼ点検は済んでいるというふうに伺っていますね、点検ですよ。

これは観光施設だから、私は一言言いたいんですよ……意見があるんだったら、ここへ来て堂々と賛成討論しなさい。

市長さん、観光施設の状況の被害状況はどうですか、把握していますか。私は22日、仁科峠から天城峠へ向かったんですけれども、５キロしか進めなかったです。遊々の森から二本杉峠へ向かった人たちは行けなかったようです。

〔「議長、注意してください」と言う人あり〕

**○１２番（森　良雄君）**　何、言ってんだよ、観光施設の現状を把握しているかどうかなんだ。

**○議長（杉山羌央君）**　議案に沿って、第88号に沿って討論をお願いします。

**○１２番（森　良雄君）**　これは観光施設なんですよ、議長。

2,400万円を投資する議案なんです。2,400万円、日当１万円の人夫を雇ったら240人雇え

るです。天城山中の道路がどうなっているか、１週間もあれば把握できるでしょう。私のところへは、あしたも動員の要請が来ておりますけれども、残念ながら私は出られそうもないです。

さて、この指定管理者制度ね、今、稲葉紀男議員から詳細な反対討論がありましたので、私は、それをちょっと補足したい。

審査会外部委員というのは、そうそうたる伊豆市の有識者です。審査会内部委員、副市長、総務部長、市民環境部長、潮木観光経済部長、４人の皆さん、この施設が活性化できると思いますか。少なくともこの伊豆市指定管理者審査会議事録を見る限り、これは想定ですが、外部委員の方でしょう。展示物だけで集客が見込めるのか、観光振興にどのくらいつながっていくのか、こういう意見が出されているんです。天城温泉会館でやる必要がある事業なのか、こういうことも言っています。うまくやらないと単なる資料館のようなものになってしまう危険がある。展示の方法と提案内容が抽象的で、具体的内容はプレゼンの中で出てこなかった。もっと具体的にどんなことをやりたいのか出してもらう必要があるのでは。展示について、委託業者に丸投げでは、指定管理の意味がないのでは。天城温泉会館をどのように活用していきたいのか、方向性が見えない。観光目的なのか、地域活性化なのか、全部読むとまだ時間がかかりますので、この程度でやめますけれども、まだまだ裏に１ページ分、いろいろな意見が出されているんですよ。いわゆる経営の専門家たち、会長が商工会長ですよね、これ。名前が書いていないからわかりませんけれども、こういう方たちが疑問を出しているんです。

議員の皆さんの中でも、危惧を持っている方があると思いますけれども、いわゆる旧天城支部の東京ラスクに貸した分、恐らくこの施設で物品を販売すれば、競合することは確実だと思います。こういう状況をどのように把握しておりますか。はっきり言って、審査会には企画書が出されたんでしょうけれども、我々議員には、ここでどういうふうに運営されるのか、松本議員がおっしゃるように、議会に対しては、指定管理者の観光協会からの企画書は見えません。このような中で、きょうここで可決してよろしいんでしょうか。

いつも言っているように、この施設は死に体なんです。400万円出すんだったら、私は500万円でも1,000万円でもいいと思いますよ、有能な管理者を招聘して、この施設を生き返らせる。恐らく1,000万円もらうような人だったらやってくれるでしょう。しかし、残念ながら400万円で来てくれるような人、どんな仕事をやってくれるのか。この施設を生き返らせるには、並大抵の努力では生き返りません。恐らく24時間365日、館長は働く必要がある。しかし、残念ながら400万円で来るような人には、それだけの意欲はないでしょう。

ただ単に、どなたが館長になるか知りませんけれども、ただただ給料泥棒になるにすぎないということを断言して、私は反対討論を終わらせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

私は、議案第88号に反対の立場で討論を行います。

平成22年12月に、伊豆市観光協会天城支部から天城温泉会館再生プラン提案書なるものが市当局へ提出されました。それによると、天城地区の観光の活性化を図るために、休止状態の天城会館の３階を吉本芸人作品展等を展示するアートミュージアム及び土産物を販売する物販コーナーとし、１階を蛍の飼育場とする、そういうプランであります。

そして、その管理運営は、伊豆市観光協会が指定管理者として行い、その管理料として、年間2,500万円を市から支出させ、さらに展示料、展示入場料を年間1,000万円、売店販売収益年間120万円を観光協会の収入としようとするものであります。ただし、事業性に難があるとの理由で、劇場ホールと夕鶴会館は、この指定管理計画から外されております。

この２施設は、従来どおり市が直営で1,800万円をかけ管理してくれというものであります。

この計画ですが、年間2,500万円もの指定管理料を支払うこともさることながら、天城会館の中で最も重要な劇場ホールと夕鶴会館を指定管理から除外するとは、本末転倒も甚だしいと言わざるを得ません。市は、この法外な要求を丸のみし、その実現を図るべく本定例会に提案をしてきたわけであります。

本議案の冒頭に地方自治法第244条の２第６項の規定により次のとおり公の施設の管理者を指定すると書いてありますが、この公の施設とはどのようなものでしょうか。公の施設とは、地方自治法第244条第１項において、住民の福祉を増進する目的を持って、その利用に供するための施設と、こう定義されております。したがって、役場庁舎などの住民の利用に供することを目的としない施設、物品陳列や観光物産、あっせん所などの当該地方公共団体の住民の利用に供しない施設、競輪場、競馬場など、地方公共団体の収益事業のための施設は、公の施設ではないと、こう規定されております。

それでは、公の施設とはどんなものを言うのでしょうか。主なものとしては運動場、体育館、図書館、文化会館、公民館、学校、保育園、老人福祉施設、上下水道、公園、道路、河川等が挙げられます。したがって、観光客相手のアートミュージアムや土産物販売所、蛍の飼育場などは、どう市長が強弁しても市民の福祉の増進に寄与している施設とは考えられず、すなわち公の施設に該当しないことは明らかであります。

地方自治法第244条の２第３項は、普通地方公共団体には公の施設の設置の目的を効果的に達成するため、必要があると認めるときは、当該普通地方公共団体が指定するもの、すなわち指定管理者に当該公の施設の管理を行わせることができると、こう規定されております。

天城会館のうちアートミュージアム、物販コーナー及び蛍飼育場の部分を公の施設と認めることは、地方自治法に照らせば限りなくゼロに近いということであります。

したがって、公の施設でないのに指定管理者制度を導入するということは、これは不可能

であると考えます。もしどうしても天城の活性化、観光振興のため天城会館が必要というのなら、１階、３階の該当部分を公の施設から外し、観光協会なら観光協会に貸し付けて事業をやらせればそれで済むものであります。一般会計から2,500万円もの大金を支出して、指定管理をさせるというようなことは、市民の皆さんが知ったら、だれも１人として納得しないで、ついには行政不信に陥ることは明らかであります。

本案は、地方自治法違反の疑いが非常に濃厚な欠陥議案であります。

次に、伊豆市指定管理者審査会が８月10日に開催されました。そこでは、伊豆市観光協会が天城会館の指定管理者に選定されたようですが、その内容は問題点、疑問点だらけであります。選定は採点方式で行い、何人の議員さんからもお話がありましたが、委員７人中４人が合格点で、３人が不合格だということです。ただし委員７人のうち３人が外部委員で、４人が副市長以下、市の幹部職員となっております。

このような委員構成では、市職員は批判めいた意見など言えるはずもなく、ましてや反対などできるわけがありません。結果はやる前からわかっており、選定の可否については全く意味のない審査会ということが言えると思います。

さらに委員から多くの問題点、疑問点が指摘されました。先ほど森議員もおっしゃっておりましたが、全部で20幾つかの意見が出されました。幾つかを列挙しますと、展示や物販などは天城会館でやる必要性がある事業なのか。１つ、展示について委託業者に丸投げでは、指定管理の意味がないのではないか。１つ、天城会館をどのように活用していきたいのか、観光目的なのか、地域活性化なのか、方向性が見えてこない。１つ、最後ですけれども、展示の方法等、提案内容が抽象的で具体的な内容がわからない。もっと具体的にどんなことをやりたいのか、出してもらう必要があるのではないか。これらのほかにもいろいろ問題点を指摘する御意見がありましたが、恐らく外部委員の皆さんの御意見が大多数であると思います。

いずれにしても、これらの非常に重要な問題点は、何一つ解決されていない。何も解決されていないのにもかかわらず、市長は強引にこのような市民を欺くような議案を出してくる、全く無責任きわまりないと言わざるを得ません。

９月14日の経済建設委員会が同議案を賛成多数で否決したことは、しごく当然の結果であります。先ほどといいますか、もう大分前になりますけれども、塩谷経済建設委員長が議員の皆様に、本案は否決すべきものと報告したわけですが、これと同様に、皆さんに否決することをお願いしまして、私の反対討論といたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　次に、20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　議案第88号　公の施設の指定管理者の指定について（天城会館）について、反対討論を行います。

今現在、どういう状況なのかちょっと振り返りながら反対討論をやらせていただきます。過去に指定管理者を募集して２年が経過したんだけれども、すべてが不調に終わっているという中で、６月議会において市の直営から指定管理者という条例案が提案されました。

そのときの選択肢は、施設はこのまま使わないのか、それとも再度施設の活用という選択肢の中で、市長は後者を選択して、今お話ししたように市直営から劇場ホールと夕鶴記念館を除いた天城温泉会館の施設を指定管理者にゆだねるという提案をいたしました。議会としてその組織として、それを承認いたしました。

私は、そういう経過のもとで今議会にゆだねられているのは、指定管理の内容だと、私は思います。活性化を図るために指定管理を受け入れてくれる組織があればどこでもいいということではありません。６月議会から振り返ってみますと、極めておかしな提案がなされたのかなと私は思います。担当部は、提案する中身と、それに必要な資料を提出する順序が本当にあべこべです。６月の条例改正のときには、指定管理者の当てがないわけではないということで、観光協会天城支部の提案書が参考資料として経済建設委員会に配付されました。

今議会では、審議するには欠かせない資料が配付されないまま、詳細説明のないまま審査が行われました。じゃ、担当委員会の委員は何に基づいてやったかというと、６月議会で配付された参考資料に基づいて審査を行ったという状況であります。私は、そういう意味で福祉の向上に向かうのかどうかというところが十分に把握されない、また、説明されないまま今現在あるというふうに思います。

１つ目の具体的な反対の理由は、指定管理者である観光協会が天城温泉会館の再生プランを提案してきましたが、その再生に値するものなのかどうかは、本来は、ここに提出するに当たっては、判断するのは市当局ではないでしょうか。提案書を判断してもらうのは指定管理者審査会だから、担当部はお任せ的に考えては困る。具体例は、人件費、パート労働者、館長の給与等々について、一般会計補正予算の中で述べましたから詳しくは述べません。いわゆる人ごとのような内容でした。お任せ的な考え方がここにあったということでの提案であります。

第２の反対の理由、指定管理者の審査会の議事録からは、事業内容、収支計画、指定管理料、館長、指定管理機関の見直し等々は、22項目意見が出されたが、結果として審査会としては、この観光協会を指定管理者とするということがオーケーとなったという経過であります。なぜオーケーとなったのか、私はどこを読んだってわからない。

こういうふうに、それについて市当局は、担当部は答えております。収支計画の見直しを図るなど、それらの課題については、協定の中にそれらの意見を盛り込んでいくから、この中で判断していただきたいということでしたが、22項目もありながら協定書にお任せしますということで、私は承知しましたとは言えません。

私は、観光協会という組織が指定管理者としてふさわしくないと反対しているのではありません。他人ごとのように提案している担当部、政治的には市長にその責任がありますが、

ここに今回の提案が大きな問題があると私は思っております。さまざまな取り組み、地元ですから、伊豆市観光協会天城支部がさまざまな取り組みをしてきたということは、今回の議題外ですから述べませんけれども、今までと違った動きをしているというのは、私はつかんでおります。

最後に、私は、天城会館は市民にとってマイナスの施設だということは重々承知しております。議員の皆さんも市当局もそうでしょう。過去の政治上における政策的なさまざまな事業に対して、プラスの面もマイナスの面も、今我々が市民の代表としてその政治を引き継がなければなりません。それは、市長はもちろんのこと、我々一人一人の議員もどうやっていくのか、答えが求められております。私は、指定管理も拒否して、今のままかということは、いつの日かは取り壊すための財政支出をすることになるということですから、そういう選択肢は、今は私は求めるべきではないというふうに思っております。

ずっと私は一貫して気にしているのは、担当部が提案するに値するようなことをしっかりとつかんで提案していないということが最大の問題だと、私は思います。中の展示場等々の問題についてのことが言われましたけれども、一体全体、じゃ、提案するからには観光協会がそれについてどう考えているのか、それに対して市担当部はどのように考えているのかと、そういうことが全くわからない。もう一度、出直すことを求めて反対討論を終わります。

**○議長（杉山羌央君）**　以上で通告による討論は終わりました。

これで討論を終結いたします。

これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は否決であります。

委員長の報告のとおりこの議案を否決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立少数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者少数。

よって、議案第88号は原案のとおり可決されました。

４時20分まで休憩いたします。

休憩　午後　４時１０分

再開　午後　４時１９分

**○議長（杉山羌央君）**　では、休憩前に引き続きまして、会議を開きます。

**◎日程の追加**

**○議長（杉山羌央君）**　お諮りいたします。

お配りしてあります追加日程表のとおり、議案89号　伊豆市監査委員の選任についてほか４件について、これを日程に追加し、追加日程として議題としたいと思います。御異議ござ

いませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　御異議なしと認め、５件を日程に追加することに決定いたしました。

**◎議案第８９号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　追加日程第１、議案第89号　伊豆市監査委員の選任についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　議案第89号について提案理由を申し上げます。

過日、現在代表監査委員をお願いしております鈴木健範氏から一身上の都合で辞職願が提出されまして、これを受理させていただきました。

後任に宮内知秋氏を選任したく、地方自治法第196条に基づく監査委員の選任等について議会にお諮りするものでございます。

宮内氏は、昭和46年４月から平成20年６月までの37年余りにわたりスルガ銀行株式会社に勤務され、現在は、嘱託として同銀行に審査部審議役に就任されておられます。豊富な知識と経験を有しており、監査委員として適任者であると判断いたしました。

議会におかれましては、御理解いただきまして御同意を賜りますようお願いを申し上げて、提案理由の説明とさせていただきます。

**○議長（杉山羌央君）**　これで提案理由の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

２点ほど質疑をしたいと思うんですけれども、まず、その前にこの伊豆市監査委員の選任についてという議案ですけれども、この議案書を何でもっと早く出してこないのか、こんな、あなた、当日出してきて、これじゃ審査するたって、審査できるわけがないと思いますからね、私は何回も言っているけどね、こういうことは、もっと早く出して、そんな二、三日前にこの人が決まったわけでもないでしょうから、もっと郵送でも何でもいいから早く出してもらいたいと思います。

それでは、質疑を行います。

この新監査委員さん、宮内さん、なる予定の人ですけれども、この人の任期はいつからいつまでか、これが１つ。

それから、もう一つ、この宮内さんは、今スルガ銀行にお勤めということですけれども、

この人はスルガ銀行の常勤なのか、非常勤なのかお伺いいたします。

以上、よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

市長。

〔市長　菊地　豊君登壇〕

**○市長（菊地　豊君）**　１つ目の任期でございますが、10月１日から27年９月30日までの４年間の予定でございます。

２つ目ですが、先ほど嘱託と申し上げましたけれども、嘱託で非常勤だそうでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　ないようですので、以上で質疑を終結いたします。

お諮りいたします。本案については、会議規則第37条第３項の規定により委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　御異議なしと認めます。

よって、本案については委員会付託を省略することに決定いたしました。

次に、討論に入ります。討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　討論なしと認め、討論を終結いたします。

それでは、お諮りいたします。

議案第89号　伊豆市監査委員の選任について、同意することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、議案第89号　伊豆市監査委員の選任については同意することに決定いたしました。

**◎発議第５号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　追加日程第２、発議第５号　伊豆市議会会議規則の一部改正についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

議会運営委員会委員長、飯田正志議員。

〔議会運営委員長　飯田正志君登壇〕

**○議会運営委員長（飯田正志君）**　発議第５号　伊豆市議会会議規則の一部を改正する規則について提案理由を御説明申し上げます。

今回の改正骨子でありますが、規則第14条の議案の提出、第16条の動議成立に必要な賛成

者の数及び第17条の修正の動議の関係におきまして、自治法に定められた規定より、市の自由裁量による定める部分のハードルが高くなっている事項が３カ所ほどあります。この箇所を他に倣い法と合わせるものです。

この詳細ですが、まず、規則第14条第１項の議案の提出につきまして、法第112条第２項の規定によるもの、いわゆる団体意思の決定関係とされる予算、条例等については、所定の賛成者が議員定数の12分の１以上、当市では２人以上とともに連署するということで運用してきました。

また、その他のもの、例えば機関意思の決定関係となります意見書、決議、懲罰等については、３人以上の賛成者とともに連署して議長に提出しなければならないとなっておりました。

そこで、今改正により法第112条第２項、団体意思の決定機関、予算、条例等の規定のよるものについては、発議者を含み２人とし、その他のものについても、発議者を含み２名に改めるものでございます。

次に、２点目の第16条の動議の成立に必要な賛成者の数でありますが、動議は法またはこの規則において特別の規定がある場合を除くほか、他に３人以上の賛成者がなければ議題とすることができないの３人についても発議者を含み２人とするため、他に３人以上の賛成者の箇所を１人に改めるものです。

最後の３点目でありますが、第17条の修正動議の関係となりますが、修正の動議は、その案を備え法第115条の２、議案に対する修正の動議を議題とするに当たっては、議員の定数の12分の１以上の者の発議によらなければならないの規定によるものについては、所定の発議者２人以上が連署し、その他のもの、議員発議によるものなどになりますが、３人以上の賛成者とともに連署して議長に提出しなければならないというふうになっておりましたが、同様に発議者を含み２人とするものでございます。

以上の３カ所を改正するものでございます。詳細については、新旧対照表で御確認願います。

なお、この規則は、交付の日から施行するという内容でございます。これで、発議第５号の提案理由の説明を終わります。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより発議第５号　伊豆市議会会議規則の一部改正についてを採決いたします。

原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立全員〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者全員。

よって、発議第５号は原案のとおり可決されました。

**◎発議第６号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　追加日程第３、発議第６号　学校施設の防災機能向上のための新たな制度創設を求める意見書の提出についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

７番、杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　７番、杉山誠です。

発議第６号　学校施設の防災機能向上のための新たな制度創設を求める意見書の提出を提案させていただきます。

意見書の文面の朗読をもって説明とさせていただきます。

学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、その多くは災害時には地域住民の避難所となるため、学校施設の安全性、防災機能の確保は極めて重要です。

この度の東日本大震災においても、学校施設は発災直後から避難してきた多くの地域住民の避難生活の拠り所となりましたが、他方、食料や毛布等備蓄物資が不足し、通信手段を失い、外部と連携がとれなかった等々学校施設の防災機能について様々な課題が浮かび上がってきました。

文部科学省は今年７月、「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」と題する緊急提言をとりまとめました。今回の大震災を踏まえ、学校が災害時に子どもたちや地域住民の応急避難場所という重要な役割を果たすことができるよう、今後の学校施設の整備に当たっては、教育機能のみならず、あらかじめ避難場所として必要な諸機能を備えておくという発想の転換が必要であることが提言されています。

災害は待ってくれません。よって、政府におかれましては、今回のように大規模地震等の災害が発生した場合においても、学校施設が地域の拠点として十分機能するようにすべきであるとの認識に立ち、学校施設の防災機能の向上を強力に推進するために、活用できる国の財政支援制度の改善並びに財政措置の拡充に関する以下の各項目について、速やかに実施するよう強く要望します。

一、新増改築時のみ整備できるとされている貯水槽・自家発電設備等防災設備整備を単独事業化するなど、学校施設防災機能向上のための新たな制度を創設すること。

一、制度創設にあわせ、地方負担の軽減を図るため、地方財政措置の拡充を図ること。例

えば、地方単独事業にしか活用できない防災対策事業債を国庫補助事業の地方負担に充当できるようにするとともに、耐震化事業同様の地方交付税措置を確保すること。

一、学校施設の防災機能向上とともに、再生可能エネルギーの積極的導入を図るため、太陽光発電のみではなく、太陽熱、温度差熱利用、蓄電池などについても補助対象を拡充すること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出する。

平成23年９月27日、静岡県伊豆市議会。

提出先は、下に示してあるとおりでございます。

以上、御賛同いただけますよう、よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

本来ですとここで暫時休憩をして、皆さんの質疑、討論の通告を受けるわけですけれども、相当時間が押しておりますので、即ここでもって質疑、討論を行いたいと思います。

御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　では、質疑をお受けいたします。

６番、西島信也議員。

〔６番　西島信也君登壇〕

**○６番（西島信也君）**　６番、西島信也です。

質疑を１つさせていただきます。

要するに、避難場所として学校施設も諸機能を備えておくということなんですけれども、下のほうに書いてあります、太陽熱、温度差熱利用、蓄電池などについても補助対象を拡充することと書いてありますが、これはどういうようなものなんでしょうか、お伺いいたします。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　お答えします。この太陽光発電のみでなくということは、いろいろな支援事業ということで、国の補助事業があるんですけれども、そのための拡充策ということです。学校施設防災機能向上に活用できる財政支援制度の中にも、いろいろなそういった今市の場合の停電対策として、自家発電設備等が求められておりますので、太陽光発電のみでなくということで補助対象の拡充、これを求めるものでございます。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　西島議員。

**○６番（西島信也君）**　いや、私がお伺いしているのは、太陽熱というのは太陽からの熱です

よね。温度差熱利用って、どういうものなのかわからない、蓄電池はわかりますけど。太陽熱をどうするのか、温度差熱というのは何の温度差熱なのか、よくわからないもので、わからなければいいです。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

杉山誠議員。

**○７番（杉山　誠君）**　技術的なことは十分説明できるわけではありませんけれども、太陽熱を利用した温水器であるとか、また太陽熱発電というのもあるそうでございますし、温度差熱、これも同じように温度の上がり、下がりによってポンプを稼働させて発電を行うというような方法があるそうでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　ほかに。

１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　２点ほど、すみません。

まず、これすべてがこの間、杉山議員が一般質問をなされたことって、相当中に多く市の項目に入っているものですから、私は、一番上のこういうことをいきなり国に要望するとかではなくて、まず、市のほうで１つでもできることからやっていって、いきなりどんというやり方はいかがなものかと思うんですけれども、それが１点と、これは、党からの何かそういうものがあったのか、この２点。これは大事なことなので、やっぱりそれは聞いておきます。それは必要です。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　お答えします。

まず、最初に市のほうに自分の一般質問でやったものであるから、それをまず市のほうで対策を求めるということでありますけれども、これは、あくまでも国の補助制度の拡充を求める意見書でございます。全国市議会旬報、これも配布されているんですけれども、この９月15日付のに全国から寄せられた意見書に対する評価というか、それが載っているんですけれども、意見書では、いまだ災害対応マニュアルが地方公共団体へ十分に普及していない現状を考慮するならば、国が早急に防災機能の基準を示すべきであろうということで、地方自治体によってばらばら、あるいは財政の状況によって温度差がある、そういう防災対策を国がしっかりと支援して、これは本当に大事なことであるので、国を挙げて取り組むべきであると、それをぜひ要望するという意見書の内容でございます。

もう１点は、党から案を提案されて、私がその中からこの伊豆市に合った提案として、それを選択して、ここで提案するものでございます。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

鈴木議員。

**○１番（鈴木初司君）**　では、もう１点、今の説明でありましたので、一番上のだけちょっと教えてください。

杉山議員がその党から言われた、何か選んだ、チョイスしたということなんだけれども、学校施設防災機能向上のための新たな制度を創設するって、何をいわんとしているか全然わからないんです。何を創設されてということをいわんとしているのか、全く具体性に欠けるものでどうにもならない、その辺を教えてもらいたい。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

杉山誠議員。

**○７番（杉山　誠君）**　党からということなんですけれども、国政のほう、国のほうで国として取り組むべきことを国会のほうでいろいろと進めているわけですけれども、地方からの後押しを得ることによってそれが前に進むということで、今まで学校の新増改築時のみ整備できるとされている貯水槽、自家発電と、こうありますけれども、これは学校施設の防災機能向上に活用できる財政支援制度というのがございます。

その中にいろいろな縛りがあって、地方公共団体が単独でここだけ進めたいと言っても、学校の新増築であるとか、大幅な改修と併用してやらないと補助金がおりないということもありますし、補助金の額も違います。補助率は新増築事業で原則２分の１の補助、それから大規模改修事業で、原則３分の１の事業ということで、なかなか地方にとって十分に活用できないということで、それをより財政支援を厚くするように求めるものでございます。

**○議長（杉山羌央君）**　ほかにございませんか。

20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　杉山議員にお尋ねします。

１、２、３、４と項目が幾つかありますが、お尋ねしたいのは、通常、意見書を上げるというのは、まだ姿が見えないんだけれども、国のほうで骨格が出てきたと、それをやりましょうということで、今言われた地方からもその声を上げたいということだと思うんですけれども、ちょっと調べましたら、５月末時点でちょっと日にちが違うみたいですけれども、こういうことが出ている。公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針と基本計画、長ったらしい名前ですが、そういうふうになって、既に文部科学省のほうは、この計画がつくられたという状況だと私は認識したんです。

それで、その点についてまだじゃなくて、既に対策が打たれているのかなと思ったもので、そういう状況じゃなかったのかどうかお尋ねしたい。

それから、２つ目です。２点目の耐震化事業同様の地方交付税措置をやりなさいと、いろいろな国庫補助事業の、なんですけれども、３月に特別措置法が改正されて、耐震化事業に

要する経費に対する国庫補助率のかさ上げ規定が平成28年３月31日まで延長されたというような、もうちょっと長いのがあるんですけれども、そういうふうに既に方針としては出ているんです。地方交付税措置というよりも、補助率をかさ上げしていきましょうと。いわゆる箇所づけしていきましょうということなもので、地方交付税というのは御存じのように全部だから、来ているのか来ていないのかよくわからないと。来ているらしいと計算でやるんですけれども、その点についてのどういうふうにお考えだったのか、提案するに当たりお願いします。２点です。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　お答えいたします。

基本計画については、申しわけないですけれども、私、承知しておりませんけれども、文部科学省がことし７月に東日本大震災の被害を踏まえた整備についてということで、緊急提言を取りまとめたということで、その時点で、まだ基本計画における学校整備の制度ができていないと判断いたしました。

２番目ですけれども、３月の補助率の拡大ですけれども、以前にも公明党はこの学校耐震化については、国のほうでもしっかりと取り組んでいるんですけれども、補助率のかさ上げを行ったことがあります、何年前かちょっと記憶にないんですけれども。それ以降、３月にまたさらなるかさ上げがあったということは、またまた申しわけないですけれども、承知しておりません。

今、この制度を新しく意見書として出すということになるからには、現時点でそのことがまだ整備されていないと自分は理解して、提案しております。

**○議長（杉山羌央君）**　木村議員、再質問はありますか。

**○２０番（木村建一君）**　結構です。

**○議長（杉山羌央君）**　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　以上で質疑を終結いたします。

これより討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　討論なしと認めます。

以上で討論を終結いたします。

これより発議第６について採決を行います。

お諮りいたします。

原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、発議第６号は原案のとおり提出することに決定いたしました。

**◎発議第７号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　追加日程第４、発議第７号　電力多消費型経済からの転換を求める意見書についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

７番、杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　７番、杉山誠です。

発議第７号　電力多消費型経済からの転換を求める意見書ということで、提案させていただきます。

提案の理由については、ここに上に記してありますけれども、具体的な内容についてだけ読み上げさせていただきます。

一、家庭での省エネ、エコ化の早期推進のため「節電エコポイント」（仮称）を創設し、省エネ型家電への買い替え（旧式の冷蔵庫・エアコンの買い替え）、ＬＥＤ照明の普及を促進する。住宅エコポイントは改修工事の対象範囲などを確認したうえ再実施する。

一、事業所等における太陽光発電設備やＬＥＤ照明導入など省エネ投資を促進するため、税制、財政、金融面での支援措置を講ずる。

一、企業における長期休暇取得や輪番操業の徹底、在宅勤務の推進などを図る。

以上の内容で意見書の提出を提案させていただきます。

以上です。よろしくお願いいたします。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

お諮りいたします。

時間が相当押しておりますので、書類の提出でもって質疑、討論ではなく、即受けたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　異議なしということですので、早速質疑に入ります。質疑はございませんか。

20番、木村建一議員。

〔２０番　木村建一君登壇〕

**○２０番（木村建一君）**　１つだけお尋ねします。

具体的な提案の意見書の中で最後、輪番操業の徹底についてお尋ねします。

１つは、労使の合意というのは基本じゃないかなと、ただ、経営者がどんどんやりなさい

というんじゃなくて、そこが１つと、それから、もう一つは、平日休むわけですから、ちょっと困り果てるのが保育園、幼稚園の幼児をだれが面倒見るのかというところが出てくるわけですよね、土日操業ですから。その点の課題というのはあるんです、どうしても全国そういう点が。その点についての考え方を聞かせてください。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　お答えいたします。

まず、労使の合意ですけれども、当然これは大事なことですので、しっかりとした合意をとっていただかなければなりません。国として企業の輪番操業、そのことを震災の後もそれは半ば強制的に15％節電ということで企業に求めてきたわけですけれども、その内容的にはトヨタなどの自動車関連にあっては、電力消費が集中する平日を避けて土日に操業して、平日の休暇をとったということで、それは労使の合意があってのことであると思います。

今後、それを国が推進していくからには、やはり会社内でそれらのことはしっかりと話し合っていかなければなりませんので、国で会社内の労使の交渉に対してどの程度干渉できるかということは、私のほうでも、ここではっきりとは正直申せません。ただ、それらを合意形成を得ながら進めていくように、国で働きかけていくということだと思います。

次の平日の保育の問題です。確かに平日の休みということになって、家族とのコミュニケーションがとれなくなったというような問題も生じました。ただ、これから原発の縮小という社会の流れの中で、どうしても自然エネルギーだけでは足りませんので、将来的に電力消費を抑えていくような長期的な取り組みが必要になってくると思います。

そのために社会的なそういった休日の保育、これは大きな会社がある自治体では、休日の保育園の開園も実施したそうです。ですから、自治体とも協力して、そういったものを進めていく必要があると思います。

もう一つつけ加えますと、平日に休みが多くなるということで、子供と触れ合う時間がなくなるということで、ここにありますように長期休暇取得ということが挙げられております。この長期休暇取得によって親子の触れ合いであるとか、また、長期の旅行であるとか、そういった経済の活性化にも、実際、震災後を通じて今そういった現象があらわれているそうです。また、震災で家族を亡くされた方もいて、改めて家族に対する考え方を皆さんが改めて、家族の触れ合う時間をということで、長期休暇を求める声も多く上がっておりますので、社会全体としてこれからの電力に対するあり方を考えていく、国がそのためのリードをしていってくださいということで、いろいろなことを提案しております。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　よろしいですか。

大川議員。

〔１１番　大川　孝君登壇〕

**○１１番（大川　孝君）**　11番、大川です。

せっかくの意見書でございますので、提出先がこの場合は３大臣ですね、当然２番に記載されております税務、財政、金融の支援もお願いするというような文言ですので、財務大臣というのは、やはり一番もとになろうかと思いますが、その辺についてはいかがですか。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁を願います。答弁は簡潔にお願いします。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　これはあくまでも提案でございます。提出先を議会の総意として財務大臣に当てるということであれば、それは伊豆市議会として、提出先をここで記入することはやぶさかではないと思います。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　再質問はありますか。

**○１１番（大川　孝君）**　せっかくのこういう意見書でございますので、やはりそうした大臣も関係するところには多くお願いするという意味で、財務大臣を入れていただければと思います。

以上です。

**○議長（杉山羌央君）**　杉山誠議員、今の質問に対して答弁を願います。

**○７番（杉山　誠君）**　皆さんの総意が得られれば入れることにしたいと思います。

**○議長（杉山羌央君）**　ただいまの杉山誠議員の発議でございますけれども、財務大臣を入れるべきだという方の挙手を願います。

〔挙手多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　挙手多数。

よって、この提出先に財務大臣を入れていただきたいと思います。

**◎会議時間の延長**

**○議長（杉山羌央君）**　時間がいっぱいになってきましたので、本日の会議時間は、議事の都合により会議終了するまで、あらかじめ延長いたします。

１番、鈴木初司議員。

〔１番　鈴木初司君登壇〕

**○１番（鈴木初司君）**　すみません、２点ほどお願いいたします。

実はこういうものを出すのはいいんですけれども、今、先ほど木村議員も話されましたけれども、幼稚園と保育が一体化して、ほかのところの企業にお任せするわけですよね、今、市でなくて。そういうことを考えて出すのか、私は、非常にそういうことを考えなしに、ただ伊豆市に合わないので。ただ持ってきたものをぼんぼん出せばいいというものでは、本当にないと思っています。

伊豆市に本当に市のキャパ、３万5,000のまちづくりの中に合っているか、合っていないかというところを真剣に考えられて出している議案か、まずその１点と、その辺の幼稚とか幼保一環のことを全く考えていないんじゃないかと思うんです、その辺、どうですか、２点お願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　答弁願います。

杉山誠議員。

〔７番　杉山　誠君登壇〕

**○７番（杉山　誠君）**　すみません、今２点と言われましたけど、考えていないんじゃないかということと……

〔「伊豆市のことに合ったものの文言で来ていないのじゃないかという話です」と言う人あり〕

**○７番（杉山　誠君）**　これは伊豆市独自の取り組みではなくて、国全体としての取り組みを求めるものでございますので、例えば節電エコポイントであるとか、住宅エコポイントは、全国共通の問題であります。

伊豆市に合っていないと言われると、具体的にどこが合っていないかということはちょっとわからないんですけれども。確かに企業における長期休暇、大企業は伊豆市にはございませんので、その辺を指摘されているのかと思いますけれども、伊豆市が出したから伊豆市のために法律をということではございませんので。やはり伊豆市民として、日本国民として、国として大事な取り組みを進めてくださいということで、ただ言われたからではなくて、私の判断でこれを提案させていただきました。

認定こども園、それは、もし伊豆市内でそのような企業があって、また保護者からの要望があれば、市当局に当然要望していくと考えております。

**○議長（杉山羌央君）**　再質疑ありますか。

ほかに、質疑はございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　では、これより討論を行います。討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　討論がありませんので、討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより発議第７号について採決を行います。

お諮りいたします。

原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、発議第７号は原案のとおり提出することに決定いたしました。

**◎発議第８号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（杉山羌央君）**　追加日程第５、議案第８号　軽油引取税や石油石炭税の免税等に関する意見書の提出についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

５番松本覺議員。

〔５番　松本　覺君登壇〕

**○５番（松本　覺君）**　５番、松本覺でございます。

漁師仲間が申しております。油代が高いから漁に出てもおまんまが食えねえということは、皆さんはお魚が食べられないということでありますので、我が身と思ってぜひ審議をしていただきたいと思います。

要点は、農林業専門の例えば船とか機械の軽油、ガソリン代の減免措置であります。これは時限立法でありまして、もうすぐそれはなくなるよという期限が来ております。したがって、この要望書は、ぜひ時限立法ではなくて、恒久的な法律にしていただきたいというのが趣旨でございます。

ぜひ御理解をいただきたいと思います。

紙は配ってありますので、あて先も下に書いてありますから、ぜひお読み取りをいただきたいと思います。

よろしくお願いします。

**○議長（杉山羌央君）**　これをもって提案理由の説明を終わります。

お諮りいたします。

時間が超過しておりますから、引き続き口頭で質疑、討論を行いたいと思いますけれども、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　異議なしと認めます。

これより質疑をお受けいたします。質疑はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　質疑がありませんので、質疑なしと認め質疑を集結いたします。

これより討論を行います。討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

**○議長（杉山羌央君）**　討論がありませんので、討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより発議第８号について採決を行います。

お諮りいたします。

原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

**○議長（杉山羌央君）**　起立者多数。

よって、発議第８号は原案のとおり提出することに決定いたしました。

**◎閉会宣告**

**○議長（杉山羌央君）**　以上で、本会議の日程はすべて終了いたしました。

皆様にては、長い期間慎重に御審議をいただき、まことにありがとうございました。

これをもちまして、平成23年第３回伊豆市議会定例会を閉会いたします。

閉会　午後　５時０２分